
行田市

ハツ島遺跡

行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—III—

1998

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県では、豊かな自然環境と調和のとれた、均衡ある発展をめざした産業の振興を図っております。

テクノグリーン構想は、都心から50km以遠の埼玉県北部地域を対象に、先端技術の導入を軸とした産業の振興を進め、創造的で活力にあふれた地域社会づくりをめざしております。

行田市の南部地域に計画された行田南部工業団地は、テクノグリーン構想を積極的に推し進めるとともに、地域の産業振興と雇用機会の拡大をはかる事業であります。

事業の進められている行田市域は、自然環境に恵まれた豊かな田園地域であるとともに、歴史と伝統に培われた町もあります。115文字の銘文が刻まれた国宝金錯銘鉄剣の出土で知られる埼玉古墳群をはじめとして、多くの遺跡が残されています。また、事業地の東に広がる埼玉^{さきたま}は、埼玉県名ゆかりの地でもあります。

工業団地造成事業地内には、八ッ島遺跡、築道下遺跡の所在が確認されておりました。この埋蔵文化財の取り扱いについては、関係機関が慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講ずることになりました。発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が埼玉県企業局の委託を受けて実施いたしました。

今回報告いたします八ッ島遺跡の発掘調査では、奈良・平安時代の集落跡を中心とした多くの遺構・遺物が発見されております。これらは当時の人々の生活を考える上で、貴重な資料となるものです。また、同事業地内に所在し、元荒川に沿った同じ自然堤防上に営まれた築道下遺跡からは、古墳時代から平安時代にかかる大規模な集落跡をはじめ、中世武士層の墳墓など希少な資料が発見されています。

本書は八ッ島遺跡の調査成果をまとめたものであります。本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓発及び教育機関の参考資料として広く活用いただければ幸いです。

刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書の刊行に至るまで御協力いただきました埼玉県企業局、行田市教育委員会ならびに地元関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成10年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 荒 井 桂

例 言

1. 本書は、埼玉県行田市に所在する八ッ島遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡番号と代表地番および発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

八ッ島遺跡 (No.68—146)
行田市大字野字八ッ島3456番地
平成7年4月28日付け教文第2-24号
3. 発掘調査は、行田南部工業団地造成事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県企業局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は、第Ⅰ章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査については、昼間孝志、松澤浩一が担当し、平成7年10月1日から平成8年3月31日まで実施した。整理報告書作成事業は山本靖が担当し、平成10年4月1日から平成10年9月30日まで実施した。
5. 遺跡の基準点測量は株式会社アイシー、航空写真是中央航業(株)に各々委託した。
6. 発掘調査における写真撮影は、昼間、松澤が行い、遺物の写真撮影は山本が行った。
7. 出土品の整理および図版の作成は兵ゆり子の協力を得て、山本が行った。
8. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、ほかを山本が行った。
9. 本書の編集は、山本が行った。
10. 本書にかかる資料は、平成11年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが保管する。
11. 本書の作成にあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します(敬省略)。

門脇伸一 栗原文藏 斎藤國夫 塚田良道
中島洋一 山崎 武 行田市教育委員会

凡 例

本書における挿図指示は次のとおりである。

1. X・Yによる座標表示は、国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表す。
2. グリッドは10m×10m方眼を設定し、グリッドの呼称は北西隅の杭番号である。
3. 遺構の表記記号は次のとおりである。

S J …住居跡 S B …掘立柱建物跡
S K …土坑 S D …溝跡 S E …井戸跡
S X …性格不明遺構
4. 遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。

遺構全測図…1／600, 1／200
掘立柱建物跡・住居跡・井戸跡・土壤・性格不明
遺構・ピット群…1／60
溝跡断面…1／80
5. 遺物挿図の縮尺は、次のとおりである。

土器…1／4 土製品・鉄器・石製品…1／2
6. 土器実測図の網かけは次のとおりである。

10%…釉付着範囲・付着物範囲 20%…赤彩範囲

40%…黒色処理範囲・火だしき痕

7. 遺物観察表は次のとおりである。

- ・口径・器高・底径の計測値の単位はcmである。

() 内の数値は、口径・底径が推定値、器高は残存高を示す。
- ・胎土は肉眼で観察できる物質について、以下のように示した。

W…白色粒 B…黒色粒 R…赤色粒
片…片岩粒 針…白色針状物質
- ・焼成は3段階に分けた。

A…硬質 B…良好 C…不良
- ・色調は、『新版標準土色帖 1997年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修)に照らし、最も近い色相を記したが、厳密ではなく概ねである。
- ・残存率は5%単位で表した。

目 次

序	IV 遺構と遺物	20
例言	1. 掘立柱建物跡	20
凡例	2. 住居跡	22
I 発掘調査の概要.....	3. 土壙	58
1. 調査に至るまでの経過	4. 井戸跡	78
2. 発掘調査・報告書作成の経過	5. 溝跡	84
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	6. その他の遺構と遺物	99
II 遺跡の立地と環境.....	V まとめ	120
III 遺跡の概要		

挿図目次

第1図 埼玉県の地形.....	4	第23図 第10号住居跡遺物出土状況	31
第2図 周辺の遺跡.....	5	第24図 第9・10号住居跡出土遺物	32
第3図 調査区全体図	8・9	第25図 第11・12・21号住居跡	
第4図 調査区全測図（1）	10	86・98・99・122・123号土壙	33
第5図 調査区全測図（2）	11	第26図 第11・12・21号住居跡遺物出土状況	34
第6図 調査区全測図（3）	12	第27図 第11・12・21号住居跡出土遺物	35
第7図 調査区全測図（4）	13	第28図 第13号住居跡・第45号土壙	36
第8図 調査区全測図（5）	14	第29図 第14号住居跡	36
第9図 調査区全測図（6）	15	第30図 第13号住居跡出土遺物	37
第10図 調査区全測図（7）	16	第31図 第15号住居跡	37
第11図 調査区全測図（8）	17	第32図 第17号住居跡・出土遺物	37
第12図 調査区全測図（9）	18	第33図 第16号住居跡・出土遺物	38
第13図 遺跡周辺の地形	19	第34図 第18号住居跡・出土遺物	40
第14図 第1号掘立柱建物跡	20・21	第35図 第19号住居跡・出土遺物・第108号土壙	41
第15図 第1号住居跡出土遺物	22	第36図 第20号住居跡・出土遺物・第110号土壙	42
第16図 第1号住居跡・第25・34・35・36号土壙	23	第37図 第22号住居跡・出土遺物	42
第17図 第2号住居跡・第42号土壙	24	第38図 第23・24号住居跡	
第18図 第3号住居跡・第7号土壙	24	24号住居跡出土遺物	44
第19図 第3号住居跡・第7号土壙出土遺物	25	第39図 第25号住居跡	45
第20図 第4・5・6・7号住居跡		第40図 第26・27・28・29号住居跡	
		104・105・121・181・182・183号土壙	46
第21図 第4・5・6・7号住居跡出土遺物	28	第41図 第26・27号住居跡遺物出土状況	47
第22図 第8・9・10号住居跡		第42図 第28号住居跡遺物出土状況	48
		第43図 第26・27・28号住居跡出土遺物	50

第44図 第28号住居跡出土遺物（2）・ 第121号土壙出土遺物	51	第67図 井戸跡（3）	81
第45図 第30号住居跡	53	第68図 井戸跡（4）	82
第46図 第33号住居跡	53	第69図 井戸跡出土遺物	83
第47図 第31号住居跡	54	第70図 溝跡断面図（1・第4図）	85
第48図 第31号住居跡出土遺物	55	第71図 溝跡断面図（2・第5図）	86
第49図 第32号住居跡出土遺物	55	第72図 溝跡断面図（3・第6図）	87
第50図 第32号住居跡	56	第73図 溝跡断面図（4・第7図）	89
第51図 第34号住居跡・第106・107・109号土壙・ 第1号茶毘跡	57	第74図 溝跡断面図（5・第8図）	91
第52図 土壙（1）	59	第75図 溝跡断面図（6・第9図）	93
第53図 土壙（2）	60	第76図 溝跡断面図（7・第10図）	94
第54図 土壙（3）	61	第77図 溝跡断面図（8・第11・12図）	95
第55図 土壙（4）	63	第78図 溝跡出土遺物（1）	96
第56図 土壙（5）	64	第79図 溝跡出土遺物（2）	97
第57図 土壙（6）	65	第80図 第1号性格不明遺構	99
第58図 土壙（7）	67	第81図 ピット（1）	99
第59図 土壙（8）	68	第82図 ピット（2）	100・101
第60図 土壙（9）	69	第83図 ピット（3）	102・103
第61図 土壙（10）	71	第84図 ピット断面図（1）	104
第62図 土壙（11）	72	第85図 ピット断面図（2）	106
第63図 土壙（12）	73	第86図 ピット断面図（3）	108
第64図 土壙出土遺物	73	第87図 ピット断面図（4）	110
第65図 井戸跡（1）	79	第88図 ピット断面図（5）	112
第66図 井戸跡（2）	80	第89図 グリッド・トレーナー・表採遺物	118
		第90図 住居跡主軸方位	120

図版目次

図版1 八ツ島遺跡遠景（南から） 八ツ島遺跡遠景（西から）	第3・4・5・6・7号住居跡
図版2 八ツ島遺跡全景 第1号掘立柱建物跡 第1号住居跡 第1号住居跡カマド遺物出土状況	第5号住居跡カマド 第6号住居跡カマド 第7号住居跡
図版3 第3号住居跡 第3号住居跡カマド 第4号住居跡 第4号住居跡カマド	図版4 第85号土壙遺物出土状況 第8・9号住居跡 第8・9・10号住居跡 第8・9号住居跡カマド 第10号住居跡カマドA 第10号住居跡カマドB

第86号土壙	第15号井戸跡
第11・12・21号住居跡	第16号井戸跡
図版5 第13号住居跡	第17号井戸跡
第17号住居跡	第18号井戸跡
第18号住居跡	第19号井戸跡
第22号住居跡	図版10 第20号井戸跡
第16号住居跡	第21号井戸跡
第16号住居跡遺物出土状況	第22号井戸跡
第16号住居跡カマド遺物出土状況	第23号井戸跡
第16号住居跡遺物出土状況	第6号溝跡
図版6 第19号住居跡	遺跡近景
第19号住居跡カマド	図版11 第1号住居跡出土遺物
第19号住居跡馬歯出土状況	第4号住居跡出土遺物
第23・24号住居跡	第5・6号住居跡出土遺物
第26号住居跡	図版12 第5・6号住居跡出土遺物
第26号住居跡遺物出土状況	第7号住居跡出土遺物
第26号住居跡カマド遺物出土状況	第11・12・21号住居跡出土遺物
第26号住居跡刀子出土状況	図版13 第11・12・21号住居跡出土遺物
図版7 第27・28・29号住居跡	第13号住居跡出土遺物
第28号住居跡遺物出土状況	図版14 第16号住居跡出土遺物
第30号住居跡	第17号住居跡出土遺物
第30号住居跡カマド	第20号住居跡出土遺物
第31号住居跡	第22号住居跡出土遺物
第31号住居跡カマド	第27号住居跡出土遺物
第33号住居跡	図版15 第28号住居跡出土遺物
第33号住居跡	第32号住居跡出土遺物
図版8 第32号住居跡	第7号土壙出土遺物
第32号住居跡カマドA	図版16 第38号土壙出土遺物
第32号住居跡カマドB	第5号溝跡出土遺物
第32号住居跡遺物出土状況	グリッド出土遺物
第25号住居跡	砥石
第1号茶毘跡	図版17 第11・12・21号住居跡出土遺物
図版9 第12号井戸跡	第10号住居跡出土遺物
第13号井戸跡	第32号住居跡出土遺物
第14号井戸跡	グリッド出土遺物

I 発掘調査の概要

1. 調査に至るまでの経過

埼玉県では、「環境優先・生活重視」、「埼玉の新しいくにづくり」を基本理念として、豊かな彩の国づくりを推進するため、種々の施策を講じている。工業の振興では、都心からおおむね50km以遠の県北地域を対象圏域として、豊かな自然環境との調和を図りながら、付加価値の高い工業団地の整備を進め、地域産業の技術の高度化や先端技術産業などの導入を進めるテクノグリーン構想を推進している。

その一環として県企業局では、工場誘致と適切な工場配置を行うために、行田市大字野地内に行田工業団地の造成を計画した。県教育局生涯学習部文化財保護課では、このような開発事業に対応するため、開発関係部局と事前協議を行い、文化財の保護について遺漏のないように調整を進めてきたところである。

行田工業団地の造成計画にあたり、平成6年2月1日付け企局土二第280号で、県企業局土地造成課長から教育局生涯学習部文化財保護課長あて、行田工業団地造成予定地における「埋蔵文化財の有無及び取扱いについて」の照会があった。

工業団地予定地内には、古墳から平安時代にあたる集落跡である築道下遺跡及び八ッ島遺跡の二遺跡がすでに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されていたが、それぞれの範囲については不明であった。遺跡の範囲を明らかにすることは、開発事業との円滑な調整を図る意味でも重要なことでもあった。照会を受けて文化財保護課では平成7年3月6日～9日の4日間に

わたって、造成予定地内の遺跡範囲確認調査を実施した。範囲確認調査の結果、築道下遺跡の立地する元荒川の左岸の自然堤防上には、ほぼ例外なく古墳時代から平安時代にわたる集落跡が存在することが判明し、周知の包蔵地の範囲が西から南東側に大きく広がることが明らかになった。

この結果を踏まえて平成7年3月15日付け教文第125—1号をもって、文化財保護課長から埼玉県企業局土地開発第二課長あて次のように通知した。

1 埋蔵文化財の所在

工業団地用地内には築道下遺跡（68—144）、八ッ島遺跡（68—146）が所在する。

2 取扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず変更する地区については、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。

なお、発掘調査の実施については当課と協議すること。

その後の協議により、緑地や公園として現状保存の図られる場所を除き、記録保存のための発掘調査もやむを得ないとの結論に至った。平成7年10月1日から（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団による調査が開始され、平成8年3月31日に終了した。

発掘調査に係わる通知は平成7年4月28日付け教文第2—24号をもってなされている。

（文化財保護課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

行田南部工業団地造成にかかる埋蔵文化財包蔵地は、八ッ島遺跡、築道下遺跡の2遺跡である。発掘調査は、平成7年4月から開始され、平成10年3月をもって終了した。調査面積は、八ッ島遺跡が約51,000m²、築道下遺跡が約64,300m²、総面積は約115,300m²である。

八ッ島遺跡の発掘調査は、平成7・8年度にわたって実施された。

平成7年度は、5月末から6月初めに遺跡東側の約11,000m²の第1次調査を実施した。その結果、奈良・平安時代の遺構群が確認され、10月1日から平成8年

3月31日に本調査を実施した。

10月初旬より重機による表土除去を実施し、合わせて遺構の確認作業を行った。その後、遺構の調査を順次進めていった。3月に図面作成、写真撮影及び空中写真撮影を完了して、発掘作業を終了した。

平成8年度は、平成7年度に調査が実施できなかった40,000m²を対象に、第一次調査を実施した。自然堤防に直交する状態に20~30m間隔で15個所のトレーンチを設定し、遺構・遺物の所在確認を行った(第13図)。その結果、遺構確認面の黄褐色土の堆積が認められず、遺構・遺物とも検出されなかった。

整理・報告書作成

平成10年4月1日から平成10年9月30日にわたって実施した。

4月から遺物の接合・復元と遺構図面の整理を行い、順次遺物の実測も実施していく。

6月より遺構・遺物のトレススに入った。

8月より原稿執筆を開始し、9月から遺物写真撮影、版組・割り付け・編集作業を開始した。

10月に入札を行い、校正作業を経て、平成10年12月25日に報告書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査（平成7・8年度）

平成7年度

理 事 長	荒 井 桂	常務理事兼管理部長	稻 葉 文 夫
副 事 長	富 田 真 也	理事兼調査部長	小 川 良 祐
専 務 理 事	吉 川 國 男	管 理 部	
常務理事兼管理部長	新 井 秀 直	庶 務 課 長	依 田 透
理事兼調査部長	小 川 良 祐	主 査	西 沢 信 行
管 理 部		主 任	長 滝 美 智 子
庶 務 課 長	及 川 孝 之	主 事	菊 池 久
主 査	市 川 有 三	専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一
主 任	長 滝 美 智 子	主 任	江 田 和 美
主 事	菊 池 久	主 任	福 田 昭 美
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一	主 任	腰 塚 雄 二
主 任	江 田 和 美	調 査 部	
主 任	福 田 昭 美	調 査 部 副 部 長	高 橋 一 夫
主 任	腰 塚 雄 二	調 査 第 四 課 長	酒 井 清 治
調 査 部		主 査	今 井 宏
調 査 部 副 部 長	高 橋 一 夫	主 任 調 査 員	中 村 倉 司
調 査 第 三 課 長	村 田 健 二	主 任 調 査 員	劍 持 和 夫
主 任 調 査 員	星 間 孝 志	主 任 調 査 員	赤 熊 浩 一
調 査 員	松 澤 浩 一	主 任 調 査 員	岩 瀬 讓
平成8年度		主 任 調 査 員	山 本 靖
理 事 長	荒 井 桂	主 任 調 査 員	大 屋 道 則
副 事 長	富 田 真 也	調 査 員	栗 岡 潤
専 務 理 事	吉 川 國 男	調 査 員	松 澤 浩 一

(2) 整理・報告書刊行（平成10年度）

理 事 長	荒 井 桂	主 任	江 田 和 美
副 事 長	飯 塚 誠 一 郎	主 任	福 田 昭 美
常務理事兼管理部長	鈴 木 進	主 任	菊 池 久
管 理 部		資 料 部	
庶 務 課 長	金 子 隆	資 料 部 長	増 田 逸 朗
主 査	田 中 裕 二	主 幹 兼 資 料 部 副 部 長	小 久 保 徹
主 任	長 滝 美 智 子	専 門 調 査 員 兼 資 料 整 理 第 一 課 長	坂 野 和 信
主 任	腰 塚 雄 二	主 任 調 査 員	山 本 靖
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一		

II 遺跡の立地と環境

八ッ島遺跡は、埼玉県行田市大字野字八ッ島に所在する。一般国道17号熊谷バイパスとJR上越新幹線が交差する南東地点、JR高崎線北鴻巣駅の東約2kmに位置している。遺跡付近は行田市の最南東端であり、東は北埼玉郡川里村に、南は元荒川を境に鴻巣市と接している。

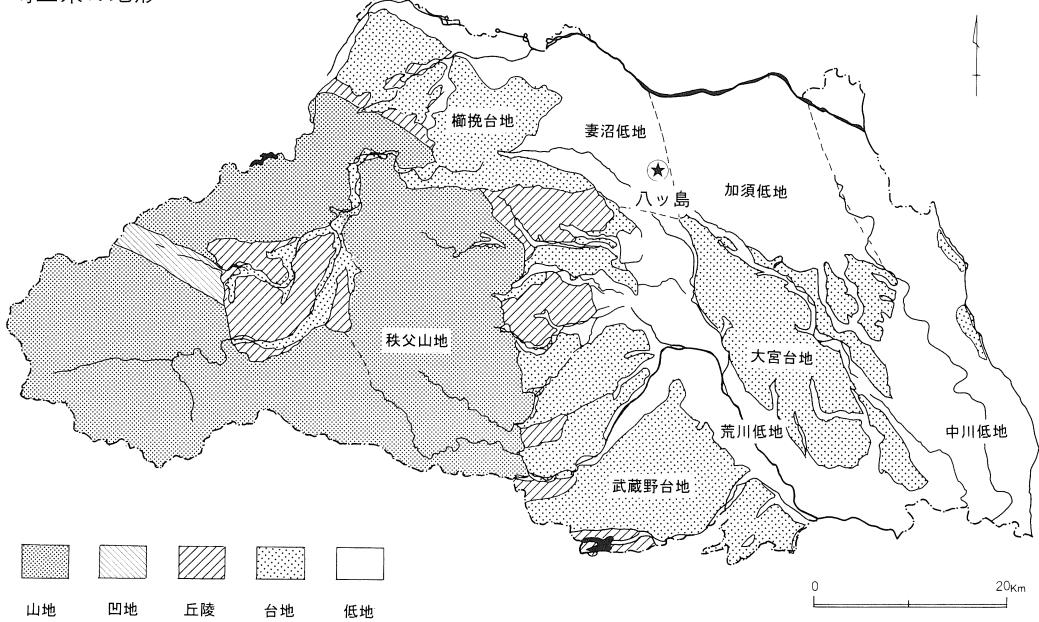
八ッ島遺跡は元荒川と行田市街から南流する忍川の合流点付近に位置し、元荒川左岸に沿って延びる自然堤防上に立地している。この自然堤防は、埼玉古墳群が所在する埋没ローム台地から忍川に沿って形成された自然堤防を経て続いている。さらに熊谷バイパス付近で二手に分かれ、二つの自然堤防に挟まれた地帶は比高差は約1mほどの窪地となっている。八ッ島遺跡は窪地部と窪地部北側に沿った自然堤防上に広がっている。遺跡付近の標高は、16m前後である。熊谷バイパスを挟んだ上流の自然堤防上には築道下遺跡が所在し、中世以降に元荒川による大きな浸食・氾濫をうけている。この状況から、遺跡の営まれた時期の自然堤防は窪地部北側であり、窪地部南側の現在の元荒川に沿って延びる自然堤防はそれ以降に形成されたものである。

八ッ島遺跡の所在する埼玉県行田市周辺の県北東部地域には、利根川・荒川の大河川に挟まれた妻沼低地・加須低地が広がっている。この地域では、利根川・荒川や分流する中小河川もが激しく乱流し、浸食や氾濫に伴う土砂の流入を繰り返し、また関東造盆地運動による大宮台地の北部の沈降によって、付近の地形は複数の河川によって形成された低地と自然堤防と埋没したローム台地が複雑に入り組んでいる。河川の浸食・氾濫と地盤の沈降現象という相乗効果により旧地形は埋没し、さらに、寛永6年(1629)の元荒川の瀬替えをはじめとする近世以降の人工的な河川の瀬替えや用水路の開削等によって、近世以前の旧地形の復元はきわめて困難である。

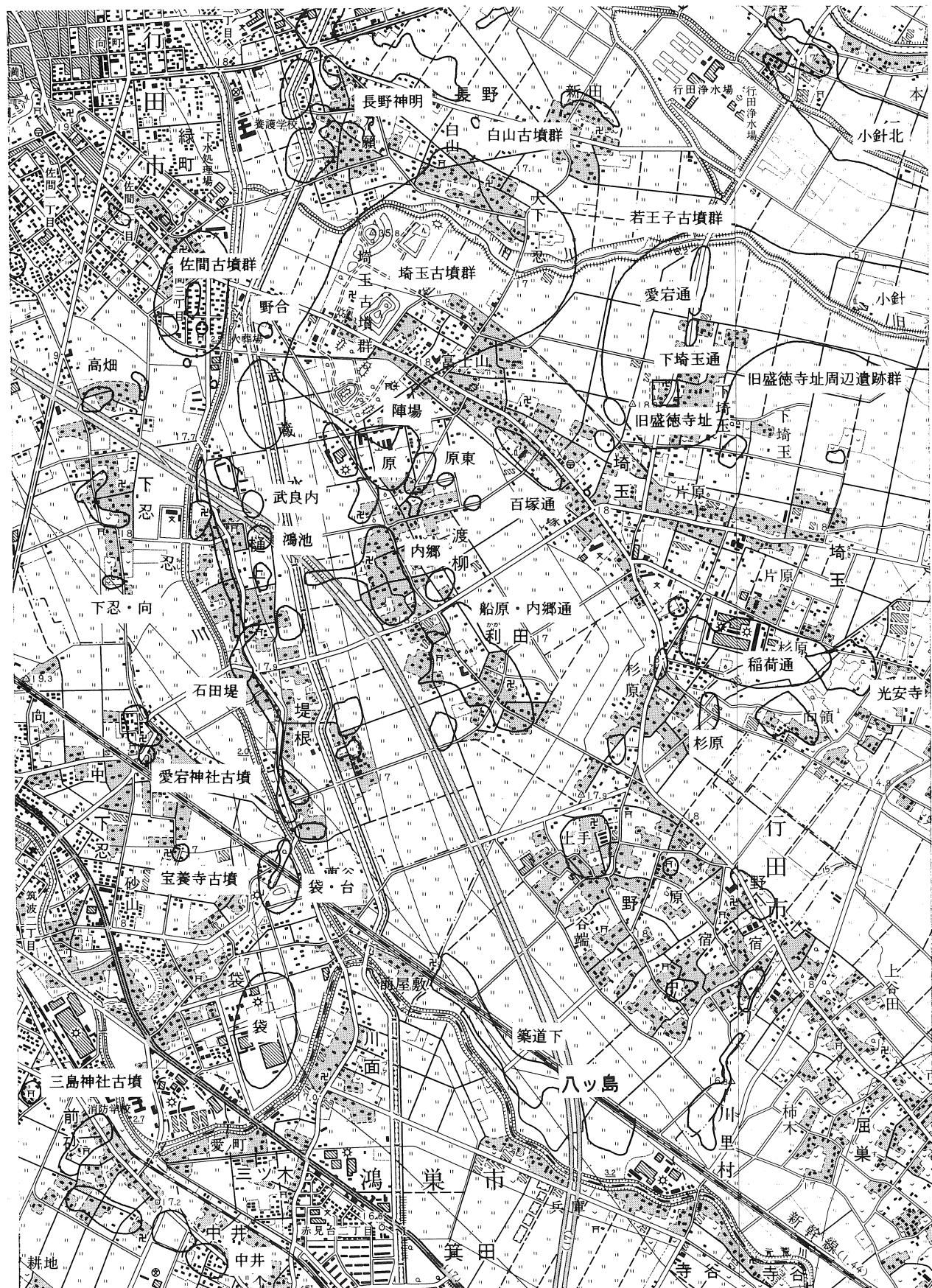
八ッ島遺跡周辺の元荒川左岸に分布する遺跡は、河川の形成した自然堤防上と埋没台地上に立地している。多くが点的な調査で、旧地形が埋没した地形環境も加わり、遺跡の全容を知り得るもののが少ない。時期も古墳時代以降のものが多い。大宮台地縁辺に旧石器・縄文時代からの遺跡が所在する元荒川右岸とは対照的な様相を示している。

縄文時代の遺跡は少なく、長野中学校校庭(馬場裏)、

第1図 埼玉県の地形



第2図 周辺の遺跡



下埼玉通、川里村赤城などがある。続く弥生時代の遺跡も著名な池上、小敷田をはじめ、吹上町袋・台、船原・内郷通などが知られているにすぎない。

古墳時代になると遺跡数は増加する傾向にある。前・中期の遺跡として、鴻池、武良内、高畠、陣場、小針、袋・台、長野神明などがある。袋・台遺跡からは、前期の方形周溝墓と後続する古墳との時期を埋める資料として注目される円墳が発見されている。

後期には陣場、船原・内郷通、小針北、小針、高畠、袋・台など、集落跡が飛躍的に増加する。これと併行して、国宝・金錯銘鉄劍を出土した稻荷山古墳を契機とする埼玉古墳群をはじめ、多くの古墳群が造営されている。この社会状況を反映し、古墳構築を支える基盤となる集落跡が増加していったものといえる。

八ッ島遺跡と同一の自然堤防上に立地する築道下遺跡は、後期初頭から突如として営まれはじめた大集落である。幅の狭い空間に次々と住居が建て替えられたため重複が激しく、また重複する住居間の時間差もきわめて小さく、住居跡の存続期間はきわめて短いという特徴をもっている。そこで、単に農耕を中心とした生産活動のみを営んだ集落とは考えがたい。同時期に北方約4kmの地点に埼玉古墳群が造営され続けており、元荒川・忍川の水運という地理的背景もあわせると、埼玉古墳群の築造に関与した（関与させられた）ことも想像できる。さらに9世紀代までに住居跡810軒、掘立柱建物跡250棟を超す巨大な集落跡が営まれ続け、溝によって区画された中世墓跡も発見されている。立地、距離、時期など、八ッ島遺跡との関連が深い。

古墳は、武藏国造の奥津城とされる埼玉古墳群を中心、前方後円墳の若王子古墳を中心とした若王子古墳群や佐間古墳群をはじめ、多くの古墳群が展開している。ほかに元荒川の右岸に前方後円墳の三島神社古墳、八ッ島遺跡と同じ元荒川左岸の自然堤防上に安養寺古墳群などが所在している。周辺の古墳群は前方後

円墳を中心とするものが多く、これらの前方後円墳は前方部を西に向ける傾向がある。この傾向は埼玉古墳群の前方後円墳を除いた利根川南岸一帯に所在する前方後円墳にもみられる。さらに、元荒川を下った台地縁辺部には埼玉古墳群に埴輪を供給していた埴輪生産遺跡の生出塚遺跡やこれに隣接する古墳群の新屋敷遺跡があり、歴史的環境の復元には視野を広範囲に広げる必要がある。

八ッ島遺跡周辺は、奈良・平安時代には埼玉郡埼玉郷に属していたと考えられている。この時期のとして野合遺跡、原遺跡、百塚通遺跡、内郷遺跡、小針遺跡、下埼玉通遺跡、愛宕通遺跡、鴻池遺跡、築道下遺跡などがある。寺院跡の旧盛徳寺址は、原位置を保っていないものの、境内に奈良時代特有の円形の柱座造出をもつ礎石を残す。縁起では大同年間(806~809)の創建とされ、保元2年(1157)と天文年間(1532~1554)に再建されたと伝えられる。発掘調査によって出土した瓦には大同年間まで遡るものはなく、8世紀第4四半期、9世紀第3四半期、鎌倉時代中期の3時期の瓦と16世紀前半の土器が出土している。

旧盛徳寺域の西方隣接地点から、「矢作□印」と読める大和古印が発見され、埼玉郡衙との関連から注目されている。また旧盛徳寺址の東方の低地には万葉集にも詠まれた小埼沼が、北方の旧忍川北岸には小針沼(埼玉沼)があった。この地は「新編武藏国風土記稿」で古代の埼玉津があったとされているが、埼玉郡衙・埼玉津の所在地には諸説有り、明らかにはなっていない。

中世に至っては、久下・忍・河原・長野・行田・麻績・渡柳・行田・野・津之戸・笠原・真名板・多賀谷などの武士が蟠踞した地域である。これらの氏名は現在も地名として残り、館跡と推定される遺跡も多い。築道下遺跡で発見された中世墓跡もこの時期の武士との関連が推定される。戦国時代には忍城が築かれ、石田三成が忍城水攻めのために築いた石田堤も、部分的に現存している。

III 遺跡の概要

八ッ島遺跡は、埼玉県行田市大字野字八ッ島に所在する。一般国道17号熊谷バイパスとJR上越新幹線が交差する南東地点、行田市の最南端に位置している。東経 $139^{\circ}29'35''$ 、北緯 $36^{\circ}05'37''$ 付近である。

八ッ島遺跡は、北東辺約270m、南西辺約162m、南北約185mの範囲に台形状に広がり、面積は $51,000\text{m}^2$ である。北東辺に沿って上越新幹線が、北西辺に沿って熊谷バイパスが走っている。北東辺付近には千間堀水路が貫き、遺跡を分割している。

八ッ島遺跡は元荒川左岸に沿って延びる自然堤防上に立地し、熊谷バイパスを挟んだ上流の自然堤防上には築道下遺跡が位置する。この自然堤防は熊谷バイパス付近で二手に分かれ。両者の自然堤防に挟まれた地帯は窪地となっており、比高差は約1m程度である。八ッ島遺跡の範囲は、窪地部北側の自然堤防上と自然堤防に挟まれた窪地部に広がる。

発見された奈良・平安時代と中世の遺構と遺物は、自然堤防上に分布する。面積は $11,000\text{m}^2$ である。残る窪地部の $40,000\text{m}^2$ については、平成8年度に第一次調査を実施した。自然堤防に直交する状態に、長さ20~60mのトレンチを20~30m間隔で15ヶ所設定し、遺構・遺物の所在確認を行った。調査の結果、遺構確認面である黄褐色土の堆積が認められず、遺構・遺物とも発見されなかった。

発掘調査によって発見された遺構は、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟・竪穴住居跡34軒、奈良時代～中世の土壙187基・井戸跡23井・溝跡56条・性格不明遺構1基・茶毘跡1基・ピット多数である。

掘立柱建物跡は3間×2間の側柱建物跡が1棟のみで、住居跡が希薄な東半部に位置している。

住居跡は調査区西半部に集中し、西側ほど重複する傾向が窺われる。突出した大規模な住居はない。平面形態とカマドの位置から、二つに大別される。一方は方形の平面形態にカマドが北西に設置されているもので、他方は長方形の平面形態にカマドが北東に設置されている住居跡である。両者の配置に規則性はみられない。出土遺物は少ないが、須恵器壺では南比企産のものが多くみられる。

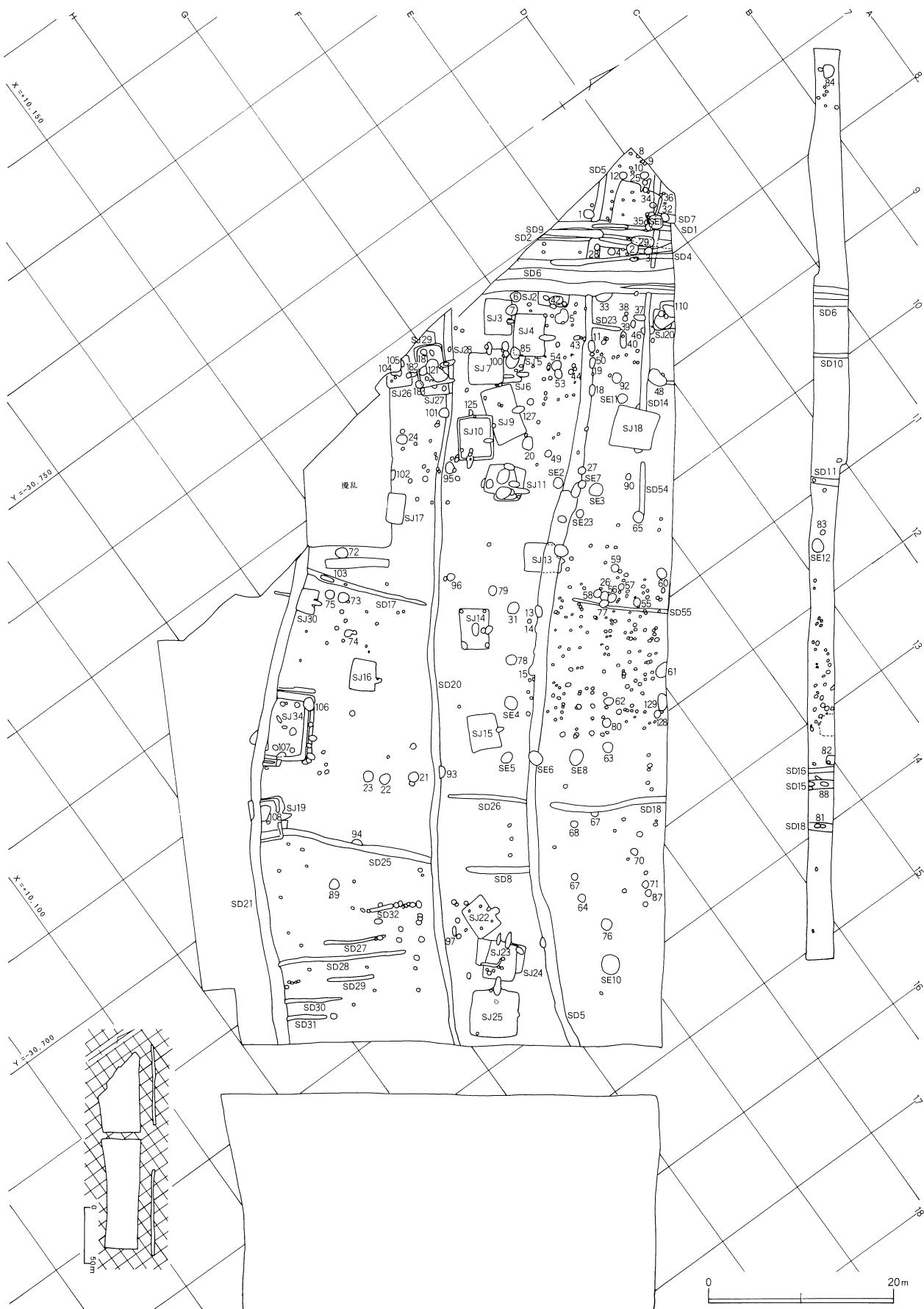
土壙は調査区全体に存在し、なかでも灰釉高台付椀と羽釜が共伴する第38号土壙は注目される。井戸跡はピットの集中する地点の周辺に多く存在する傾向がある。第6号井戸跡からは、人工的に加工された熔結凝灰岩が出土している。この熔結凝灰岩は周辺の古墳の石室から運び込んだものと想定されるが、用途は不明である。

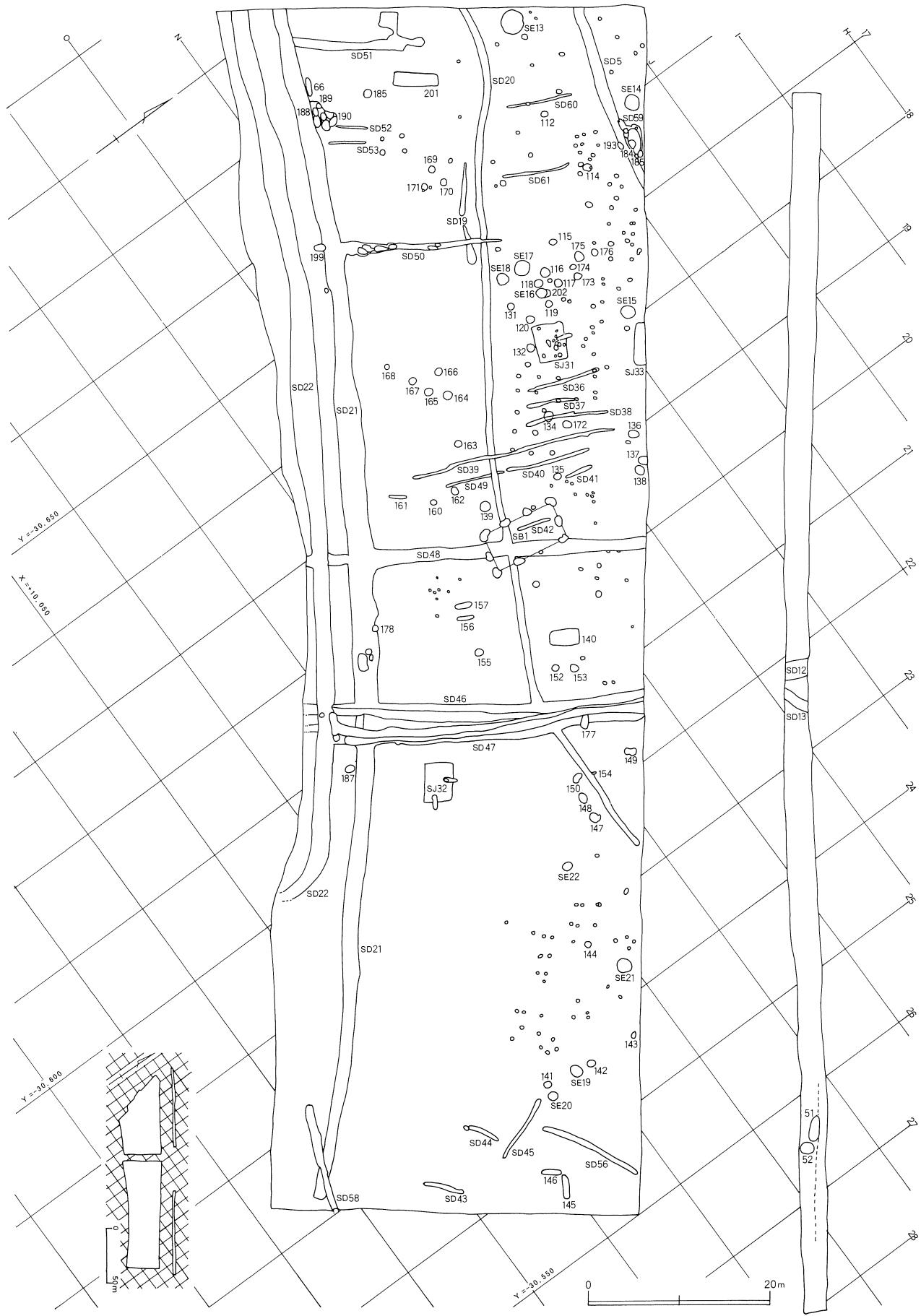
溝跡は、遺跡の立地する自然堤防に平行して走るものと、これに直交するものに大別され、また幅が広く深いものと、幅が狭く浅いものに分けられる。第21号溝跡からは馬歯が出土している。

ピットは4ヶ所に集中している。ほとんどが遺物を伴わないもので、時期を特定することはできない。覆土の埋没状況から柱穴と認定できるものも含まれ、また付近に井戸跡が分布する傾向も考慮にいれると、建造物跡の可能性も残されている。しかしピット配置の規則性を捉えることはできなかった。

遺物は住居跡、土壙、井戸跡、溝跡などの遺構から土師器、須恵器を中心に、土製品、石製品、金属製品などが出土している。ほかに遺構は伴わないが、縄文時代晚期土器片が出土しているが、数量はきわめて少ない。

第3図 調査区全体図

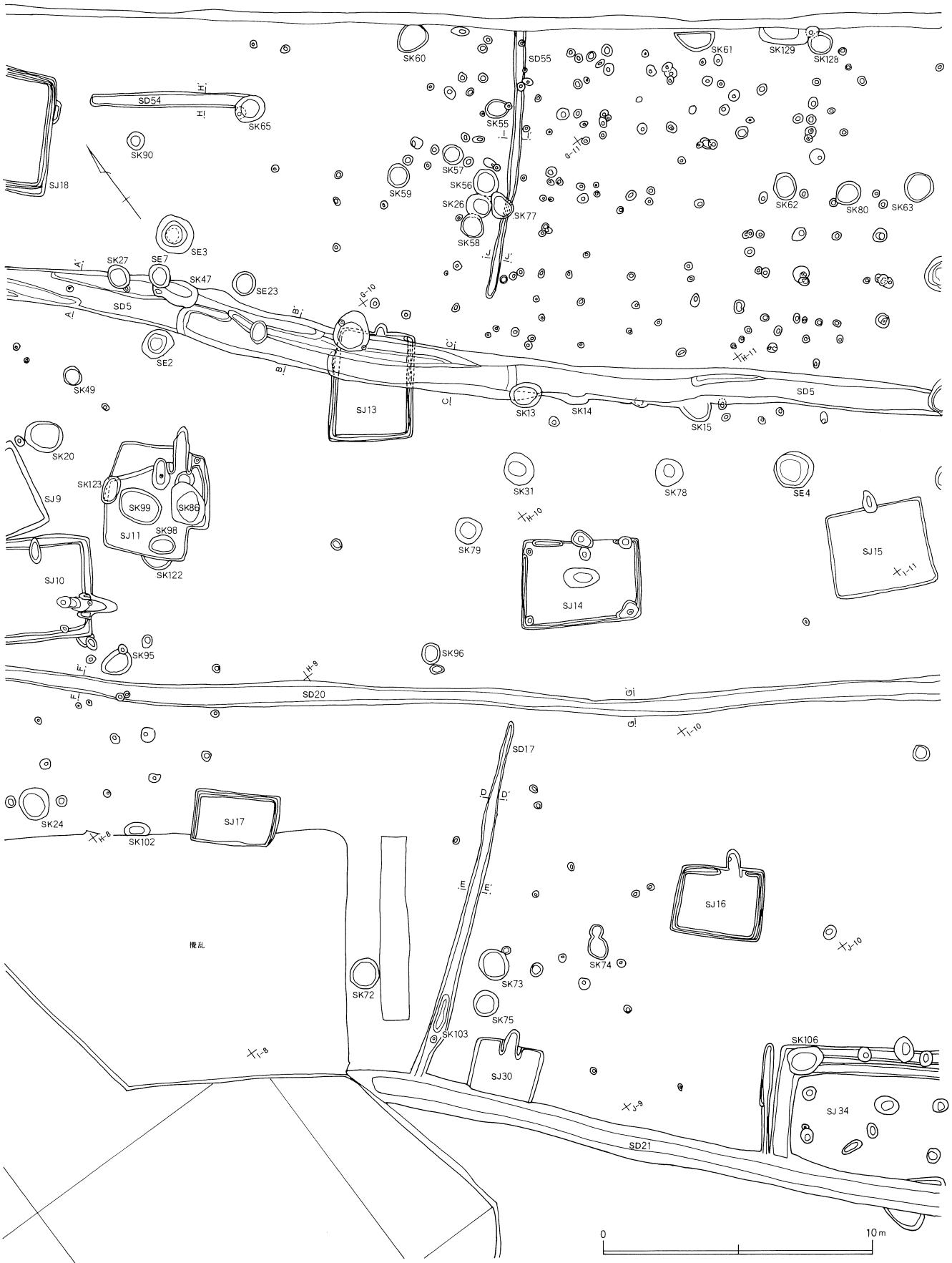




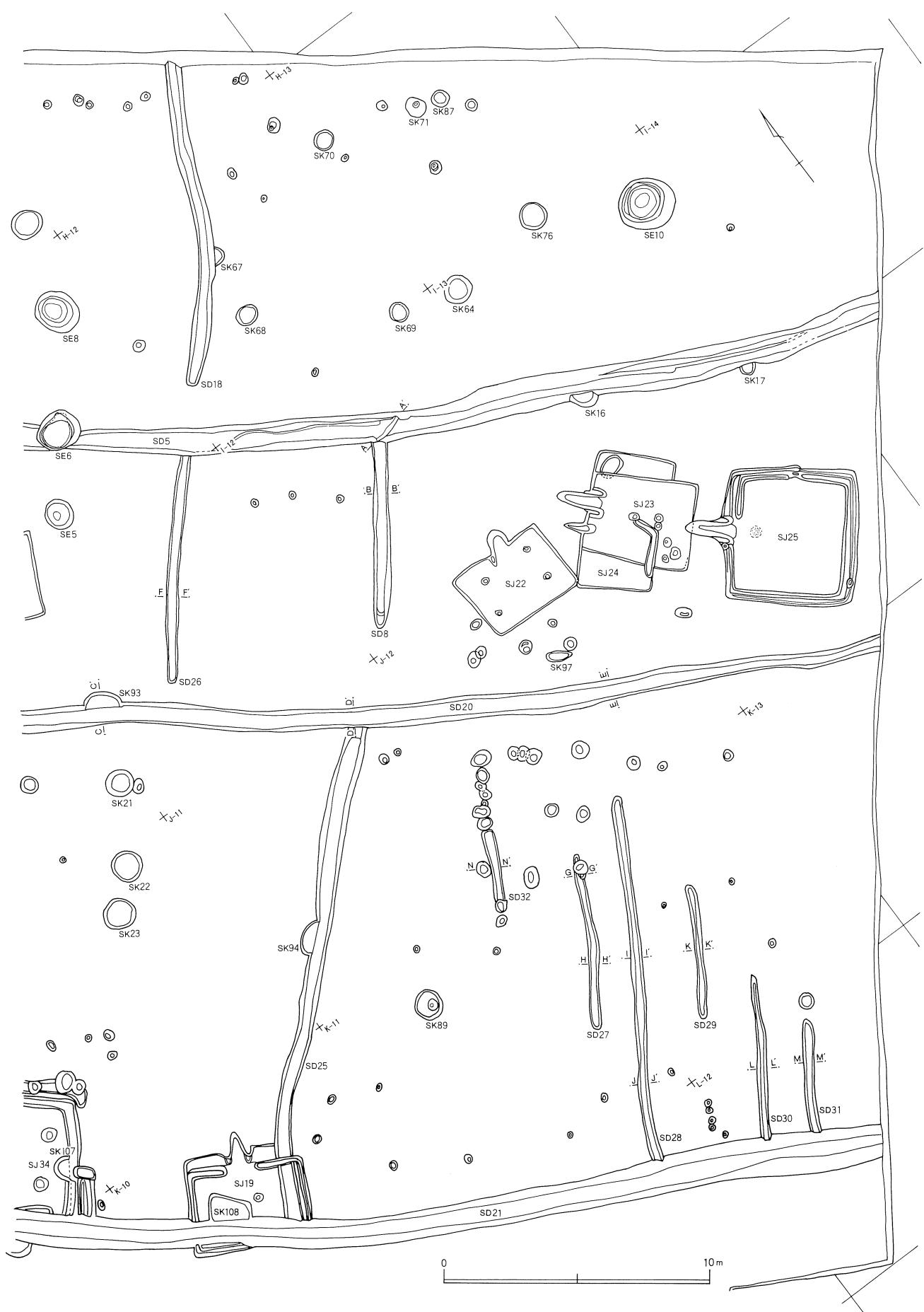
第4図 調査区全測図(1)



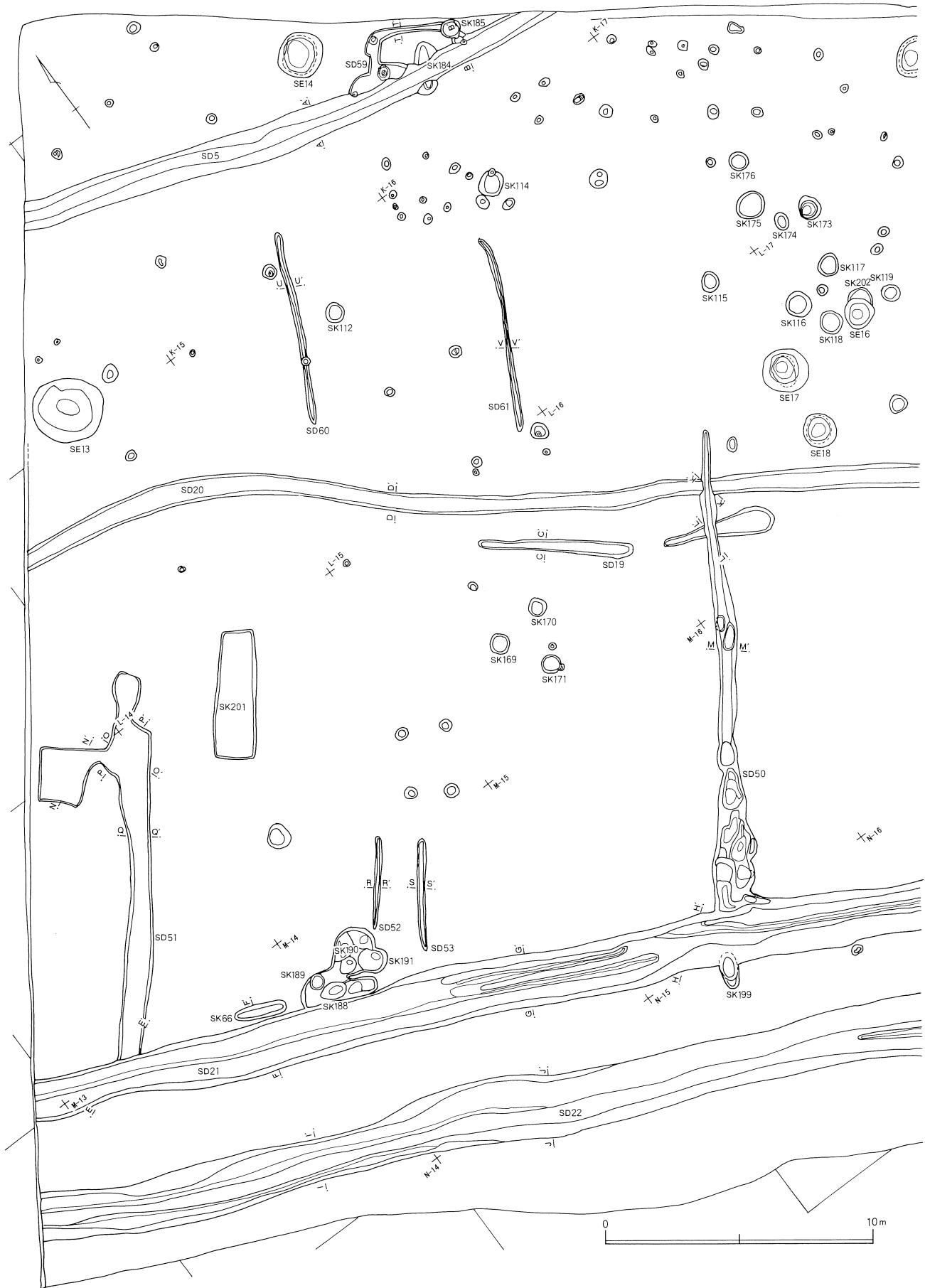
第5図 調査区全測図(2)



第6図 調査区全測図 (3)



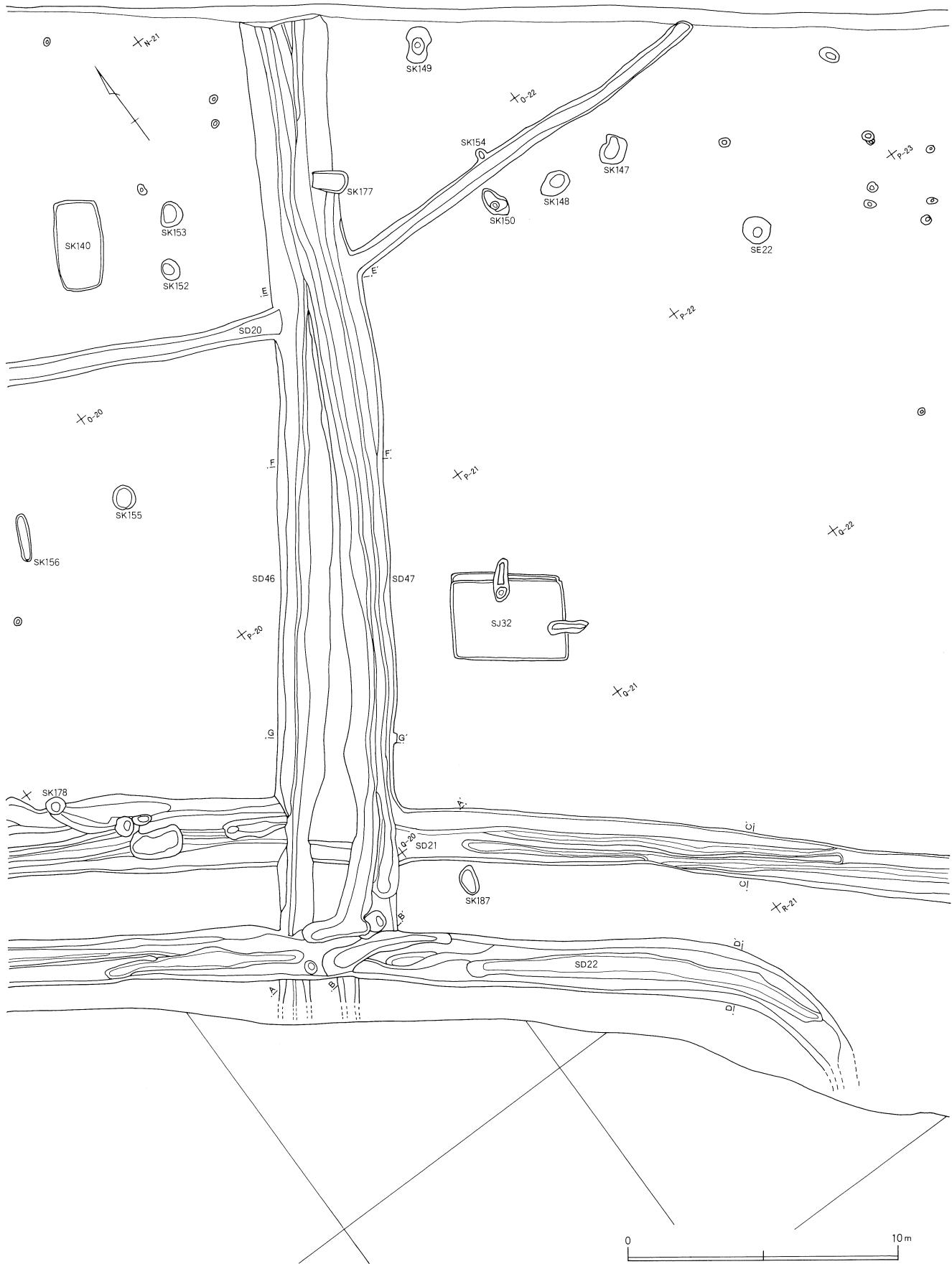
第7図 調査区全測図(4)



第8図 調査区全測図（5）



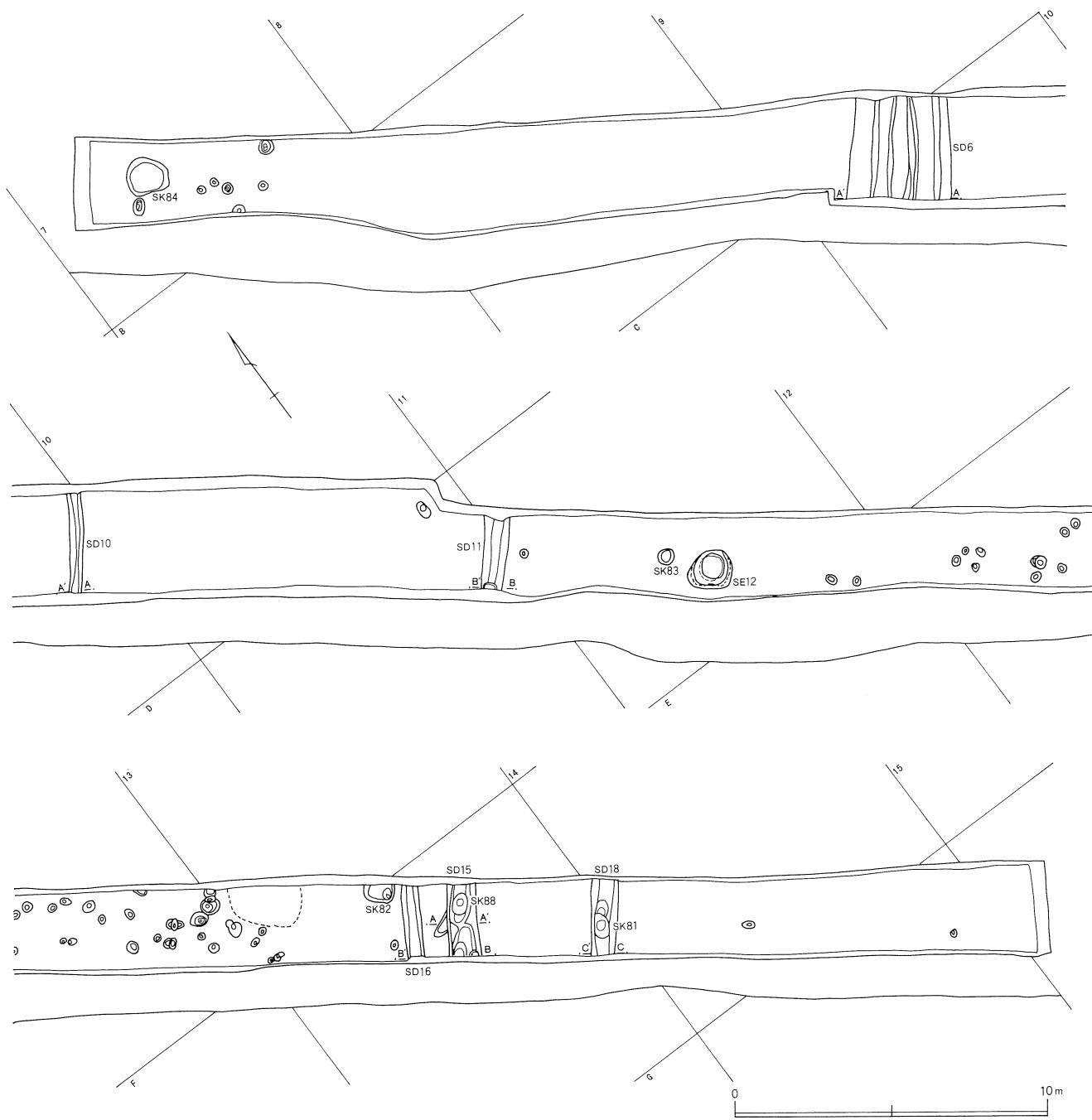
第9図 調査区全測図（6）



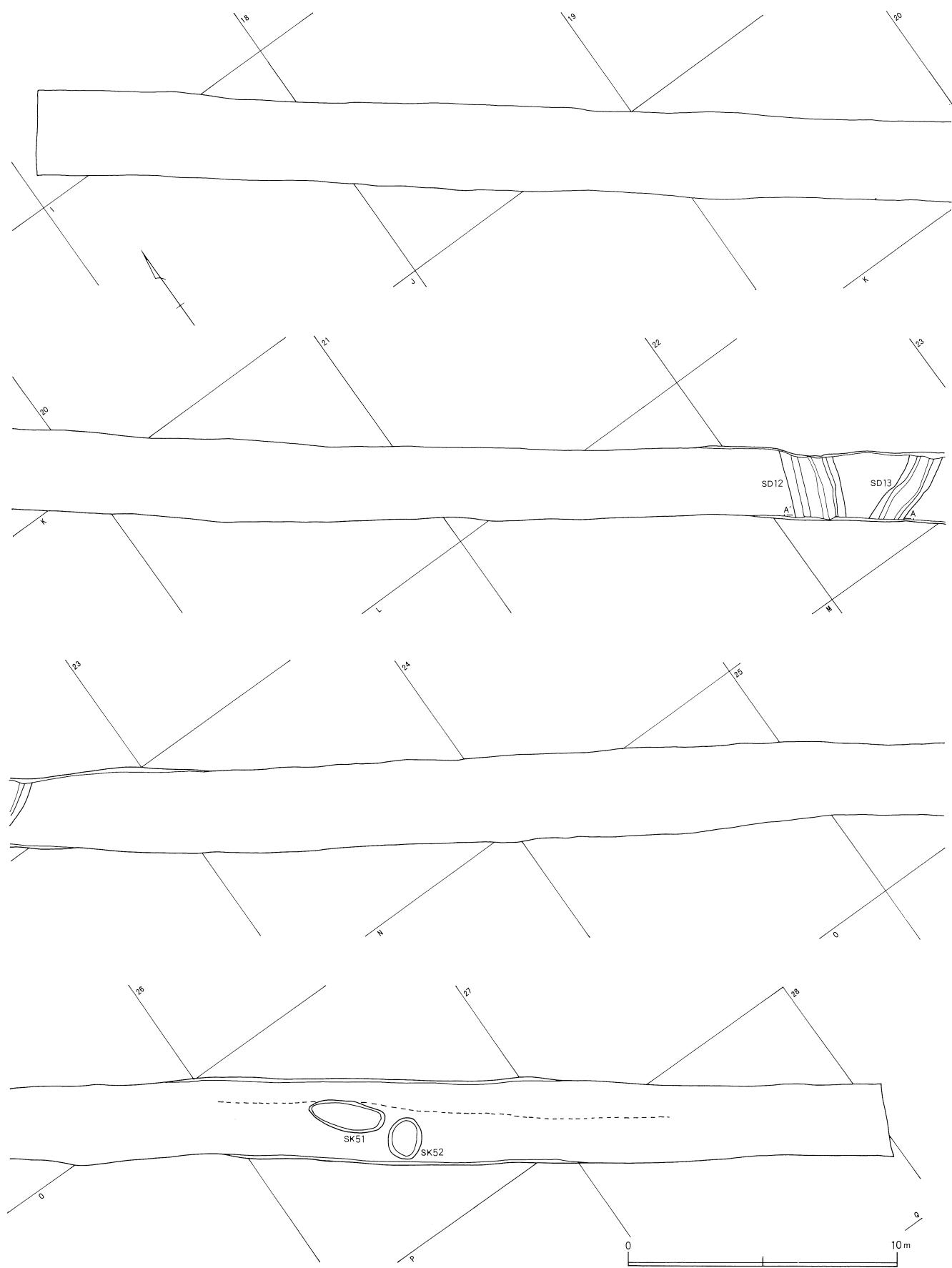
第10図 調査区全測図 (7)



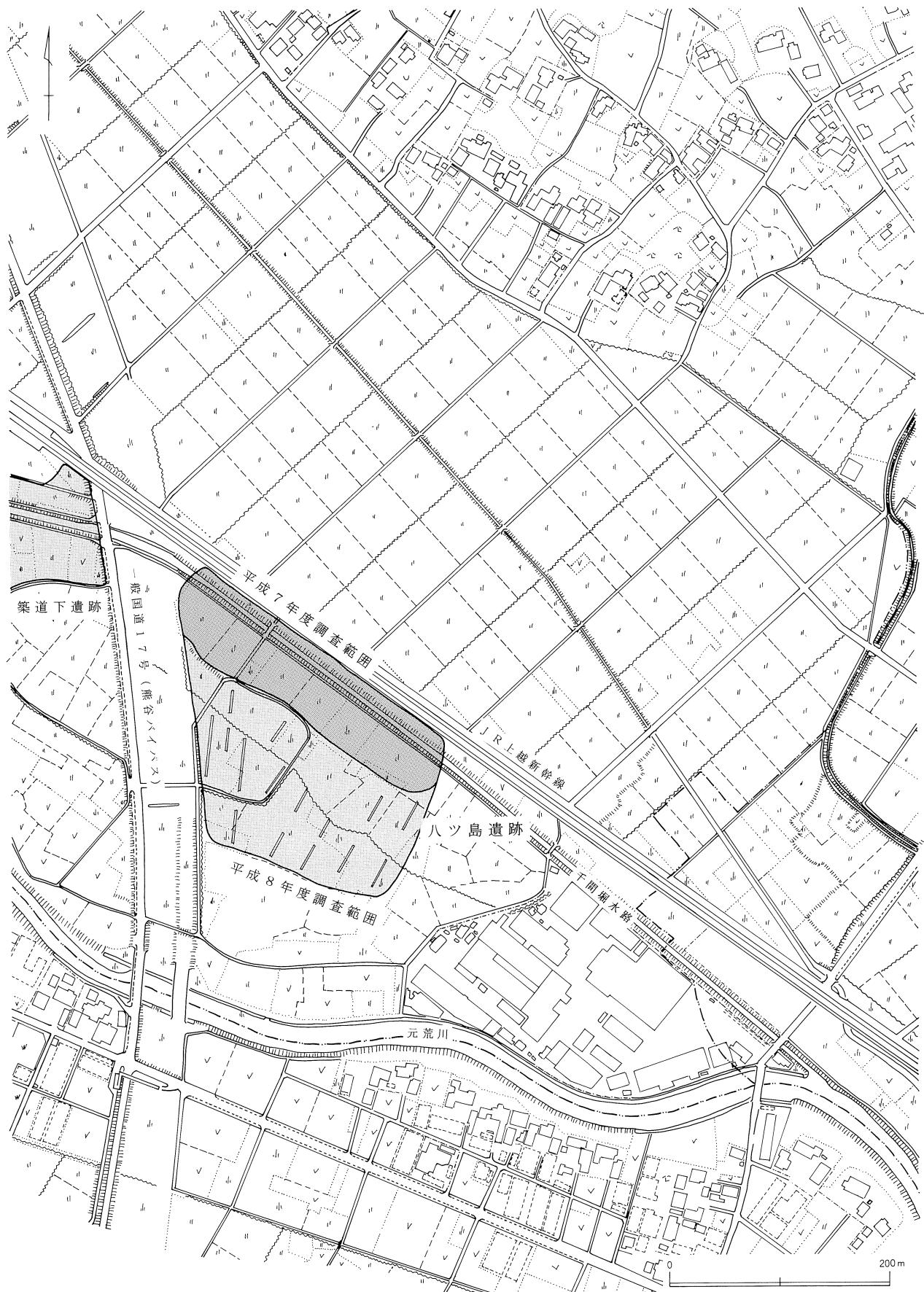
第11図 調査区全測図（8）



第12図 調査区全測図 (9)



第13図 遺跡周辺の地形



IV 遺構と遺物

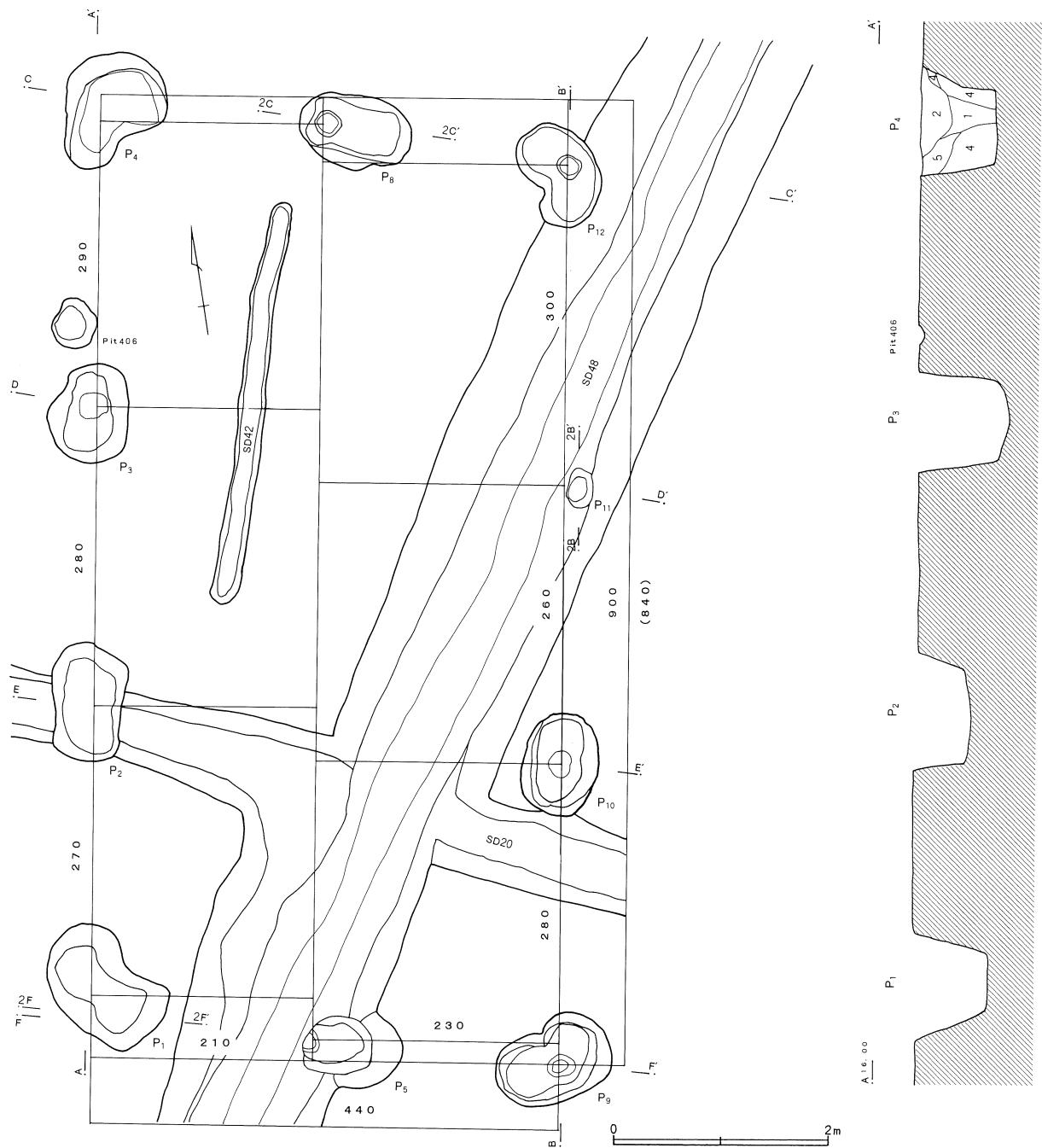
1. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第14図）

M—18・19、N—18・19グリッドに位置し、第20・48号溝跡と重複する。3間×2間の側柱掘立柱建物跡で、隅柱は「L」字形をしている。

桁行から梁行が直角に振ることができない歪んだ柱配列で、心心間の規模が桁行8.40m、梁行4.40m、占有規模は桁行9.00m、梁行4.40mを測る。桁行の方位はN—9.5°—Eで、桁行を南北に向ける。

第14図 第1号掘立柱建物跡



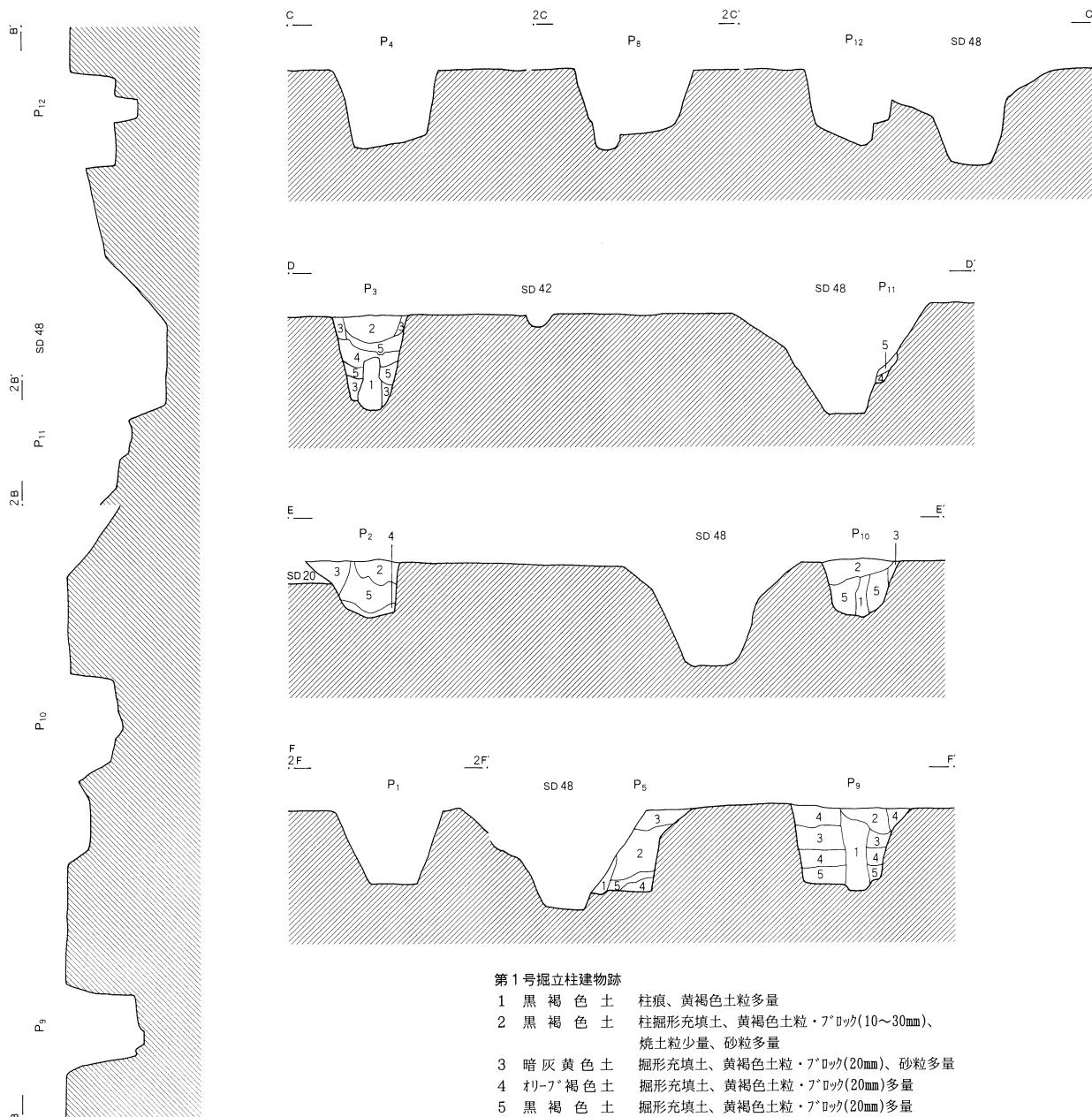
柱間距離は桁行が2.60・2.70・2.80・2.90・3.00m、梁行が2.10・2.30mと不統一で、特に桁行では相対する柱間距離と柱位置が一致しない。梁行は、P1—P5が2.10mに対してP4—P6も2.10m、P5—P9が2.30mに対してP6—P12も2.30mを測る。梁行同辺の柱間距離は異なるものの、相対する柱間距離は一致する。一方、桁行はP1—P2が2.70mに対してP9—P10が2.80m、P2—P3が2.80mに対してP10—P11が2.60m、P3—P4が2.90mに対してP11—P12が3.00mを測り、相対する柱間距離には0.10

mを基本に最大0.20mの誤差がある。

柱筋は、桁行の内側2本が僅かに外方へ張り出しているものの、桁行・梁行ともほぼ一直線に通る。

柱痕の覆土は1層で、黒褐色土に多量の黄褐色土粒を含む。柱掘形への充填は数回に分けて充填する程度で、版築状に丁寧に衝き固めていった様子を窺うことはできない。

遺物は図示し得なかったが、土師器甕片、須恵器甕・壺片が出土している。



2. 住居跡

第1号住居跡（第16図）

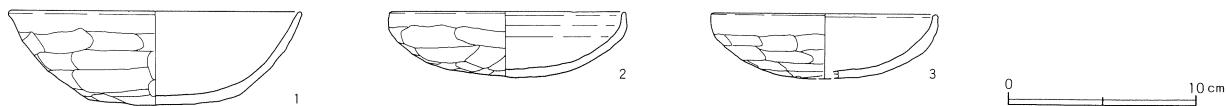
C—7・D—7グリッドに位置する。重複関係は、第1・9号井戸跡、第1号溝跡より古く 第25・34・35号土壙、第14号溝跡よりも新しい。

平面方形の北西カマドの住居跡で、主軸長4.70m、東西幅5.05m、深さ0.15m、主軸方位N—37°—Wを測る。埋没状況は、自然堆積である。

カマドは北壁中央やや東より付近に設置されている。住居跡の床を貼った後に構築され、袖部は灰色粘土と黄褐色土粒を含む黒褐色土で造られている。カマドの覆土には焼土粒・ブロックが多く含まれ、特に火床面付近には多量に認められる。覆土中に天井部の崩落土はみられない。

ピットは6本検出されたが、柱穴と考えられるものはない。南壁付近が第1号溝跡に切られているため明確はないが、壁溝は全周するものと思われる。貯蔵穴は設置されていない。

第15図 第1号住居跡出土遺物



第1号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎 土	焼成	色 調	残存率	備 考
1	壺	13.4	5.0		B	C	にぶい橙色	70	No. 8 器面の風化が激しい
2	壺	12.6	3.4		BW	B	にぶい橙色	85	No. 7
3	壺	11.8	3.4		BW	B	にぶい橙色	60	No. 1・3・6

第1号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 2 暗灰黄色土 黄褐色土粒・アーヴィック(5mm)、灰色アーヴィック
- 3 オリーブ黑色土 青灰色粘土質アーヴィック(5~10mm)少量
- 4 黄褐色土 黄褐色土粒・灰白色粘土粒少量
- 5 黑褐色土 黄褐色土粒・アーヴィック(5~10mm)少量
- 6 黄褐色土 黄褐色土粒少量
- 7 黑褐色土 黄褐色土粒少量
- 8 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量
- 9 黑褐色土 黄褐色土粒微量
- 10 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒多量、黄褐色土アーヴィック(10mm)少量

第1号住居跡カマド

- a 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土アーヴィック(5~10mm)少量
- b 黒褐色土 焼土アーヴィック(5~10mm)多量
- c オリーブ黑色土 焼土粒微量
- d 黒褐色土 焼土粒少量
- e オリーブ黑色土 黄褐色土粒・焼土アーヴィック(5~10mm)少量
- f 黒褐色土 烧土粒・アーヴィック(5~15mm)多量
- g 黒褐色土 烧土粒微量
- h 暗オリーブ褐色土 烧土粒少量
- i 黒褐色土 カド・袖・黄褐色土粒・灰色粘土粒・アーヴィック(5mm)少量
- j 暗オリーブ褐色土 カド・袖・灰色粘土粒少量

第1号溝跡

- 11 黒褐色土 黄褐色土アーヴィック多量
- 12 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 13 黄褐色土 黄褐色土アーヴィック多量

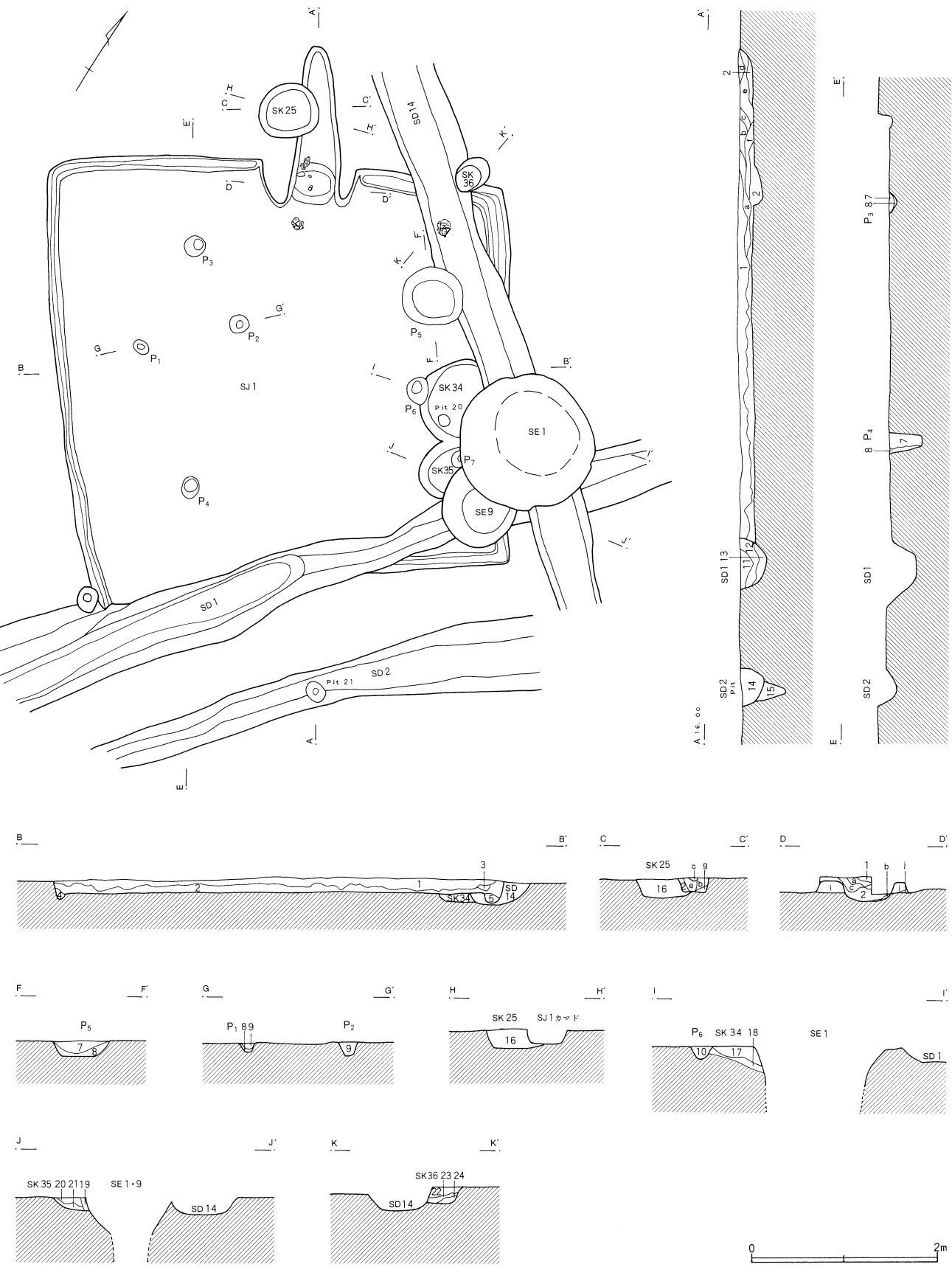
ピット21

- 15 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 第25号土壙
- 16 オリーブ黑色土 烧土粒・黄褐色土粒少量
- 第34号土壙
- 17 黒褐色土 黄褐色土粒多量、焼土粒微量
- 18 オリーブ褐色土 黄褐色土粒多量
- 第35号土壙
- 19 黒褐色土 黄褐色土粒多量、焼土粒微量
- 20 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒微量
- 21 オリーブ褐色土 黄褐色土粒多量
- 第36号土壙
- 22 黒褐色土 黄褐色土粒微量、焼土粒少量
- 23 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 24 黒褐色土 黄褐色土粒多量

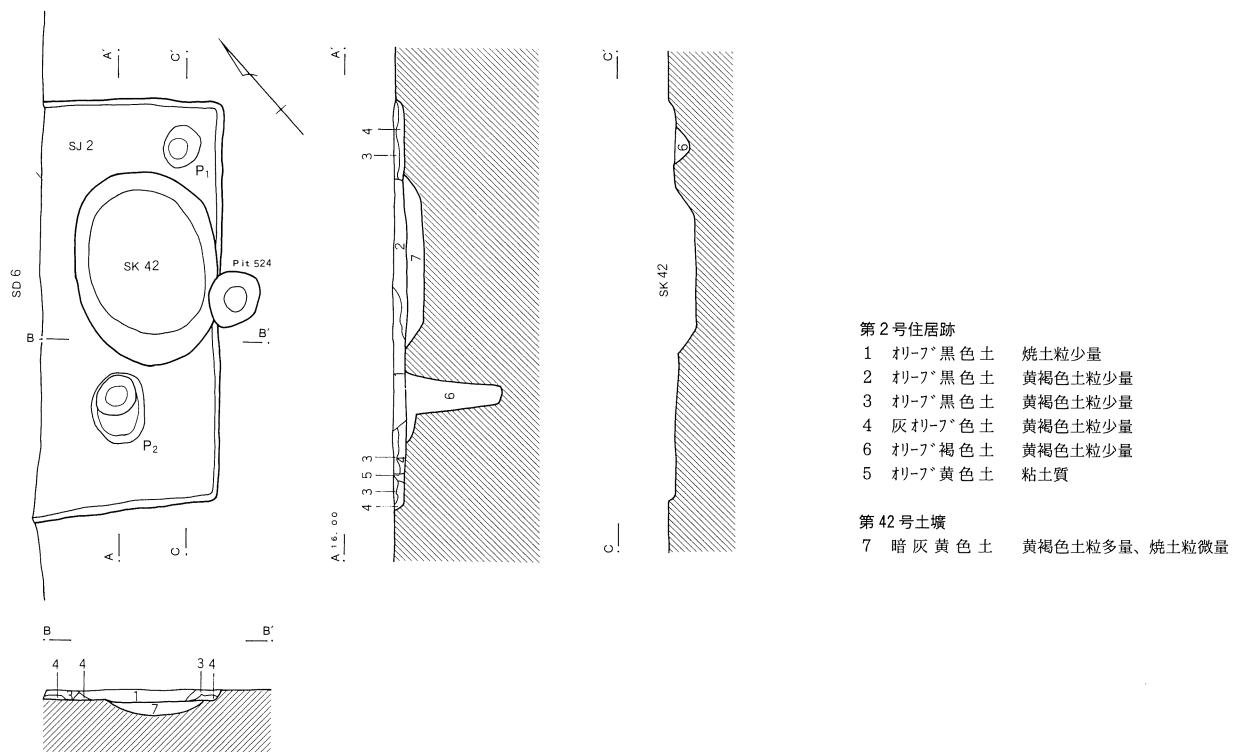
第2号溝跡

- 14 黒褐色土 黄褐色土粒少量

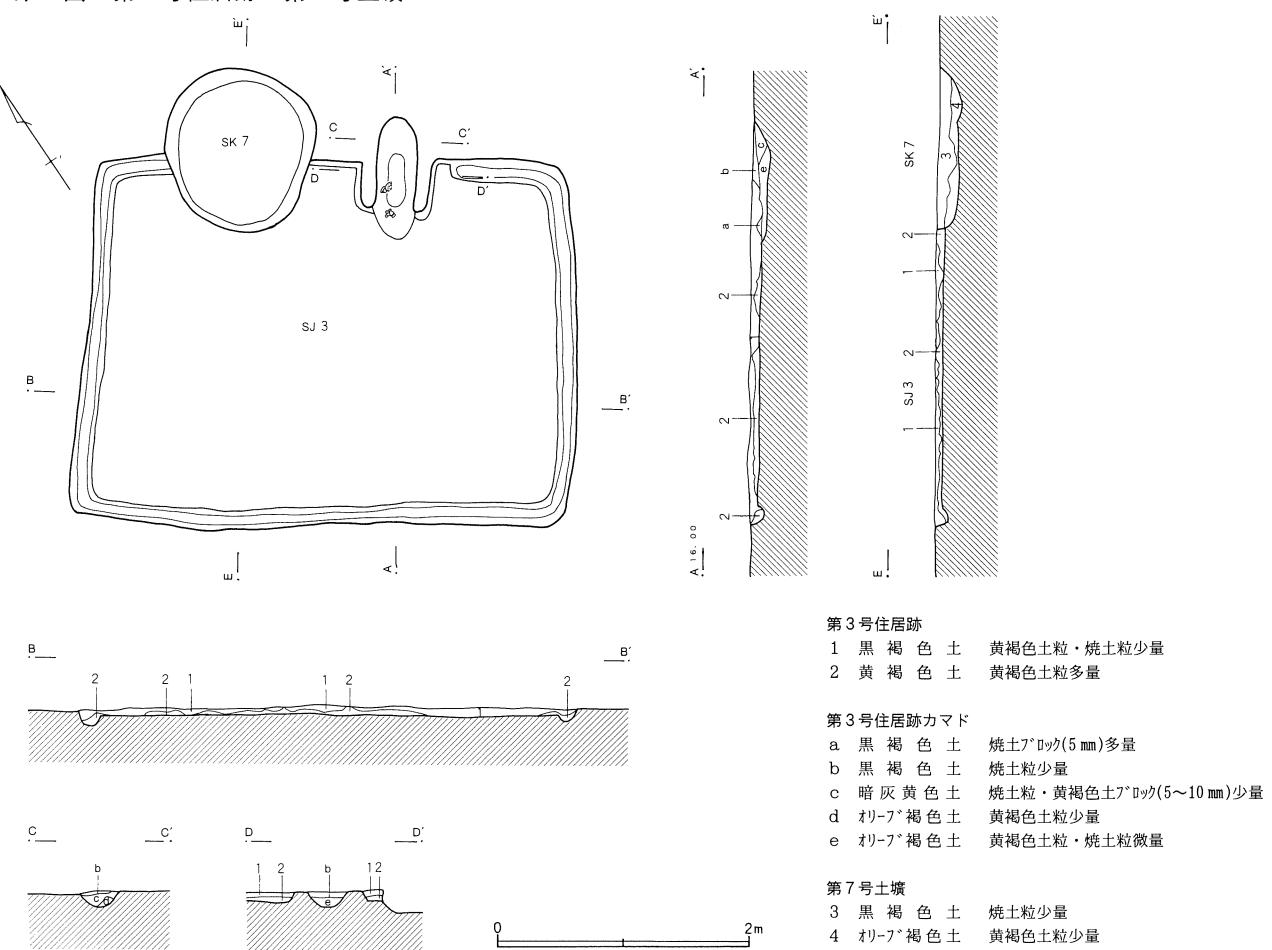
第16図 第Ⅰ号住居跡・第25・34・35・36号土壤



第17図 第2号住居跡・第42号土壤



第18図 第3号住居跡・第7号土壤



2.95m、東西幅4.05m、深さ0.07m、主軸方位N—34°—Eを測る。埋没状況は、覆土が薄く明確ではない。

カマドは北壁中央やや東より付近に設置されているが、残存状態が悪い。覆土には焼土や炭化物があまり含まれていない。燃焼部から煙道部にかかる浅い掘り込みをもつ。壁溝はほぼ全周し、幅0.16m、深さ0.08mである。貯蔵穴、柱穴は設置されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片が出土している。

第4号住居跡（第20図）

E—7・8、F—7・8グリッドに位置し、第3号住居跡カマド、第5・6号住居跡、第85号土壙、ピット317と重複する。新旧関係は第5・6号住居跡、第85号土壙よりも新しい。

平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長3.45m、東西幅4.57m、深さ0.16m、主軸方位N—37°—Eを測る。埋没は自然に堆積していった状況を看取できる。

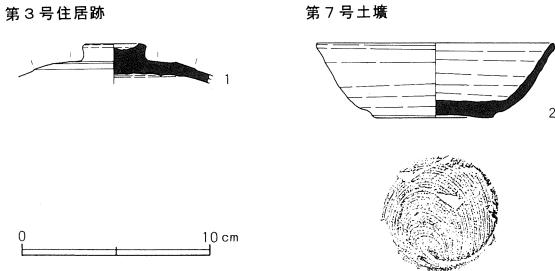
カマドは北壁中央付近に設置され、覆土の堆積状態から、住居廃絶時に人為的に破壊されたものと考えられる。壁溝は全周し、幅0.36m、深さ0.08mほどである。柱穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏・皿片が出土している。

第5・6号住居跡（第20図）

F—7・8グリッドに位置する。覆土の堆積状態や北壁・西壁の一致から、第5号住居跡を拡張したのが

第19図 第3号住居跡・第7号土壙出土遺物



第3号住居跡・第7号土壙出土遺物観察表（第19図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.2)		RW片	B	にぶい褐色	10	SJ 3 末野産
2	坏	12.6	3.9	6.4	B RW針	B	灰白色	80	SK 7 南比企産

第6号住居跡で、この際に北西カマドから北東カマドに造り替えたものと捉えられる。

第4・7号住居跡、第85・100号土壙、ピット540・541・614と重複し、新旧関係は第4・7号住居跡よりも古い。

第5号住居跡の平面形態は方形で、主軸長3.12m、主軸方位N—53.5°—Wを測る。カマドは覆土の堆積状態から、第5号住居跡から第6号住居跡へ拡張した際に、第5号住居跡のカマドを完全に埋め戻した状況が読みとれる。燃焼部はしっかりとした掘り込みをもつ。壁溝は東壁の一部が残存しており、幅0.26m、第6号住居跡床面からの深さは0.06mほどである。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。遺物は土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片が出土している。

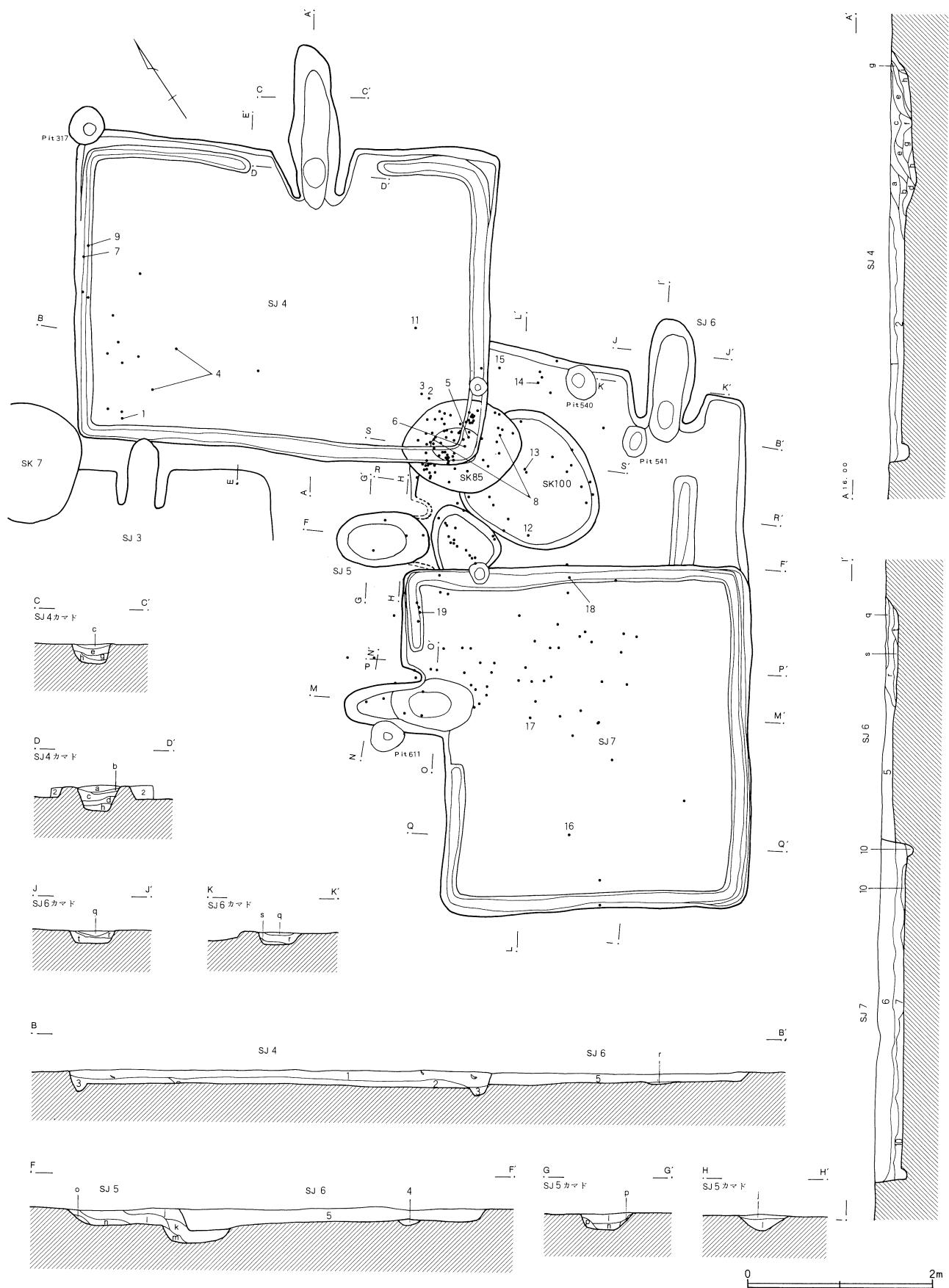
第6号住居跡の平面形態も方形で、拡張した際に、第5号住居跡の北壁・西壁をそのまま利用し、東壁部分を拡張している。東西幅3.62m、深さ0.14m、主軸方位N—38°—Eを測る。覆土は1層で埋没状況を判断しがたいが、重複する第4・7号住居跡よりも古いことから、人為的に埋め戻されている可能性がある。カマドは燃焼部が浅く掘り込まれ、覆土上層に多量の焼土が含まれている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。遺物は土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片が出土している。

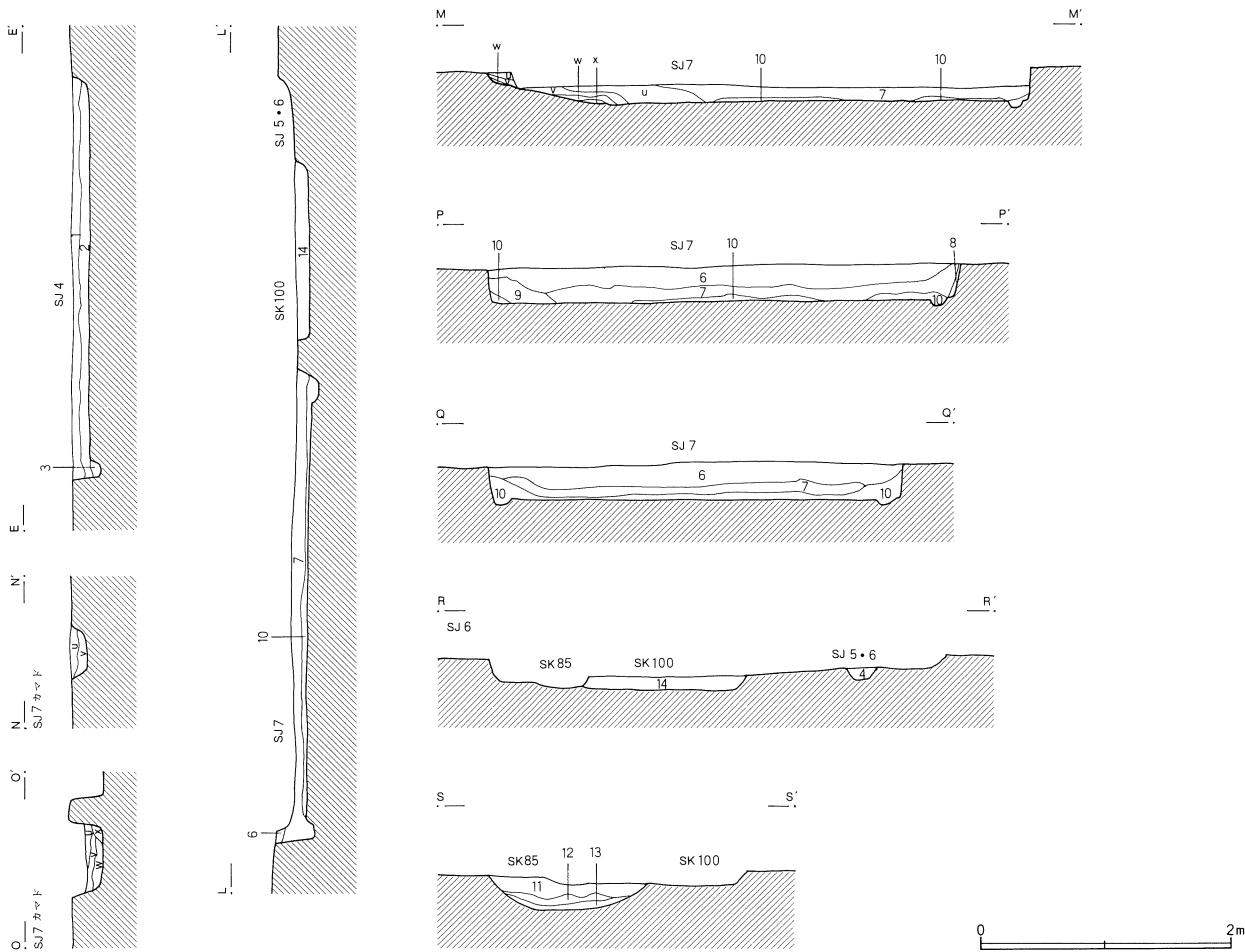
第7号住居跡（第20図）

F—7グリッドに位置し、重複する第5・6号住居跡よりも新しい。

北西カマドの住居跡で、カマドが北壁中央やや東よりに設置されている。カマドは片袖形態で、カマド東側の壁が張り出している。主軸長はカマド東側が3.80m、カマド西側が3.40m、東西幅3.72m、深さ0.28m、主軸方位N—57°—Wを測る。埋没状況は、最初に壁部の地山の崩落後、自然堆積していったものと捉えられる。

第20図 第4・5・6・7号住居跡・第85・100号土壤





第4号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒少量、灰白色粘土粒微量
燒土粒・ γ ロック(5~10 mm)・黄褐色土
 γ ロック(5~10 mm)少量
2 黒褐色土 黃褐色土粒多量
3 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒多量

第4号住居跡カマド

- a 黒褐色土 燃土粒少量
b 黒褐色土 燃土粒・黄褐色土粒少量
c 暗褐色土 燃土粒少量
d 暗れ- γ 褐色土 燃土粒少量、黄褐色土粒多量
e 黒褐色土 燃土層、燃土粒・ γ ロック(10~20 mm)多量
f 黒褐色土 燃土 γ ロック(10 mm)少量
g 暗褐色土 燃土粒・ γ ロック(10~15 mm)・黄褐色土
 γ ロック(10~20 mm)多量
h オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
i オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第5号住居跡

- 4 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)・炭化物粒多量

第5号住居跡カマド

- j 黒褐色土 燃土粒・ γ ロック(5~10 mm)少量
k オリ- γ 褐色土 燃土粒少量、黄褐色土 γ ロック(5~15 mm)多量
l 黒褐色土 燃土粒・ γ ロック(5~10 mm)多量
m オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒多量、燃土粒微量
n 黒褐色土 燃土粒少量
o 黒褐色土 燃土粒少量
p オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒・燃土粒少量

第6号住居跡

- 5 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒・燃土 γ ロック(5~20 mm)少量

- 第6号住居跡カマド
- q 黒褐色土 燃土粒・ γ ロック(5~10 mm)多量
r 黒褐色土 黄褐色土粒多量、燃土粒少量
s 黒褐色土 黄褐色土粒少量
t 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第7号住居跡

- 6 黒褐色土 黄褐色土粒・燃土 γ ロック(5~10 mm)少量
7 黒褐色土 黄褐色土粒多量
8 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
9 黒褐色土 燃土粒・ γ ロック少量
10 黒褐色土 燃土粒・黄褐色土粒少量

第7号住居跡カマド

- u 黒褐色土 黄褐色土粒・燃土粒少量
v 黒褐色土 燃土粒・黄褐色土粒少量、燃土 γ ロック(5~20 mm)多量
w 暗れ- γ 褐色土 燃土粒微量、黄褐色土粒少量
x にぶい黄褐色土 黄褐色土粒少量

第85号土壤

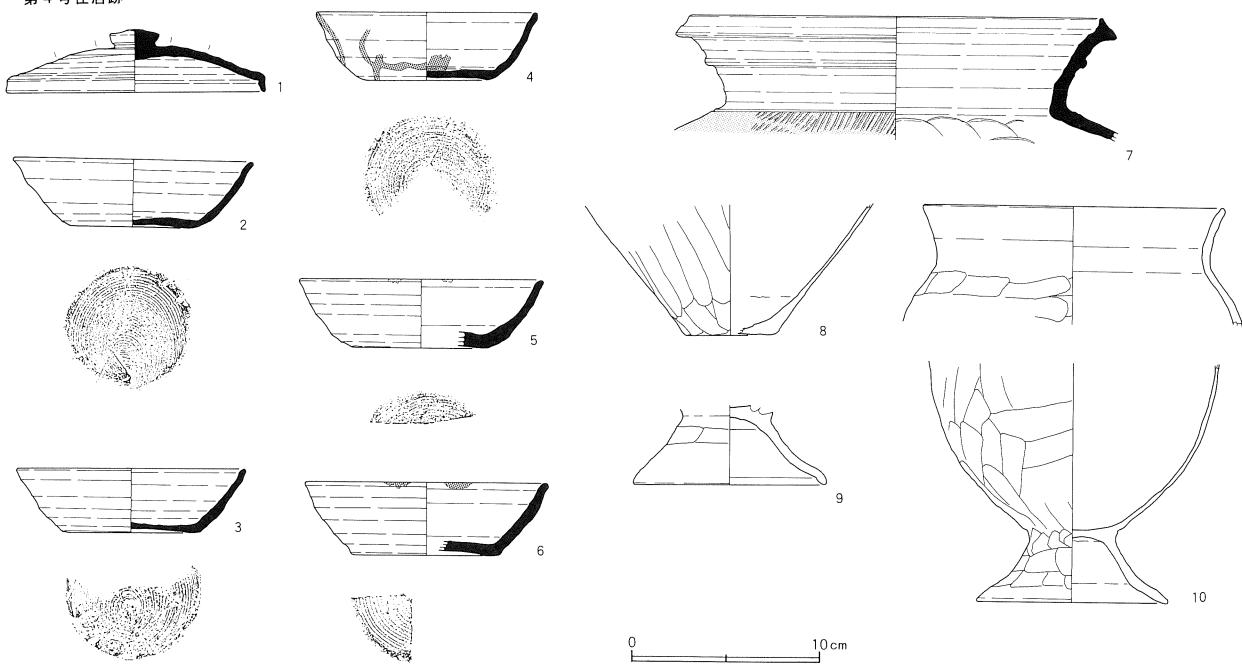
- 11 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック(5~10 mm)多量、
燃土粒・ γ ロック(5~10 mm)少量
12 黒褐色土 黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)少量
13 オリ- γ 褐色土 黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)多量

第100号土壤

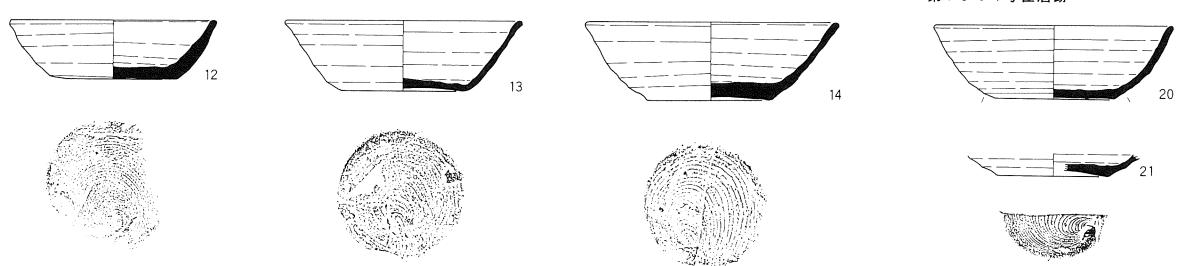
- 14 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒多量

第21図 第4・5・6・7号住居跡出土遺物

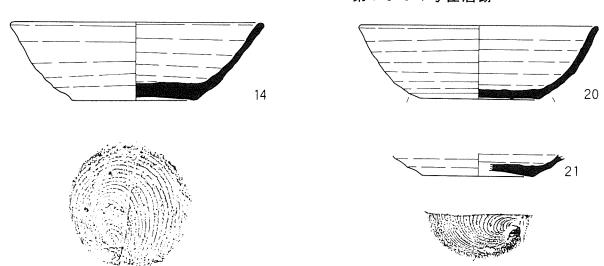
第4号住居跡



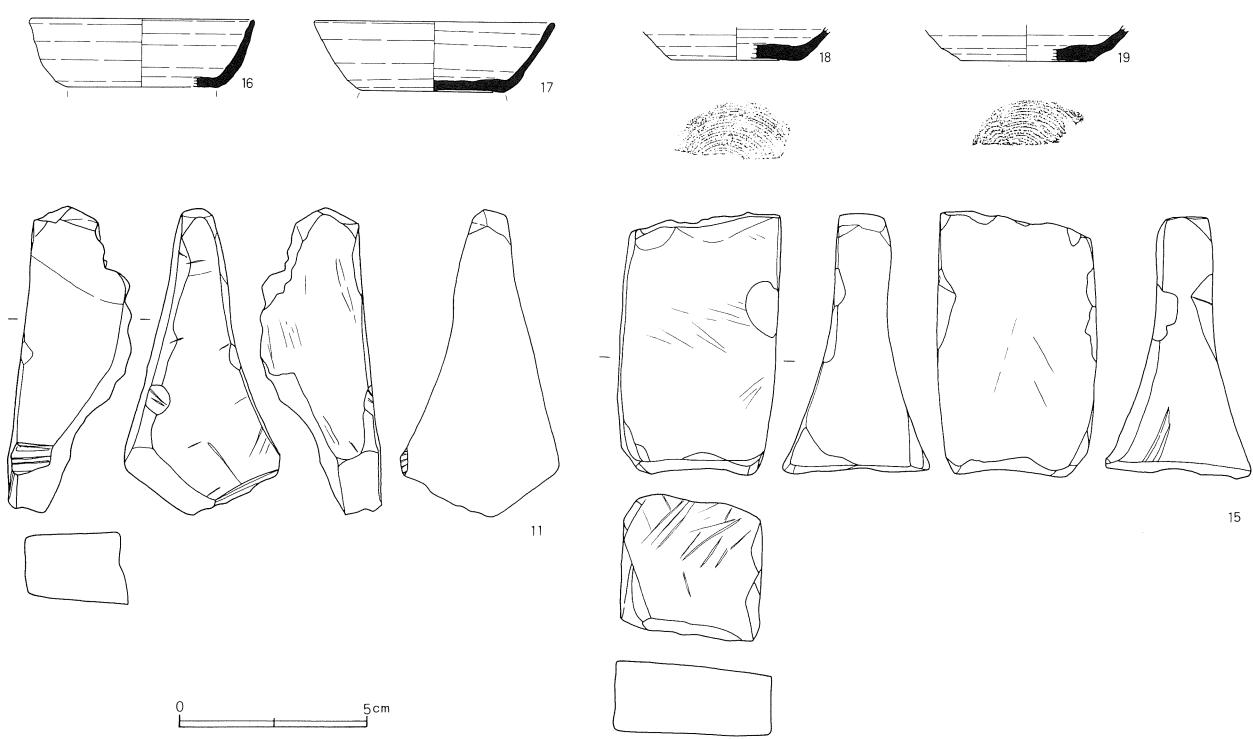
第5・6号住居跡



第4・5・6・7号住居跡



第7号住居跡



カマドの燃焼部は、楕円形の掘り込みをもち、覆土には多量の焼土が含まれている。壁溝は全周し、幅0.24m、深さ0.18mほどである。貯蔵穴、柱穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片が出土している。

重複する第4・5・6・7号住居跡から一括して出土した遺物に、図示した須恵器坏・蓋・甕、砥石がある。

第8・9号住居跡（第22図）

第8・9号住居跡は、第8号住居跡を第9号住居跡に建て直し、もしくは床を貼り替えたものと捉えられる。しかし、土層の堆積状況からの解釈される重複する第10号住居跡との新旧関係は、新しい順に第9号住居跡←第10号住居跡←第8号住居跡となり、平面的な解釈との矛盾が生じる。

第8・9号住居跡は、F-8グリッドに位置する。平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長3.57m、東西幅6.02m、深さ0.12m、主軸方位N-17°-Eを測る。覆土の堆積状況からは、第8号住居跡の覆土上に第9号住居跡の床を貼り、第9号住居跡廃絶後、自然堆積していったものと捉えられる。

カマドは北壁中央付近に設置され、燃焼部の半部が

壁外に張り出し、袖部は明らかにされていない。壁溝は全周し、幅0.29m、深さ0.10mほどである。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片、黒色土器碗片が出土している。

第10号住居跡（第22・23図）

F-8・G-8グリッドに位置し、第8・9号住居跡、第124・125号土壙と重複する。

平面形態は長方形で、カマドは当初北壁中央付近に設置されていたが（カマドB）、最終的には東壁の南東コーナー付近に造り替えられている（カマドA）。カマドAを軸とした規模は、主軸長4.70m、南北幅3.90m、深さ0.29m、主軸方位N-57°-Wを測る。

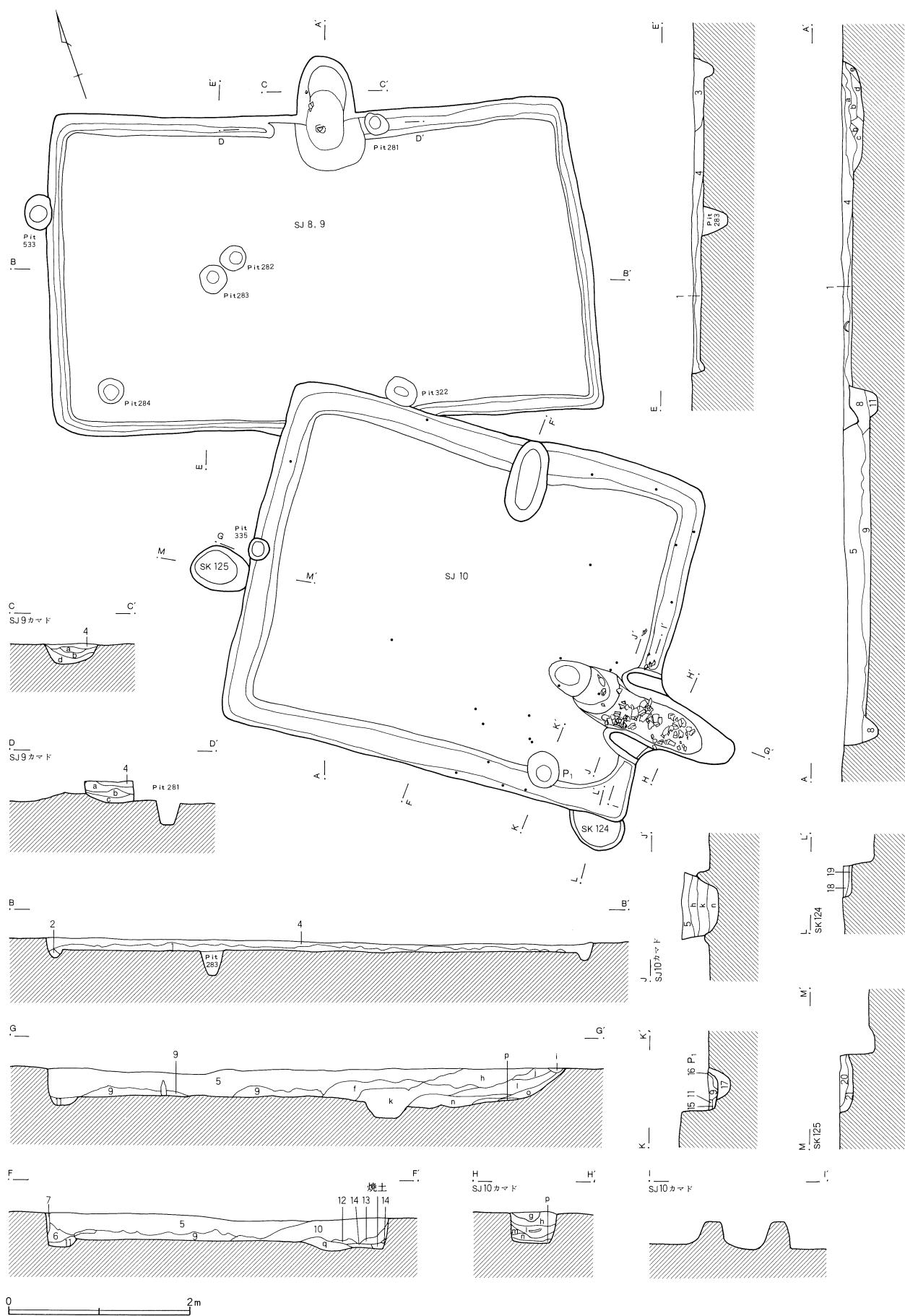
東壁に造り替えられたカマドA（南東カマド）は、比較的残存状態がよく、遺物も多く出土している。覆土には焼土と炭化物が多量に含まれている。覆土上層の黄褐色土は天井部が崩落した層と思われ、住居廃絶後、自然堆積によって埋没していった状況を示している。一方、北壁に設置された住居跡構築当初のカマドB（北東カマド）は、燃焼部の残痕のみが確認された。東壁に造り替えた段階で人為的に破壊し、袖部・天井部のカマド構築材も取り去ってしまったのであろう。

壁溝は全周し、幅0.45m、深さ0.08mほどである。

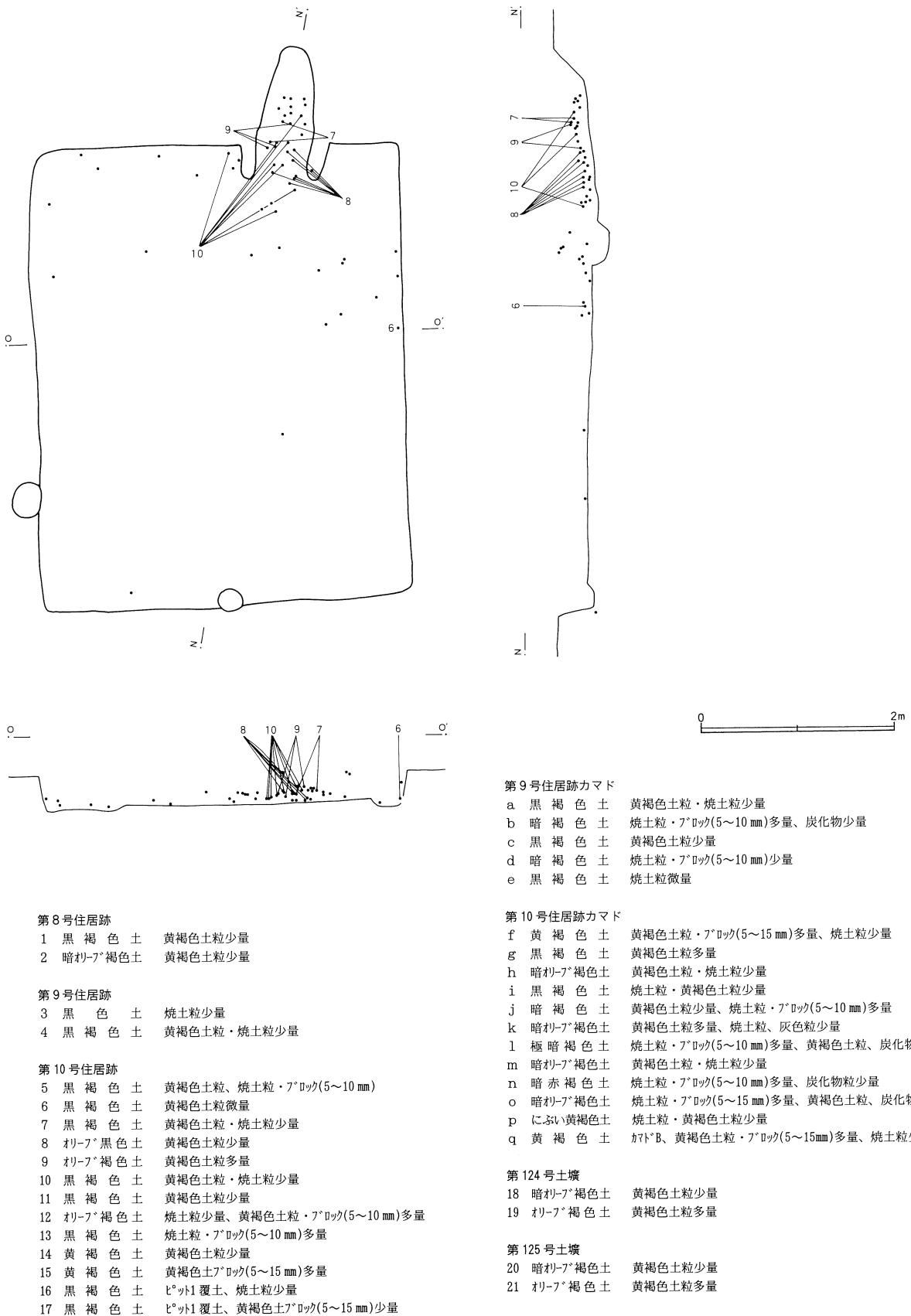
第4・5・6・7号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		3.3	13.7	RW針	A	灰色	80	SJ 4 ~ 7 No.11 床直 南北企産
2	坏	12.7	3.5	6.4	W針	A	灰色	70	SJ 4 ~ 5 No.39 南北企産
3	坏	(12.1)	3.4	(7.3)	B RW針	A	灰白色	50	SJ 4 ~ 5 No.38 南北企産
4	坏	(11.7)	3.5	(6.4)	W針	A	灰色	40	SJ 4 ~ 7 No.8 SJ 4 ~ 5 No.36 火だしき 南北企産
5	坏	(12.8)	3.6	(7.2)	BW片	A	灰色	25	SJ 4 No.51 床直 未野産
6	坏	(12.8)	3.8	(7.7)	B RW針	B	にぶい黄橙色	20	SJ 4 ~ 7 No.55 床直 油煙付着痕か？ 南北企産
7	甕	(21.8)	(6.5)		W	A	灰白色	5	SJ 4 ~ 7 No.2 自然釉付着
8	甕		(6.9)	4.7	BW	B	橙色	10	SJ 4 No.44・146 床直
9	台付甕		(4.3)	10.1	BW	B	橙色	80	SJ 4 No.1
10	台付甕	(15.8)		10.2	RW	B	明赤褐色	40	SJ 4 カマド 内面調整単位不明瞭 8.1×4.1cm 70.19g
11	砥石								SJ 4 ~ 7 No.23 床直 東金子産か？
12	坏	10.8	3.1	6.8	W	A	灰色	60	SJ 4 ~ 7 No.100 南北企産
13	坏	(12.6)	3.7	6.6	BW針	A	灰色	60	SJ 4 ~ 5 No.15 産地不明 6.9×4.3cm 103.61g
14	坏	15.4	4.1	6.6	B	B	にぶい黄橙色	80	SJ 4 ~ 7 No.29 南北企産
15	砥石								SJ 7 No.164 南北企産
16	坏	(11.8)	3.6	(7.9)	W針	A	灰色	20	SJ 4 ~ 7 No.24 未野産
17	坏	(12.2)	3.6	7.6	B RW針	A	灰白色	80	SJ 4 ~ 7 No.31 床直 未野産？
18	坏		(1.8)	(6.8)	W片	A	灰色	10	SJ 4 ~ 5 南北企産
19	坏		(1.9)	(7.0)	B RW	B	にぶい褐色	10	SJ 4 ~ 5 南北企産
20	坏	12.7	3.8	6.4	BW針	B	灰白色	40	SJ 4 ~ 5 南北企産
21	坏		(1.2)	(5.8)	RW針	A	灰色	10	SJ 4 ~ 5 南北企産

第22図 第8・9・10号住居跡・第124・125号土壤



第23図 第10号住居跡遺物出土状況



柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

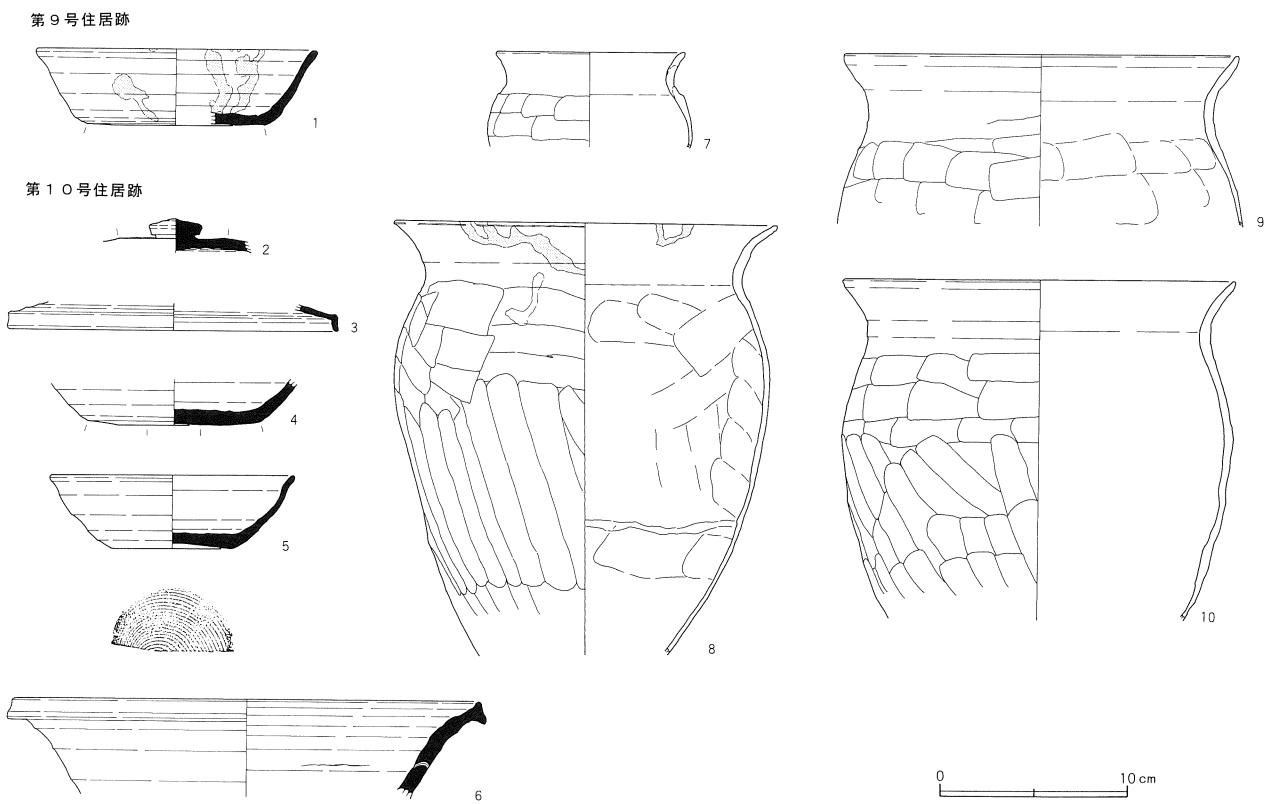
遺物は図示したほかに、土師器甕・壺片、須恵器蓋・壺片、黒色土器椀片が出土している。

第11・12・21号住居跡（第25・26図）

F—8・9、G—8・9グリッドに位置する3軒が重複する住居跡である。各々の住居跡の規模や新旧関係は明確ではない。第86・98・99・122・123号土壙と重複する。新旧関係は第86号土壙よりも新しく、第122・123号土壙よりも古い。

第11号住居跡はカマドが北壁に設置されている北東カマドの住居跡で、平面プランは明らかではない。

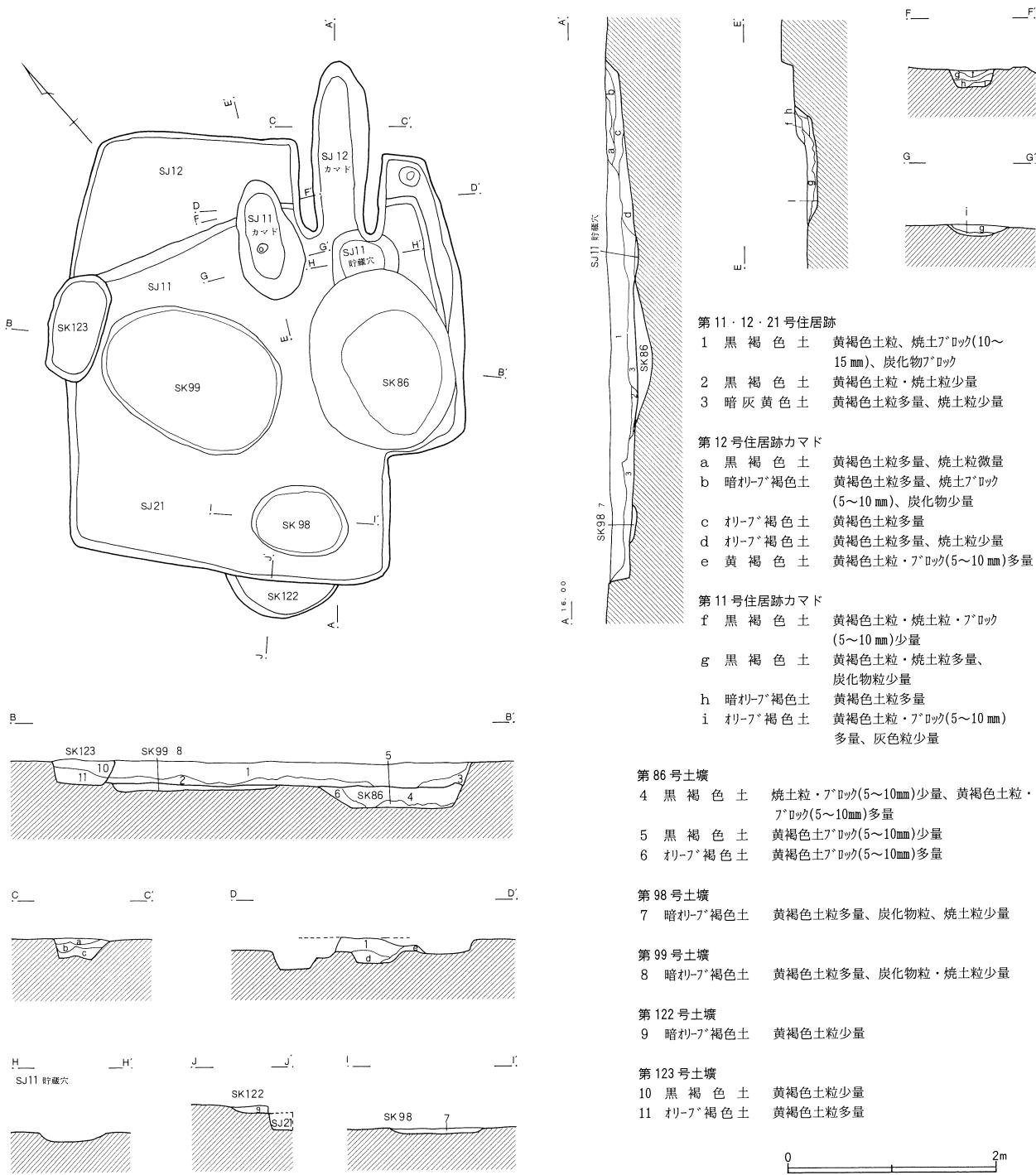
第24図 第9・10号住居跡出土遺物



第9・10号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(14.9)	4.0	(9.4)	W針	A	灰白色	30	SJ9 南比企産
2	蓋		(1.8)		RW針	A	灰色		SJ10 南比企産
3	蓋	(1.4)	(17.4)	(9.1)	RW針	A	灰色	5	SJ10 南比企産
4	椀	(2.5)	(9.1)		RW針	B	灰褐色	5	SJ10 南比企産
5	壺	(12.9)	3.9	(6.3)	BW	B	灰白色	30	SJ10 产地不明
6	甕	(24.6)	(5.1)		W針	A	灰色	5	SJ10 No.3 南比企産
7	小型甕	(9.8)	(5.0)		BRW	B	明褐色	10	SJ10 No.47・57 カマド
8	甕	20.2	(22.8)		RW	B	橙色	60	SJ10 No.70・75・77・74・82・84・85・66・80・73 カマド
9	甕	(20.8)	(9.1)		BRW	B	にぶい橙色	10	SJ10 No.55・63・81 カマド
10	甕	10.8	(17.9)		RW	B	明赤褐色	25	SJ10 No.17・27・30・32・43・61・62・67・72・79 カマド

第25図 第11・12・21号住居跡・第86・98・99・122・123号土壤



跡のカマドに壊されているものとされているが、明確ではない。

第11・12・21号住居跡から出土した遺物は比較的多く、図示したほかに土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏・椀片、鉄製鎌がある。

第13号住居跡（第28図）

G—9・10グリッドに位置し、重複する第5号溝跡、第45号土壤よりも新しい。

平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長4.10m、東西幅3.10m、深さ0.15mで、主軸方位はN

第26図 第11・12・21号住居跡遺物出土状況



第11・12・21号住居跡出土遺物観察表（第27図）

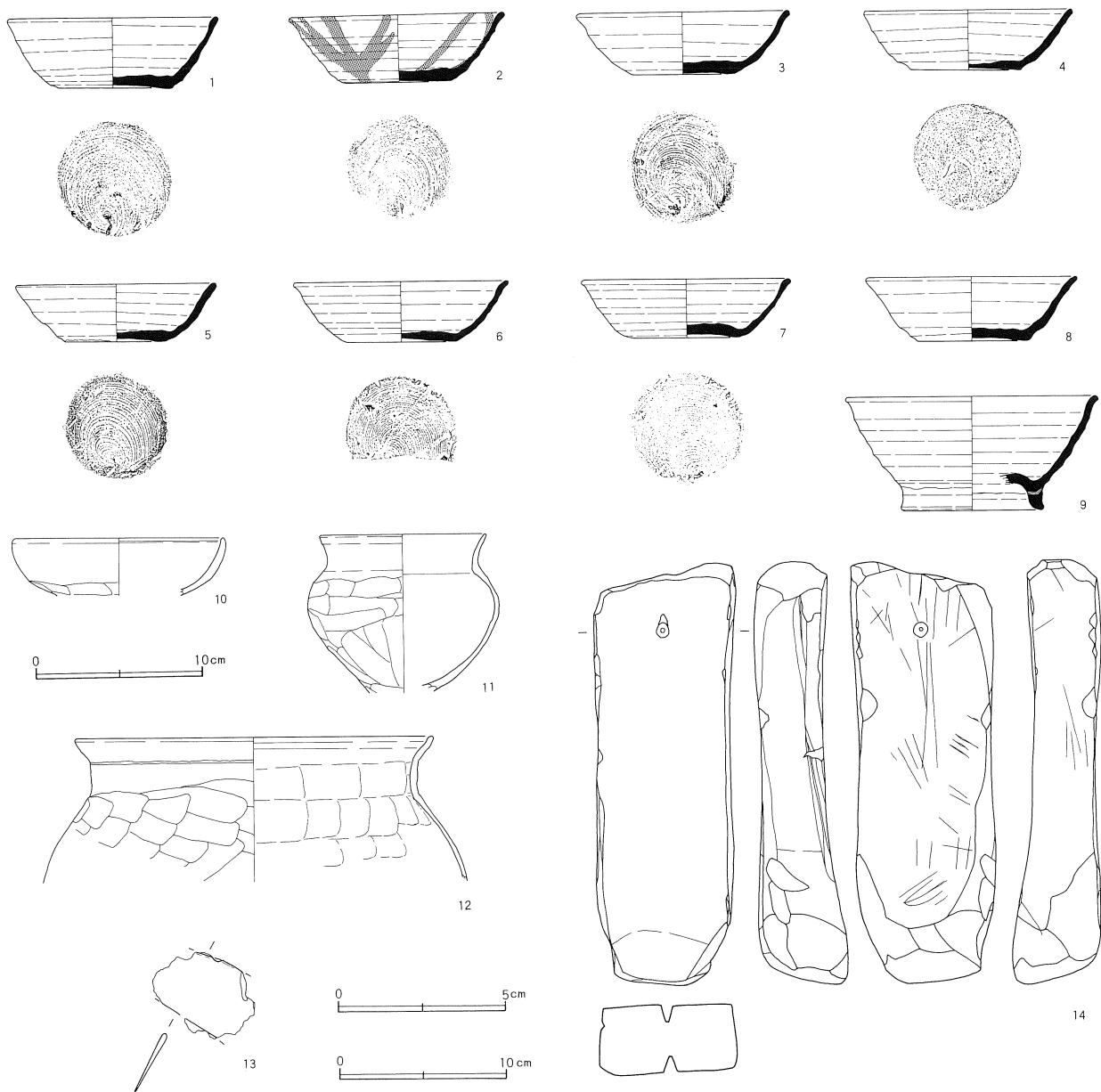
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	12.4	4.2	56.9	B RW針	B	灰白色	90	No.48・131 南比企産
2	壺	12.8	4.0	6.5	W針	A	灰色	75	No.6・91 火だすき 南比企産
3	壺	12.4	3.7	6.1	RW針	B	灰色	70	No.38・98 SK86 No.2・14 南比企産
4	壺	12.3	3.5	6.5	RW針	A	灰色	95	No.114 カマド 南比企産
5	壺	11.8	3.4	6.1	BW針	A	灰白色	100	No.116 カマド 南比企産
6	壺	(12.8)	5.6	(6.5)	W針	A	灰色	30	No.102 SK86 No.15 南比企産
7	壺	(12.1)	3.5	6.5	BW針	A	黄灰色	60	No.18 床直 南比企産
8	壺	12.4	3.8	6.7	BW片	C	にぶい黄色	100	No.30 末野産
9	高台付壺	(14.8)	6.7	(8.5)	B RW片	A	灰黄色	40	No.19 末野産
10	壺	(12.4)	(3.4)		RW	B	明赤褐色	10	No.72・167 カマド
11	小型台付甕	9.8	(9.3)		RW	B	橙色	60	No.171・172
12	甕	(21.2)	(8.5)		RW	B	橙色	5	No.9・21 (3.0)×2.0cm 4.85g
13	鉄鎌								12.5×4.2cm 194.20g
14	砥石								

—38—Eを測る。埋没状況は自然堆積で、南西側から埋没していった状況が看取できる。

カマドは北壁中央付近に設置され、第5号溝跡の調査との関連で、平面的には煙道部のみが確認されている。平面長方形の北東カマドであるが、短辺にカマド

が設置され、他の住居跡と異なる。重複する第5号溝跡内にカマドが設置される方形プラン北西カマドの住居跡が拡張された可能性も残されている。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北壁を除く、北西コーナー部から西壁～南壁～東壁から北東コーナー部に

第27図 第11・12・21号住居跡出土遺物



巡っている。幅0.22m、深さ0.07mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器坏片が出土している。

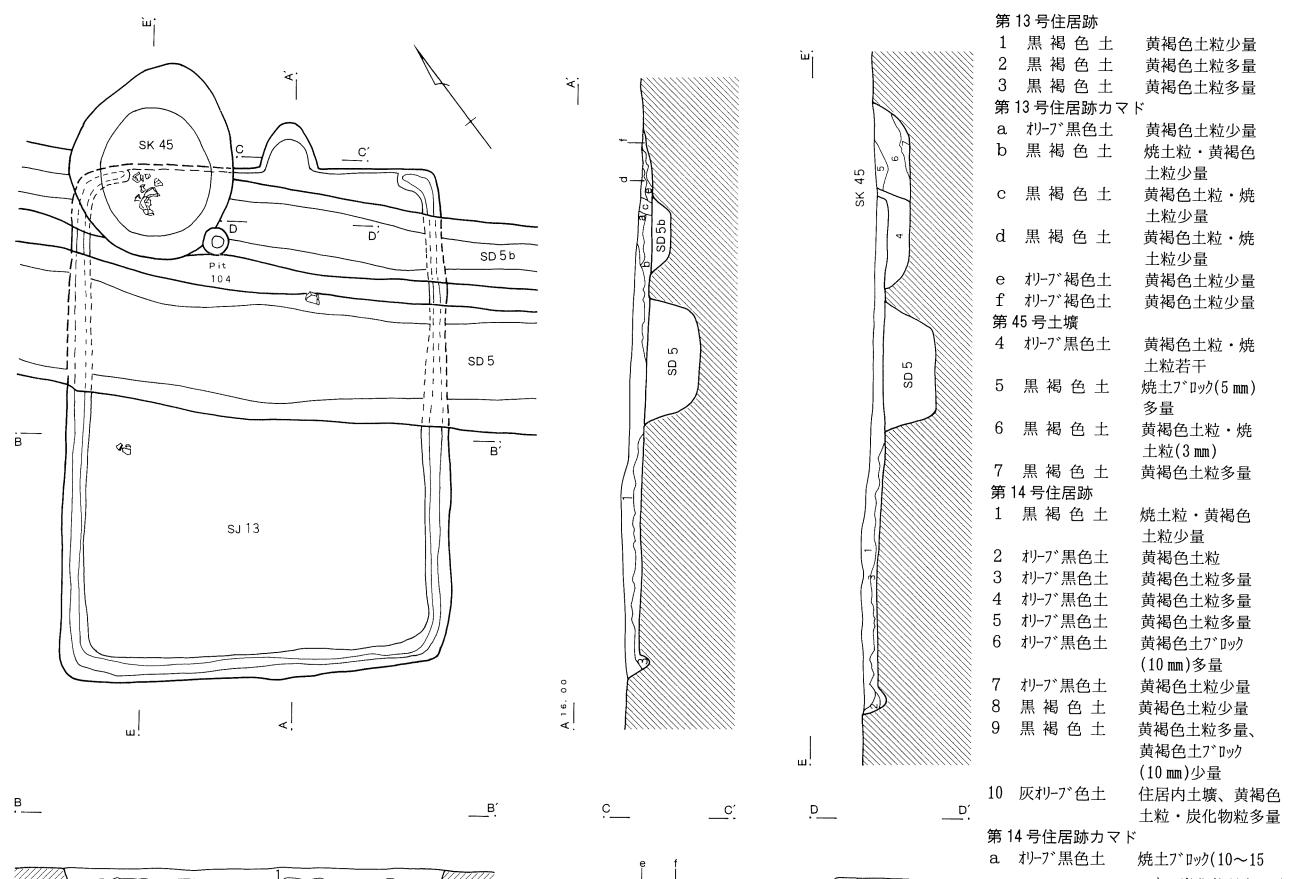
第14号住居跡（第29図）

H—9・10グリッドに位置し、重複する遺構はない。平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長3.15m、東西幅4.50m、深さ0.06m、主軸方位N—34°—Eを測る。

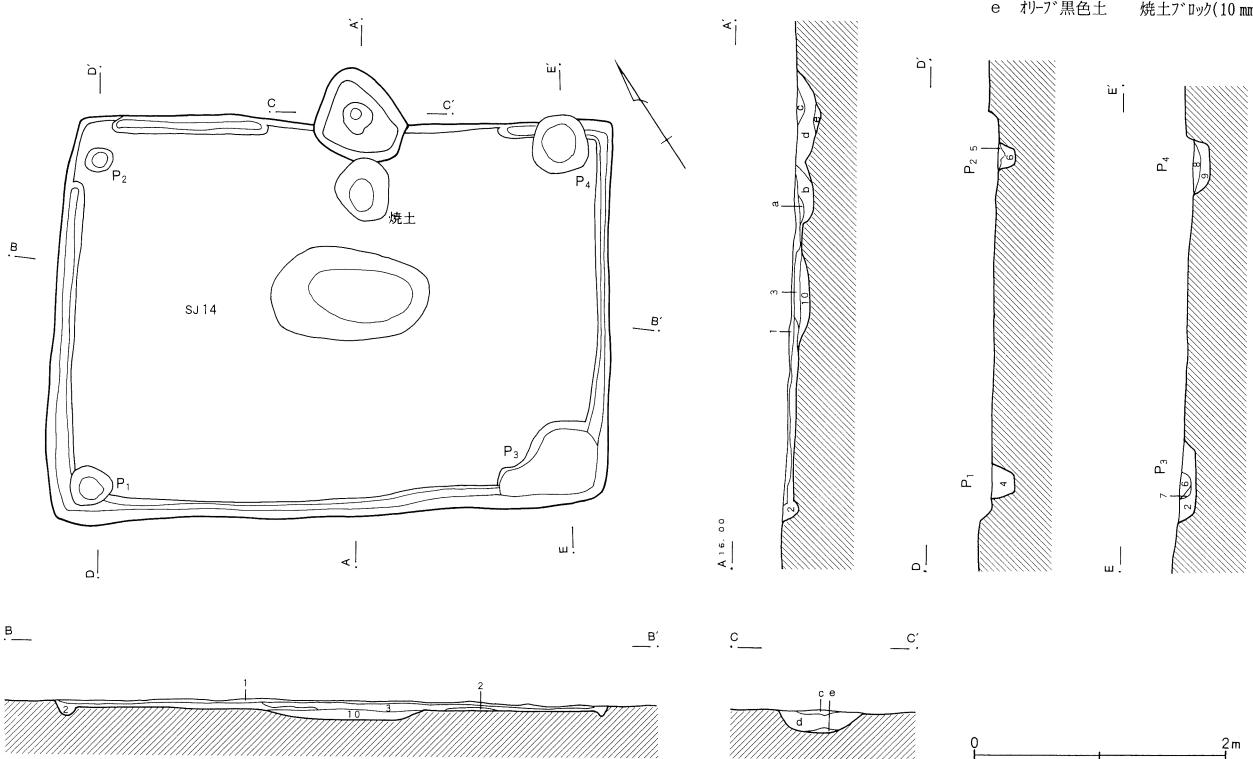
カマドは北壁中央付近に設置され、燃焼部が壁外に

突出している。前面には円形の浅い窪みがある。いずれの覆土にも焼土が多量に含まれている。ピットは住居跡の各コーナー部にそれぞれ検出されている。いずれも柱穴と思われるが、深さは浅い。壁溝は、カマドの両脇部分と北西コーナー部を除いて巡っている。幅0.24m、深さ0.06mほどである。また住居跡中央部には、長径1.27m、短径0.75m、深さ0.07mほどの浅い楕円形の土壙が確認されている。貯蔵穴は検出されていない。出土遺物はない。

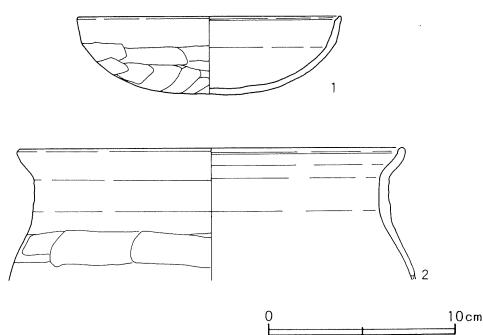
第28図 第13号住居跡・第45号土壤



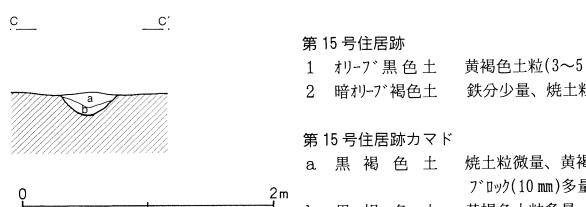
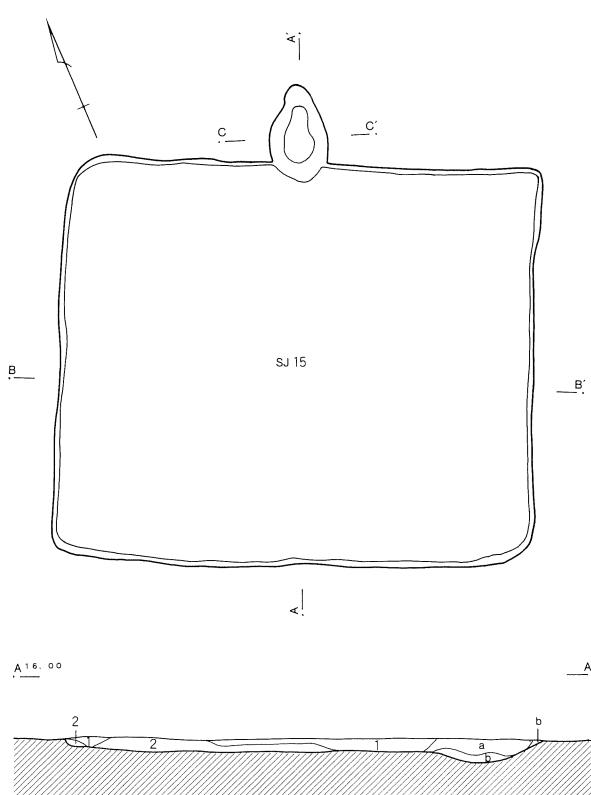
第29図 第14号住居跡



第30図 第13号住居跡出土遺物



第31図 第15号住居跡



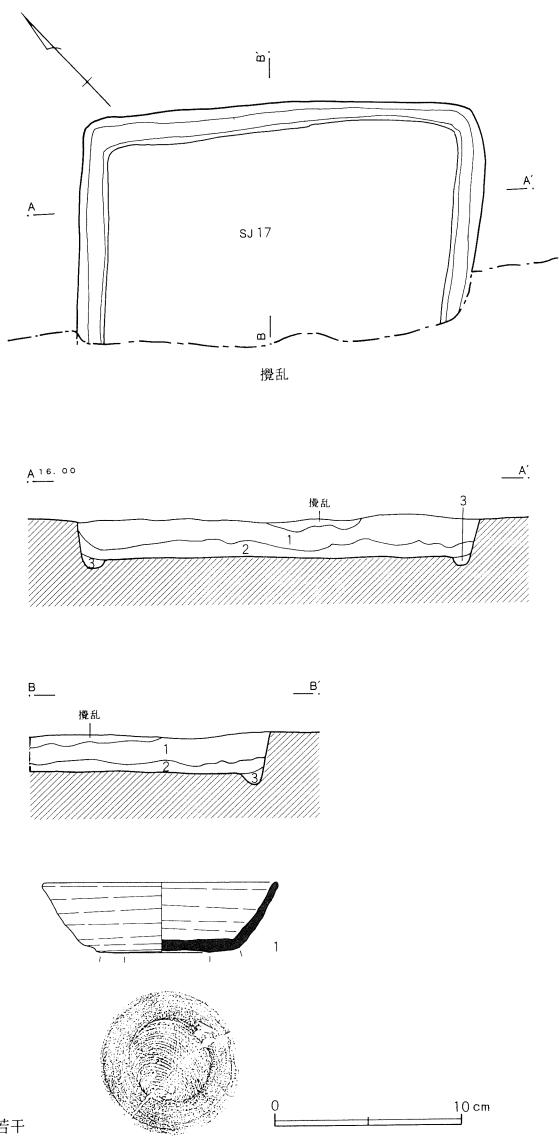
第15号住居跡（第31図）

H-10・11、I-10・11グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態は長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長3.20m、東西幅3.85m、深さ0.10m、主軸方位N-26°-Eを測る。

カマドは北壁中央付近に設置されている。燃焼部が住居跡壁外に突出するタイプで、浅く掘り込まれている。貯蔵穴、柱穴、壁溝は検出されていない。出土遺物はない。

第32図 第17号住居跡・出土遺物

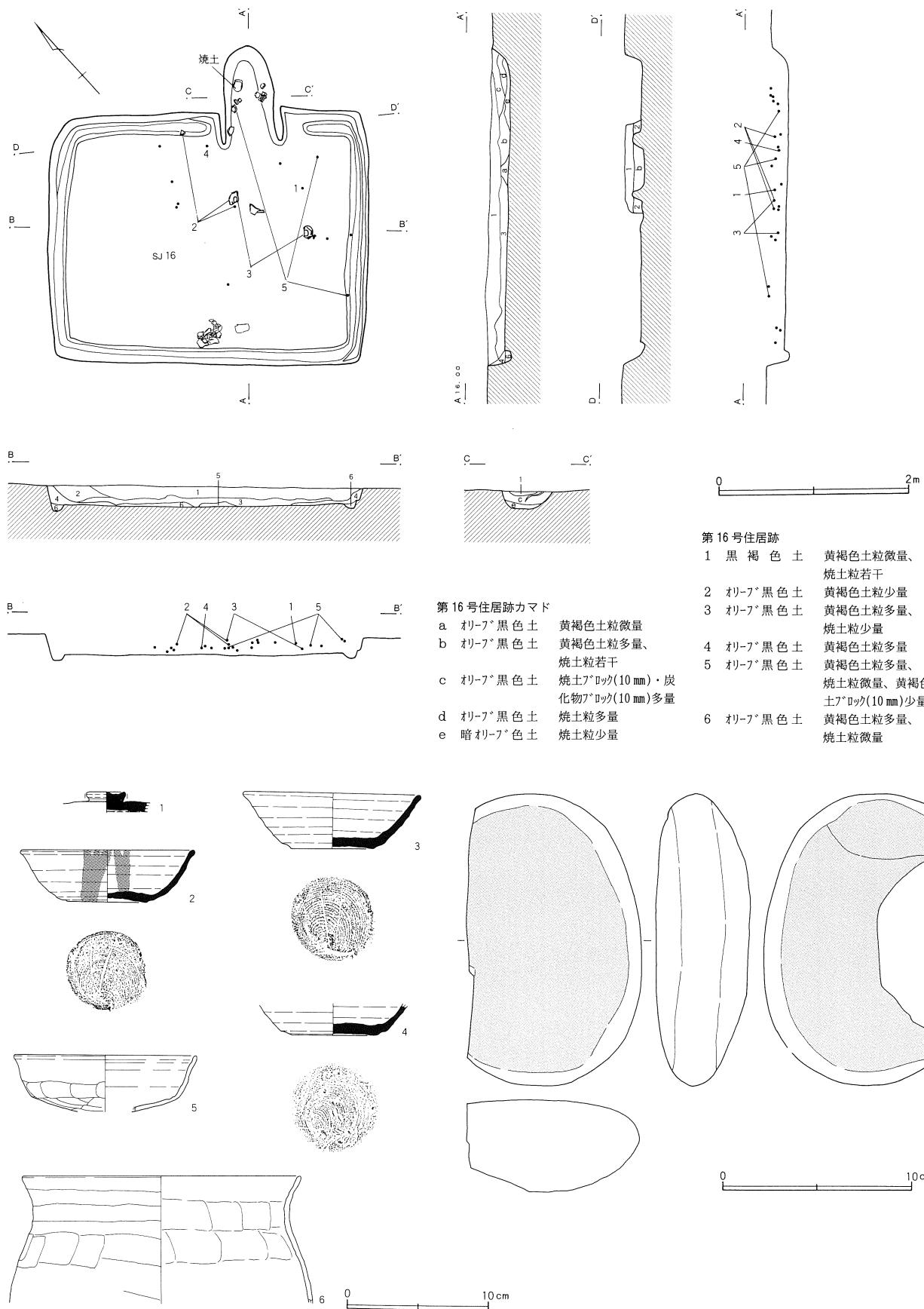


第15号住居跡
1 オリ-7° 黒色土 黄褐色土粒(3~5mm)多量、焼土粒若干
2 暗オリ-7° 褐色土 鉄分少量、焼土粒若干

第15号住居跡カマド
a. 黒褐色土 焼土粒微量、黄褐色土粒(3mm)・黄褐色土 7°ロック(10mm)多量
b. 黒褐色土 黄褐色土粒多量、焼土粒少量

第17号住居跡
1 黒褐色土 黄褐色土粒多量、焼土7°ロック(10mm)少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)多量、焼土粒若干
3 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第33図 第16号住居跡・出土遺物



第17号住居跡（第32図）

H—8グリッドに位置し、南西半部が攪乱されている。

平面形態は方形で、カマドは検出されていない。1辺3.15m、深さ0.30mを測る。北壁の方向はN—45°—Wを指す。埋没状況は、自然堆積である。

壁溝は西壁～北壁～東壁に巡り、本来は全周していたのであろう。幅0.26m、深さ0.08mほどである。壁溝の設置状況から、カマドは攪乱されている東壁、西壁もしくは南壁にあったものと推定される。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器蓋・坏片が出土している。

第16号住居跡（第33図）

I—9グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長2.70m、東西幅3.40m、深さ0.21m、主軸方位N—41°—Eを測る。埋没状況は自然堆積で、まず壁付近の地山の崩落後、順次堆積していった状況が看取できる。

カマドは北壁中央やや東より付近に設置されている。燃焼部・煙道部は住居跡床面から平坦に続き、煙道部突端は外傾しながら立ち上がる。覆土には炭化物と多量の焼土が含まれている。壁溝は全周し、幅0.24m、深さ0.07mほどである。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器

甕・坏片、黒色土器碗片が出土している。

第18号住居跡（第34図）

E—9グリッドに位置し、重複する第14号溝跡よりも古い。第14号溝は、第18号住居跡を南北に貫いているが、南壁を若干越えた地点で途切れている。

北西カマドの住居跡で、平面形態は西辺に比べ東辺が短い台形である。規模は西辺長4.46m、東辺長3.70m、東西幅4.42m、深さ0.24m、主軸方位N—37.5°—Wを測る。埋没状況は、自然堆積である。

カマドは北壁中央付近に設置され、東半部を第14号溝跡に攪乱されている。燃焼部が住居跡の壁外に張り出し、前面には僅かな住居跡北壁の立ち上がりが認められる。袖部が構築されていないものと判断される。覆土には、炭化物と多量の焼土が含まれている。壁溝はカマド前面を除いて全周し、幅0.42m、深さ0.06mほどである。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片、黒色土器碗片が出土している。

第19号住居跡（第35図）

K—10グリッドに位置し、重複する第108号土壙よりも新しく、第21・25号溝跡よりも古い。

第19号住居跡は、北東カマドが設置されている北壁に沿ってテラス部が付設された住居跡として発掘されている。しかしテラス部の壁方向と、深く掘り込まれた住居跡の壁方向が異なること、テラスのみにカマド

第13号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(16.8)	4.1		RW	B	明赤褐色	50	カマド
2	甕	(20.2)	(6.4)		RW	B	にぶい赤褐色	5	No.6

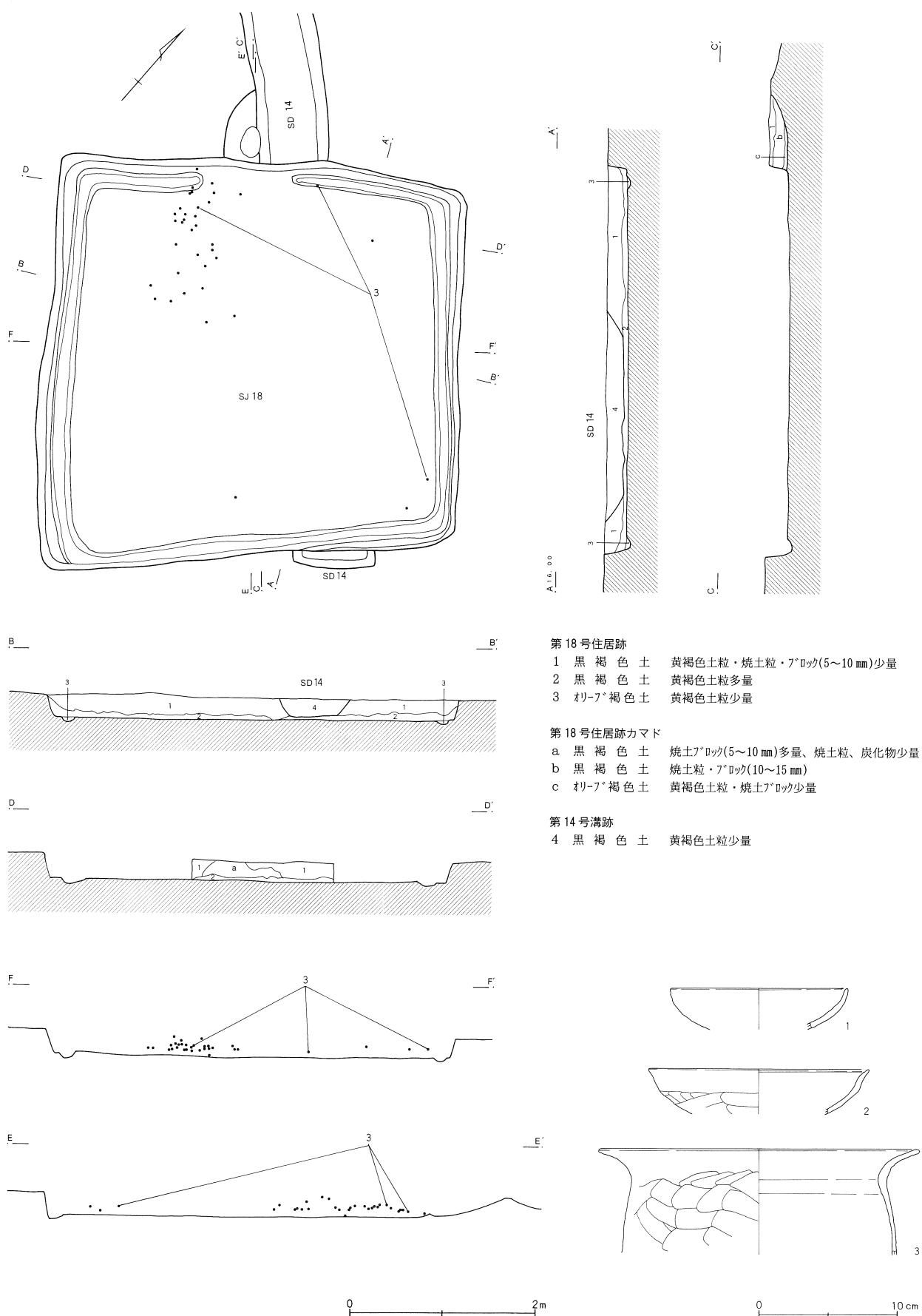
第17号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	12.3	3.7	7.6	B RW針	A	黄灰色	75	No.1 南北企産

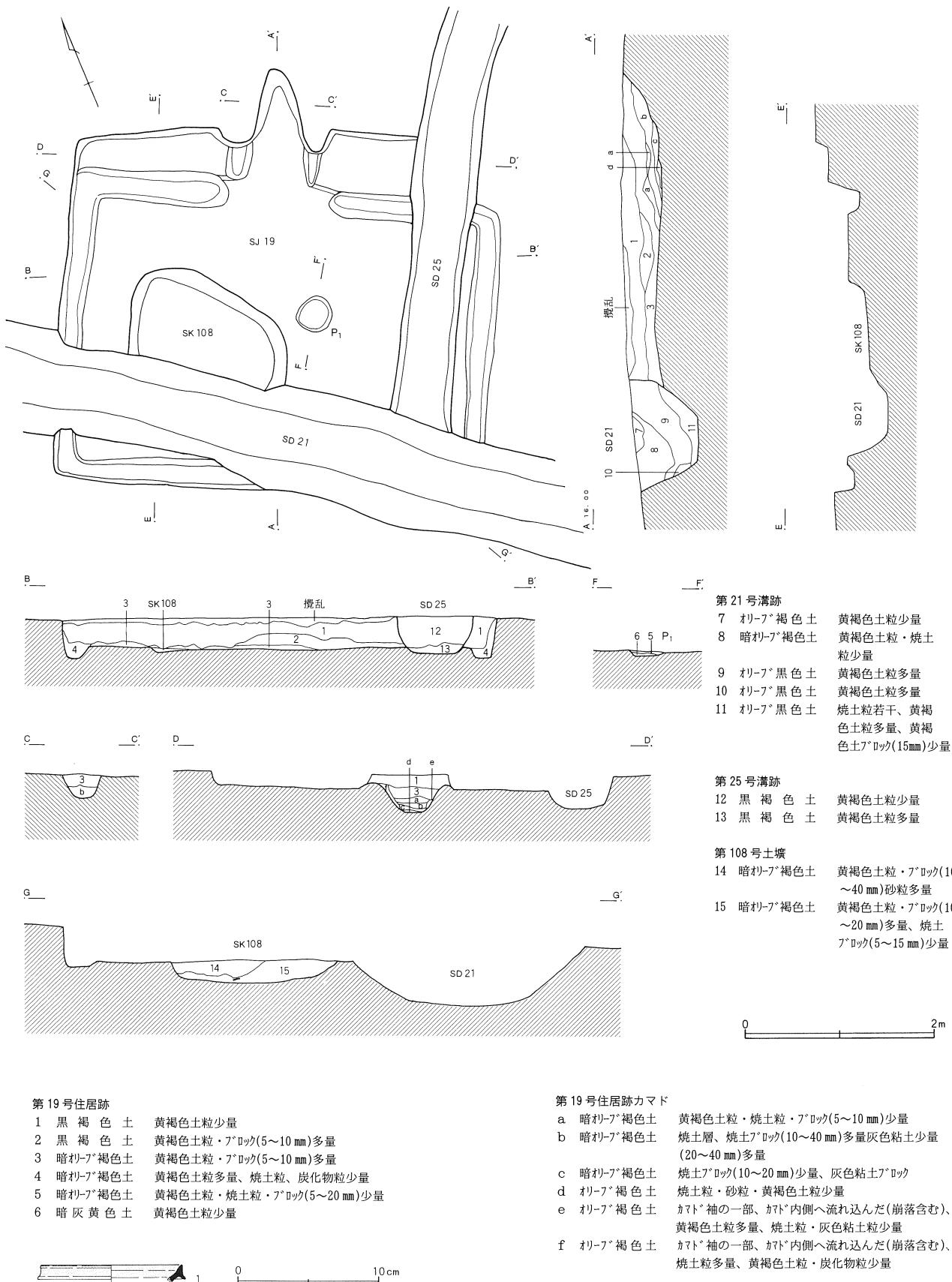
第16号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.5)		W針	A	灰色	5	No.3 南北企産
2	坏	12.1	3.6	5.6	BW針	A	灰黄色	75	No.11・19・20 南北企産
3	坏	12.4	3.9	5.8	BW針	A	灰色	70	No.17・19 南北企産
4	坏		(2.2)	6.3	BW針	B	灰白色	20	No.12 南北企産
5	坏	(12.8)	(3.9)		BW	B	明赤褐色	15	No.1・6・22 内面風化著しい
6	甕	(19.6)	(8.8)		RW	B	橙色	5	
7	磨石								15.2×9.1cm 1088.83g

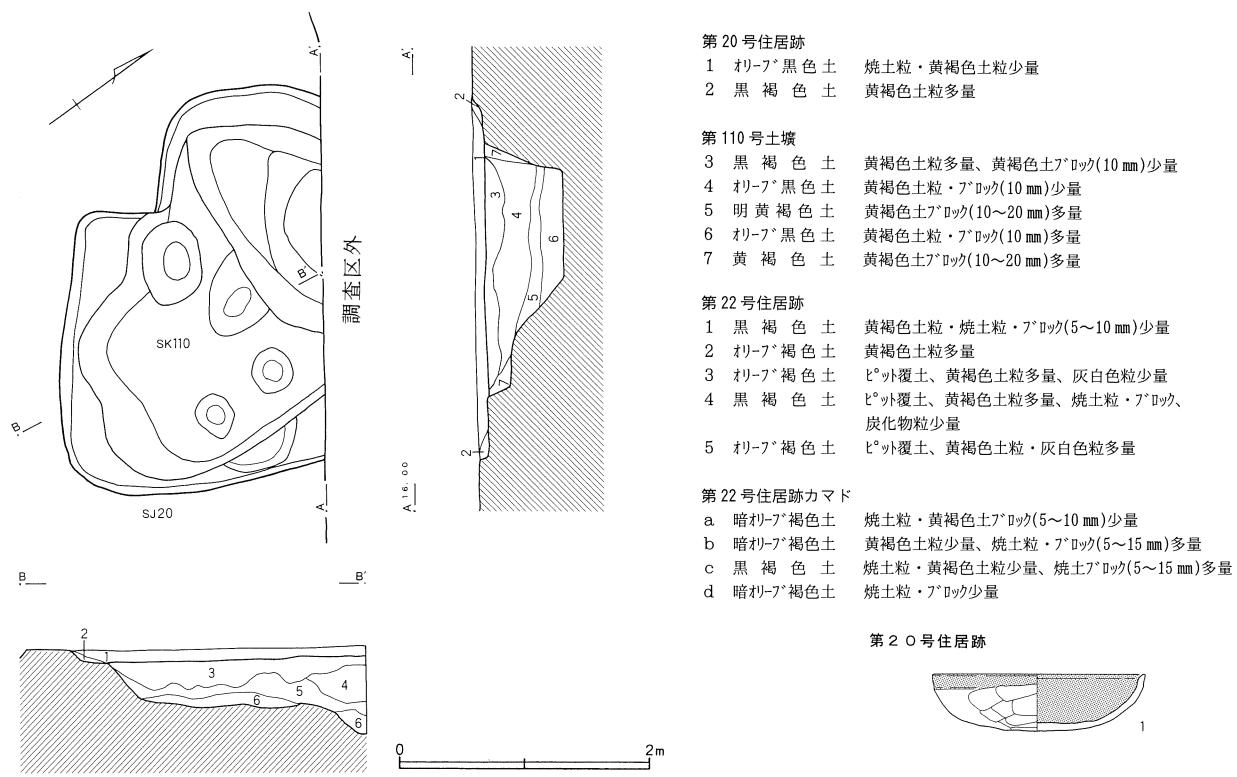
第34図 第18号住居跡・出土遺物



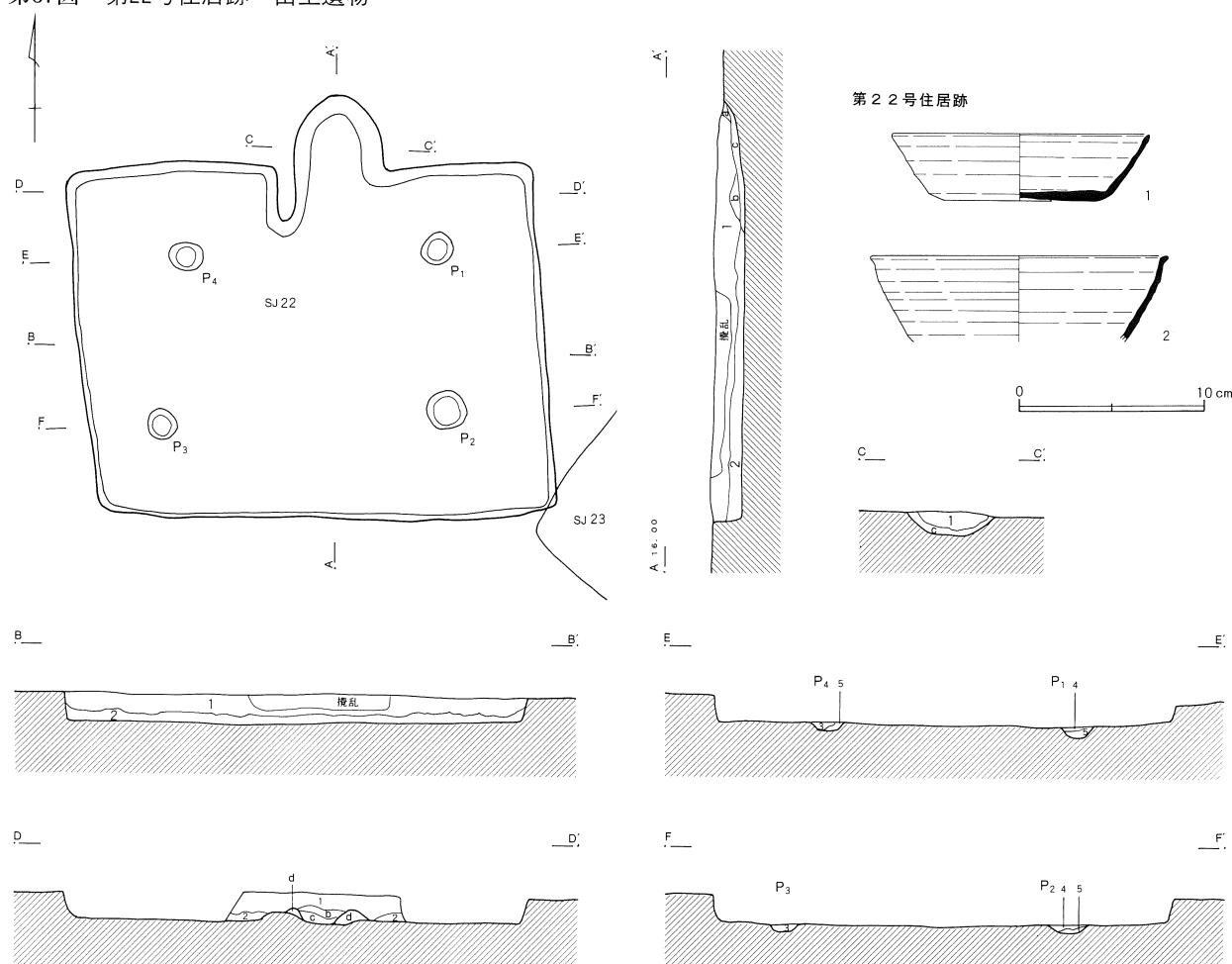
第35図 第19号住居跡・出土遺物・第108号土壤



第36図 第20号住居跡・出土遺物・第110号土壤



第37図 第22号住居跡・出土遺物



の袖部が構築されていること、テラス部の壁が重複する第25号溝跡を越えずに深く掘り込まれた住居跡の東壁にスムーズにつながらないことから、2軒の住居跡の重複の可能性がある。新旧関係は浅い住居跡床面と同レベルに土層が分層できないことから、深く掘り込まれた住居跡の方が新しい。浅い住居跡のカマドは深い住居跡のカマドに壊され、かろうじて袖部のみが残存していたものと捉えられる。但し、テラス部から深く掘り込まれた住居跡にかかる箇所の土層の堆積状況が確認されていないため、断定できない。

住居跡の平面形態は基本的には長方形で、深く掘り込まれた部分の主軸長は3.30m、幅4.60m、深さ0.34m、主軸方位N—29°—Eを測る。付設されているテラス部の幅は、北西コーナー付近で0.30m、北東コーナー付近で0.62mを測り、深さは0.16m前後と一定である。埋没状況は自然堆積であるが、黄褐色土粒・ブロックを多量に含んだ土が堆積している。

カマドは灰色粘土で構築され、袖はテラス部のみに造られている。燃焼部には、多量の焼土が堆積している。また土層断面の観察によると、カマド土層の上面に住居跡覆土が堆積している状況や、カマド天井部が崩落した土層が確認できることから、住居跡廃絶直後に人為的に破壊されたものと判断できる。

壁溝はカマド前面を除いて全周し、幅0.38m、深さ0.12mほどである。貯蔵穴、柱穴はなく、ピットが1

第18号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.6)	(2.9)		B RW	B	明赤褐色	10	内外面とも風化が著しい
2	坏	(15.8)	(3.2)		RW	C	赤褐色	10	
3	甕	(22.8)	(7.5)		BW	B	橙色	5	No.3・28・35

第19号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	長頸壺	(9.9)	(1.2)		W針	A	灰色	5	カマド西側壁溝内 自然釉付着 南北企産

第20号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.2)	3.0		W	B	にぶい橙色	30	赤彩
2	坏	(10.6)	3.2		BW	B	明赤褐色	50	No.2・6

第22号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.7)	3.5	8.1	B RW	B	にぶい黄橙色	50	南北企産か？ 底部調整不明
2	椀	(15.9)	(4.6)		W針	A	灰色	15	南北企産

本検出されている。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片、羽釜片が出土している。

第20号住居跡（第36図）

D—8グリッドに位置し、北半部が調査区外にある遺構で、調査所見では住居跡として発掘されている。重複する第110号土壙よりも新しい。

平面形態は北西コーナー部が内側に凹む「L」字形で、調査区内の2つのコーナーの角度が鋭角的である。複数の住居跡の重複と捉えることもできるが、規模は東西の長い方で3.26m、短い方で2.23mと小さい。平面的な遺構確認や覆土の堆積状況でも、複数住居跡の重複は捉えられていない。カマド、貯蔵穴、柱穴、壁溝等の施設も検出されていない。これらの点から、住居跡である可能性はきわめて低い。

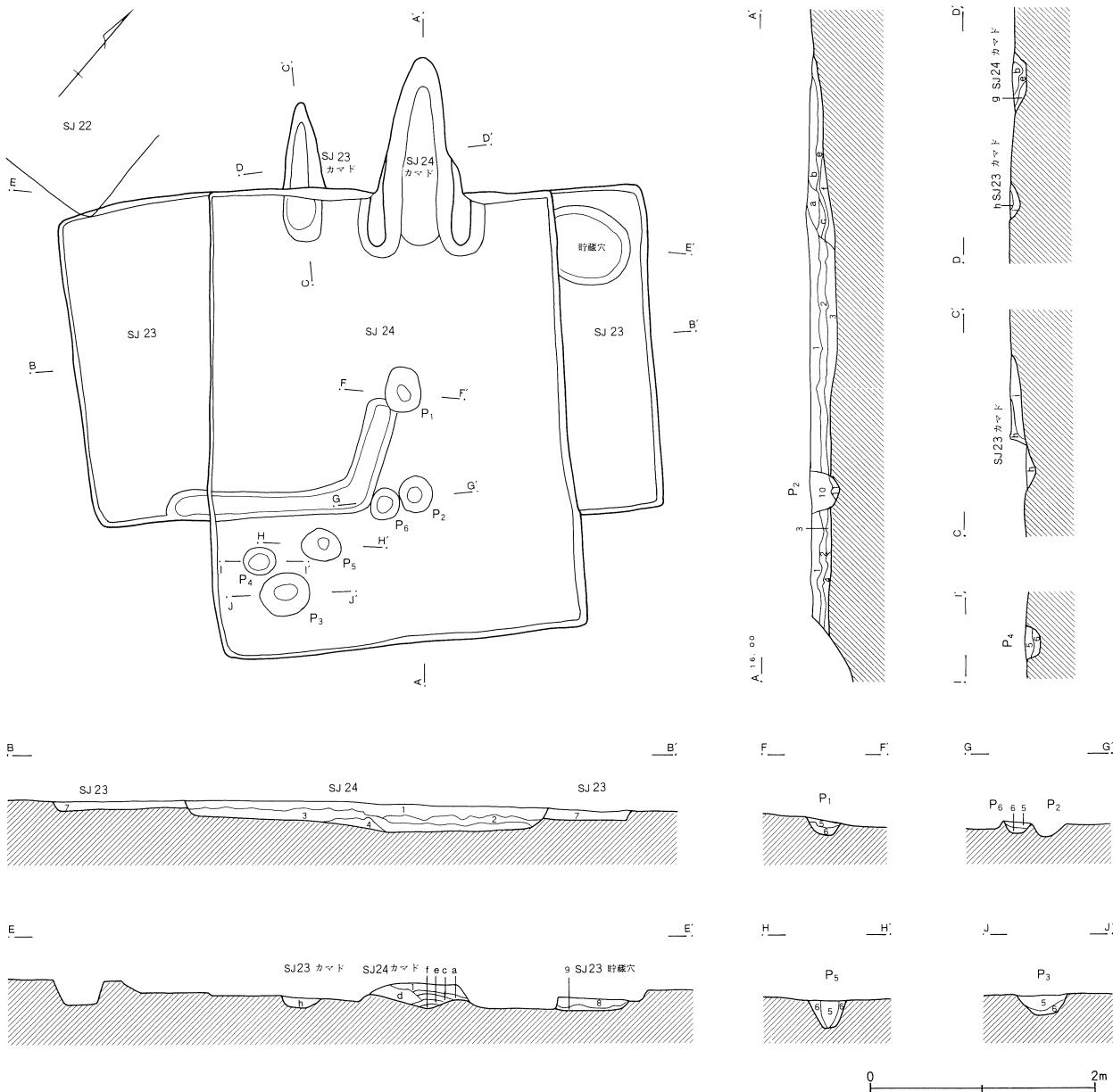
遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器坏片が出土している。

第22号住居跡（第37図）

I—12・J—12グリッドに位置する。南東コーナーが第23号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。南半部に浅い攪乱が掘り込まれている。

平面形態は方形で、カマドは北壁中央付近に設置されている。主軸長2.87m、東西幅4.00m、深さ0.24m、主軸方位N—3°—Eを測る。埋没状況は、自然堆積である。

第38図 第23・24号住居跡・第24号住居跡出土遺物



第23・24号住居跡

第24号住居跡

- | | |
|-------------|---|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒少量 |
| 2 黒褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 3 オリ-7°褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 4 黄褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 5 黒褐色土 | 1° ^o 1・3・4・5・6 覆土、黄褐色土粒多量 |
| 6 オリ-7°褐色土 | 1° ^o 1・3・4・5・6 覆土、黄褐色土粒多量、砂粒少量 |
| 10 黒褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 11 オリ-7°褐色土 | 黄褐色土粒多量、砂粒少量 |
| 第23号住居跡 | |
| 7 暗灰黄色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 8 黒褐色土 | 貯蔵穴覆土、黄褐色土粒多量 |
| 9 オリ-7°褐色土 | 貯蔵穴覆土、黄褐色土粒多量、砂粒少量 |

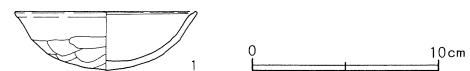
第24号住居跡カマド

- | | |
|------------|---|
| a 暗れ-7°褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| b 暗灰黄色土 | 焼土粒・7° ^o ロック(5~15mm)多量 |
| c 黒褐色土 | 焼土粒・7° ^o ロック(5~15mm)多量 |
| d 暗れ-7°褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| e オリ-7°褐色土 | 焼土粒・7° ^o ロック(5~10mm)・黄褐色土7° ^o ロック(5~10mm)少量 |
| f オリ-7°褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| g オリ-7°褐色土 | 黄褐色土粒多量 |

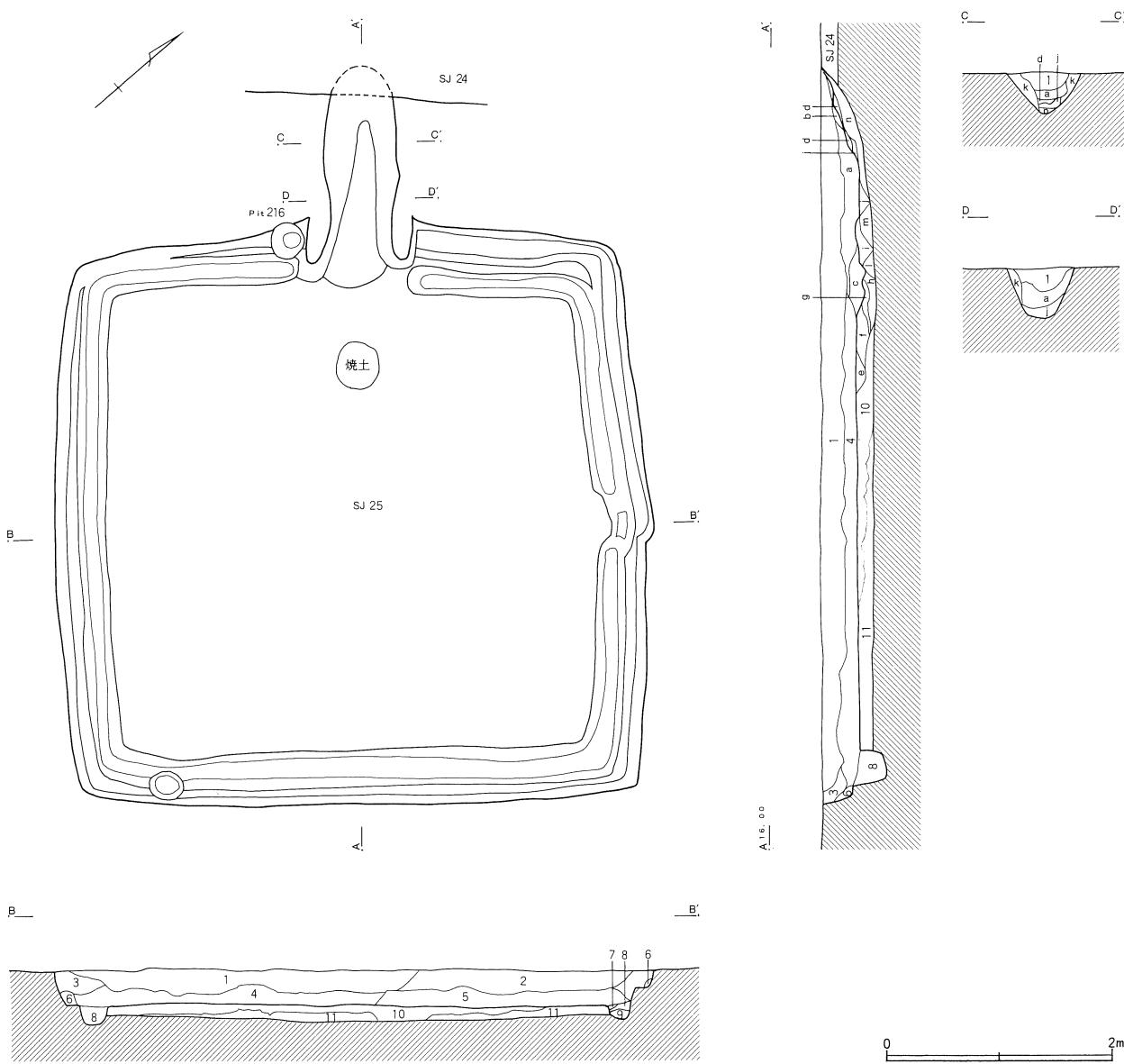
第23号住居跡カマド

- | | |
|------------|---------|
| h 黒褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| i 暗れ-7°褐色土 | 黄褐色土粒少量 |

第24号住居跡



第39図 第25号住居跡



第25号住居跡

- | | |
|------------|--|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{アマツク} (5~10mm)少量 |
| 2 オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 3 黒褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 4 暗オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒・ ^{アマツク} (5~10mm)多量 |
| 5 黒褐色土 | 黄褐色土粒・ ^{アマツク} (5~10mm)少量 |
| 6 黄褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 7 暗オリーブ褐色土 | 黄褐色土 ^{アマツク} (5~10mm)少量 |
| 8 黒褐色土 | 黄褐色土粒少量、黄褐色土 ^{アマツク} (20~30mm)多量 |
| 9 オリーブ褐色土 | 黄褐色土 ^{アマツク} (10~20mm)多量 |
| 10 灰オリーブ色土 | 黄褐色土粒多量、焼土粒微量 |
| 11 暗オリーブ色土 | 黄褐色土粒多量 |

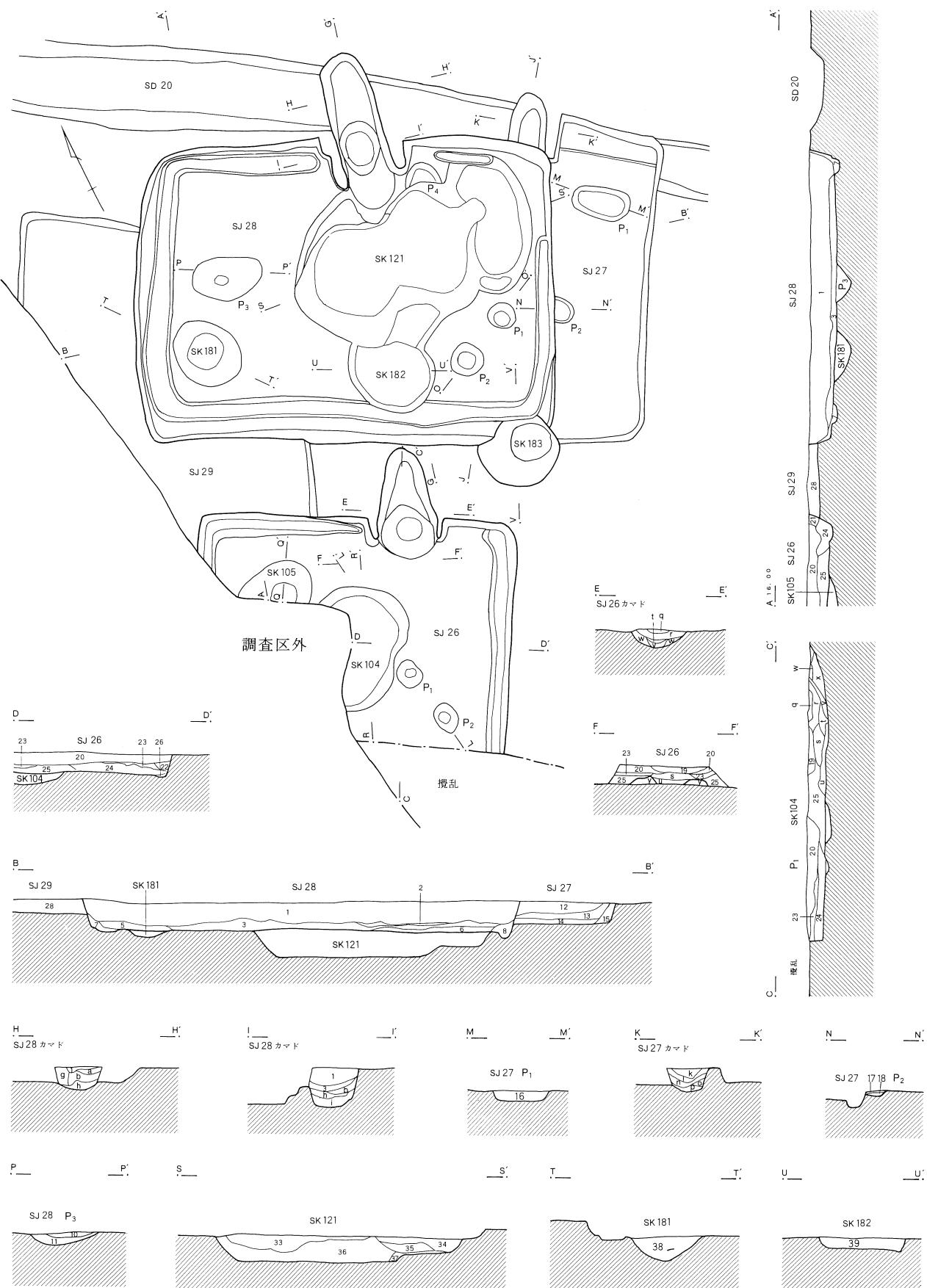
第25号住居跡カマド

- | | |
|------------|--|
| a 黒褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| b オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| c オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒・ ^{アマツク} (5~15mm)多量 |
| d 暗灰黄色土 | 黄褐色土粒・焼土粒・灰色粘土 ^{アマツク} (10~20mm)少量 |
| e 黒褐色土 | 焼土 ^{アマツク} (10~20mm)多量 |
| f オリーブ黒色土 | 黄褐色土 ^{アマツク} (10mm)少量 |
| g 暗オリーブ褐色土 | 焼土粒多量 |
| h 黄褐色土 | 焼土粒少量 |
| i オリーブ褐色土 | 焼土塊 |
| j オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒少量、焼土粒多量 |
| k オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| l 黄褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| m 黑褐色土 | 焼土粒・黄褐色土粒少量 |
| n オリーブ褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒少量 |

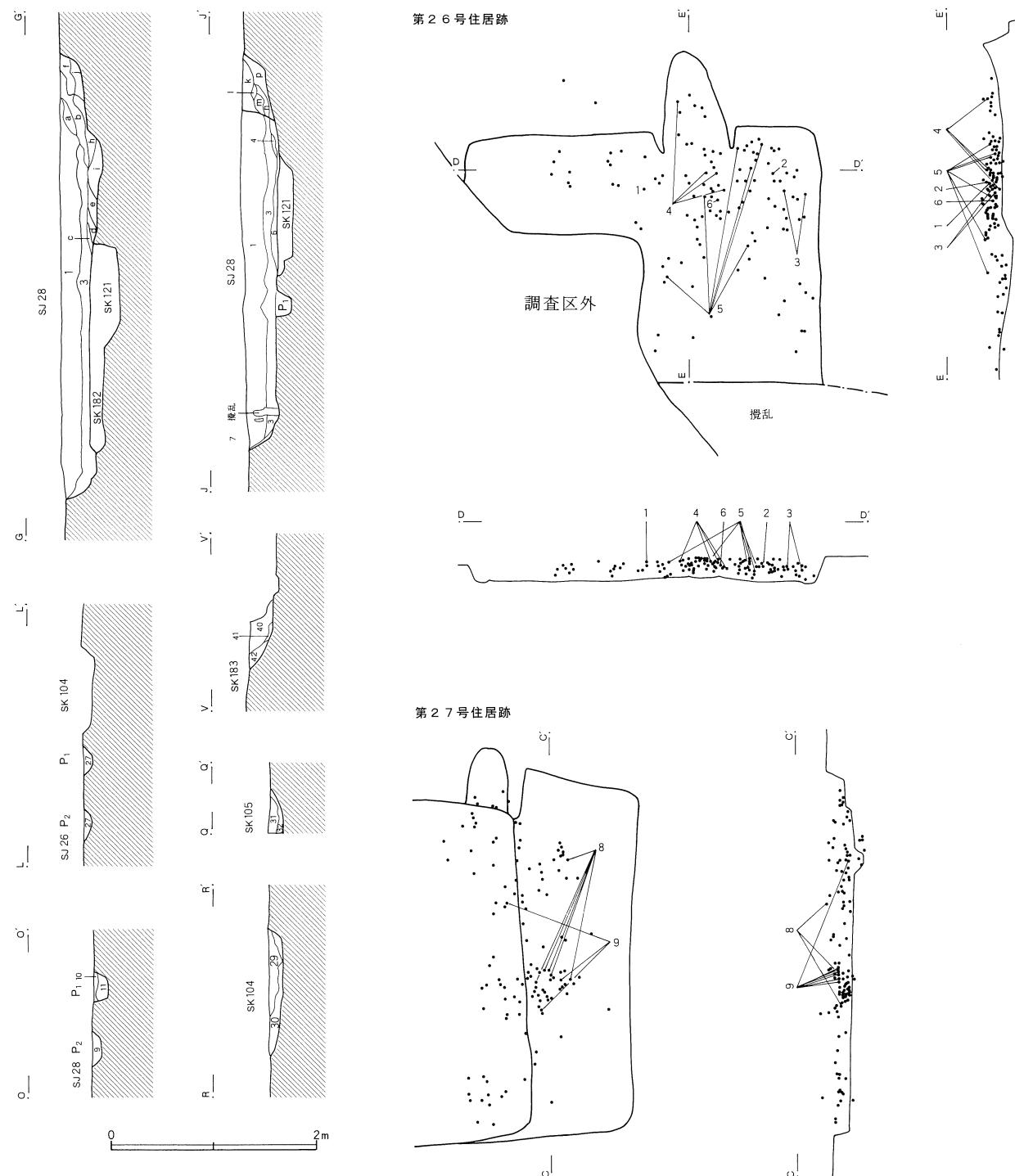
第24号住居跡出土遺物観察表(第38図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(9.6)	3.1		BW	B	にぶい橙色	30	カマド 内面風化が著しい

第40図 第26・27・28・29号住居跡・第104・105・121・181・182・183号土壤



第41図 第26・27号住居跡遺物出土状況



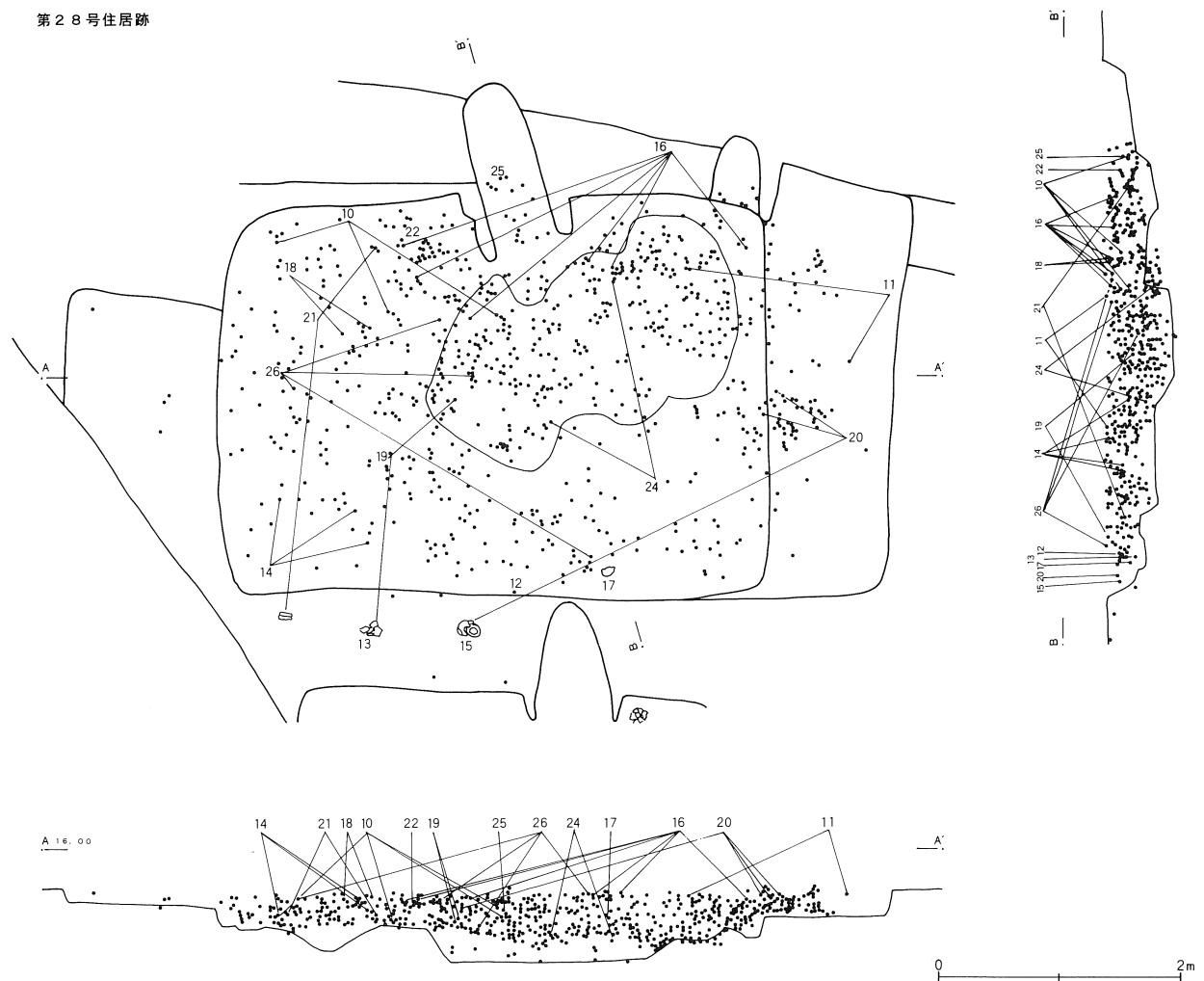
第28号住居跡

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物少量 |
| 2 黒褐色土 | 炭化物層、黄褐色土粒・焼土粒少量、住居跡西側に堆積 |
| 3 暗赤-?褐色土 | 黄褐色土粒多量、焼土粒・?マック(15~20 mm)少量 |
| 4 黒褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒・?マック少量 |
| 5 暗赤-?褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 6 暗赤-?褐色土 | 黄褐色土粒・?マック(5~10 mm)・炭化物粒・焼土粒少量 |
| 7 暗灰黄褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 8 黒褐色土 | 焼土粒少量 |
| 9 暗赤-?褐色土 | 黄褐色土粒・?マック(5~10 mm)多量、焼土?マック少量 |
| 10 黒褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒少量、炭化物多量 |
| 11 オリ-?褐色土 | 黄褐色土粒・?マック多量 |

第28号住居跡マド

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| a 黒褐色土 | 焼土粒・炭化物粒少量 |
| b 黒褐色土 | 焼土層・炭化物粒少量 |
| c オリ-?褐色土 | 黄褐色土粒多量、青灰色粘土粒・焼土粒少量 |
| d 暗赤-?褐色土 | 黄褐色土粒少量・焼土粒・青灰色粘土 |
| e 暗灰黄色土 | ?マック(10~20 mm)多量 |
| f 黒褐色土 | 黄褐色土粒多量、青灰色粘土粒・焼土粒少量 |
| g 暗赤-?褐色土 | 焼土粒多量 |
| h 黒褐色土 | 黄褐色土?マック(10~20 mm)・焼土?マック(10~20 mm)少量 |
| i 暗赤-?褐色土 | 焼土粒・灰色粘土粒・黄褐色土粒少量 |
| j オリ-?褐色土 | 焼土粒・?マック(5~20 mm)・青灰色粘土粒多量 |

第42図 第28号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡

12 黒褐色土	焼土粒少量
13 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒・ γ ロック(10~15 mm)、炭化物 γ ロック(10 mm)少量
14 黒褐色土	焼土粒・炭化物粒少量、黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)多量
15 暗れ γ 褐色土	黄褐色土粒・ γ ロック(5~10 mm)少量
16 オリ γ 褐色土	黄褐色土粒・炭化物粒少量、焼土粒・ γ ロック(10~15 mm)多量
17 オリ γ 褐色土	焼土粒多量
18 オリ γ 褐色土	黄褐色土粒少量

第27号住居跡カマド

k 黒褐色土	焼土粒少量
l 暗れ γ 褐色土	焼土 γ ロック(10~15 mm)少量
m 暗れ γ 褐色土	焼土粒少量、黄褐色土粒多量
n オリ γ 褐色土	黄褐色土粒少量
o 暗れ γ 褐色土	焼土粒少量、焼土 γ ロック(5~10 mm)多量
p オリ γ 褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量

第29号住居跡

28 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
---------	-------------

第26号住居跡

19 暗れ γ 褐色土	黄褐色土粒多量
20 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒・ γ ロック(5~10 mm)・黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)少量
21 黒褐色土	黄褐色土粒少量
22 黒褐色土	焼土 γ ロック(10~20 mm)多量
23 黒褐色土	炭化物層・壁際は炭化物微量、焼土粒多量、黄褐色土粒少量
24 暗れ γ 褐色土	黄褐色土粒多量、黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)・焼土粒少量
25 黒褐色土	黄褐色土粒・炭化物少量、焼土 γ ロック(5~15 mm)多量
26 暗れ γ 褐色土	黄褐色土粒多量
27 暗れ γ 褐色土	黄褐色土粒・ γ ロック(5~15 mm)多量、焼土粒・炭化物粒

第26号住居跡カマド

q 黒褐色土	焼土粒少量
r 黒褐色土	焼土粒多量、焼土 γ ロック(10~20 mm)少量
s 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒・焼土 γ ロック(5~10 mm)少量
t 黒褐色土	焼土 γ ロック(5~15 mm)多量
u オリ γ 褐色土	焼土粒少量
v 暗れ γ 褐色土	黄灰色 γ ロック(15~20 mm)多量
w 黒褐色土	焼土層
x 暗灰黄色土	焼土粒多量、黄灰色粘土粒少量
y 黄褐色土	かぶ袖、黄褐色土粒・ γ ロック(5~10 mm)少量

カマドの袖部は、基盤部のみ残存している。燃焼部から煙道部突端に向けて、底面が緩やかに傾斜しながら立ち上がり、燃焼部の掘り込みはみられない。柱穴は4本で、いずれも浅い。柱痕や柱掘形への覆土の充填状況は観察できない。貯蔵穴、壁溝は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏片が出土している。

第23・24号住居跡（第38図）

I-12・13、J-12・13グリッドに位置し、第23号住居跡と第24号住居跡が重複する。2軒の住居跡の新旧関係は、第24号住居跡が新しく、第23号住居跡が古い。第23号住居跡は北西コーナー付近が第22号住居跡南東コーナーと重複し、第24号住居跡は南壁中央付近に重複する第25号住居跡カマド煙道部に切られている。

第24号住居跡の平面形態は長方形で、カマドは短辺の北壁中央付近に設置されている。北壁は第23号住居跡の北壁と一致する。主軸長4.20m、東西幅3.35m、深さ0.24m、主軸方位N-40.5°-Wを測る。土層断面から、埋没状況は自然堆積と判断される。カマドは燃焼部が若干窪みをもち、煙道部底面は緩やかに傾斜しながら突端に至る。a層は崩落したカマド天井部の残欠、d層は崩れたカマド袖部の残欠と思われる。ピットは6本検出されているが、いずれも柱穴ではない。貯蔵穴、壁溝は設置されていない。遺物は図示した土師器坏と甕片が出土している。

第23号住居跡の平面形態は長方形で、カマドは長辺の北壁中央付近に設置されている。主軸長2.95m、東西幅は北辺が5.26m、南辺が5.10m、深さは0.08mを測る。主軸の方向は、第24号住居跡と一致している。埋没状況は、黄褐色土を多量に含んだ人為的に埋め戻されたものと推定できる。カマドは燃焼部・煙道部が確認され、燃焼部は掘り窪められている。貯蔵穴は北東コーナー部に設置されている。短径0.68mの平面椿円形で、深さは0.12mを測る。柱穴、壁溝は付設されていない。

遺物は図示し得なかったが、土師器甕片が出土している。

第25号住居跡（第39図）

J-13グリッドに位置する。カマド煙道部の突端が第24号住居跡と重複し、新旧関係は新しい。

平面形態は方形で、北壁、南壁の中央付近が外方へ膨らんでいる。北西カマドで、主軸長5.00m、南北幅5.22m、主軸方位N-50°-Wを測る。

覆土の堆積状況を観察すると、覆土10・11層の上にカマド覆土が堆積していることから、貼り床が施された住居跡と判断される。また覆土の埋没は、土層がブロック状に堆積していることから、人為的に埋め戻された可能性もある。

カマドは西壁中央付近に設置され、断面が燃焼部から煙道部突端まで緩やかな弧を描いている。燃焼部の堆積土は覆土e～gで、本来の袖は住居跡の内側に張り出していたものと考えられる。

壁溝はほぼ全周し、幅0.32m、深さ0.29mほどで、しっかりととした掘り込みをもっている。北壁中央付近で一旦途切れしており、付随する施設は確認されていないが、この箇所に出入り口部が設けられていた可能性がある。柱穴、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得なかったが、土師器甕・坏片、須恵器坏片が出土している。

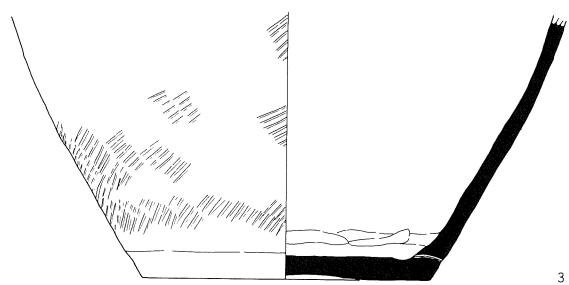
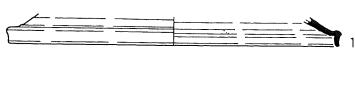
第26・27・28・29号住居跡（第40・41・42図）

E-7・F-7グリッドに位置し、第26号住居跡が第29号住居跡と、第27号住居跡が第28号住居跡と、第28号住居跡が第27・29号住居跡と重複している4軒の住居跡である。

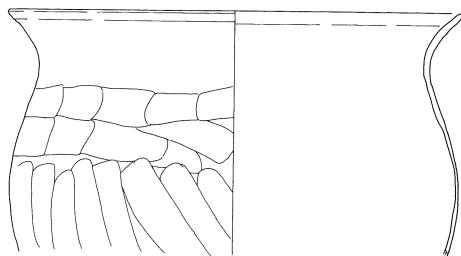
第26号住居跡は、第29号住居跡、第104・105号土壙と重複する。西壁から南壁中央付近までが調査区外にあり、南壁付近は攪乱されている。新旧関係は、重複する第29号住居跡、第104・105号土壙よりも新しい。平面形態が方形状の北東カマドの住居跡であり、東西幅3.45m、深さ0.22m、主軸方位N-29°-Eを測る。カマドは北壁中央やや東より付近に設置されている。黄灰色土で構築され、燃焼部に僅かな掘り込みがみら

第43図 第26・27・28号住居跡出土遺物

第26号住居跡



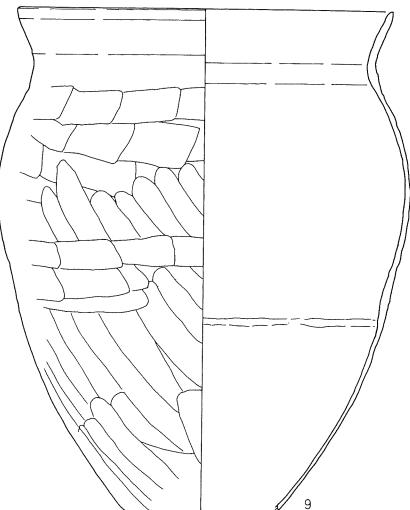
3



4



8

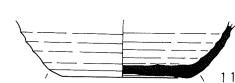


9

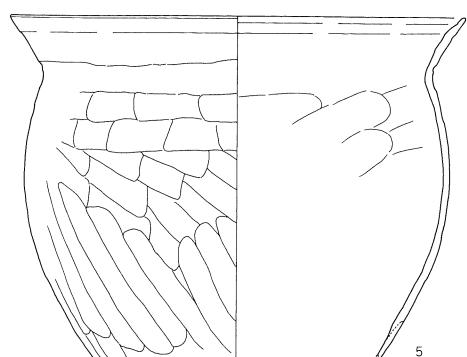
第27号住居跡



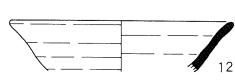
10



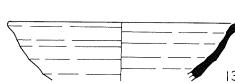
11



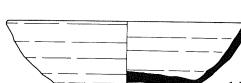
5



12



13



14



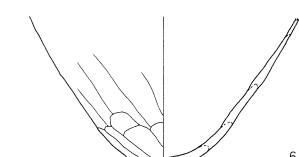
15



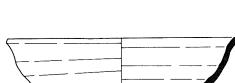
16



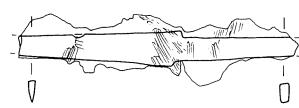
17



6



18

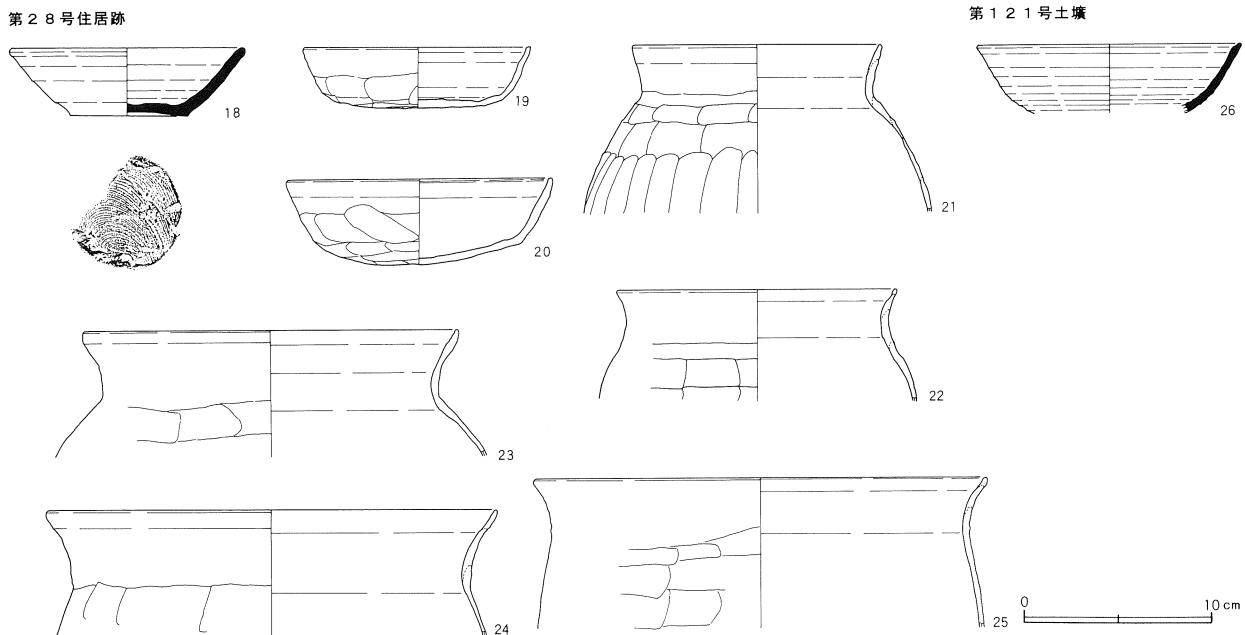


7

0 5cm

0 10cm

第44図 第28号住居跡出土遺物（2）・第121号土壌出土遺物



第104号土壌

- 29 暗れいづ褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒少量、焼土アーロック(10mm)多量
30 オリーブ褐色土 黄褐色土粒・焼土アーロック(10mm)少量、黄褐色土アーロック(5~10mm)多量

第105号土壌

- 31 オリーブ褐色土 黄褐色土粒・アーロック(5~10mm)多量、焼土粒・アーロック(10mm)、炭化物粒少量
32 オリーブ褐色土 黄褐色土粒・アーロック(5~10mm)少量

第121号土壌

- 33 暗れいづ褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量、黄褐色土アーロック(10~15mm)、炭化物多量
34 暗れいづ褐色土 烧土粒・炭化物粒・黄褐色土粒・アーロック(10~30mm)少量
35 暗れいづ褐色土 黄褐色土粒・炭化物・焼土アーロック(10mm)少量
36 黄褐色土 烧土粒・炭化物少量、黄褐色土アーロック(20~40mm)多量
37 黄褐色土 黄褐色土アーロック(10~20mm)少量

第181号土壌

- 38 暗れいづ褐色土 黄褐色土粒・アーロック(5~10mm)多量、焼土アーロック少量

第182号土壌

- 39 暗れいづ褐色土 黄褐色土粒・アーロック(5~10mm)多量、焼土アーロック少量

第183号土壌

- 40 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
41 黄褐色土 黄褐色土アーロック(10~20mm)少量
42 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量

れ、煙道部は緩やかに傾斜する。覆土には多量の焼土と炭化物が含まれる。壁溝は幅0.27m、深さ0.04mほどである。カマド西側から西壁北西コーナー付近までと、東壁に沿って確認されているが、調査区外や攪乱されている箇所については不明である。ピットは2本検出されているが、柱穴との判断はつかない。貯蔵穴はみられない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片が出土している。

第27号住居跡は、大半が第28号住居跡と重複し、第183号土壌、第20号溝跡とも切り合っている。新旧関係は、第28号住居跡よりも古く、第20号溝跡よりも新しい。第183号土壌との関係は不明である。平面形態は方形形で、カマドが北壁に設置されている北東カマドの

住居跡である。カマドの東側には0.05mほどのテラス状の段差がある。主軸長3.39m、深さ0.14mで、主軸方位はN-31°-Eを測る。カマドは東側の袖部と煙道部の一部が確認され、覆土に含まれる焼土の量も少ない。ピットは2本で、柱穴かどうかの判断はできない。貯蔵穴、壁溝は検出されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片が出土している。

第28号住居跡は、重複する第27・29号住居跡、第20号溝跡、第121・181・182・183号土壌よりも新しい。平面形態が長方形の北東カマドの住居跡で、主軸長3.22m、東西幅4.55m、深さ0.31m、主軸方位N-25°-Eを測る。カマドは北壁中央付近に設置され、中心

軸は住居跡の主軸と異なり、N—11.5°—Eを指す。燃焼部は床面から緩やかな傾斜をもつ程度に掘り込まれ、外傾しながら立ち上がって煙道部に至る。煙道部床面は外方へ緩やかな傾斜面を上がり、突端は外傾しながら立ち上がる。ピットは4本で、柱穴かどうかの判断はできない。壁溝は北東コーナー付近を除いて全周し、幅0.23m、深さ0.06mほどである。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片、黒色土器椀片が出土している。

第29号住居跡は、西半部が調査区外にあり、重複する第26・28号住居跡よりも古い。平面形態は方形で、カマド、柱穴、壁溝、貯蔵穴は検出されていない。平面規模は不明で、深さ0.16m、残存する東西壁の方位はN—28°—Eを測る。遺物は図示し得なかったが、土師器甕・坏片、須恵器蓋・坏片が出土している。

第30号住居跡（第45図）

I—8グリッドに位置し、重複する第21号溝跡よりも新しい。

平面形態が方形の北東カマドの住居跡で、主軸長2.75m、南北幅2.57m、深さ0.16m、主軸方位N—50°

—Eを測る。

カマドは東壁中央付近に設置されているが、燃焼部の掘り込みは認められず、また覆土には焼土や炭化物はほとんど含まれていない。柱穴、壁溝、貯蔵穴は検出されていない。出土遺物はない。

第33号住居跡（第46図）

K—18・L—18グリッドに位置する。南壁付近のみが検出され、大半が調査区外にある。

平面形態は方形で、東西長4.55m、深さ0.46m、主軸方位N—37°—Eを測る。埋没状況は自然堆積で、最下層直上の中央付近のみに、焼土が薄く堆積している。

壁溝は南西コーナーから南壁に沿って巡っているが、南東コーナーで途切れている。幅0.18m、深さ0.04mほどである。カマド、柱穴、貯蔵穴は検出されていない。出土遺物はない。

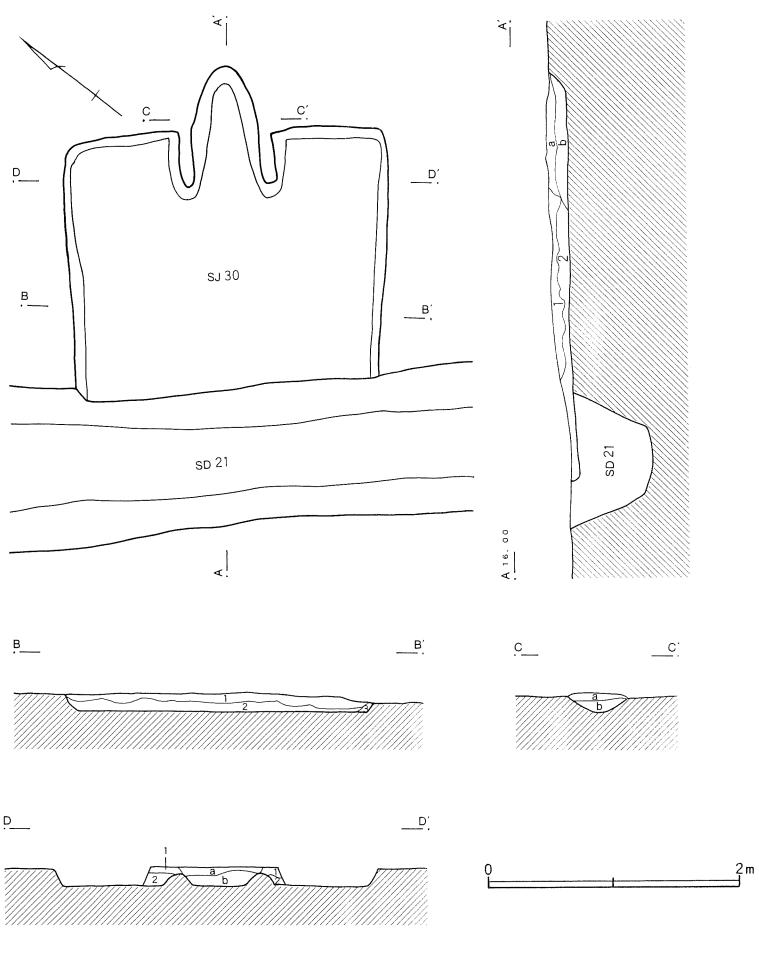
第31号住居跡（第47図）

L—17グリッドに位置し、重複する遺構はない。平面形態が長方形で、カマドが北壁中央やや西より付近に設置されている北東カマドの住居跡である。カマドの両脇に、北壁に沿ったテラス状の段差をもつ。主軸

第26・27・28号住居跡・第121号土壤出土遺物観察表（第43・44図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.5)	(17.4)	W針	A	灰色	5	SJ26 No.90 南北企産
2	蓋		(1.5)	(17.4)	W針	A	灰色	5	SJ26 No.73 南北企産
3	甕		(14.0)	(15.3)	BW針	A	灰色	20	SJ26 No.74・75・76・77 南北企産
4	甕	(23.8)	(12.8)		B RW	B	橙色	10	SJ26 No.46・89・127・132 カマド
5	甕	(23.8)	(18.1)		B	B	にぶい赤褐色	15	SJ26 No.6・62・63・96・110・112
6	甕		(7.6)		BW	B	にぶい赤褐色	5	SJ26 No.60
7	刀子			3.6					(7.4) × 0.9cm 10.85g
8	坏	12.4	3.5		W	B	明赤褐色	85	SJ27 No.39・41・71・76・77・78・82
9	甕	(19.6)	(26.6)		B RW	B	にぶい橙色	20	SJ27 No.4・81・89 カマド
10	坏	(12.0)	3.1	(6.3)	W針	A	灰白色	20	SJ28 No.150・198・261・326 内面底部に赤色付着物
11	坏		(3.0)	6.8	W針	A	灰色	20	SJ28 SJ27-14 SJ28-305 南北企産
12	坏	(11.9)	(2.7)		BW針	B	灰白色	10	SJ28 No.358 南北企産
13	坏	(12.1)	(3.1)		W針	A	灰色	20	SJ28 No.333 南北企産
14	坏	(12.8)	3.6	(6.0)	BW針	B	灰白色	25	SJ28 No.89・182・352 南北企産
15	坏	12.3	3.4	6.2	B RW針	A	灰白色	100	SJ28 No.330 南北企産
16	坏	11.8	3.6	5.1	BW	A	灰白色	60	SJ28 No.16・17・56・250・252・443 産地不明
17	坏	12.2	3.6	6.1	W針	A	灰色	80	SJ28 No.459 南北企産
18	坏	(12.4)	3.6	6.3	BW針	A	灰白色	50	SJ28 No.27・31 南北企産
19	坏	12.0	3.2		W	B	橙色	70	SJ28 No.332・469
20	坏	14.0	4.5		B RW	B	橙色	80	SJ28 SJ27-7・8・9 SJ28-331
21	小型甕	(13.0)	(8.8)		B RW	B	橙色	10	SJ28 No.334・519 カマド
22	小型甕	(14.8)	(5.9)		B RW	B	橙色	5	SJ28 No.522 カマド
23	甕	(19.8)	(6.6)		W	B	明赤褐色	5	SJ28 SK181
24	甕	(23.8)	(6.6)		B RW	B	明赤褐色	5	SJ28 No.398 カマド
25	甕	(23.8)	(7.9)		W	B	明赤褐色	5	SJ28 No.21・41・101・549
26	坏	(13.9)	(3.6)		BW針	A	灰色	10	SK121 No.44 南北企産

第45図 第30号住居跡



第30号住居跡

- 1 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒多量、黄褐色土ブロック(10 mm)少量
- 2 オリーブ褐色土 黄褐色土粒多量
- 3 オリーブ褐色土 黄褐色土粒

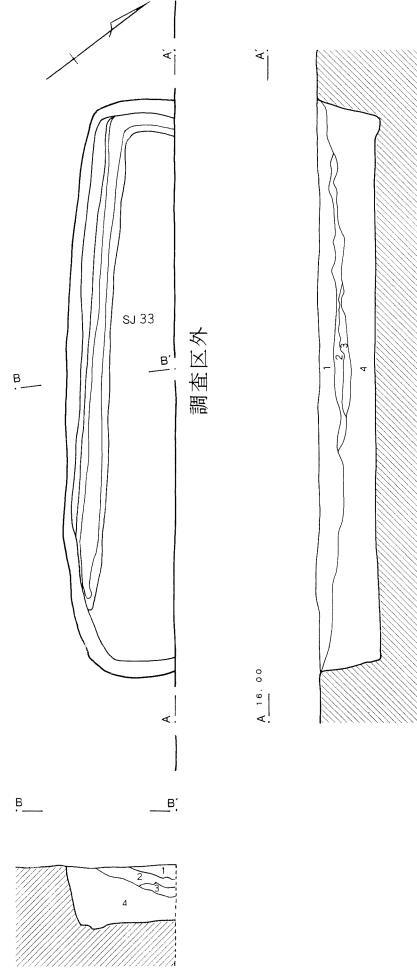
第30号住居跡カマド

- a オリーブ黑色土 黄褐色土粒
- b 暗オリーブ色土 炭化物粒・焼土粒若干

長3.55m、東西幅4.17m、深さ0.31m、主軸方位N
-27°-Eを測る。

カマドは燃焼部が掘り鉢状に掘り込まれ、緩やかな傾斜をもって煙道部につながっている。煙道部は中央付近に段をもち、突端で外傾しながら立ち上がる。壁溝は西壁の北東コーナー付近から北壁北東コーナー付近まで設置され、北壁ではテラス状の段下に巡っている。幅0.18m、深さ0.08mほどである。ピットは多く掘り込まれているが、確実に第31号住居跡に伴うものと判断することができず、柱穴も不明である。貯蔵穴は検出されていない。

第46図 第33号住居跡



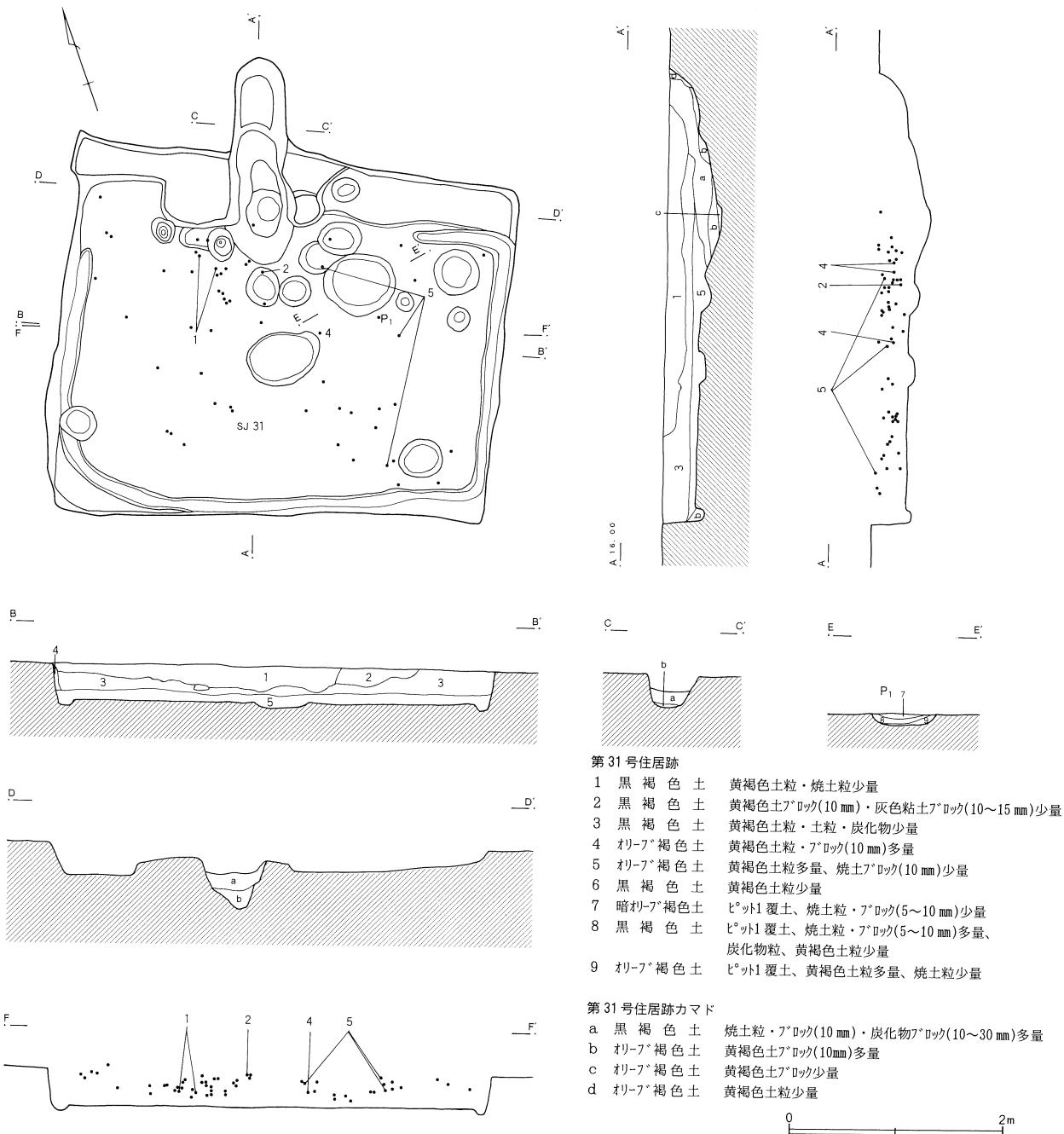
第33号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
- 2 黒褐色土 焼土粒・ブロック(5~10 mm)・炭化物ブロック(10 mm)少量
- 3 黒褐色土 焼土粒・ブロック(5~10 mm)多量
- 4 黒褐色土 焼土粒少量

ピット1とした遺構は覆土に鉄滓を含み、床面も一部焼土化している。構造は不明であるが、住居内の小鍛冶跡の可能性がある。

テラス状の段差は、壁溝の巡っている位置と土層断面B-B'5層の堆積状況から、住居跡の拡張に伴うものとも考えられる。拡張した住居跡の床面がテラス状部にあたり、5層は拡張前の住居跡部分に貼り床として埋め戻したという解釈ができる。カマド煙道部の段差も、住居跡の拡張に伴って、煙道を延長した結果として捉えることができる。しかし、土層断面A-A'では5層がカマド覆土の上面に堆積し、住居跡の拡張を

第47図 第31号住居跡



否定している。

遺物は図示したほかに、土師器甕・环片、須恵器甕・环片が出土している。

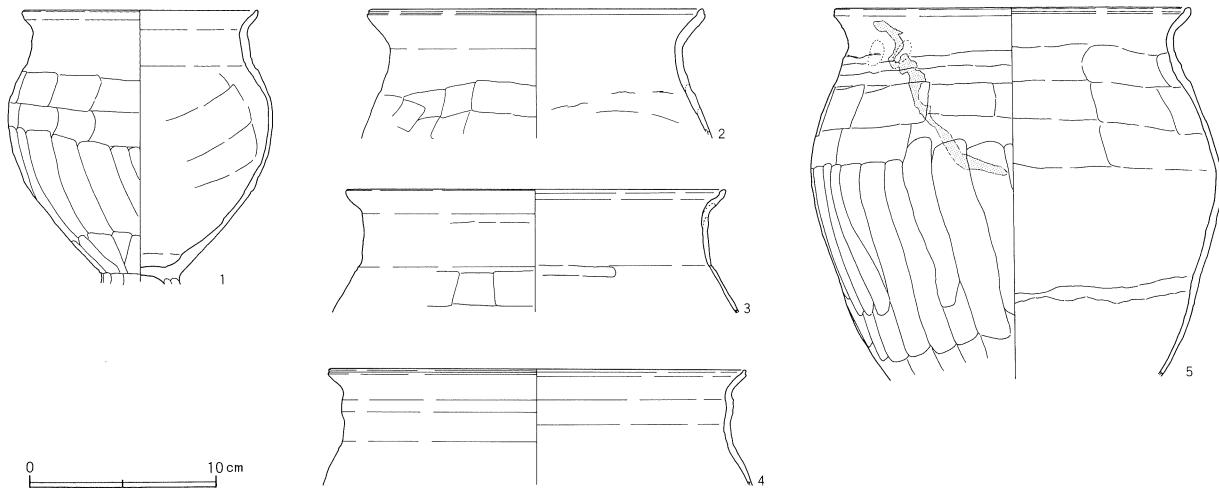
第32号住居跡（第49図）

P-20・21グリッドに位置し、重複する遺構はない。北壁を拡張した住居跡で、北壁に沿って幅0.16~0.22m、比高差0.06~0.11mのテラス状の段差が残っている。

平面形態は長方形で、拡張後に造り替えられた北壁中央のカマドAと、住居跡構築時の東壁中央やや南よりのカマドBが設置されている。拡張後の住居跡の規模は、主軸長3.27m、東西幅4.32m、主軸方位N-35°-Eを測る。深さは住居跡床面が0.21m、テラス状の段差部では0.08mほどである。構築段階の住居跡の規模は、主軸長4.32m、南北幅2.96m、主軸方位はN-128°-Eを測る。

カマドAは砂粒を多く含む暗灰黄色土で構築されているが、袖部を平面的に検出できなかった。燃焼部は比較的深く掘り込まれ、煙道部突端は外傾しながら立ち上がる。カマドBは住居跡拡張時に破壊され、煙道部や燃焼部の掘り込みは人為的に埋め戻されている。燃焼部から煙道部にかけて、しっかりとした掘り込み

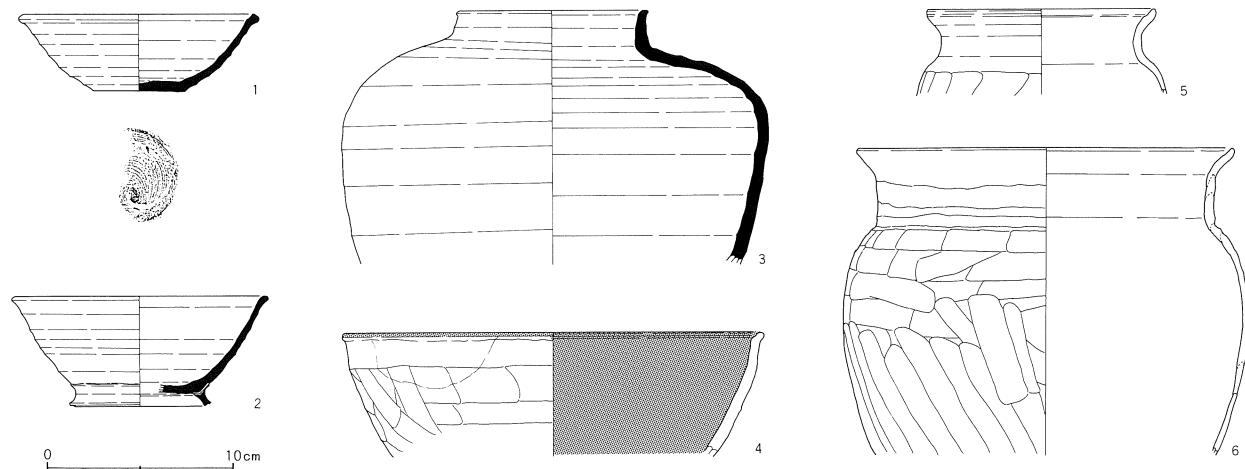
第48図 第31号住居跡出土遺物



第31号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	台付甕	(12.4)	(14.4)		RW	B	明赤褐色	30	No.36・38 カマド一括
2	甕	(17.6)	(6.8)		RW	B	橙色	5	No.25 カマド
3	甕	(20.0)	(6.4)		BW	B	赤褐色	5	L-11G
4	甕	(22.0)	(6.2)		RW	B	にぶい橙色	5	No.5 カマド
5	甕	18.7	(19.5)		RW	B	明赤褐色	30	No.6・14・58 カマド

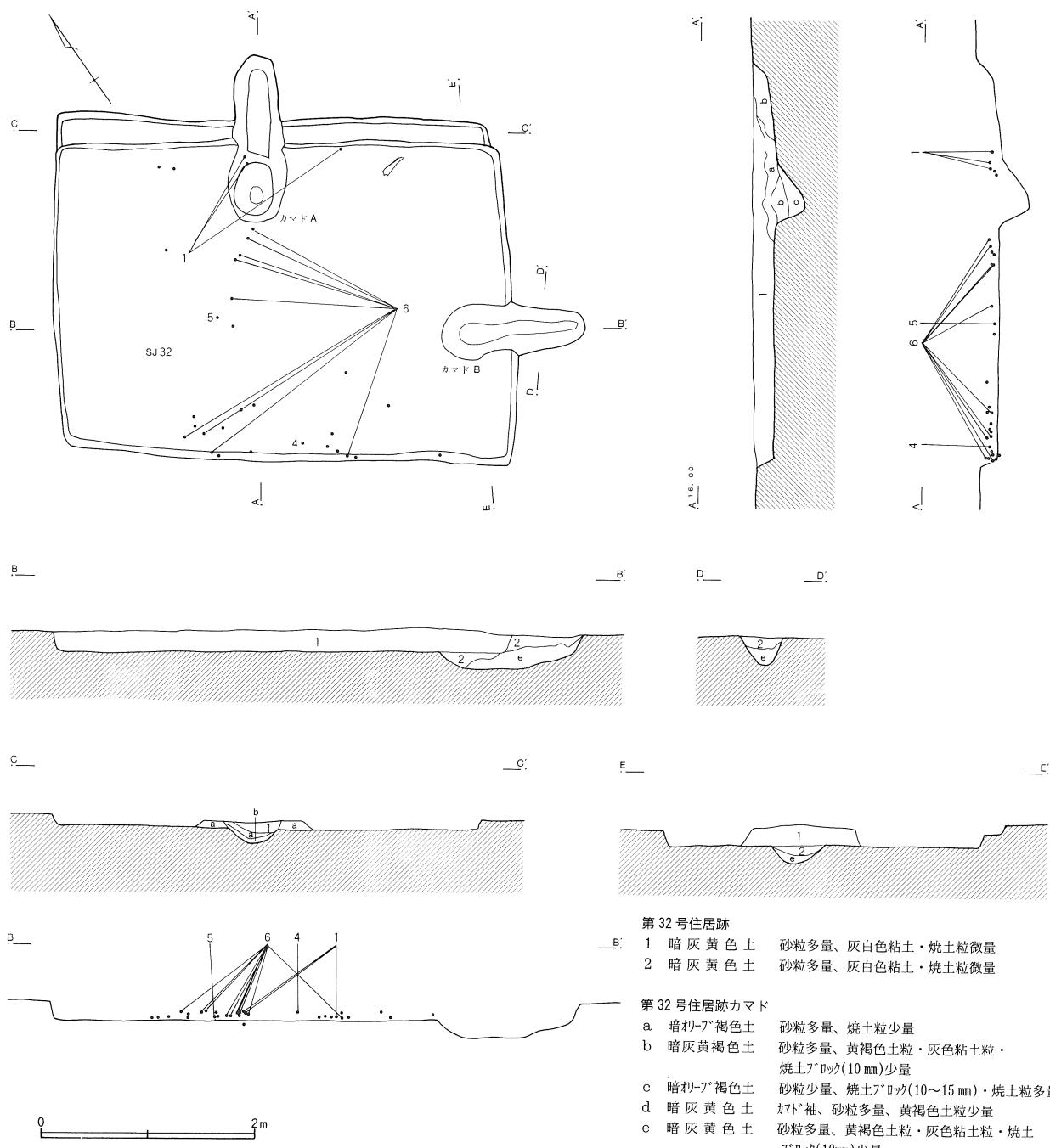
第49図 第32号住居出土遺物



第32号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(12.4)	4.1	(4.9)	B RW針	B	灰色	50	No.1・11・12 南北企産
2	高台付椀	(13.4)	5.8	(7.6)	W片	A	灰色	20	カマド 末野産
3	短頸壺	9.9	(13.4)		W	A	灰色	40	SD22 自然釉付着
4	鉢	(22.2)	(6.6)		RW	B	にぶい橙色		No.23 黒色処理
5	小型甕	12.0	(4.5)		W	B	黒褐色	10	No.18
6	甕	19.8	(16.1)		BW	B	にぶい橙色	40	No.5・7・9・10・17・21・27・28・32・36

第50図 第32号住居跡



をもつ。柱穴、壁溝、貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・坏・皿片、黒色土器碗片が出土している。

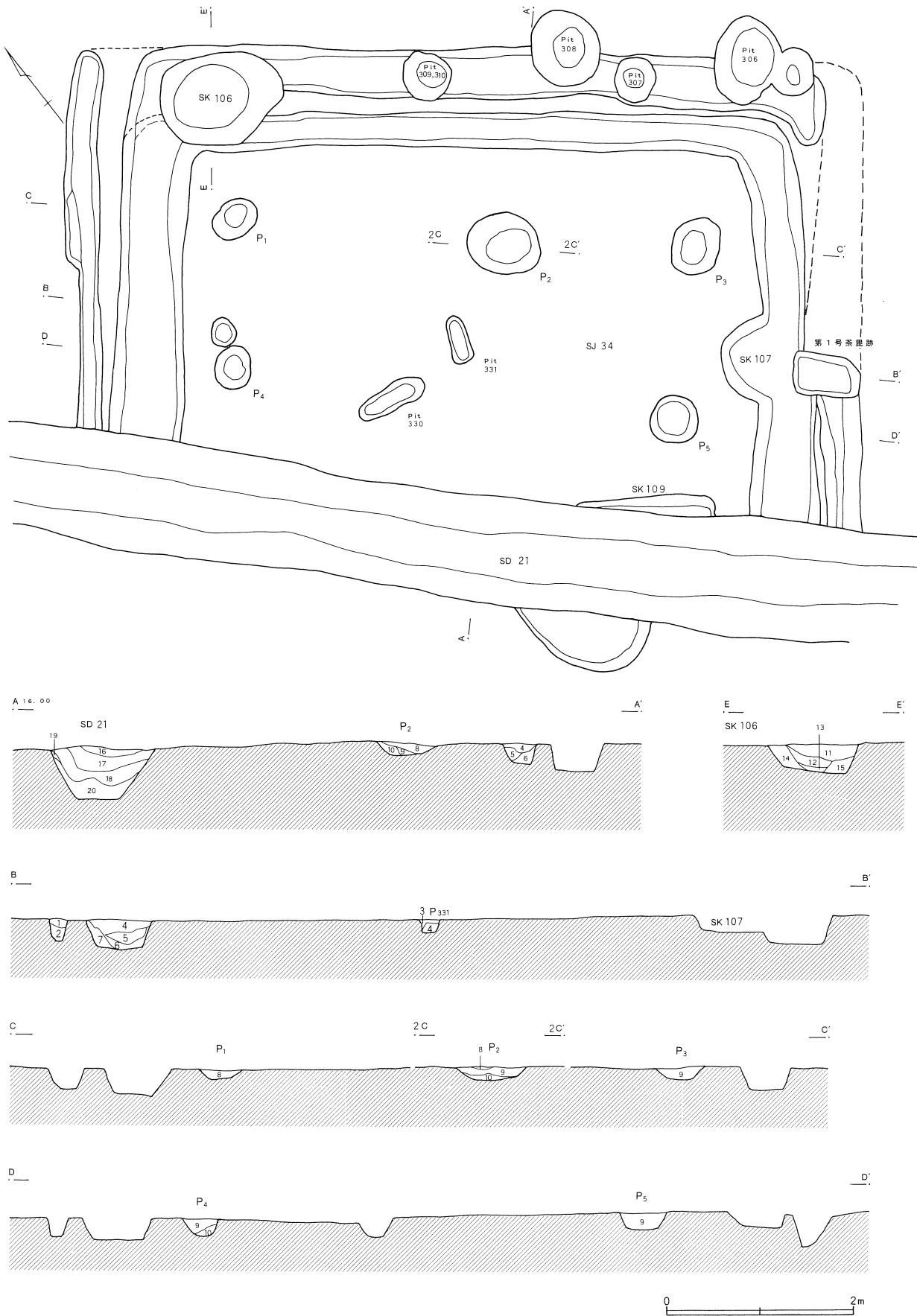
第34号住居跡（第51図）

J-9・10、K-9グリッドに位置する住居跡で、調査段階では、方形に巡る第33・34・35号溝跡とピット群と捉えられていた。整理段階において、方形に巡った範囲の規模が他の住居跡と近似すること、方形の方

向が他の住居跡と揃っていること、また遺跡内で住居跡の方向が比較的揃っていることから判断し、第34号住居跡と報告する。

確認された溝跡は住居跡の掘形部分で、遺構の状況から2度の拡張が行われたものと考えられる。南壁付近が第21号溝跡に切られ、ほかに茶毬跡、第106・107号土壙、ピット306・307・308・309・310・330・331と重複している。カマドは検出されていない。

第51図 第34号住居跡・第106・107・109号土壤・第1号茶毬跡



構築当初の規模は東西7.40mを測り、西壁の方向はN-40°-Eを指す。次に北壁を0.67mほど拡張し、次いで東壁・西壁を建て増しし、最終的には東西8.54mの規模となっている。

柱穴は一边に3本ずつで、全体に8本の柱穴が存在していたものと推定される。柱掘形は浅く、柱痕の存在や掘形への土の充填状況は把握できなかった。

遺物は図示し得なかつたが、須恵器甕・坏片が出土している。

第1号茶毘跡（第51図・図版8）

J-9グリッドに位置し、重複する第34号住居跡よりも新しい。長方形の箱形土壙で、煙道状の突出部は付設されていない。長辺の方向は、遺跡の立地する自然堤防と平行して走る溝跡と揃い、東西辺が長い。規模は東西0.62m、南北0.44m、深さ0.32mを測る。

壁は直立し、北壁から東壁が火熱による焼土化が著しい。底面は平坦である。覆土の下層には、炭化物・焼土・焼骨が含まれている。出土遺物はない。

第34号住居跡

1 オリーブ黒色土	黄褐色土粒・ブロック(5mm)少量
2 オリーブ黒色土	焼土粒・黄褐色土ブロック(10mm)少量
3 灰色土	黄褐色土粒・ブロック(10mm)多量
4 オリーブ黒色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
5 オリーブ色土	黄褐色土粒多量
6 オリーブ黒色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック(10mm)少量
7 オリーブ黒色土	黄褐色土粒・ブロック(10mm)多量
8 オリーブ黒色土	焼土粒少量、黄褐色土粒多量
9 オリーブ黒色土	焼土粒・黄褐色土ブロック(8mm)少量、黄褐色土粒多量
10 黒褐色土	焼土粒少量、黄褐色土粒多量

第106号土壙

11 オリーブ黒色土	黄褐色土粒・ブロック(6mm)少量
12 オリーブ黒色土	焼土粒・黄褐色土ブロック(10mm)少量
13 オリーブ黒色土	黄褐色土粒多量
14 オリーブ黒色土	焼土粒少量、黄褐色土粒多量
15 灰色土	黄褐色土粒・ブロック(10mm)多量

第21号溝跡

16 オリーブ褐色土	黄褐色土粒少量
17 暗オリーブ褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
18 オリーブ黒色土	黄褐色土粒多量
19 オリーブ黒色土	黄褐色土粒多量
20 オリーブ黒色土	焼土粒若干、黄褐色土粒多量、黄褐色土ブロック(15mm)少量

3. 土壙

発見された土壙は187基あり、調査区全体に位置する。数基を単位としてまとまる傾向が窺われるが、密集してはいない。殆どの土壙は用途が不明で、出土遺物も土師器・須恵器の小破片のみで、時期の特定はおろか、伴出遺物かどうかの判断もし難い。

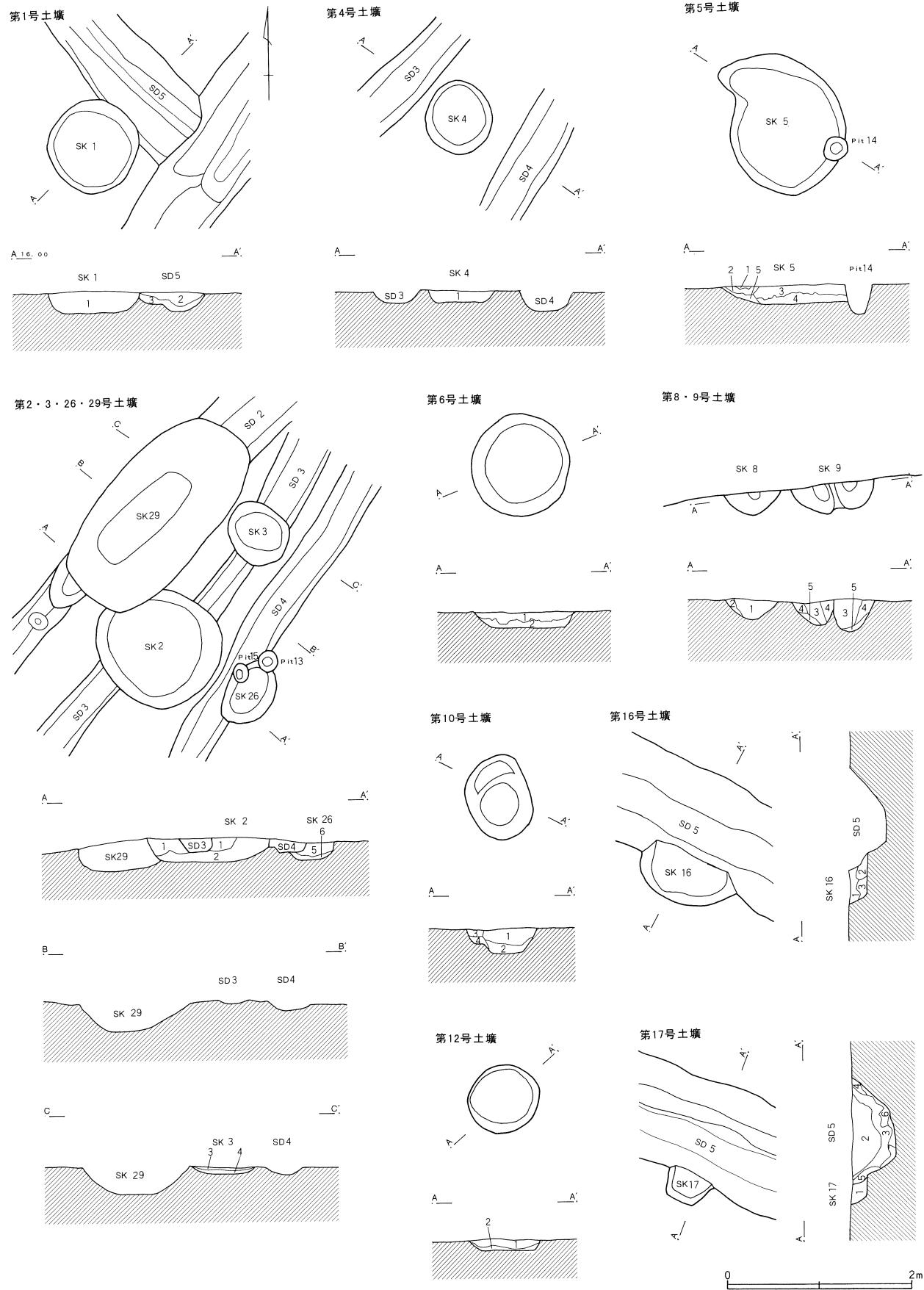
用途が想定されるものとして第9・43・71号土壙が柱掘形とも考えられるが、周辺には建物跡となる組み合わさる柱穴は検出されていない。また第53・138号土

壙はきわめて深く、井戸跡の可能性も考えられるが、検出されている井戸跡と比較すると平面規模は小さい。埋没した覆土中に、第24号土壙では多量の焼土、第54号土壙では多量の黄褐色土と焼土ブロック、第95号土壙では上層に焼土と炭化物が含まれていた。遺物は、第86号土壙から鉄製刀子、第38号土壙から土師器甕・須恵器坏・羽釜・灰釉高台付碗などが出土している。

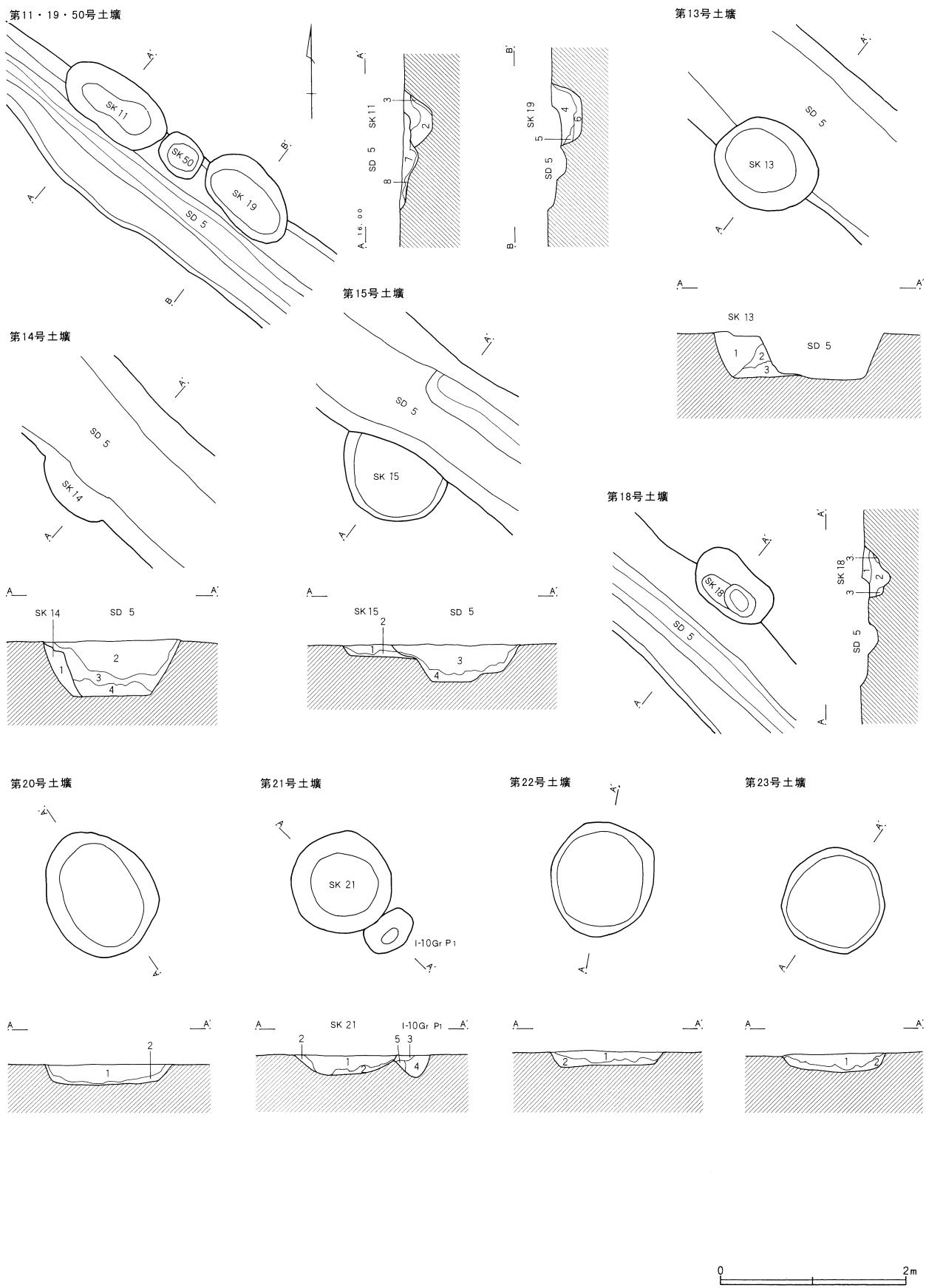
土壙

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複 遺構	出土 遺物・その他の
25	C-7・D-7	円 形	0.64	0.58	0.20	SJ1(新)	第16図 須恵器坏片
34	D-7	円 形	0.92		0.28	SJ1・SE1・SD14(新)・SK35	第16図 土師器甕片
35	D-7	円 形	0.62		0.26	SE1・9(新)・SJ1・SK34・SD1	第16図
36	C-7	楕円 形	0.42	0.32	0.16	SJ1・SD14(新)	第16図
42	E-7	隅丸長方形	1.52	1.14	0.14	SJ2	第17図
7	E-7・F-7	隅丸方形	1.28	1.21	0.18	SJ3(旧)	第18図 土師器甕・坏片・須恵器甕・蓋・坏片
85	F-7	楕円 形	1.24	0.97		SJ4・5・6 SK100	第20図 土師器甕片・須恵器甕・坏片
100	F-7	楕円 形		1.52	0.10	SJ4・5・6 SK85	第20図 土師器甕片
124	G-8	楕円 形	0.54		0.09	SJ10	第22図
125	F-8・G-8	楕円 形	0.60	0.51	0.13	SJ10	第22図
86	G-8・9	楕円 形	1.74	1.37	0.19	SJ11・12・21(新)	第25図 土師器甕・坏片・須恵器坏片
98	G-8	楕円 形	0.92	0.67	0.05	SJ11・12・21	第25図

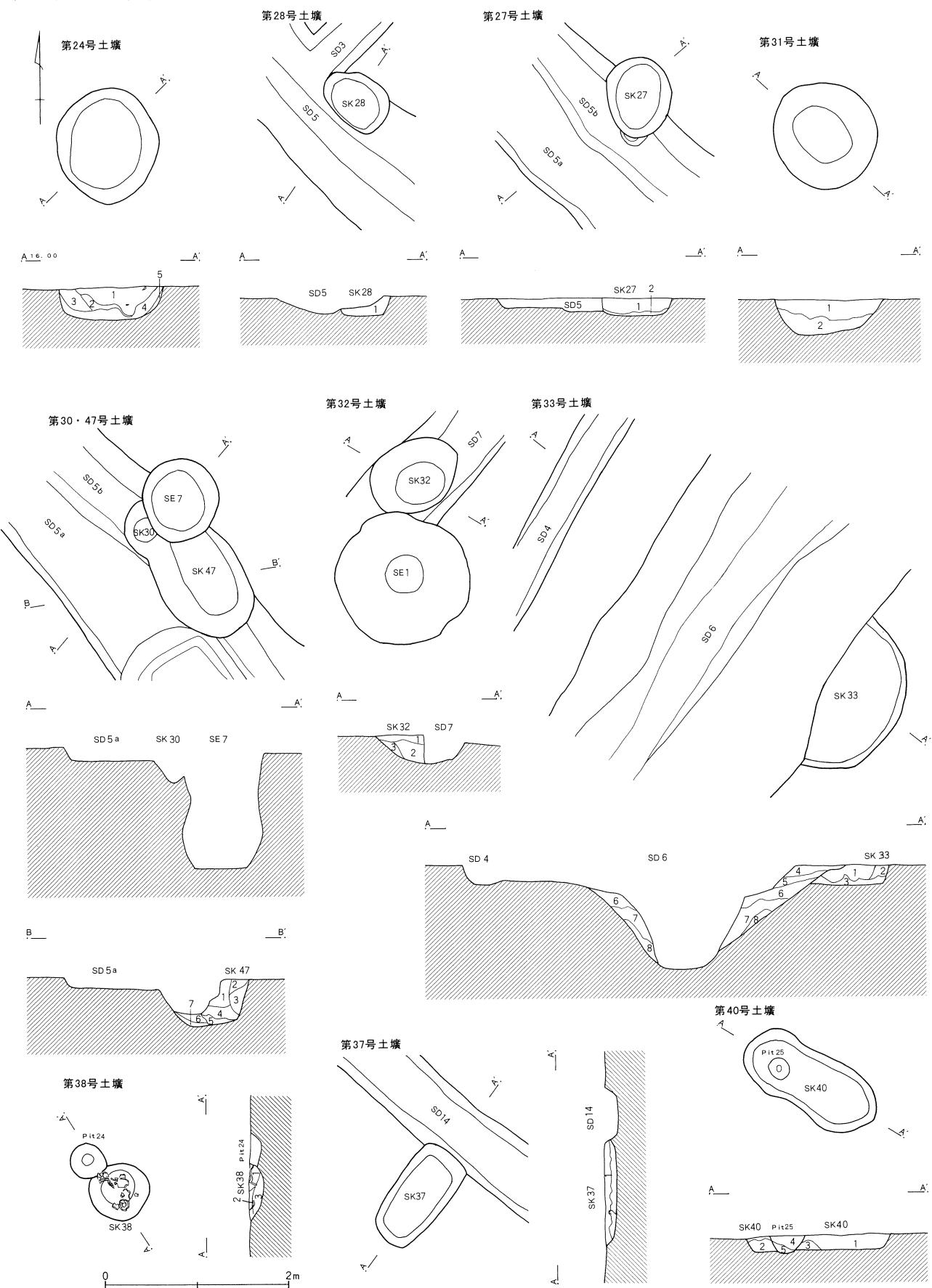
第52図 土壌 (I)



第53図 土壌 (2)



第54図 土壌 (3)



土壤(1)

第1号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック
(5mm)多量

第4号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第5号土壤

1 暗れ- γ 褐色土 焼土粒多量
2 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
3 黒褐色土 烧土粒少量
4 黒褐色土 黄褐色土粒多量
5 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第2号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック少量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第3号土壤

3 黒褐色土 烧土粒少量
4 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

土壤(2)

第11号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック
(5mm)多量

3 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量、黄褐色
土 γ ロック(5~10mm)多量

第19号土壤

4 黄灰色土 黄褐色土粒少量
5 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土 γ ロック(5mm)少量
6 暗灰黄色土 黄褐色土粒多量

第5号溝跡

7 黒褐色土 黄褐色土粒少量
8 暗灰黄色土 黄褐色土粒・黄褐色土
 γ ロック(5~10mm)多量
 γ ロック(5~10mm)少量

第13号土壤

1 黄褐色土 黄褐色土粒微量
2 黄褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック
(5mm)多量
3 黄褐色土 青灰色粘土少量

土壤(3)

第24号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量、焼土粒・ γ ロック(10~30mm)多量
2 黒褐色土 焼土層、焼土 γ ロック(5~
10mm)多量
3 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
4 黒褐色土 黄褐色土粒少量、焼土粒・ γ ロック(10mm)多量
5 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第28号土壤

1 黑褐色土 黄褐色土粒少量、焼土粒
多量

第27号土壤

1 黑色土 黄褐色土粒多量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒多量

第31号土壤

1 黑褐色土 黄褐色土粒微量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒・灰色粒微量

第26号土壤

5 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック少量
6 黄褐色土 黄褐色土 γ ロック(10~15mm)少量

第6号土壤

1 黒褐色土 烧土粒少量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第8号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土少量
2 黒褐色土 烧土粒・ γ ロック(5~10mm)少量

第9号土壤

3 黒褐色土 黄褐色土粒少量
4 黒褐色土 烧土粒・ γ ロック(5~10mm)少量
5 黄褐色土 黄褐色土 γ ロック(10~15mm)少量
6 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック少量
7 黒褐色土 黄褐色土粒少量
8 黑灰色土 黄褐色土 γ ロック(10~15mm)少量

第10号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒少量
3 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
4 黑灰色土 黄褐色土 γ ロック(10~15mm)少量

第14号土壤

1 黄褐色土 黄褐色土粒・灰白色
粘土粒少量

第5号溝跡

2 黒褐色土 黄褐色土粒少量
3 黒褐色土 黄褐色土粒多量
4 黑灰色土 黄褐色土粒・ γ ロック
(5~10mm)多量

第15号土壤

1 黒褐色土 烧土粒少量
2 黑褐色土 黄褐色土粒多量

第5号溝跡

3 黑灰色土 黄褐色土粒少量
4 暗灰黄色土 黄褐色土粒・黄褐色土
 γ ロック(5~10mm)多量
 γ ロック(5~10mm)少量

第18号土壤

1 黄灰色土 黄褐色土粒少量
2 暗灰黄色土 黄褐色土粒多量
3 オリ- γ 褐色土 黄褐色土 γ ロック(5mm)少量

第47号土壤

1 黑褐色土 黄褐色土粒少量
2 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量
3 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
4 黑褐色土 黄褐色土粒少量
5 黄褐色土 黄褐色土 γ ロック(5~10mm)少量
6 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土 γ ロック(5~10mm)少量
7 黑褐色土 黄褐色土粒少量

第32号土壤

1 黑褐色土 烧土粒・黄褐色土粒微量
2 黑褐色土 黄褐色土粒・黄灰色粘土粒少量
3 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第33号土壤

1 オリ- γ 黑色土 黄褐色土粒少量
2 オリ- γ 黑色土 黄褐色土粒多量
3 黄灰色土 黄褐色土粒・砂粒少量

第6号溝跡

4 黄灰色土 黄褐色土粒・白色粘土粒・砂粒少量
5 灰オリ- γ 色土 砂粒少量
6 灰色土 砂粒少量
7 灰色土 砂粒・灰白色粘土粒少量
8 黑褐色土 黄褐色土粒少量

第16号土壤

1 土層注記無し
2 土層注記無し
3 土層注記無し

第12号土壤

1 黑褐色土 黄褐色土粒少量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

第17号土壤

1 黄褐色土 砂粒、黄褐色土粒少量

第5号溝跡

2 黑褐色土 黄褐色土粒少量
3 黑褐色土 黄褐色土粒多量
4 黑褐色土 黄褐色土 γ ロック
(10~15mm)多量
5 黄灰色土 黄褐色土粒少量
6 暗灰黄色土 黄褐色土 γ ロック(10
~15mm)砂粒少量
7 灰オリ- γ 色土 青灰色粒・黄褐色
土粒粘性あり

第20号土壤

1 黑褐色土 黄褐色土粒多量、砂粒・
黄褐色土 γ ロック
(5~20mm)・焼土 γ ロック
(5~10mm)少量
2 黄褐色土 黄褐色土 γ ロック(5~10mm)
多量

第21号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量
I-10Gr Pit 1
3 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量
4 黄灰色土 灰色粘土粒、砂粒
5 暗れ- γ 褐色土 灰色粘土粒、砂粒

第22号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第23号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第38号土壤

1 黑褐色土 灰色粘土粒・烧土粒
2 黑褐色土 烧土 γ ロック多量
3 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒・烧土粒少量

第37号土壤

1 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒多量
2 黑褐色土 黄褐色土粒多量

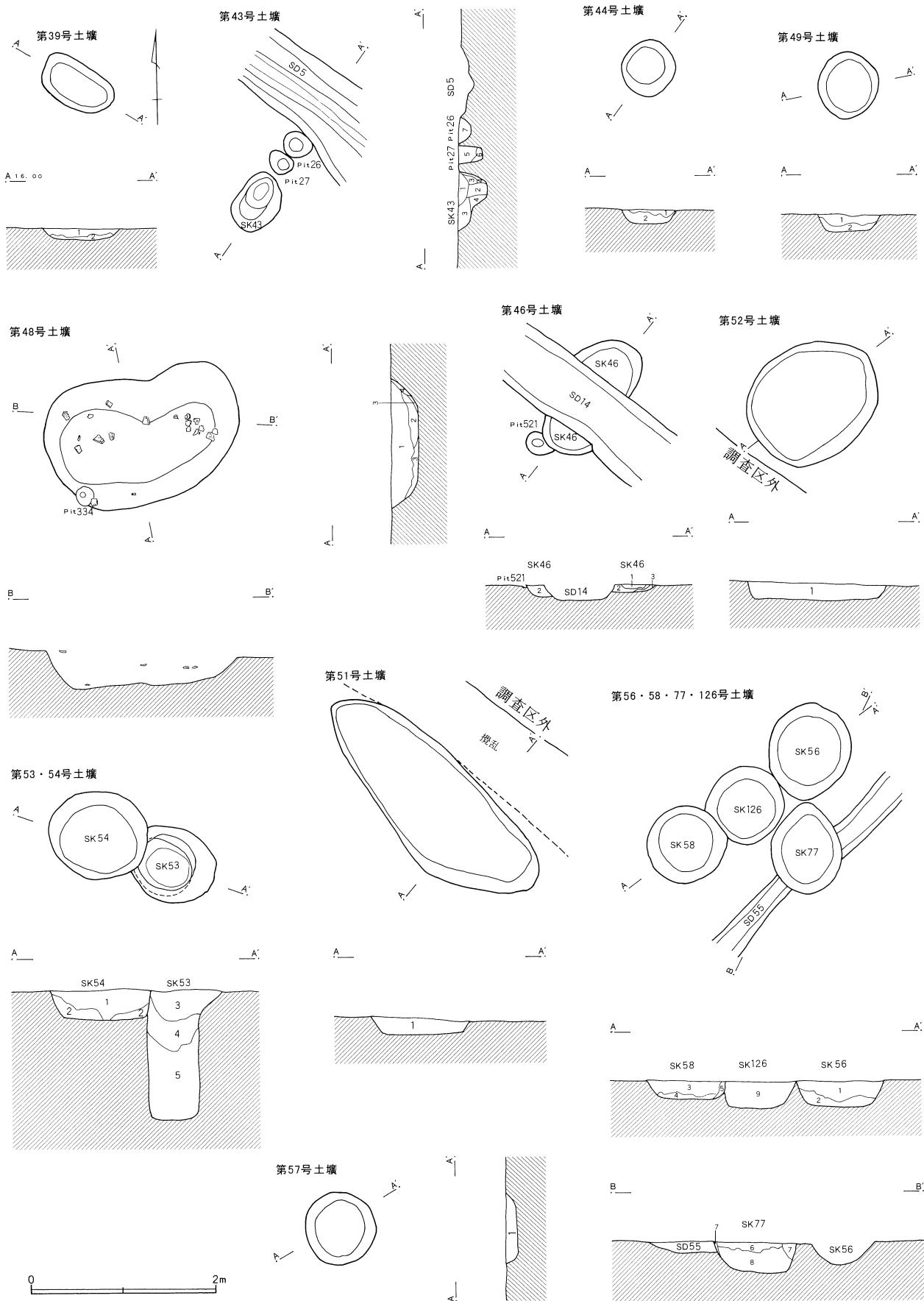
第40号土壤

1 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒・烧土粒少量
2 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量
3 オリ- γ 褐色土 黄褐色土粒少量

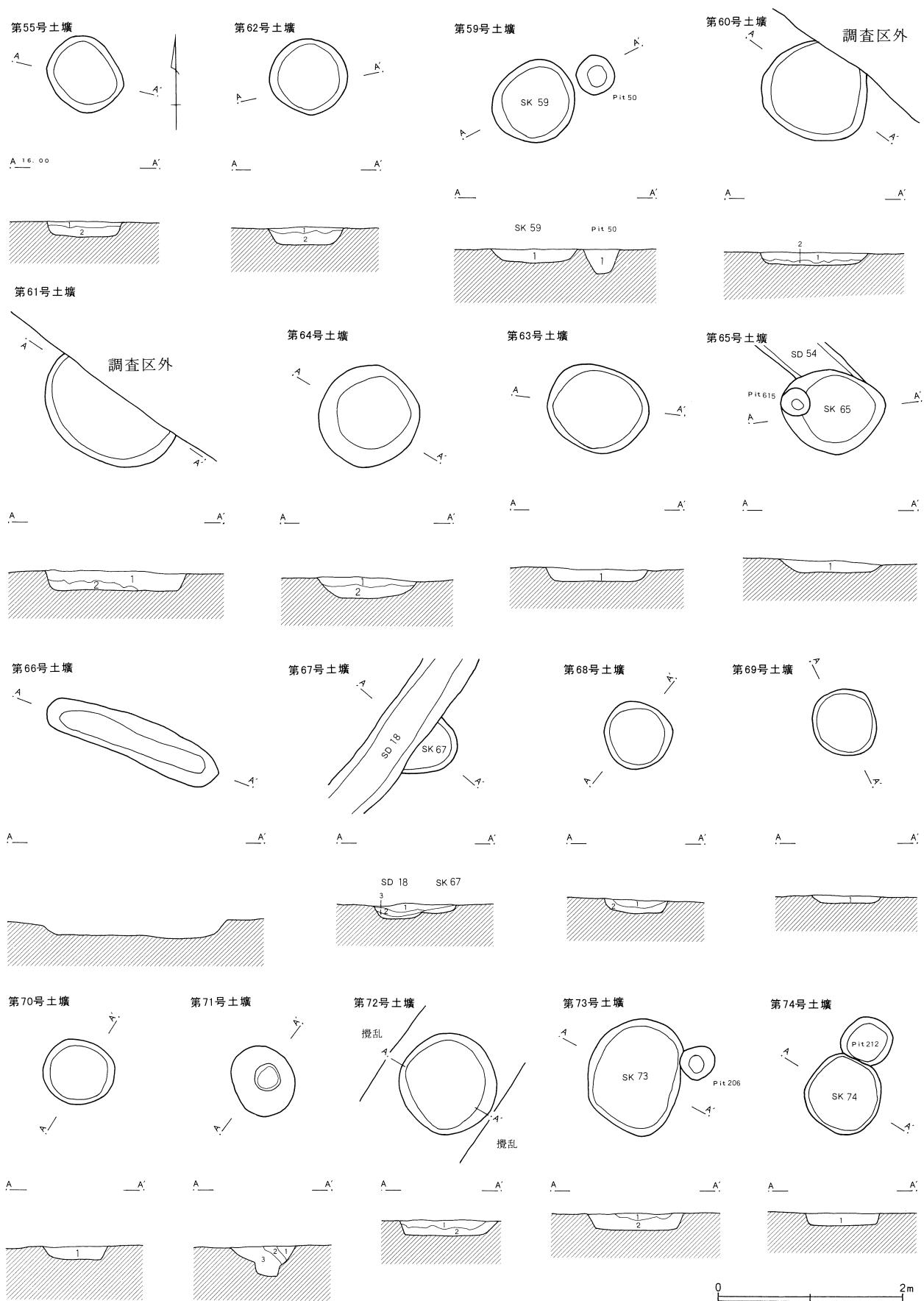
ピット25

4 暗れ- γ 褐色土 黄褐色土粒・烧土粒少量
5 黑褐色土 黄褐色土粒少量

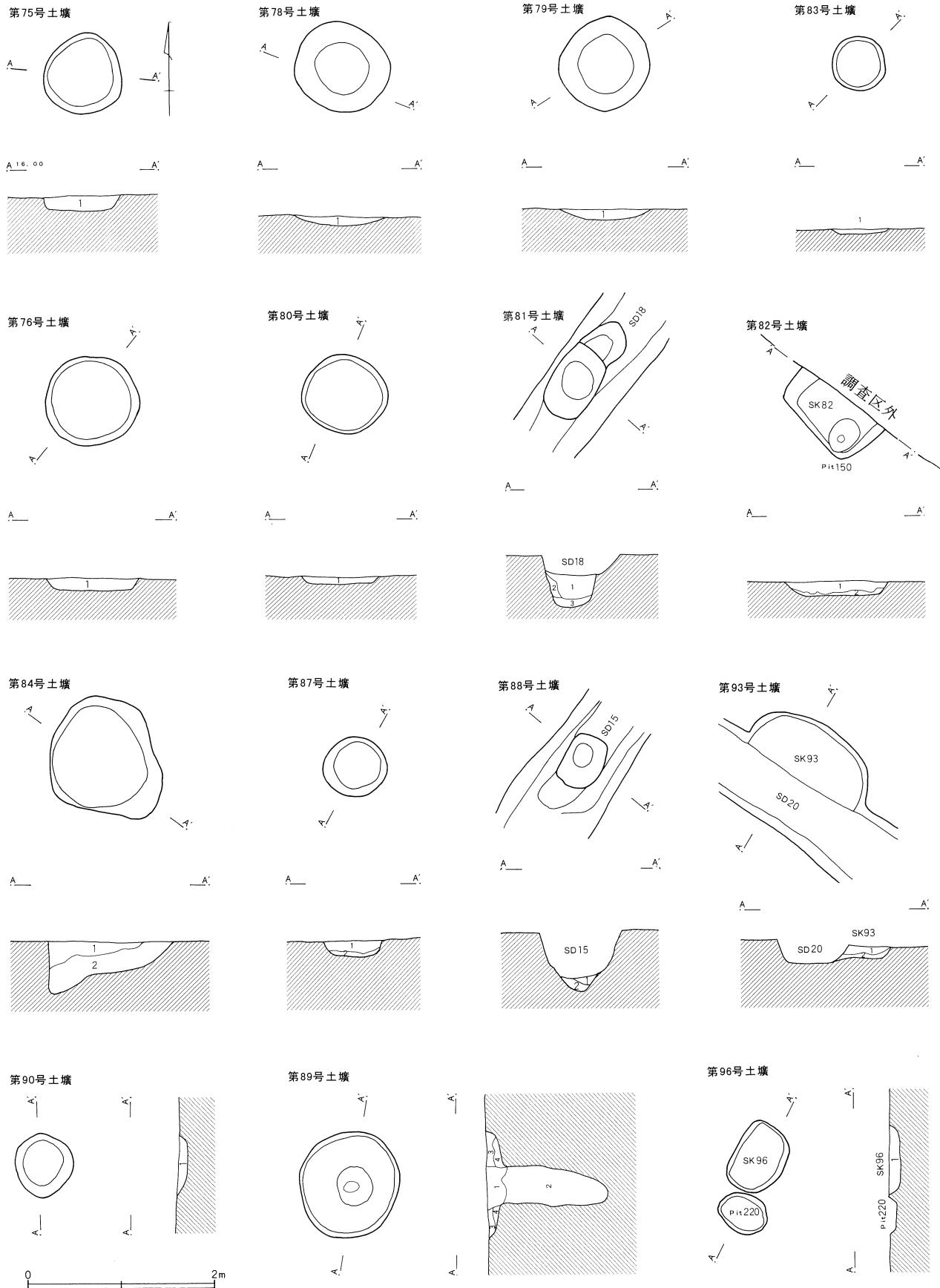
第55図 土壌 (4)



第56図 土壌 (5)

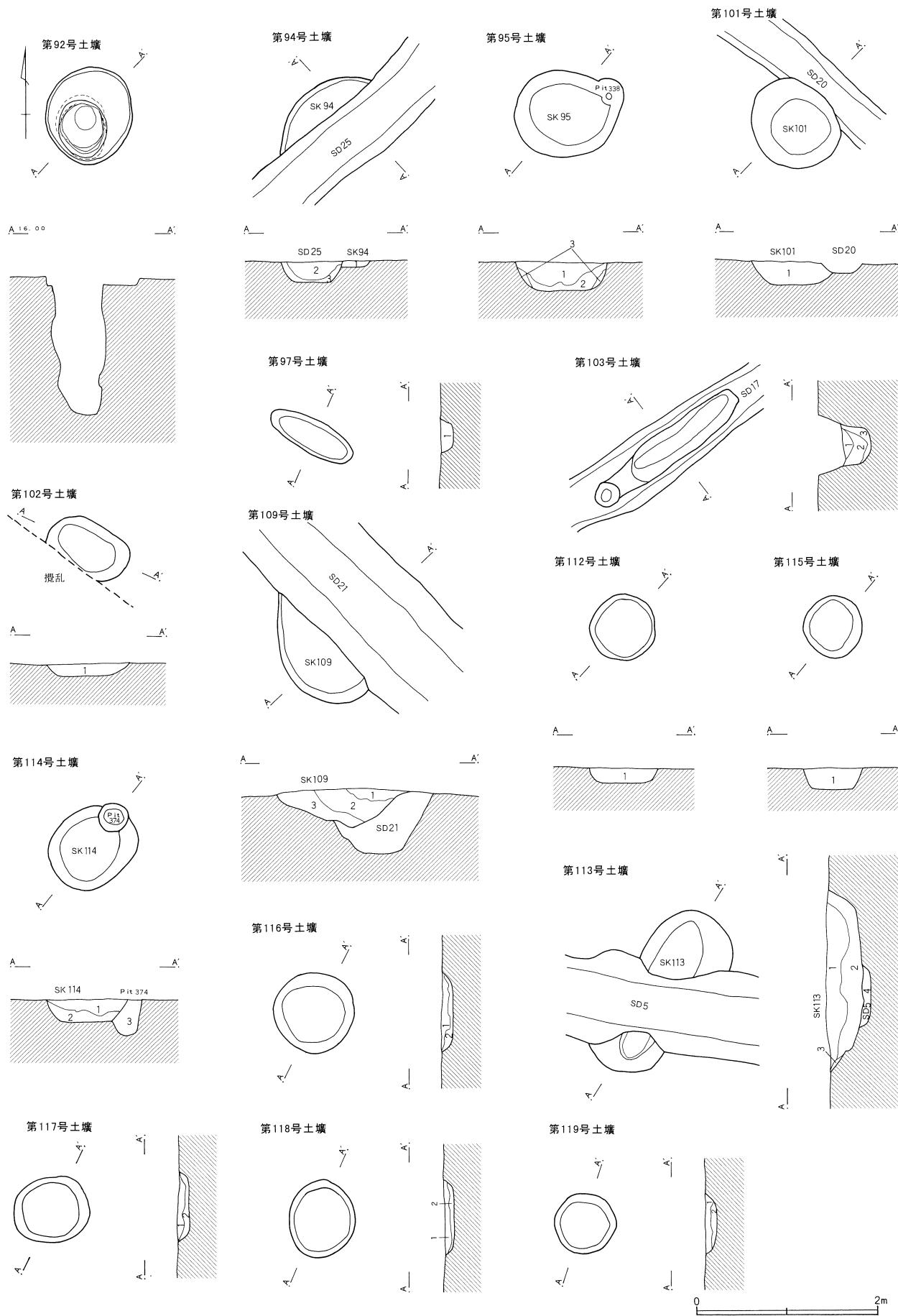


第57図 土壌 (6)

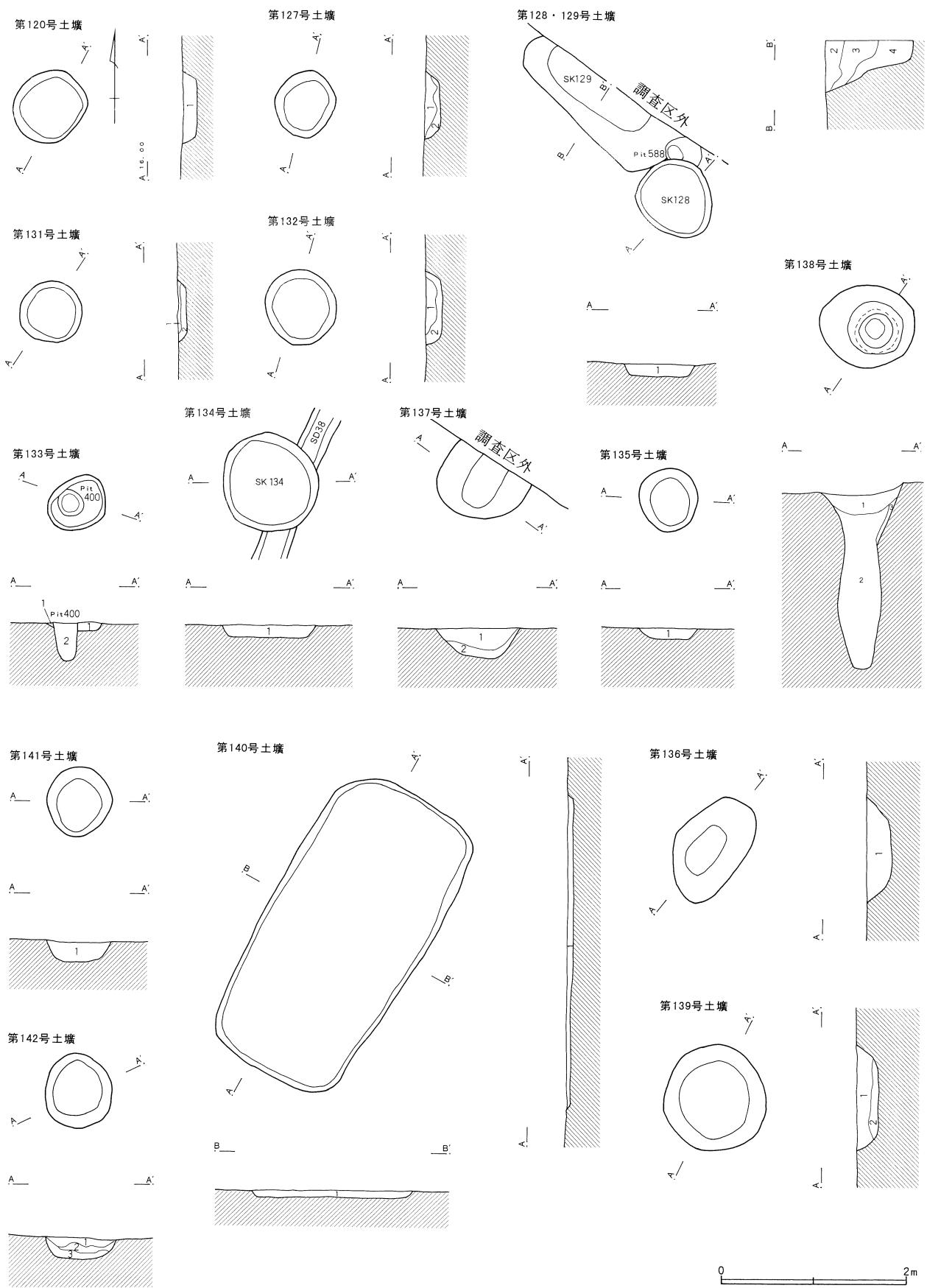


土壤(4)	
第39号土壤	
1 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第43号土壤	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
2 黒褐色土	黄褐色土粒少量
3 黒褐色土	黄褐色土粒・7°ロック (5~10 mm)少量
4 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量
5 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒微量
ピット27	
6 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量
ピット26	
7 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第44号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量
第49号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 黒褐色土	黄褐色土粒・7°ロック (10~20 mm)少量
土壤(5)	
第55号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量、焼土粒・黄褐色土7°ロック(5~10 mm)少量
2 黄褐色土	黄褐色土7°ロック(10~15 mm)少量
第62号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第59号土壤	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量、灰色7°ロック(15~20 mm)少量
ピット50	
2 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
第60号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量、焼土粒・黄褐色土7°ロック(5~10 mm)少量
2 黄褐色土	黄褐色土7°ロック(10~15 mm)少量
第61号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
土壤(6)	
第75号土壤	
1 オリ-7°黑色土	焼土粒・黄褐色土粒若干
第78号土壤	
1 オリ-7°色土	焼土粒若干
第79号土壤	
1 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・焼土粒多量
第83号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第76号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
第80号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
第48号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒・7°ロック (5~10 mm)・炭化物少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・焼土粒・炭化物少量
3 黒褐色土	黄褐色土粒多量
4 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第51号土壤	
1 暗灰褐色土	
第56号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 黒褐色土	黄褐色土粒・7°ロック(10 mm)少量
第58号土壤	
3 黒褐色土	黄褐色土粒多量
4 黒褐色土	黄褐色土粒・7°ロック(10 mm)少量
5 黄灰色土	黄褐色土粒少量
第52号土壤	
1 暗灰褐色土	炭化物粒微量
第54号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量、黄褐色土7°ロック(5~15 mm)・焼土7°ロック (10~15 mm)少量
2 黒褐色土	黄褐色土7°ロック(10~15 mm)多量
第53号土壤	
3 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
4 黒褐色土	黄褐色土粒少量
5 オリ-7°黑色土	黄褐色土7°ロック(10~20 mm)少量
第55号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第64号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第63号土壤	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量
第65号土壤	
1 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・7°ロック (5~15 mm)多量
第67号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量
3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量
第68号土壤	
1 暗灰黄色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第69号土壤	
1 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第70号土壤	
1 灰オリ-7°色土	黄褐色土粒・焼土粒少量
第71号土壤	
1 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・灰白色粘土7°ロック (10~15 mm)少量
2 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・灰白色粘土少量
3 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・灰白色粘土粒・灰色粘土7°ロック(5~10 mm)少量
第72号土壤	
1 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒少量、焼土粒・黄褐色土7°ロック(5~10 mm)若干
2 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・黄褐色土7°ロック (10 mm)多量
第73号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 オリ-7°黑色土	黄褐色土粒・7°ロック(10 mm)若干
第74号土壤	
1 暗オリ-7°色土	黄褐色土粒・炭化物粒少量
第81号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量、黄褐色土7°ロック(10~20 mm)少量
2 黒褐色土	黄褐色土粒多量
3 黄褐色土	黄褐色土7°ロック(5~20 mm)多量
第88号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・灰色粒少量
2 暗灰黄色土	灰色粒・黄褐色土粒多量
第93号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 暗灰黄色土	黄褐色土粒多量
第82号土壤	
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量
2 暗灰黄色土	黄褐色土粒少量
第90号土壤	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
第84号土壤	
1 暗灰黄色土	黄褐色土7°ロック(10~30 mm)多量、暗灰色粘土7°ロック(20~30 mm)少量
2 黄灰色土	黄褐色土粒・7°ロック(5~15 mm)少量
第87号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
2 黄褐色土	黄褐色土粒少量
第89号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・7°ロック(5~10 mm)少量
2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・7°ロック多量
3 黑褐色土	黄褐色土粒少量
4 黑褐色土	黄褐色土粒多量
第96号土壤	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量

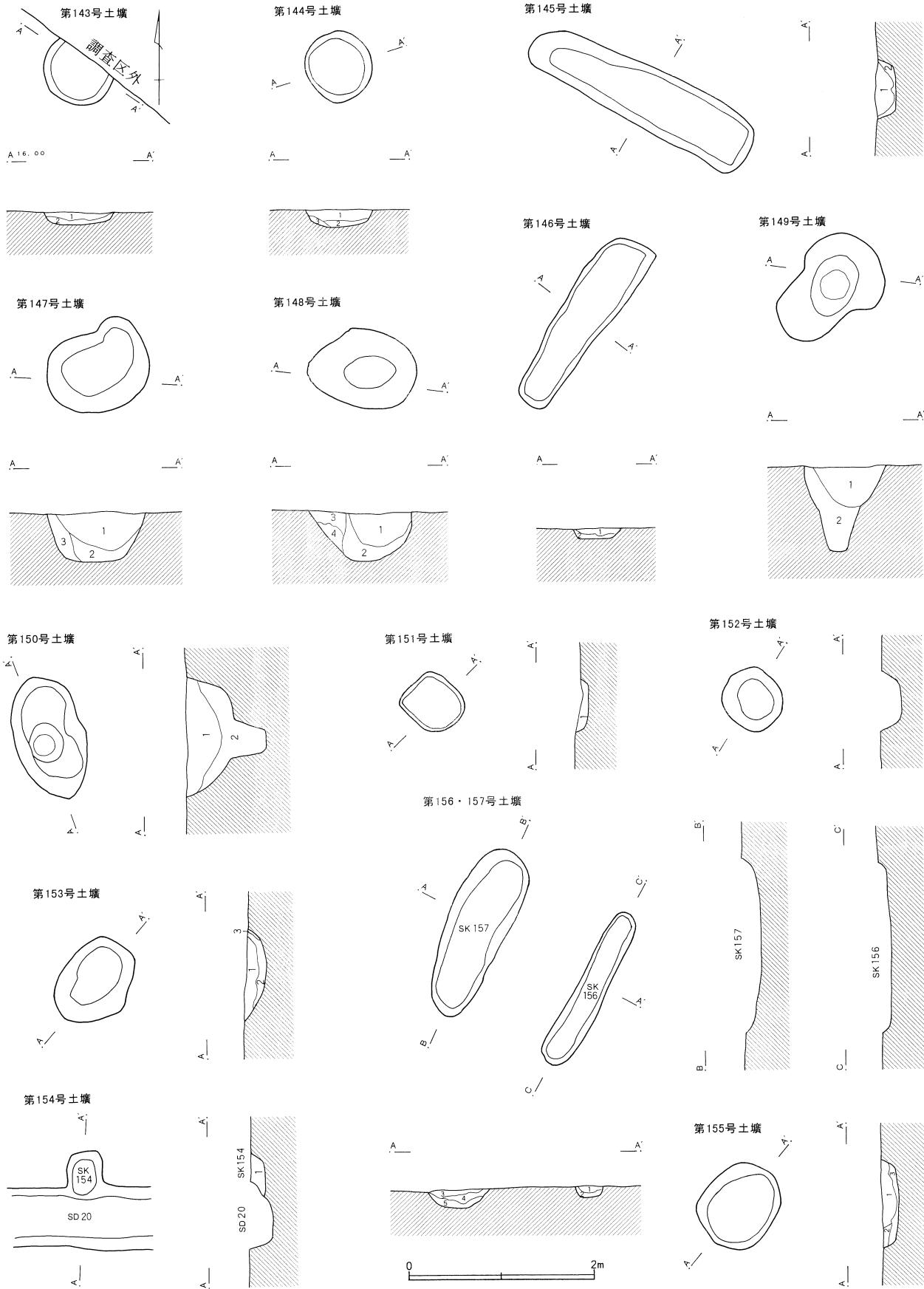
第58図 土壌 (7)



第59図 土壌 (8)



第60図 土壌 (9)



土壌(7)

第94号土壤

1 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第25号溝跡

2 黒褐色土 黄褐色土粒少量
3 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒多量

第95号土壤

1 黒褐色土 燃土粒・7°ロック(10mm)、炭化物少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒少量
3 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第101号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第97号土壤

1 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第103号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~30mm)多量

2 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10~30mm)多量

3 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~30mm)少量

第102号土壤

1 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第109号土壤

1 オリ-7°黒色土 黄褐色土粒多量、黄褐色土7°ロック(10mm)若干
2 暗れ-7°色土 燃土粒微量、黄褐色土粒・7°ロック少量

第112号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量

第115号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量

第114号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

ピット374

3 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第116号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

第113号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土7°ロック(10~30mm)多量
2 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量
3 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)少量

第5号溝跡

4 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第117号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

第118号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

第119号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

土壌(8)

第120号土壤

1 黒褐色土 白色粘土粒・黄褐色土粒少量

第127号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10mm)多量

第128号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒多量、燃土粒少量

第129号土壤

2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒・燃土粒少量
3 オリ-7°黒色土 黄褐色土粒少量
4 オリ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量

第131号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

第132号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量
2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

第133号土壤

1 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

ピット400

2 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第134号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量

第137号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量
2 オリ-7°褐色土 砂粒少量

第135号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量

第138号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10mm)少量

2 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(5~15mm)・

3 オリ-7°褐色土 灰白色粘土粒少量

4 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第141号土壤

1 暗灰黄色土 砂粒多量、暗れ-7°褐色7°ロック(10mm)少量

第142号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック、砂粒少量
3 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第140号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量

第136号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第139号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・砂粒多量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・砂粒多量

土壌(9)

第143号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第144号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック・砂粒少量
3 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第145号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土7°ロック(10mm)多量
2 暗灰黄色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量

第147号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量
3 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)少量

第148号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量

3 黒褐色土 黄褐色土粒少量

4 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)少量

第146号土壤

1 暗灰黄色土 黄褐色土7°ロック(10mm)多量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量

第149号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量

第150号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)少量

2 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10~15mm)多量

第151号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第153号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒・砂粒少量

3 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量、砂粒多量

第154号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第156号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第157号土壤

3 黒褐色土 黄褐色土粒少量

4 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

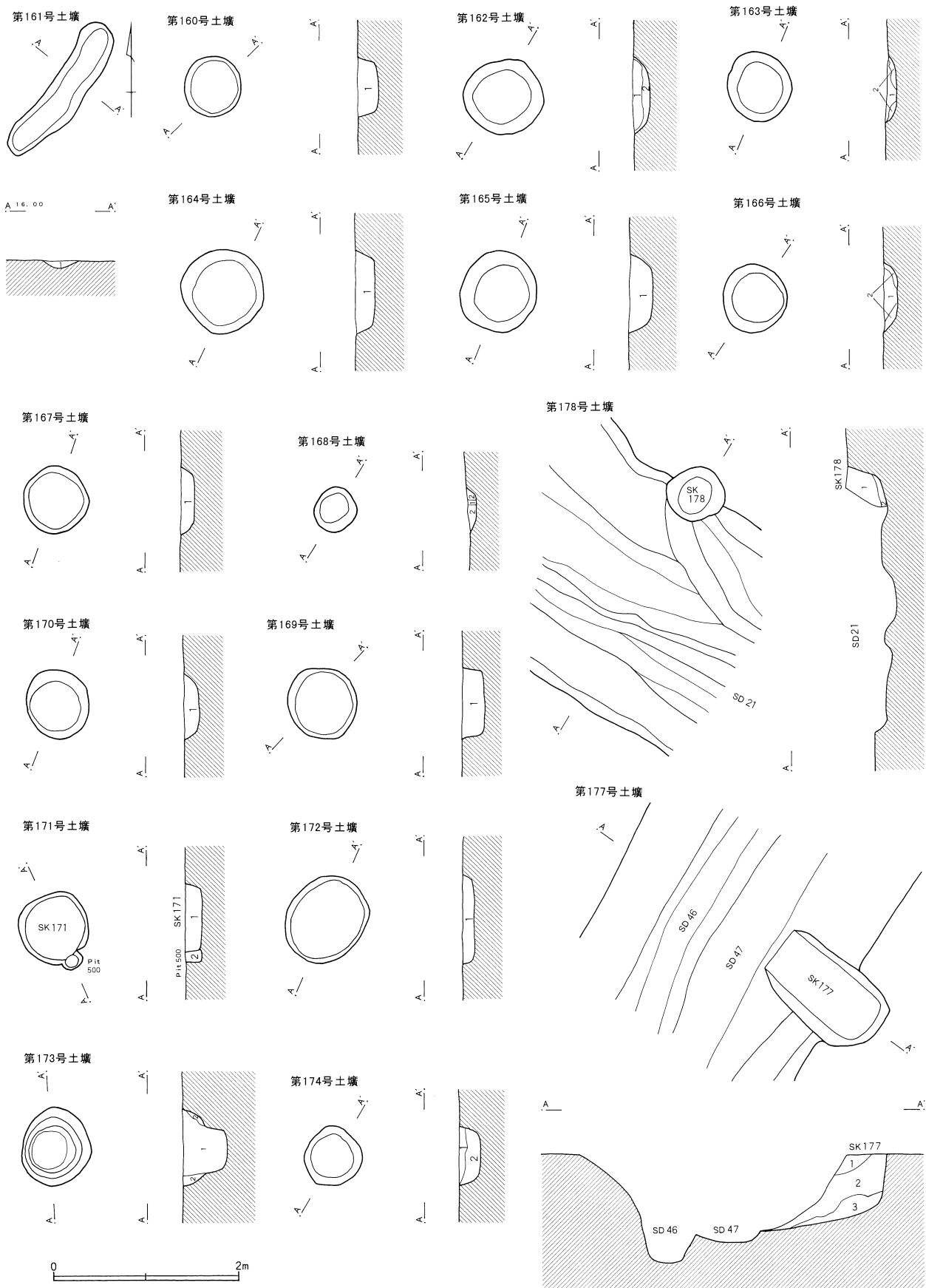
第155号土壤

1 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量

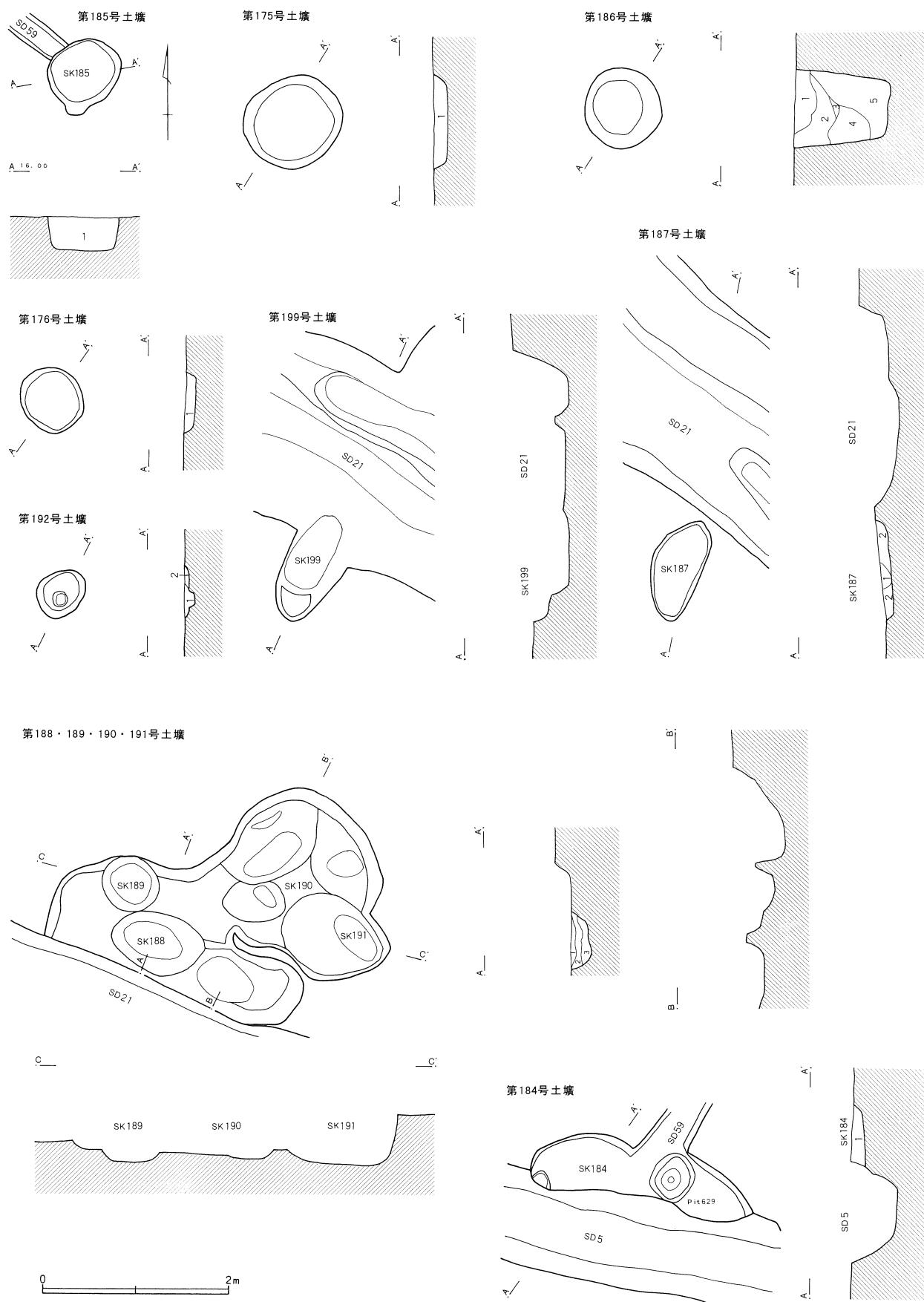
2 暗れ-7°褐色土 黄褐色土7°ロック(10mm)多量

3 暗れ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

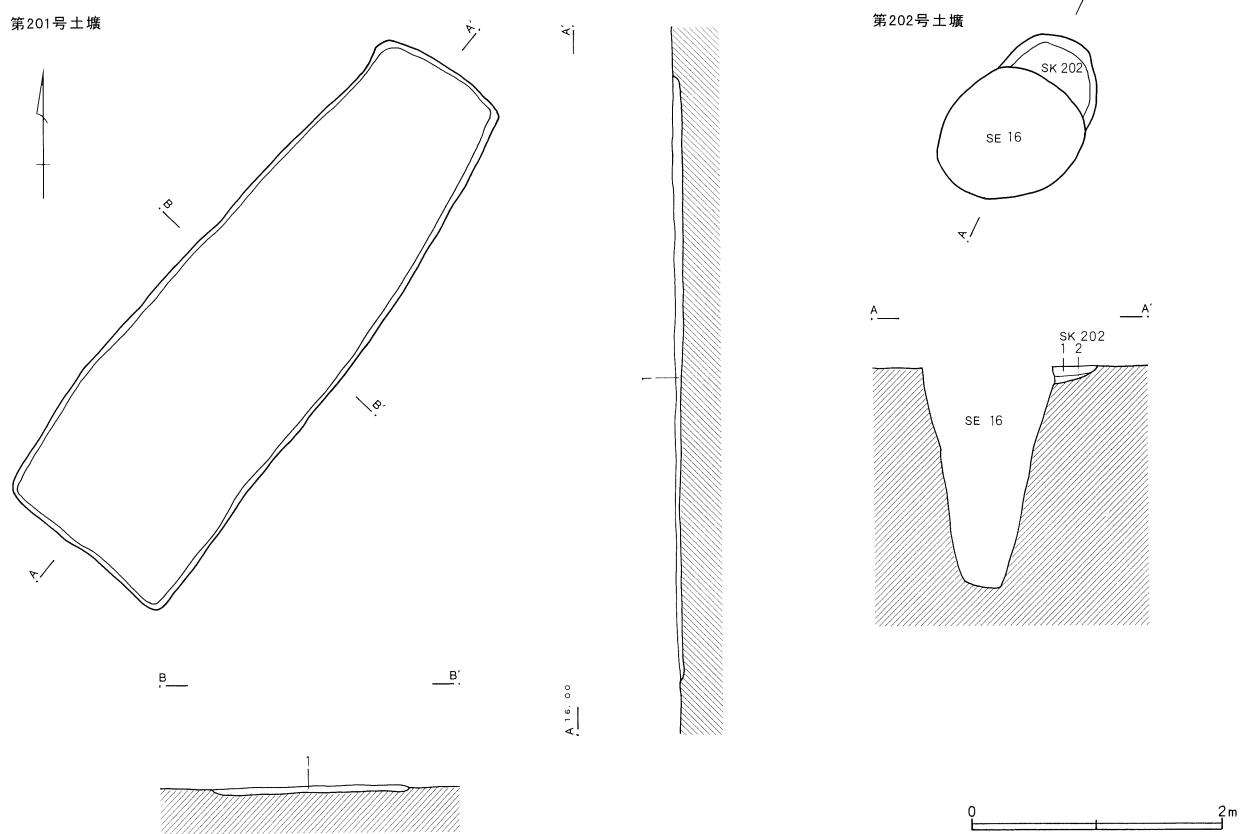
第61図 土壌 (10)



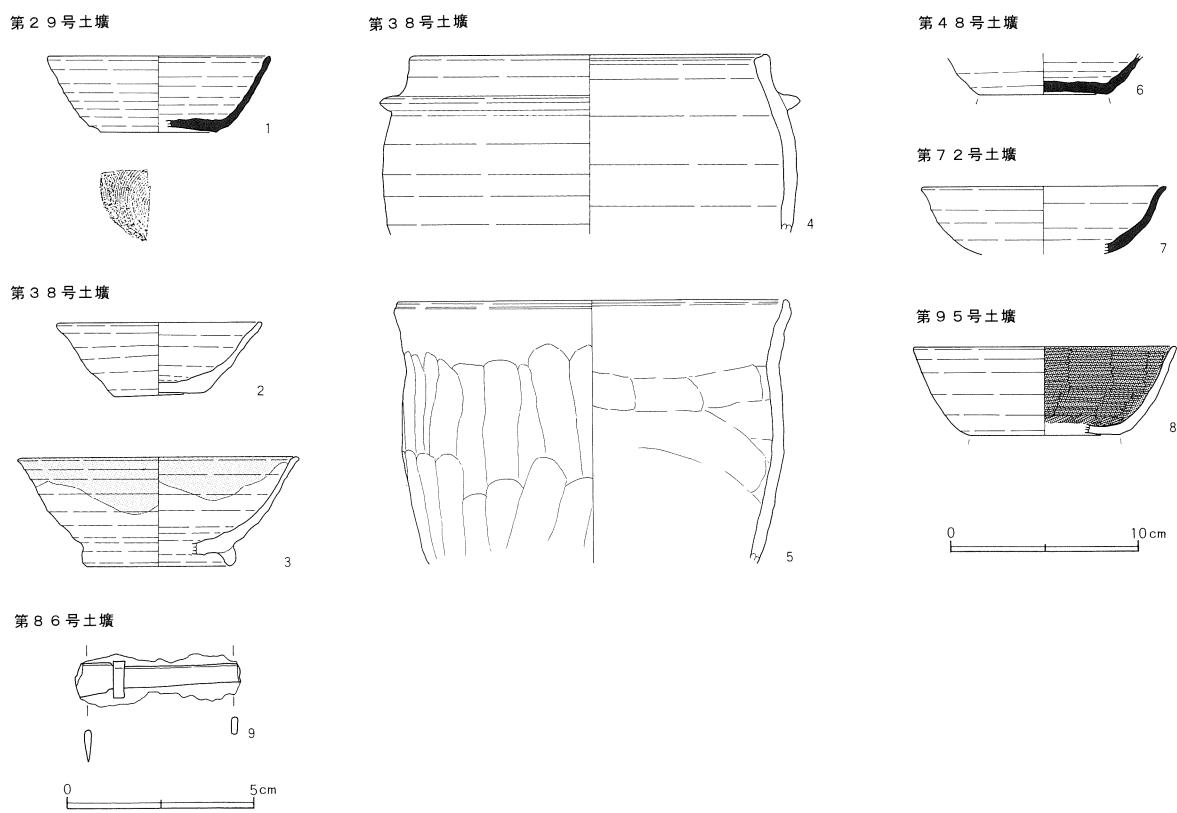
第62図 土壌 (II)



第63図 土壌 (12)



第64図 土壌出土遺物



土壤 (10)	
第 161 号土壤	
1 暗灰黄色土	砂粒多量
第 160 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 162 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
2 オリーブ褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 163 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
2 オリーブ褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 164 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 165 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 166 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
2 オリーブ褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
土壤 (11)	
第 185 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・灰色粘土 ワッカ(20~30mm)少量
第 175 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 186 号土壤	
1 土層注記無し	
2 土層注記無し	
3 土層注記無し	
4 土層注記無し	
5 土層注記無し	
第 176 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 167 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 168 号土壤	
1 暗灰黄色土	砂粒多量
2 オリーブ褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 170 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 169 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
第 178 号土壤	
1 オリーブ褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量
2 暗灰黄色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量
第 171 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量
ピット 500	
2 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量
土壤 (12)	
第 201 号土壤	
1 オリーブ褐色土	燒土粒少量
第 202 号土壤	
1 暗オリーブ褐色土	黄褐色土粒多量
2 オリーブ褐色土	黄褐色土粒少量
第 192 号土壤	
1 土層注記無し	
2 土層注記無し	
第 187 号土壤	
1 土層注記無し	
2 土層注記無し	
第 188 号土壤	
1 オリーブ黑色土	黄褐色土粒多量
2 オリーブ黑色土	黄褐色土粒多量、黄褐色土ワッカ(20mm)少量
3 オリーブ黑色土	黄褐色土ワッカ(10~20mm)少量
第 184 号土壤	
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複遺構	出土遺物・その他の
99	G-8	楕円形	1.74	1.27	0.05	SJ11・12・21	第25図
122	G-8	円形	1.08		0.07	SJ11・12・21	第25図
123	G-9	隅丸長方形	1.03	0.54	0.23	SJ11・12・21(旧)	第25図
45	G-9	円形	1.55	1.31	0.27	SJ13・SD5(新)	第28図 土師器甕片・須恵器坏片
108	K-10	隅丸長方形	1.78		0.25	SJ19・SD21(新)	第35図
110	D-8	不整形	3.00	2.30	0.62	SJ20(新)	第36図 土師器甕片・須恵器坏片
104	G-7	隅丸長方形	1.35		0.13	SJ26(新)	第40図 須恵器坏片
105	G-7	円形	0.80		0.14	SJ26(新)	第40図
121	F-7・G-7	不整形	2.73	1.70	0.27	SJ28(新)・SK182	第40図 土師器甕・坏片・須恵器甕片
181	F-7・G-7	楕円形	0.80	0.64	0.35	SK181(旧)・SJ28	第40図
182	G-7	円形	0.99		0.12	SJ28・SK121	第40図
183	G-7	円形	0.88		0.24	SJ27・28	第40図
106	J-9	鶏卵形	1.31	0.98	0.31	SJ34(旧)	第51図
107	J-9	円形	0.98		0.18	SJ34	第51図 須恵器坏片
1	D-7	円形	1.10	0.99	0.24	SD5(旧)	
4	D-7	円形	0.79	0.72	0.12		
5	E-7	隅丸方形	1.54	1.26	0.20		
2	D-7	円形	1.37	1.22	0.25	SD3(新)・SK29(旧)	
3	D-7	円形	0.73	0.60	0.06	SD3(旧)	
26	D-7	楕円形	0.72	0.54	0.18	SD4(新)	

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複遺構	出土遺物・その他
29	D-7	隅丸長方形	2.35	1.19	0.30	SK2(新)・SD2	須恵器環片
6	E-7	円 形	1.11	1.05	0.17		
8	C-6	円 形	0.59		0.24		
9	C-6・7						西0.42×0.26m 東0.43×0.36m 土師器甕片
10	C-7・D-7	楕円形	0.93	0.70	0.27		
16	I-13	円 形	1.11		0.19	SD5(新)	
12	D-6・7	円 形	0.79	0.72	0.12		土師器甕片
17	I-13	方 形	0.50		0.16	SD5(新)	
11	E-8	楕円形	1.10	0.63	0.29	SD5(新)	須恵器環片
19	E-8	楕円形	1.23	0.58	0.32	SD5	
50	E-8	隅丸方形	0.48	0.41	0.26	SD5	
13	G-10	円 形	1.09	0.96	0.43	SD5(新)	
14	G-10		0.90		0.39	SD5	
15	H-10	円 形	1.23		0.12	SD5(新)	
18	E-8	楕円形	0.96	0.55	0.24	SD5	
20	F-8	円 形	1.37	1.12	0.23		
21	I-10	円 形	1.10	1.10	0.22		
22	J-10	円 形	1.23	1.12	0.17		
23	J-10	円 形	1.14	1.09	0.19		土師器甕片
24	G-7	円 形	1.26	1.12	0.36		土師器甕片・須恵器環片
28	D-7	楕円形	0.78	0.54	0.22	SD3・5	土師器甕・环片
27	F-9	円 形	0.89	0.71	0.20	SD5(旧)	
31	G-10	円 形	1.19	1.17	0.48		
30	F-9	円 形	0.62		0.40	SE7(新)・SK47・SD5	
47	F-9	楕円形		0.94	0.52	SK30・SE7・SD5	
32	D-7	楕円形	1.04	0.78	0.31	SD7・SE1	
33	D-7・E-7	円 形	1.68		0.22	SD6(新)	
38	E-8	円 形	0.65	0.63	0.16		土師器甕片・須恵器環片
37	D-8	長方形	1.18	0.59	0.13	SD14	
40	E-8	不整円形	1.60	0.64	0.18		土師器甕片
39	D-8・E-8	楕円形	0.86	0.48	0.12		
43	E-8	楕円形	0.67	0.49	0.32		
44	E-8	円 形	0.62	0.59	0.16		
49	F-8	円 形	0.72	0.66	0.19		
48	E-8・9	楕円形	2.14	1.23	0.41		土師器甕片・須恵器甕・环片
46	D-8	楕円形	1.39	0.75	0.11	SD14(新)	
52	O-26	円 形	1.49	1.23	0.18		
53	E-8・F-8	円 形		0.81	1.40	SK54(新)	土師器甕・环片・須恵器甕・环片
54	E-8	円 形	1.08	0.97	0.33	SK53(旧)	土師器甕・环片・須恵器环片
51	O-26	楕円形	2.90	1.06	0.19		須恵器环片
56	F-10	円 形	1.06	0.88	0.28	SK58・126・77	土師器环片・須恵器甕片
58	F-10・G-10	円 形	0.89	0.84	0.20	SK128(旧)	
126	F-10・G-10	円 形	0.86	0.84	0.29	SK58(新)	
77	F-10・G-10	楕円形	0.98	0.77	0.34	SD55(旧)	
57	F-10	円 形	0.79	0.76	0.12		
55	F-10	円 形	0.84	0.71	0.16		
62	G-11	円 形	0.84	0.82	0.20		
59	F-10	円 形	0.92	0.85	0.14		
60	F-10	円 形	1.15	1.08	0.12		須恵器甕片
61	F-11・G-11	円 形	0.89		0.21		土師器甕片
64	I-13	円 形	1.11	1.08	0.23		
63	G-11	円 形	1.10	0.93	0.14		

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複遺構	出土遺物・その他
65	F-10	円 形	1.14	0.88	0.13	SD54	
66	M-13	楕円形	1.99	0.43	0.18		
67	H-12	円 形	0.73		0.08	SD18	
68	H-12	円 形	0.74	0.71	0.16		
69	H-12・I-12	円 形	0.75	0.71	0.08		
70	H-12・I-12	円 形	0.78	0.70	0.14		
71	H-13	円 形	0.78	0.68	0.21		
72	H-8・I-8	円 形	1.09	1.07	0.17		須恵器壺片
73	I-8	円 形	1.26	1.01	0.17		須恵器壺片
74	I-9	円 形	0.88	0.82	0.13		
75	I-8	円 形	0.88	0.73	0.16		
78	H-10	円 形	1.03	0.97	0.10		
79	G-9	円 形	1.00	0.97	0.11		
83	D-11	円 形	0.56	0.55	0.05		
76	H-13・I-13	円 形	1.00	0.95	0.18		
80	G-11	円 形	0.93	0.84	0.08		
81	F-13	楕円形	1.21	0.51	0.34	SD18	
82	E-13・F-13	方形	1.08		0.16		
84	A-7	不整形	1.34	1.25	0.56		
87	H-13	円 形	0.69	0.64	0.17		
88	F-13	隅丸方形	0.59	0.43	0.15	SD15	
93	I-11	隅丸長方形	1.44		0.24	SD20(新)	
90	E-9・F-9	円 形	0.67	0.61	0.10		
89	K-11	円 形	1.14	1.06	0.18		
96	H-9	隅丸長方形	0.76	0.56	0.12		
92	E-8	円 形	1.07	0.95	1.42		
94	J-11	楕円形	1.22		0.06	SD25(新)	
95	G-8	円 形	1.16	0.95	0.25		土師器壺・壺片・須恵器壺・蓋片
101	G-7	円 形	1.06	0.91	0.27	SD20	
97	H-9	楕円形	1.00	0.36	0.13		
103	I-8	楕円形	1.43	0.38	0.29	SD17	
102	H-8	楕円形	0.44		0.14		
109	J-9	楕円形		1.02	0.42	SD21(旧)	
112	K-15	円 形	0.76	0.72	0.17		
115	K-16・L-16	円 形	0.70	0.63	0.24		
114	K-16	円 形	1.00	0.92	0.26		
116	L-16・17	円 形	0.89		0.13		
113	J-16	楕円形	2.00	0.96	0.41	SD 5(旧)	
117	L-17	円 形	0.84	0.71	0.13		
118	L-17	円 形	0.85	0.73	0.12		
119	L-17	円 形	0.68	0.65	0.12		
120	L-17	円 形	0.82	0.76	0.15		
127	F-8	円 形	0.72	0.65	0.17		
128	G-11	円 形	0.87	0.78	0.14		土師器壺片
129	G-11	隅丸長方形	1.93		0.95		須恵器壺片
131	L-17	円 形	0.67	0.66	0.10		
132	L-17	円 形	0.81	0.75	0.19		
138	L-19	円 形	1.03	1.00	2.01		
133	M-18	円 形	0.69	0.56	0.09		
134	M-18	円 形	1.11	1.02	0.13	SD38(旧)	
137	L-19	楕円形	0.96		0.32		土師器壺片
135	M-18	円 形	0.68	0.63	0.12		

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複遺構	出土遺物・その他
141	Q-24	円 形	0.74	0.70	0.21		
142	P-24・Q-24	円 形	0.80	0.70	0.23		
140	N-20	長 方 形	3.38	1.73	0.07		土師器甕片・須恵器坏片
136	K-18・19	楕 圓 形	1.18	0.72	0.27		
139	N-18	円 形	1.15	1.09	0.24		
143	P-24	円 形	0.77		0.13		
144	P-23	円 形	0.76	0.72	0.18		
145	Q-25・R-25	長 方 形	2.61	0.64	0.22		
147	O-22	不整円形	1.13	0.87	0.54		
148	O-21	楕 圓 形	1.18	0.85	0.52		
146	Q-25・R-25	長 方 形	2.07	0.50	0.10		
149	N-21	双 圓 形	1.29	0.55	0.91		
150	O-21	楕 圓 形	1.35	0.76	0.52		
151	M-20	方 形	0.70	0.62	0.14		
152	N-20	円 形	0.69	0.65	0.21		
153	N-20	楕 圓 形	1.00	0.77	0.20		
154	O-21	隅丸方形	0.20		0.24	SD20(新)	
156	O-19	楕 圓 形	1.83	0.32	0.12		
157	O-19	楕 圓 形	1.88	0.64	0.20		
155	O-19	楕 圓 形	0.95	0.80	0.18		
161	N-18・O-17・18	楕 圓 形	1.69	0.37	0.08		
160	N-18	円 形	0.76	0.69	0.22		
162	N-18	円 形	0.87	0.80	0.18		
163	N-17	円 形	0.76	0.69	0.11		
164	M-17	円 形	0.91	0.90	0.21		
165	N-17	円 形	0.87	0.83	0.26		
166	M-17	円 形	0.74	0.70	0.15		
167	N-17	円 形	0.73	0.70	0.14		
168	N-16	円 形	0.49	0.43	0.09		
170	L-15	円 形	0.75	0.69	0.17		土師器甕片
169	L-15	円 形	0.75	0.74	0.23		
178	P-19	円 形	0.65	0.59	0.44	SD21	
171	L-15	円 形	0.76	0.75	0.18		
172	M-18	円 形	0.96	0.83	0.12		
173	K-17・L-17	円 形	0.79	0.76	0.47		
174	K-17・L-17	円 形	0.63	0.62	0.22		
177	N-21	長 方 形		0.78	0.82	SD47	
185	J-16	円 形	0.79	0.69	0.36	SD59	
175	K-17	円 形	1.06	1.00	0.15		
186	L-14	円 形	0.86	0.83	1.02		
176	K-17	楕 圓 形	0.70	0.67	0.10		
192	J-15	円 形	0.58	0.47	0.04		
199	N-15	楕 圓 形		0.41	0.40	SD21	
187	Q-20	楕 圓 形	1.10	0.54	0.12		
188	M-13・14	不 整 形				SK189・190・191	南北2.60×東西3.40m
189	M-13・14					SK188・190・191	
190	M-13・14					SK188・189・191	
191	M-13・14					SK188・189・190	
184	J-16	不整楕円形	2.42		0.16	SD5	
201	K-14・L-14	長 方 形	4.80	1.58	0.08		須恵器坏片
202	L-17	円 形	0.81		0.13	SE16	

第29・38・48・72・86・95号土壌出土遺物観察表（第64図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	壺	(11.8)	4.0	(6.2)	W針	A	灰色	10	SK29 南北企産
2	壺	10.8	3.8	4.8	B RW	C	褐灰色	95	SK38 No.7
3	高台付椀	(14.6)	5.7	(8.6)	W	A	灰白色	50	SK38 No.2 施釉 漬掛 静岡産（東遠江）
4	羽釜	(18.8)	(9.4)		B RW	C		5	SK38 No.1
5	甌	(20.4)	(13.8)	4.8	BW片	B	褐色	15	SK38 No.3・4
6	壺		(2.1)	6.8	W針	A	灰色	20	SK48 No.10・12・23 南北企産
7	壺	(12.9)	(3.6)		W針	B	灰色	5	SK72 南北企産
8	壺	(13.8)	4.6	(8.0)	B RW	A	にぶい黄橙色	10	SK95 内面黒色処理
9	刀子								SK86 SJ12内(4.4)×1.0cm 8.54g

4. 井戸跡

発見された23基の井戸跡は調査区全体に散在し、その配置に綿密な計画性を窺うことはできない。強いていえば、群集するピットの周辺に所在する傾向があるが、両者の関係は明確ではない。

遺物は第3・4・6・11・13・16・20・21・23号井戸跡から住居跡出土遺物と併行する時期の土師器片・須恵器片が、第8・10・12・14・15号井戸跡から中世土器片や常滑片が出土している。しかし出土遺物の殆どは小破片であり、また人為的に埋め戻された状況も

看取できるため、遺物の時期がそのまま井戸跡の時期を確定するとは限らない。

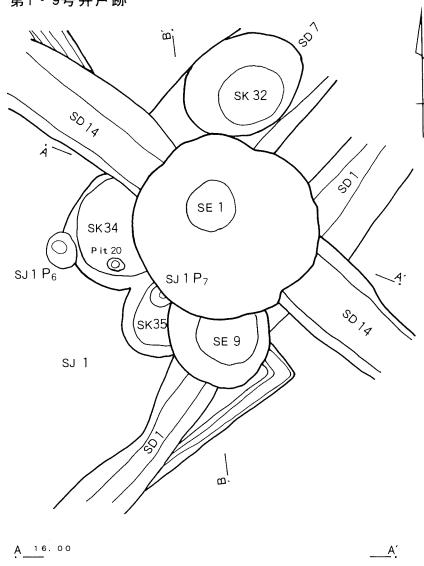
第6号井戸跡からは、明瞭に加工痕を残す熔結凝灰岩45点が検出されている。井戸跡の石組としては数量的に少なく、井戸廃絶段階での石組石材の持ち去り、木枠井戸の枠の支えや押さえとしての使用、地表面付近の井戸に関わる施設に用いられた石材の井戸内への落下、人為的な投棄などが考えられる。

井戸跡

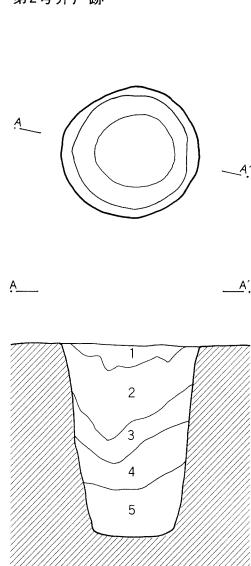
番号	グリッド	形狀	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複遺構	出土遺物・その他
1	D-7	円形	1.49	1.45	2.88	SJ11・SD14・SK35(旧)・SD1・7・SE9・SK32・34	
9	D-7	円形	0.80		2.03	SJ1・SK35(旧)・SD1・SE1	
2	F-9	円形	1.10	1.04	1.52		
4	H-10	円形	1.46	1.36	1.47		
3	F-9	円形	1.37	1.32			
5	H-11	円形	1.13	1.07	1.52		
6	H-11	隅丸方形	1.60	1.39	1.99	SD5(旧)	
7	F-9	円形	0.92	0.86	1.28	SD5・SK30(旧)・SK47	
8	H-11	楕円形	1.76	1.50	2.01		
10	I-13	円形	2.09	1.90	1.97		
11	E-8	円形	1.18	1.00	1.24		
12	D-11	楕円形	1.44	1.26	1.62		
13	J-14・K-14	円形	2.70	2.39	2.26		
14	J-15・16	隅丸方形	1.78	1.67	1.83		
15	K-17	円形	1.52	1.35	1.93		
16	L-17	円形	1.14	1.01	1.73	SK202(旧)	
17	L-16	円形	1.67	1.63	1.90		
19	Q-24	円形	1.33	1.22	1.36		
20	Q-24	円形	1.00	0.90	1.37		
22	O-22	円形	1.09	0.98	1.43		
23	F-9	円形	0.88	0.82	1.27		
18	L-16	隅丸方形	1.23	1.17	1.94		
21	P-23	円形	1.63	1.60	1.50		

第65図 井戸跡 (1)

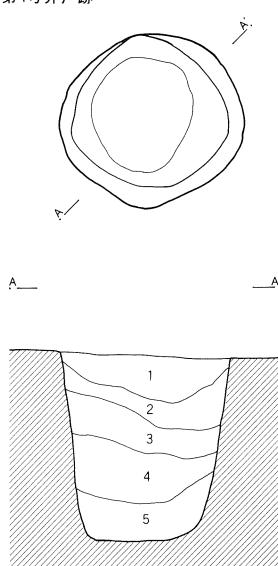
第1・9号井戸跡



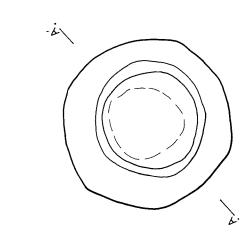
第2号井戸跡



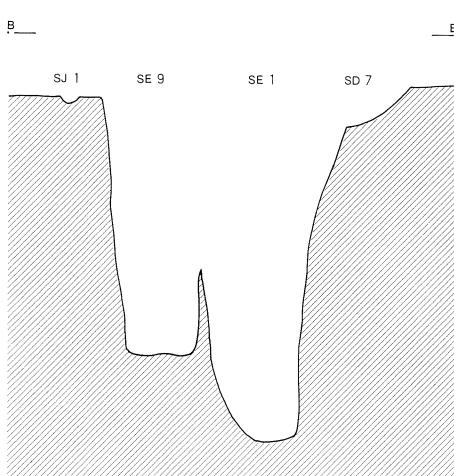
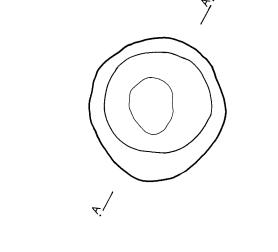
第4号井戸跡



第3号井戸跡



第5号井戸跡



第1号井戸跡

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(5~15 mm)少量 |
| 2 黒褐色土 | 黄褐色土粒・焼土粒少量 |
| 3 黒褐色土 | 黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)少量 |
| 4 暗灰黄色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 5 暗灰黄色土 | 黄褐色土 γ ロック(5~10 mm)多量 |

第1・14号溝跡

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒微量 |
| 2 黄褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(5~10 mm)少量 |

第2号井戸跡

- | | |
|--------------------|--|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土 γ ロック(30 mm)を西から50~80 cmの位置に多量、
焼土粒(1~2 mm)若干 |
| 2 黒褐色土 | 黄褐色土塊(30 mm)微量、黄褐色土 γ ロック(10~20 mm)若干、
灰白色粘土少量 |
| 3 黑褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(10~20 mm)多量 |
| 4 暗オリ- γ 色土 | 黄褐色土粒・焼土粒(1~2 mm)少量 |
| 5 オリ- γ 黑色土 | 黄褐色土粒・砂粒 |

0 2m

第3号井戸跡

- | | |
|--------------------|--|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(50 mm)多量、
焼土粒(2 mm)若干 |
| 2 灰色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(20 mm)多量 |
| 3 灰色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(10 mm)多量 |
| 4 暗オリ- γ 色土 | 砂粒・鉄分若干 |
| 5 オリ- γ 黄色土 | 鉄分若干 |

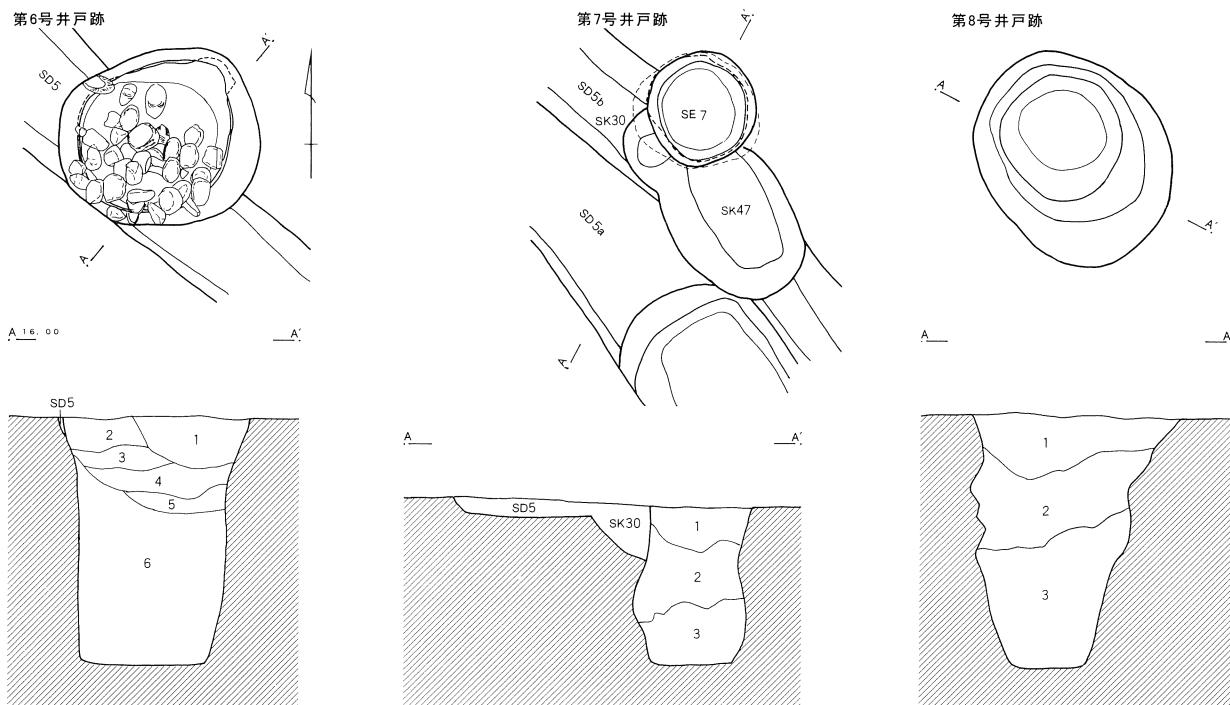
第4号井戸跡

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(10~30 mm)
多量 |
| 2 黑褐色土 | 黄褐色土粒・ γ ロック(10~15 mm)
多量 |
| 3 黑褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 4 オリ- γ 褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 5 灰色土 | 黄褐色土粒少量 |

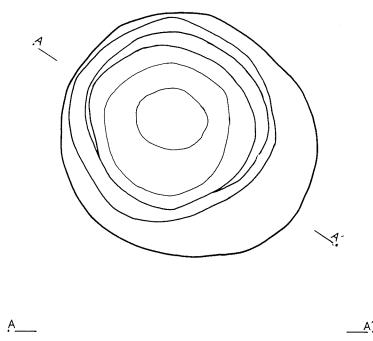
第5号井戸跡

- | | |
|---------------------|--|
| 1 黄褐色土 | 黄褐色土 γ ロック・黒褐色 γ ロック
多量 |
| 2 黑褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 3 オリ- γ 褐色土 | 黄褐色土 γ ロック(10~30 mm)多量 |
| 4 暗オリ- γ 褐色土 | 黄褐色土 γ ロック(10~30 mm)多量 |

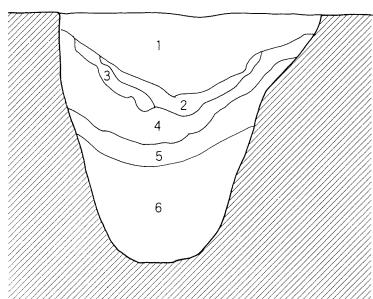
第66図 井戸跡 (2)



第10号井戸跡



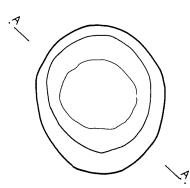
A—
A'



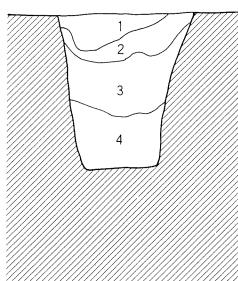
第6号井戸跡
1 暗黄灰色土 燃土粒少量、黄褐色土7°ロック(10~30mm)
2 黑褐色土 黄褐色土粒・燃土粒少量
3 黑褐色土 黄褐色土粒少量
4 暗れ7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(5~10mm)多量
5 暗れ7°褐色土 黄褐色土粒少量
6 オリ7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(5~10mm)少量

0 2m

第11号井戸跡



A—
A'



第7号井戸跡
1 黒褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(5~10mm)少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)多量
3 暗灰黄色土 黄褐色土7°ロック(15~20mm)多量
第8号井戸跡
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 黑褐色土 黄褐色土7°ロック(20~30mm)少量
3 暗れ7°褐色土 黄褐色土7°ロック(20~30mm)多量

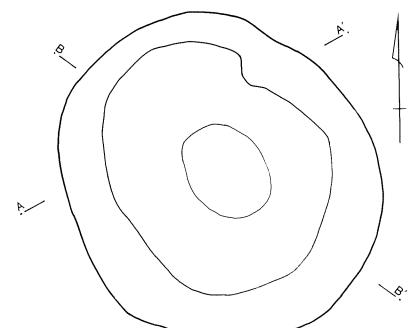
第10号井戸跡
1 黑褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10mm)少量
2 黑褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)多量
3 黑褐色土 黄褐色土粒多量

第12号井戸跡
1 暗灰黄色土 燃土粒・7°ロック(5~10mm)・黄褐色土粒・炭化物・灰白7°ロック(15~30mm)少量
2 オリ7°黑色土 黄褐色土粒多量、燃土粒・黄褐色土7°ロック(5~10mm)・炭化物粒少量
3 黄褐色土 黄褐色土粒少量、黄褐色土7°ロック多量
4 暗れ7°褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(5~15mm)少量、燃土7°ロック微量

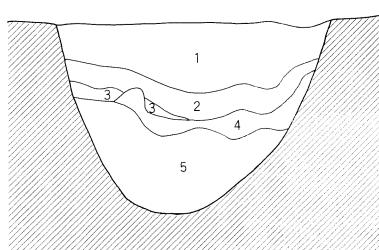
第11号井戸跡
1 暗灰黄色土 黄褐色土粒・7°ロック(5~20mm)・灰白色粒・燃土粒少量
2 黑褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10~20mm)多量
3 黑褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(10~20mm)少量

第67図 井戸跡 (3)

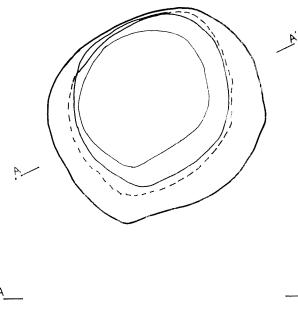
第13号井戸跡



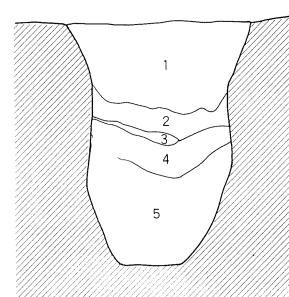
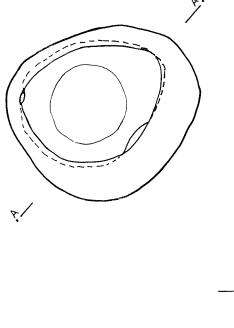
A 16. 00



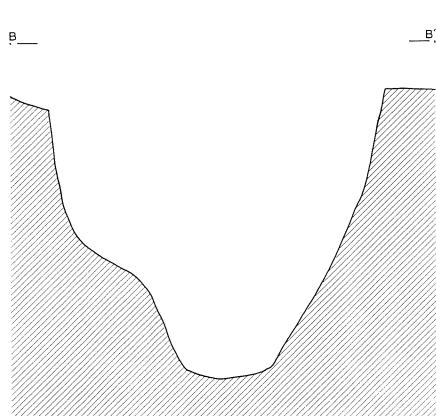
第14号井戸跡



第15号井戸跡



第16号井戸跡



第13号井戸跡

- 1 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒、灰白色粘土 γ ロック(20 mm)少量
- 2 黒褐色土 灰白色粘土 γ ロック(20 mm)少量、砂粒多量
- 3 暗灰黄色土 黄褐色土粒少量
- 4 黒褐色土 黄褐色土 γ ロック(20~30 mm)少量、砂粒多量
- 5 オリ- γ -褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック(10~30 mm)少量

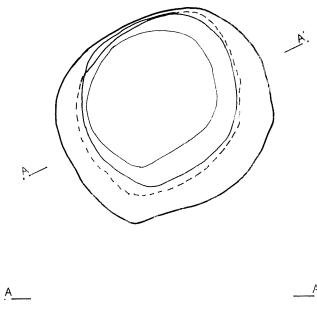
第14号井戸跡

- 1 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒・灰白色粘土 γ ロック(10~20 mm)・炭化物 γ ロック(10~20 mm)少量
- 2 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック(5~15 mm)多量
- 3 オリ- γ -褐色土 黄褐色土粒少量、黄褐色土 γ ロック(20~50 mm)多量

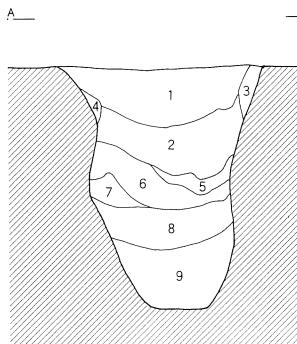
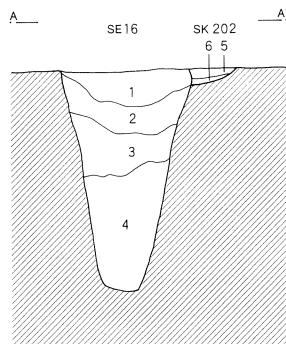
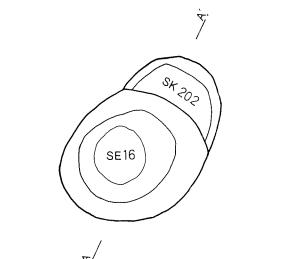
第15号井戸跡

- 1 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック(10 mm)・焼土粒少量
- 2 オリ- γ -黑色土 黄褐色土粒・ γ ロック(10 mm)、灰白色粘土 γ ロック(20 mm)少量
- 3 オリ- γ -黑色土 炭化物粒多量
- 4 オリ- γ -黑色土 黄褐色土粒・ γ ロック(10 mm)少量
- 5 灰オリ- γ 色土 粘土・砂粒・黄褐色土粒少量

第14号井戸跡



第17号井戸跡



第16号井戸跡

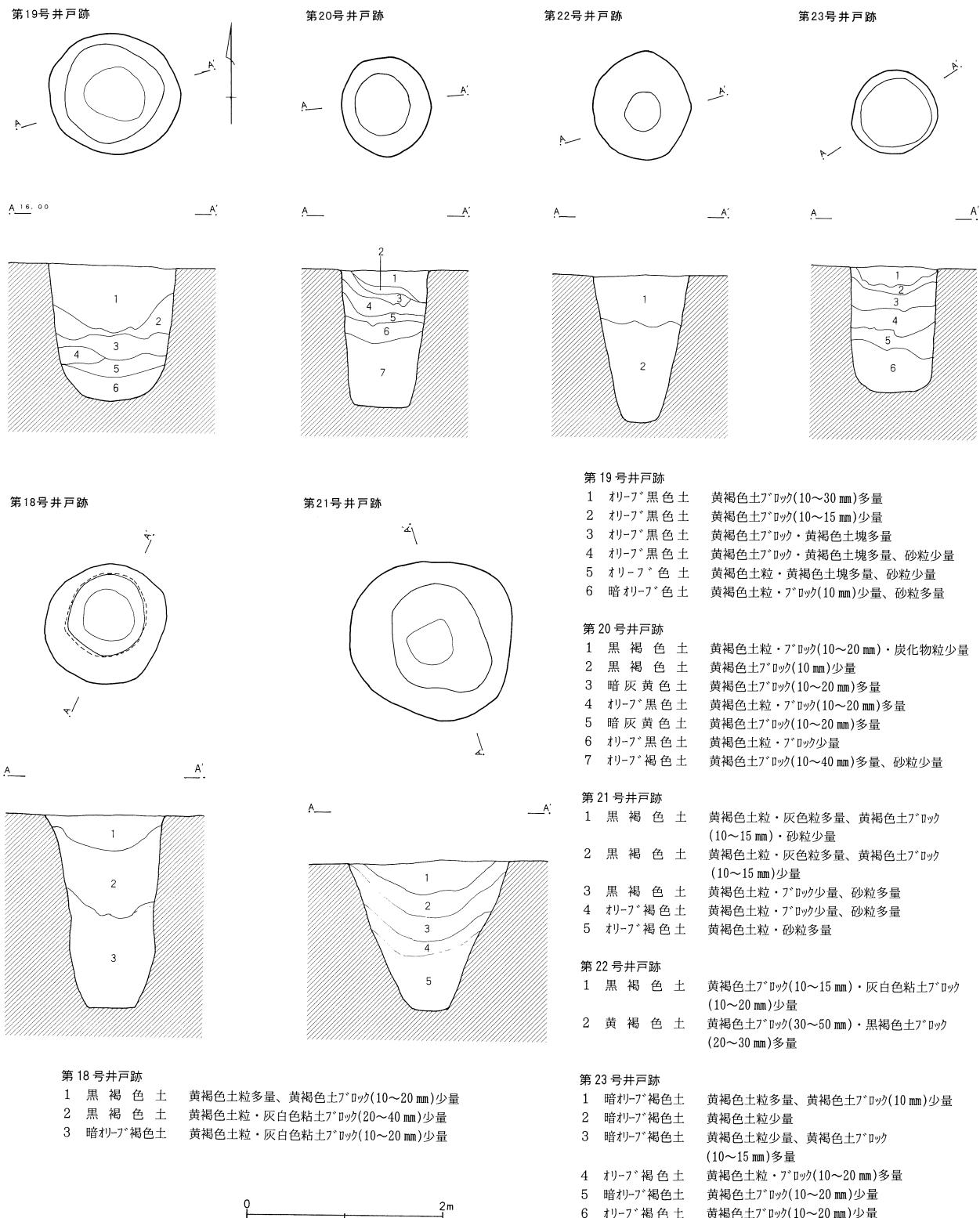
- 1 黒褐色土 黄褐色土粒多量、黄褐色土 γ ロック(20~30 mm)少量
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土 γ ロック(10~30 mm)多量
 - 3 黑褐色土 黄褐色土粒少量、黄褐色土 γ ロック(10~30 mm)多量
 - 4 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土 γ ロック(10~15 mm)多量
- 第202号土壤
- 5 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒多量
 - 6 オリ- γ -褐色土 黄褐色土粒少量

第17号井戸跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量、灰白色粘土 γ ロック(10~30 mm)多量
- 2 黒褐色土 灰白色粘土 γ ロック(10~30 mm)多量
- 3 オリ- γ -褐色土 黄褐色土粒少量
- 4 黑褐色土 黄褐色土粒少量
- 5 黑褐色土 黄褐色土粒・灰白色粘土粒少量
- 6 暗れ- γ -褐色土 黄褐色土粒・ γ ロック多量
- 7 オリ- γ -褐色土 黄褐色土 γ ロック(20~40 mm)多量
- 8 暗灰黄色土 黄褐色土 γ ロック(10 mm)多量
- 9 暗緑灰色土 砂粒粘性強

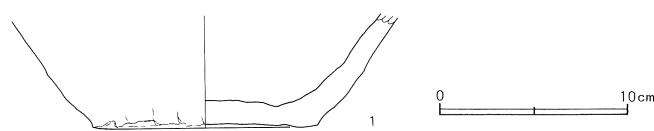
0 2m

第68図 井戸跡 (4)

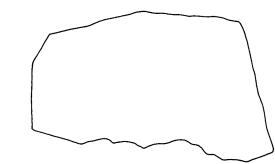
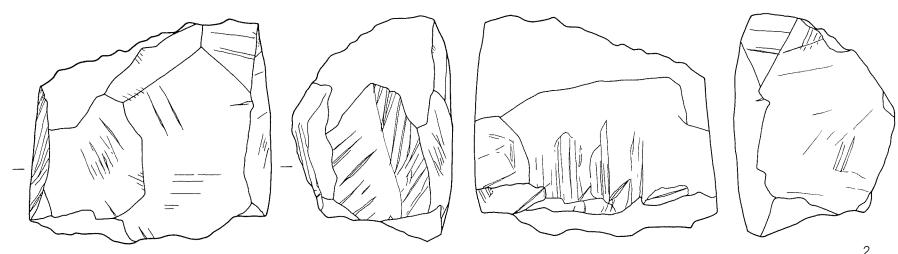


第69図 井戸跡出土遺物

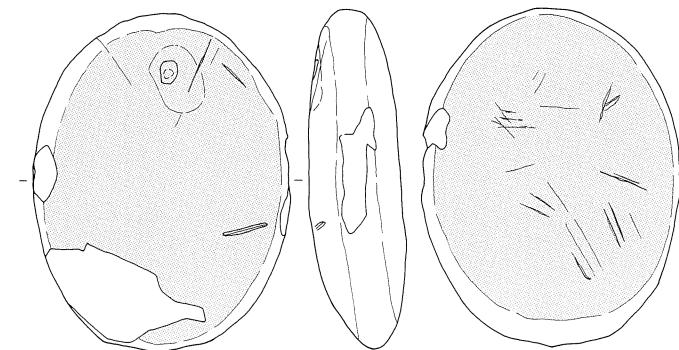
第6号井戸跡



第10号井戸跡



0 5cm

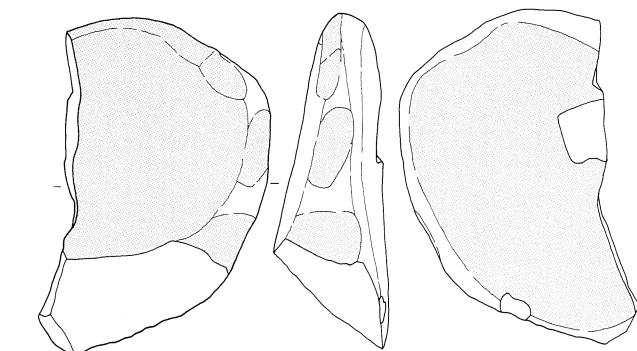


3



0 10cm

第13号井戸跡



4



0 10cm

第6・10・13号井戸跡出土遺物観察表（第69図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕		(5.9)	(11.9)	BW	B	褐灰色	5	SE 6 内面自然釉付着 底部に指頭痕あり
2	砥石								SE10 (5.9)×6.4cm 179.54 g
3	磨石								SE10 13.3×10.2cm 707.34 g
4	磨石								SE13 (12.5)×(8.1)cm 593.78 g

5. 溝跡

第1号溝跡（第4図、第70図）

D-7、E-6・7グリッドに位置し、北側が千間堀り水路、南側が調査区外にある。第2・3・4・6・7・9号溝跡と平行し、第5・14号溝跡と交差する。

第1号住居跡、第1・9号井戸跡、第35号土壙と重複し、新旧関係は第9号溝跡よりも先行し、第1号住居跡よりも新しい。規模は幅0.95~0.28m、深さ0.41~0.10m、走行方位N-38°-Eを測る。溝底は北から南に約0.5%の傾斜をもって下り、D-7グリッドには長さ4.4mにわたり、深く掘り込まれた箇所がある。遺物は図示し得ないが、土師器甕片、須恵器甕・壺・長頸壺片、中世土器鉢・椀片が出土している。

第2・9号溝跡（第4図、第70図）

D-7・E-7グリッドに位置し、北側が千間堀水路、南側が調査区外にある。第1・3・4・6・7号溝跡と平行し、第5・14号溝跡と交差する。第2号溝跡が第5号溝跡と交差する箇所から南側では、第2号溝跡の延長上に第9号溝跡が走り、第2号溝跡は第5号溝跡と交差する箇所で屈曲して第9号溝跡に平行する溝跡として調査されている。土層断面の観察は行われていないが、平面的な位置関係からは、第9号溝跡を第2号溝跡を掘り直した溝跡とし、交差する第5号溝跡以南の第2号溝跡は異なる溝跡と捉える方が理解しやすい。

第2号溝跡の規模は幅0.77~0.22m、深さ0.45~0.07m、走行方位は第5号溝跡と交差する北側がN-45°-E、南側がN-37°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。第29号土壙と重複する。遺物は図示し得ないが、土師器甕、須恵器壺片、常滑甕片が出土している。

第9号溝跡の規模は幅0.87~0.63m、深さ0.44~

0.32m、走行方位N-38°-Eを測る。溝底レベルは、ほぼ一定である。重複する第1号溝跡よりも新しい。出土遺物はない。

第3号溝跡（第4図、第70図）

D-7グリッドに位置し、北側が千間堀水路にある。第1・2・4・6・7・9号溝跡と平行し、緩やかにカーブしながら第5号溝跡と垂直に交わり、第14号溝跡と交差する。第2・3・28号土壙と重複し、新旧関係は第3号土壙よりも先行し、第2号土壙、第5号溝跡よりも新しい。規模は幅0.67~0.27m、深さ0.29~0.09m、走行方位N-45°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

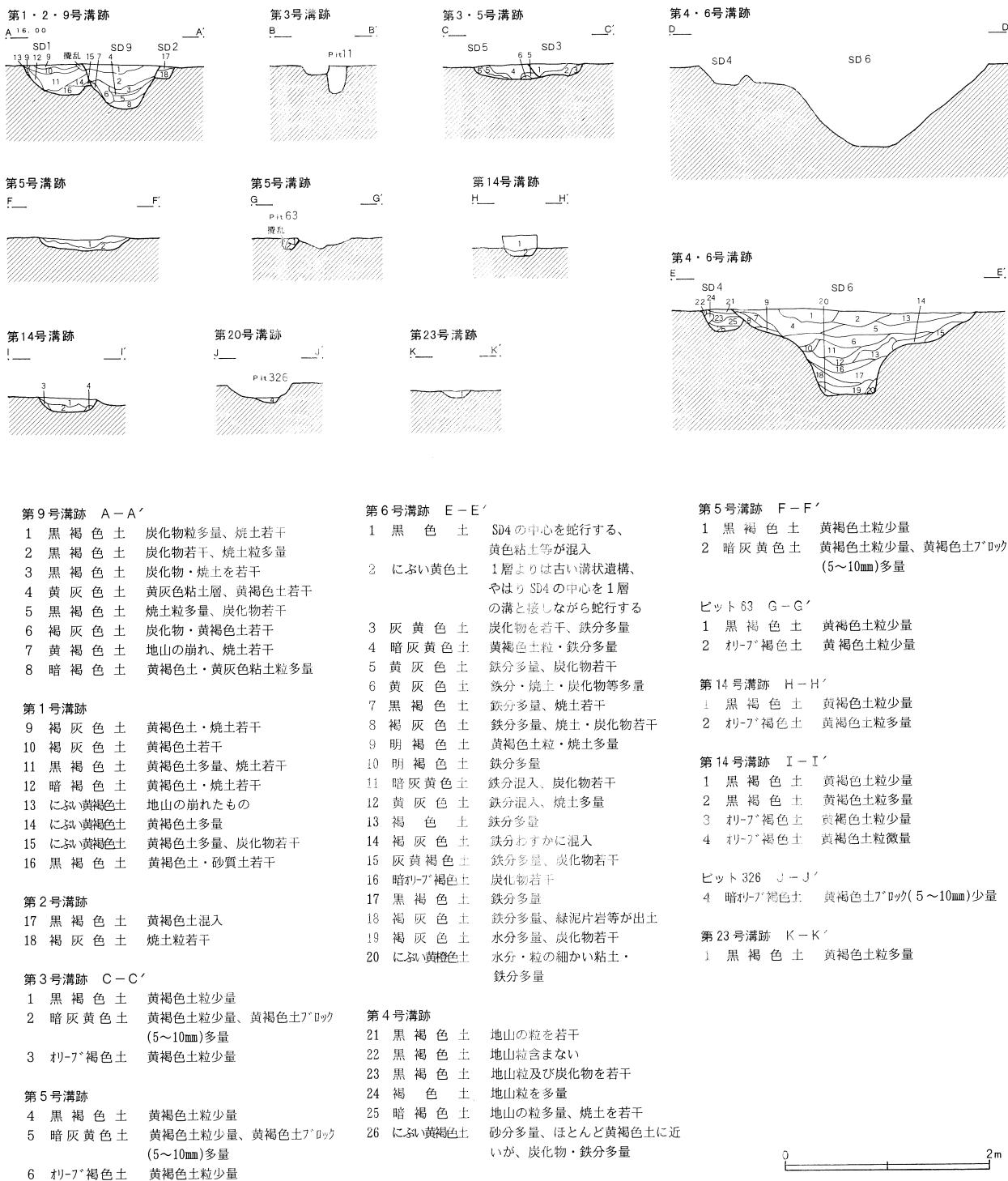
第4号溝跡（第4図、第70図）

D-7・E-7グリッドに位置し、北側が千間堀水路、南側が調査区外にある。第1・2・3・6・7・9号溝跡と平行し、第5・14号溝跡と交差する。第26号土壙と重複し、新旧関係は第6号溝跡よりも先行し、第26号土壙よりも新しい。規模は幅0.74~0.38m、深さ0.25~0.05m、走行方位はN-28°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。遺物は図示したほかに、土師器甕片、須恵器甕・壺片、常滑甕片、青磁碗片が出土している。

第6号溝跡（第4・11図、第70・77図）

B-9、C-9、D-7・8、E-7、F-7グリッドに位置し、南北ともに調査区外にある。B-9、C-9、D-8グリッドで2条の溝跡が、D-7グリッドで合流したものである。規模は合流したE-7グリッドでは幅2.65~2.10m、深さ1.16~0.88m、走行方位N-37°-Eを測る。2条の溝跡が平行するB-9、C-9グリッドでは西側の溝が幅1.83~1.68m、深さ0.32m、東側の溝跡は幅1.35~1.22m、深さ

第70図 溝跡断面図（1・第4図）

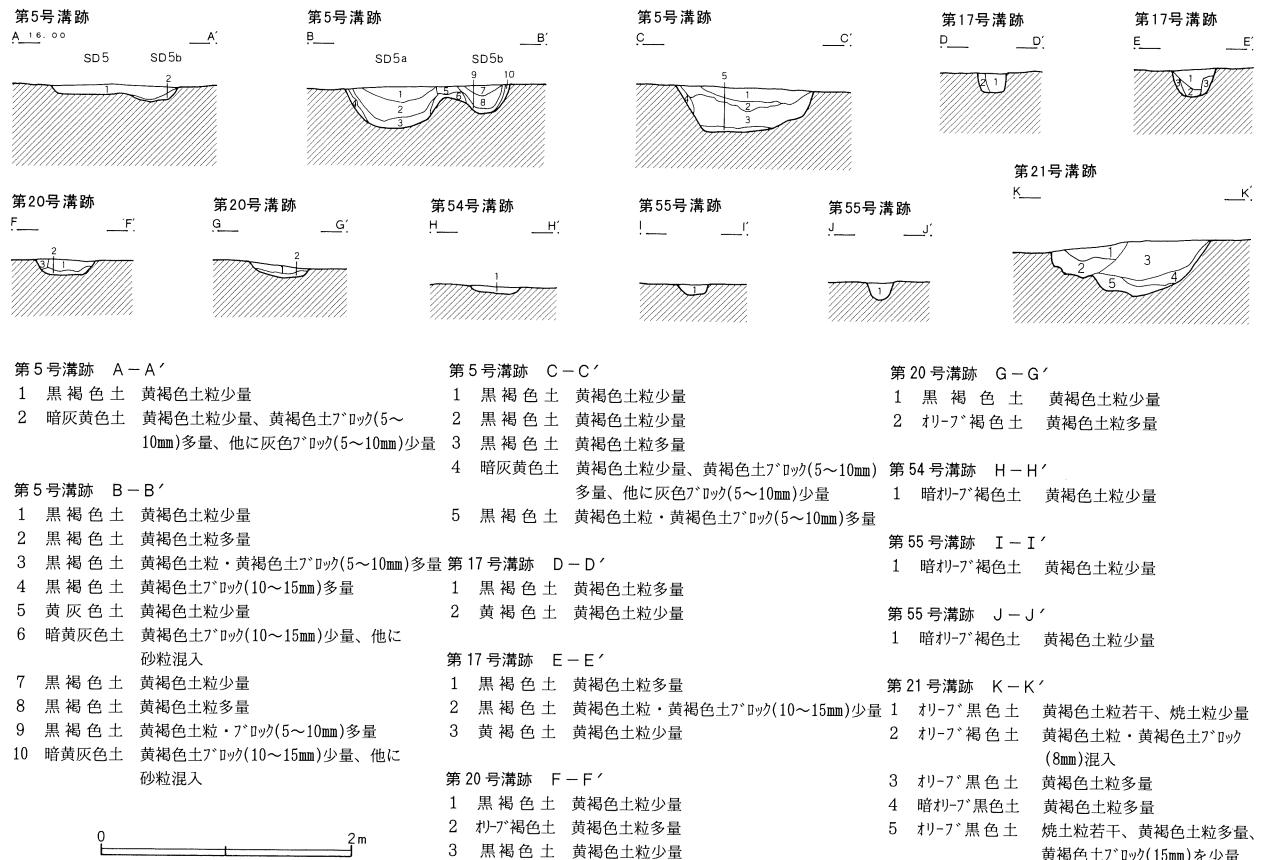


0.68~0.61mである。溝底は北から南へ約1.6%の傾斜をもって下る。第1・2・3・4・7・9号溝跡と平行し、第5・14号溝跡と交差する。重複する第2号住居跡、第33号土壙、第4号溝跡よりも新しい。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・長頸壺・蓋・坏片、常滑甕片、中世土器鉢片が出土している。

第7号溝跡（第4図）

C-7・D-7グリッドに位置し、北側が調査区外にある。第1・2・3・4・6・9号溝跡と平行し、第14号溝跡と垂直に交わる。第1号井戸跡、第32号土壙と重複する。規模は幅0.96~0.78m、深さ0.27m、

第71図 溝跡断面図（2・第5図）



走行方位N—45°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。遺物は図示し得ないが、土師器甕片、須恵器坏片、常滑甕片が出土している。

第23号溝跡（第4図、第70図）

E—8グリッドに位置する。第5号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.37~0.29m、深さ0.08~0.05m、走行方位N—45°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の傾斜をもって下る。出土遺物はない。

第14号溝跡（第4・5図、第70図）

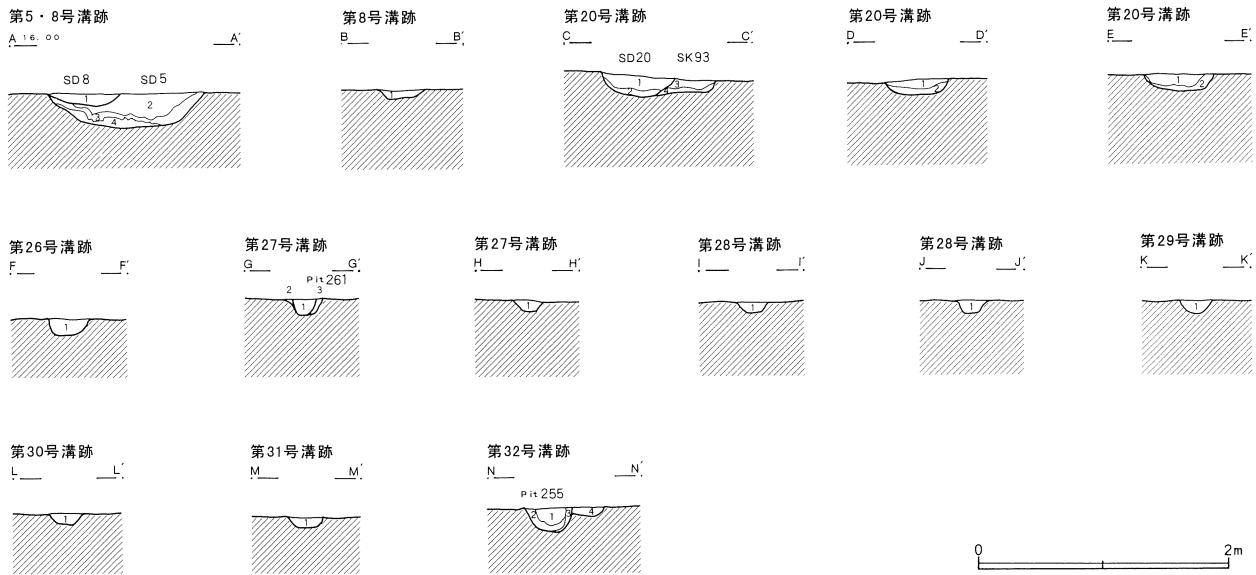
C—7、D—7・8、E—8・9グリッドに位置する。西は調査区外にあり、東はE—9グリッドで突然立ち上がる。約1m東に位置する第54号溝跡が走行方位をほぼ同じくするが、これに続く溝跡かの判断はできない。第1・2・3・4・6号溝跡と交差し、第7号溝跡と垂直に交わる。第1・18号住居跡、第1号井

戸跡、第29・34・36・37・46・48号土壌と重複し、新旧関係は第1号住居跡、第1号井戸跡よりも先行し、第18号住居跡、第36・46号土壌よりも新しい。規模は幅0.89~0.32m、深さ0.26~0.04m、走行方位N—50°—Wを測る。溝底は西から東へ約5%の傾斜をもって下る。遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第17号溝跡（第5図、第71図）

H—9、I—8・9グリッドに位置し、第21号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.68~0.18m、深さ0.34~0.14m、走行方位N—50°—Eを測る。溝底には方向を一致させて第103号土壌が掘り込まれているが、これは第17号溝跡に伴う遺構として捉えられる。溝底は北から南へ約2%の傾斜をもって下る。遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片、黑色土器碗片、須恵器甕・坏片が出土している。

第72図 溝跡断面図（3・第6図）



第8号溝跡 A-A'

1 黒褐色土 黄褐色土粒（細）少量

第5号溝跡

2 黒褐色土 黄褐色土粒少量

3 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック
(5~10mm)多量

4 灰り-7°色土 青灰色粒・黄褐色土粒混入

第8号溝跡 B-B'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第20号溝跡 C-C'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒多量

第93号土壤

3 黒褐色土 黄褐色土粒多量

4 暗灰黄色土 黄褐色土粒多量

第20号溝跡 D-D'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒多量

第20号溝跡 E-E'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

2 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒多量

第26号溝跡 F-F'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

ピット261 G-G'

1 黒褐色土 黄褐色土粒少量

第27号溝跡

2 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

3 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土
ブロック(5~10mm)少量

第27号溝跡 H-H'

1 オリ-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第28号溝跡 I-I'

1 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第28号溝跡 J-J'

1 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第29号溝跡 K-K'

1 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第30号溝跡 L-L'

1 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第31号溝跡 M-M'

1 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

ピット255 N-N'

1 黒褐色土 黄褐色土粒多量

2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土
ブロック(5~10mm)少量

3 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土
ブロック(5~10mm)多量

第32号溝跡

4 暗り-7°褐色土 黄褐色土粒少量

第54号溝跡（第5図、第71図）

E-9、F-9・10グリッドに位置し、西約1mに第14号溝跡がある。第65号土壤と重複するが、新旧関係は不明である。規模は幅0.68~0.45m、深さ0.10~0.05m、走行方位N-53°-Wを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第55号溝跡（第5図、第71図）

F-10・11、G-10グリッドに位置し、北は千間堀水路にある。重複する第77号土壤よりも古い。規模は幅0.48~0.22m、深さ0.18~0.10m、走行方位N-45°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物

はない。

第8号溝跡（第6図、第72図）

I-12グリッドに位置する。垂直に交わる第5号溝跡よりも新しい。規模は幅0.65~0.43m、深さ0.26~0.08m、走行方位N-36°-Eを測る。溝底は、南から第5号溝跡と垂直に交わる北に向かって、約3.3%の傾斜をもって下る。出土遺物はない。

第18号溝跡（第6・11図、第77図）

千間堀水路を挟んだF-13・14グリッドと、G-12・H-12グリッドに位置する。しかし水路北側のF-13・14グリッドには第15・16・18号溝跡が至近に

平行し、水路南側のG—12・H—12グリッドからいずれの溝跡に繋がるのか平面的には判断できない。F—13・14グリッドでは、溝底に第81号土壙が掘り込まれ、第18号溝跡に伴う遺構と捉えられる。規模は幅0.83～0.64m、深さ0.23m、走行方位N—39°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。G—12・H—12グリッドでは、幅0.72～0.50m、深さ0.23～0.07m、走行方位N—28～46°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の傾斜をもって下る。重複する第67号土壙との新旧関係は不明である。いずれの調査区からも遺物は出土していない。

第25号溝跡（第6図）

J—10・11、K—10グリッドに位置する。第20号溝跡と第21号溝跡に垂直に交わり、第19号住居跡、第94号土壙と重複する。新旧関係は第19号住居跡、第94号土壙よりも新しい。規模は幅0.86～0.65m、深さ0.28～0.14m、走行方位N—35～47°—Eを測る。溝底は北から南へ約1.5%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第26号溝跡（第6図、第72図）

H—11・I—11グリッドに位置する。第5号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.46～0.30m、深さ0.75～0.05m、走行方位N—40°—Eを測る。溝底は南から第5号溝跡と交わる北へ、約1.4%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第27号溝跡（第6図、第72図）

K—11・12グリッドに位置する。規模は延長6.7m、幅0.36～0.20m、深さ0.10～0.09m、走行方位N—30°—Eを測る。溝底は北から南へ約2%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第28号溝跡（第6図、第72図）

J—12、K—11・12、L—11グリッドに位置する。第21号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.42～0.27m、深さ0.14～0.10m、走行方位N—32°—Eを測る。溝底は北から第21号溝跡と交わる南へ約0.5%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第29号溝跡（第6図、第72図）

K—12グリッドに位置する。規模は延長5.1m、幅

0.42～0.30m、深さ0.36～0.08m、走行方位N—30°—Eを測る。溝底は北から南へ約7%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第30号溝跡（第6図、第72図）

K—12・L—12グリッドに位置する。第21号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.42～0.20m、深さ0.11～0.09m、走行方位N—33°—Eを測る。溝底は北から南へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第31号溝跡（第6図、第72図）

L—12グリッドに位置する。第21号溝跡と垂直に交わるが、新旧関係は不明である。規模は幅0.39～0.31m、深さ0.31～0.11m、走行方位N—34°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第32号溝跡（第6図、第72図）

J—11・K—11グリッドに位置し、南北端からピットが連続する。規模は幅0.43～0.30m、深さ0.11～0.08m、走行方位N—26°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第19号溝跡（第7図、第73図）

L—15グリッドに位置する。規模は延長5.8m、幅0.62～0.30m、深さ0.12～0.08m、走行方位N—50°—Wを測る。溝底は西から東へ約2%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

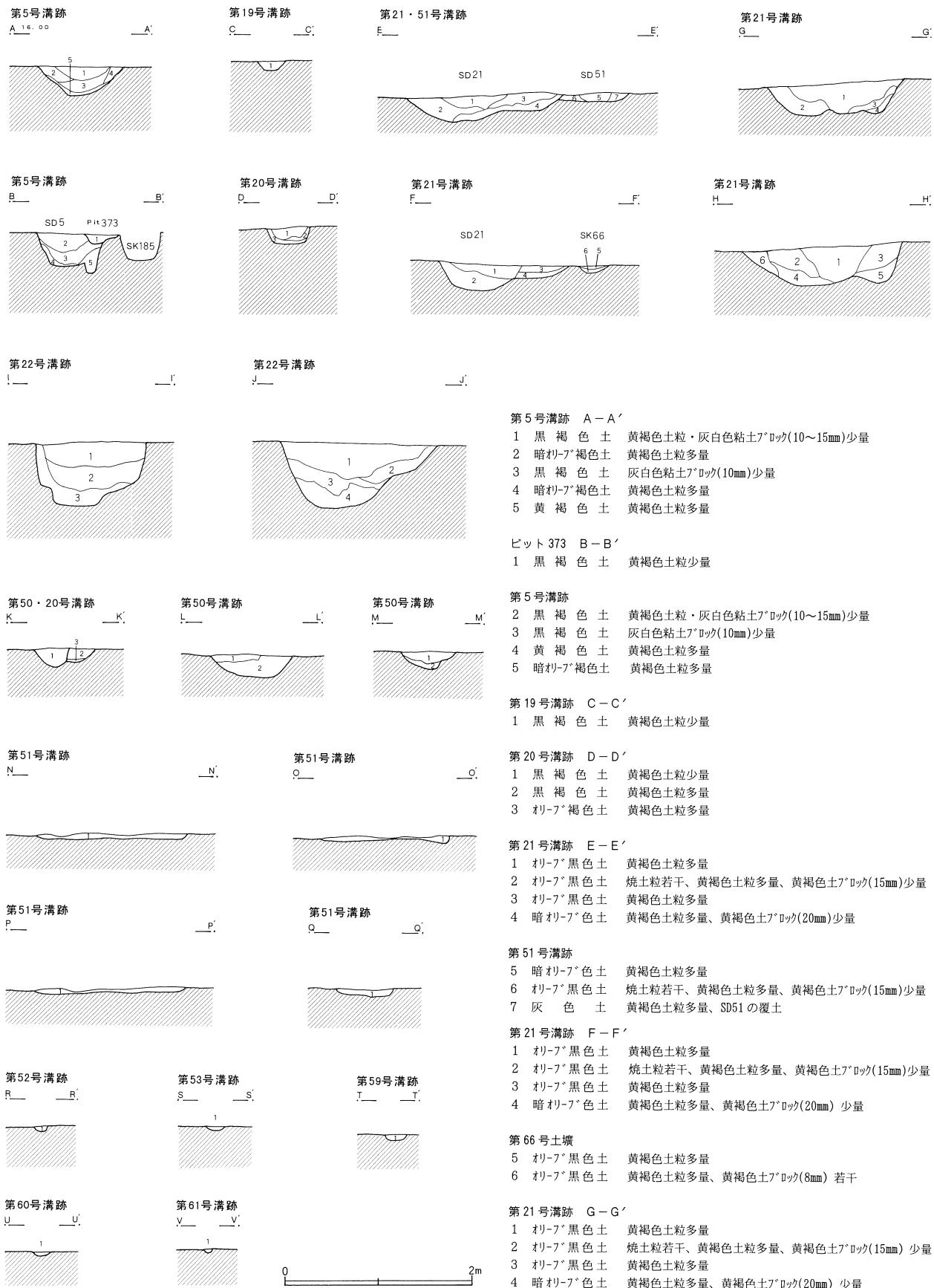
第50号溝跡（第7図、第73図）

M—15・16、L—16グリッドに位置する。第20号溝跡と交差し、第21号溝跡と垂直に交わる。新旧関係は第20・21号溝跡よりも先行する。規模は幅1.50～0.26m、深さ0.66～0.16m、走行方位N—35°—Eを測る。溝底は北から南へ約1.5%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第51号溝跡（第7図、第73図）

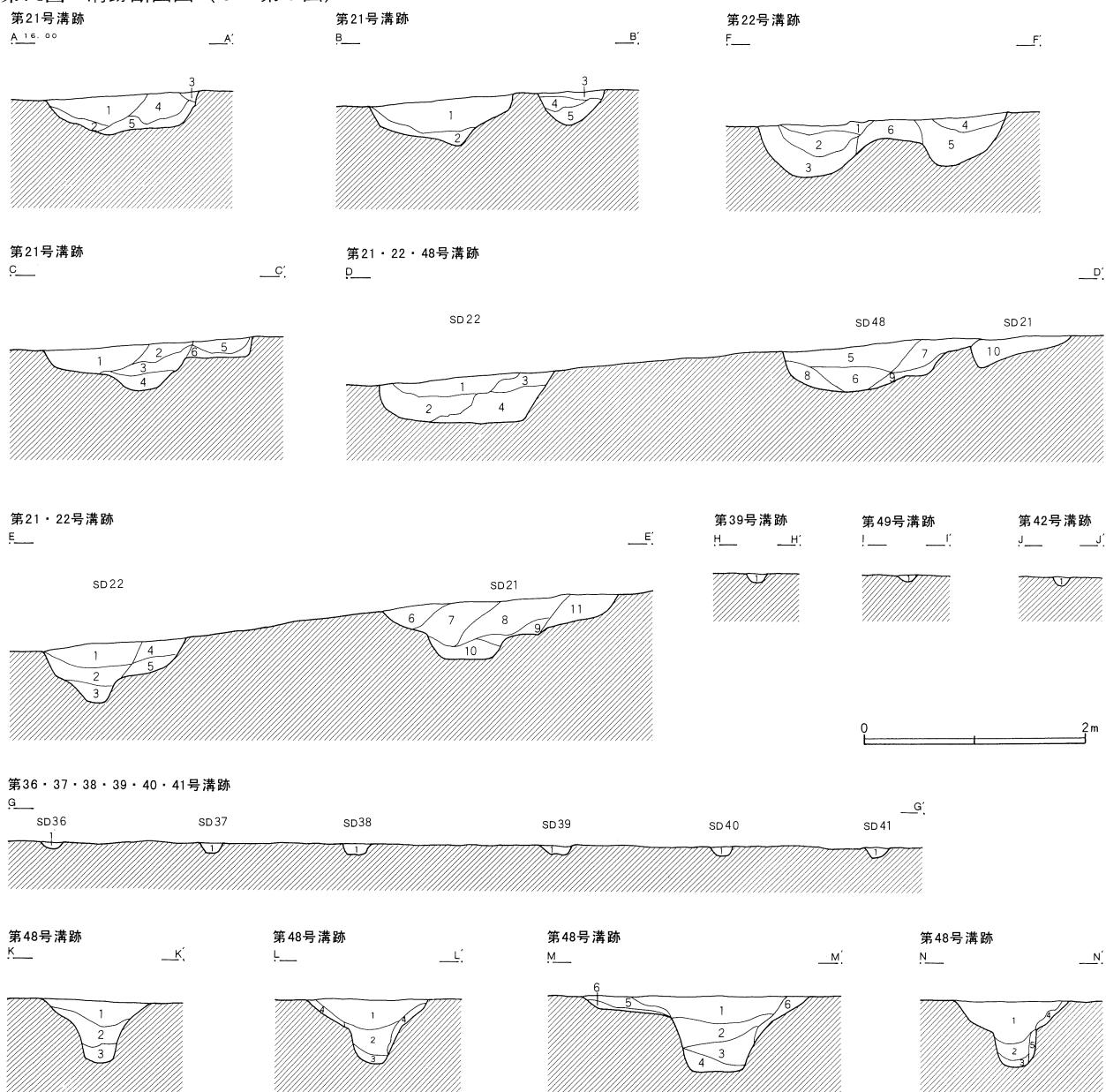
K—13・14、L—13・14、M—13グリッドに位置する。垂直に交わる第21号溝跡よりも古い。規模は幅1.24～0.64m、深さ0.13～0.05m、走行方位N—37°—Eを測る。溝底は北から南へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第73図 溝跡断面図 (4・第7図)



第21号溝跡 H-H'	1 オリ-7° 黒色土 2 オリ-7° 黒色土 3 オリ-7° 黒色土 4 暗オリ-7° 色土 5 オリ-7° 黒色土 6 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (20mm) 少量 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干 焼土粒若干、黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (15mm) 少量
第22号溝跡 I-I'	1 暗オリ-7° 色土 2 オリ-7° 黒色土 3 オリ-7° 黒色土 4 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒少量、焼土粒若干 黄褐色土粒多量、焼土粒若干 黄褐色土粒多量、焼土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干 黄褐色土粒多量、焼土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干
第22号溝跡 J-J'	1 暗オリ-7° 色土 2 オリ-7° 黒色土 3 オリ-7° 黒色土 4 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒少量、焼土粒若干 黄褐色土粒多量、焼土粒若干 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量、焼土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干
第21号溝跡 A-A'	1 暗オリ-7° 黒色土 2 オリ-7° 黒色土 3 灰色土 4 オリ-7° 黒色土 5 暗オリ-7° 色土	黄褐色土粒多量 焼土粒若干、黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (15mm) 少量 搅乱層 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (20mm) 少量
第21号溝跡 B-B'	1 暗オリ-7° 黒色土 2 オリ-7° 黒色土 3 灰色土 4 オリ-7° 黒色土 5 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒多量 焼土粒若干、黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (15mm) 少量 搅乱層 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 多量
第21号溝跡 C-C'	1 暗オリ-7° 黒色土 2 オリ-7° 黒色土 3 オリ-7° 黒色土 4 オリ-7° 黒色土 5 オリ-7° 黒色土 6 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 多量 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量、黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干
第22号溝跡 F-F'	1 オリ-7° 黒色土 2 オリ-7° 褐色土 3 暗オリ-7° 色土 4 オリ-7° 黒色土 5 オリ-7° 黒色土 6 オリ-7° 黒色土	黄褐色土粒若干、焼土粒少量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干 黄褐色土粒若干、焼土粒微量、黄褐色土 ^{ワロク} 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (8mm) 若干 黄褐色土粒多量 黄褐色土粒多量
第36号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第37号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第38号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第39号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第40号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第41号溝跡 G-G'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第42号溝跡 J-J'	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
第43号溝跡 K-K'	1 黒褐色土 2 黒褐色土 3 暗灰黄色土	黄褐色土粒少量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (5~10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量
第44号溝跡 L-L'	1 黒褐色土 2 黒褐色土 3 暗灰黄色土 4 オリ-7° 褐色土	黄褐色土粒少量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量
第45号溝跡 M-M'	1 黒褐色土 2 黒褐色土 3 暗灰黄色土 4 オリ-7° 褐色土 5 黄褐色土	黄褐色土粒少量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (5~10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土粒少量
第46号溝跡 N-N'	1 黒褐色土 2 黒褐色土 3 暗灰黄色土 4 オリ-7° 褐色土 5 黄褐色土	黄褐色土粒少量 黄褐色土粒・黄褐色土 ^{ワロク} (5~10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土 ^{ワロク} (10mm) 少量 黄褐色土粒少量

第74図 溝跡断面図（5・第8図）



第52号溝跡（第7図、第73図）

L—14・M—14グリッドに位置する。規模は延長3.5m、幅0.23m、深さ0.03m、走行方位N—40°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第53号溝跡（第7図、第73図）

M—14グリッドに位置する。規模は延長4.2m、幅0.29~0.22m、深さ0.06m、走行方位N—36°—Eを測る。溝底は北から南へ約3%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第59号溝跡（第7図、第73図）

J—16グリッドに位置する。「L」字に屈曲する溝跡

で、第5号溝跡、第185号土壌と重複する。新旧関係は不明である。規模は幅0.56~0.26m、深さ0.08~0.06mを測る。走行方位は東西方向がN—59°—W、南北方向がN—38°—Eである。溝底は東から西へ約0.5%、北から南へ約3%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第60号溝跡（第7図、第73図）

J—15・K—15グリッドに位置する。規模は延長7.3m、幅0.30~0.18m、深さ0.06~0.04m、走行方位N—25°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第61号溝跡（第7図、第73図）

K—15・16、L—15グリッドに位置し、北端が西に振れる。規模は延長7.3m、幅0.20~0.10m、深さ0.05~0.04m、走行方位N—27°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第36号溝跡（第8図、第74図）

L—18、M—17・18グリッドに位置する。規模は延長8.3m、幅0.35~0.19m、深さ0.09~0.05m、走行方位N—20°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第37号溝跡（第8図、第74図）

L—18・M—18グリッドに位置する。規模は延長5.7m、幅0.33~0.17m、深さ0.12~0.07m、走行方位N—28°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第38号溝跡（第8図、第74図）

L—18・M—18グリッドに位置する。重複する第134号土壙よりも古い。規模は延長9.1m、幅0.48~0.16m、深さ0.14~0.05m、走行方位N—29°—Eを測る。溝底は南から北へ約0.6%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第39号溝跡（第8図、第74図）

L—18、M—18、N—17・18グリッドに位置する。第20号溝跡と交差するが、新旧関係は不明である。規模は延長22.8m、幅0.43~0.16m、深さ0.14~0.05m、走行方位N—24°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第40号溝跡（第8図、第74図）

M—18グリッドに位置し、南0.6mの地点から始まる第49号溝跡と繋がる可能性がある。規模は延長9.3m、幅0.32~0.23m、深さ0.10~0.06m、走行方位N—20°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第41号溝跡（第8図、第74図）

M—18・19グリッドに位置する。規模は延長3.1m、幅0.31~0.26m、深さ0.12~0.08m、走行方位N—10°—Eを測る。溝底は南から北へ約1%の勾配をもって

下る。出土遺物はない。

第42号溝跡（第8図、第74図）

M—19・N—19グリッドに位置する。規模は延長3.9m、幅0.25~0.19m、深さ0.12~0.06m、走行方位N—17°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第48号溝跡（第8図、第74図）

M—19・20、N—18・19、O—18、P—17・18グリッドに位置し、北が千間堀水路、南が調査区外にある。第20・21・22号溝跡と交差し、第1号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。規模は幅1.80~1.03m、深さ0.94~0.68m、走行方位N—35°—Eを測る。溝底は北から南へ約1%の勾配をもって下る。遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第49号溝跡（第8図、第74図）

M—18・N—18グリッドに位置する。規模は延長6.6m、幅0.28~0.20m、深さ0.07~0.04m、走行方位N—22°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

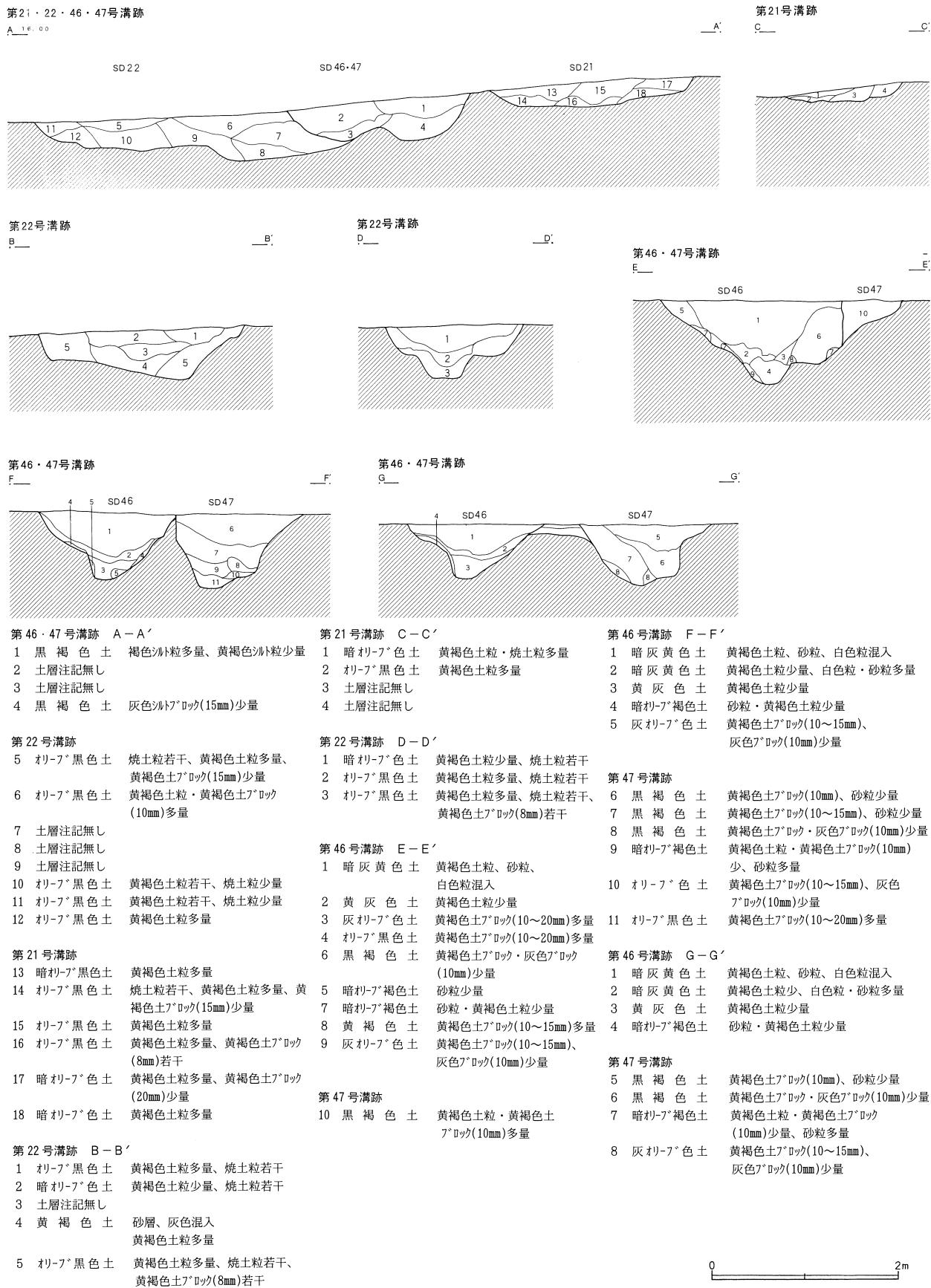
第46号溝跡（第9図、第75図）

N—20・21、O—20、P—19・20、Q—19グリッドに位置し、北が千間堀水路、南が調査区外にある。第47号溝跡と平行し、N—21グリッドでは接している。第20・21・22号溝跡と交差し、新旧関係は第22・47号溝跡よりも新しい。規模は幅2.17~1.57m、深さ1.04~0.28m、走行方位N—35°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定で、O—20グリッド付近が若干低い。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕片が出土している。

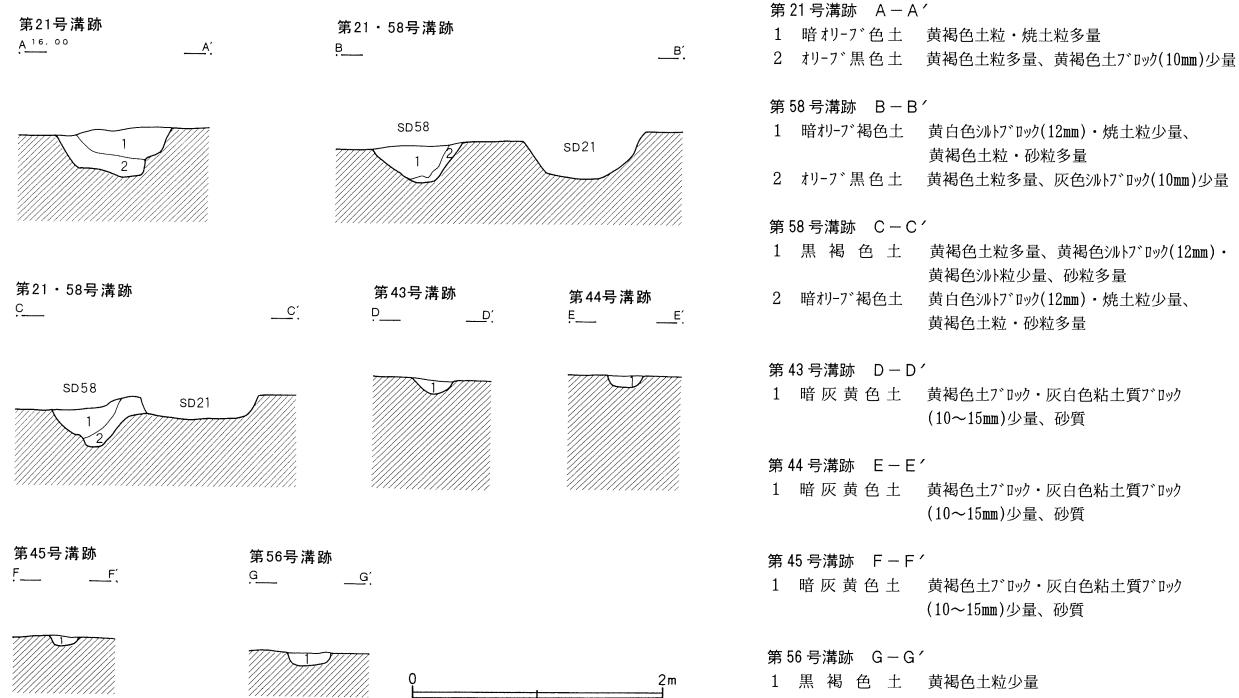
第47号溝跡（第9図、第75図）

N—21、O—20・21、P—19・20、Q—19グリッドに位置し、北が千間堀水路、南が調査区外にある。第46号溝跡と平行し、N—21グリッドでは接している。第20・21・22号溝跡と交差し、第177号土壙と重複する。新旧関係は第46号溝跡よりも先行し、第22号溝跡よりも新しい。規模は幅1.93~1.21m、深さ1.20~0.49m、走行方位N—30°—Eを測る。溝底レベルはほぼ一定で

第75図 溝跡断面図（6・第9図）



第76図 溝跡断面図（7・第10図）



ある。遺物は近世の磁器類が多く出土している。

第43号溝跡（第10図、第76図）

R-24・S-24グリッドに位置する。規模は延長4.4m、幅0.48~0.36m、深さ0.13~0.03m、走行方位N-49°-Eを測る。溝底は南から北へ約0.4%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第44号溝跡（第10図、第76図）

R-24グリッドに位置する。規模は延長3.6m、幅0.40~0.38m、深さ0.13~0.09m、走行方位N-61°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第45号溝跡（第10図、第76図）

Q-24・R-24グリッドに位置する。規模は延長7.6m、幅0.43~0.28m、深さ0.10~0.08m、走行方位N-22°-Eを測る。溝底は北から南へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第56号溝跡（第10図、第76図）

Q-24・25グリッドに位置し、東が千間堀水路にあり、緩やかにカーブを描く。規模は幅0.51~0.42m、深さ0.17~0.10m、走行方位N-62°-Eを測る。溝底

は西から東へ約1%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第58号溝跡（第10図、第76図）

S-22・23、T-23グリッドに位置し、西が調査区外にある。第21号溝跡と交差するが、新旧関係は不明である。規模は幅1.02~0.62m、深さ0.51~0.18m、走行方位N-67°-Wを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

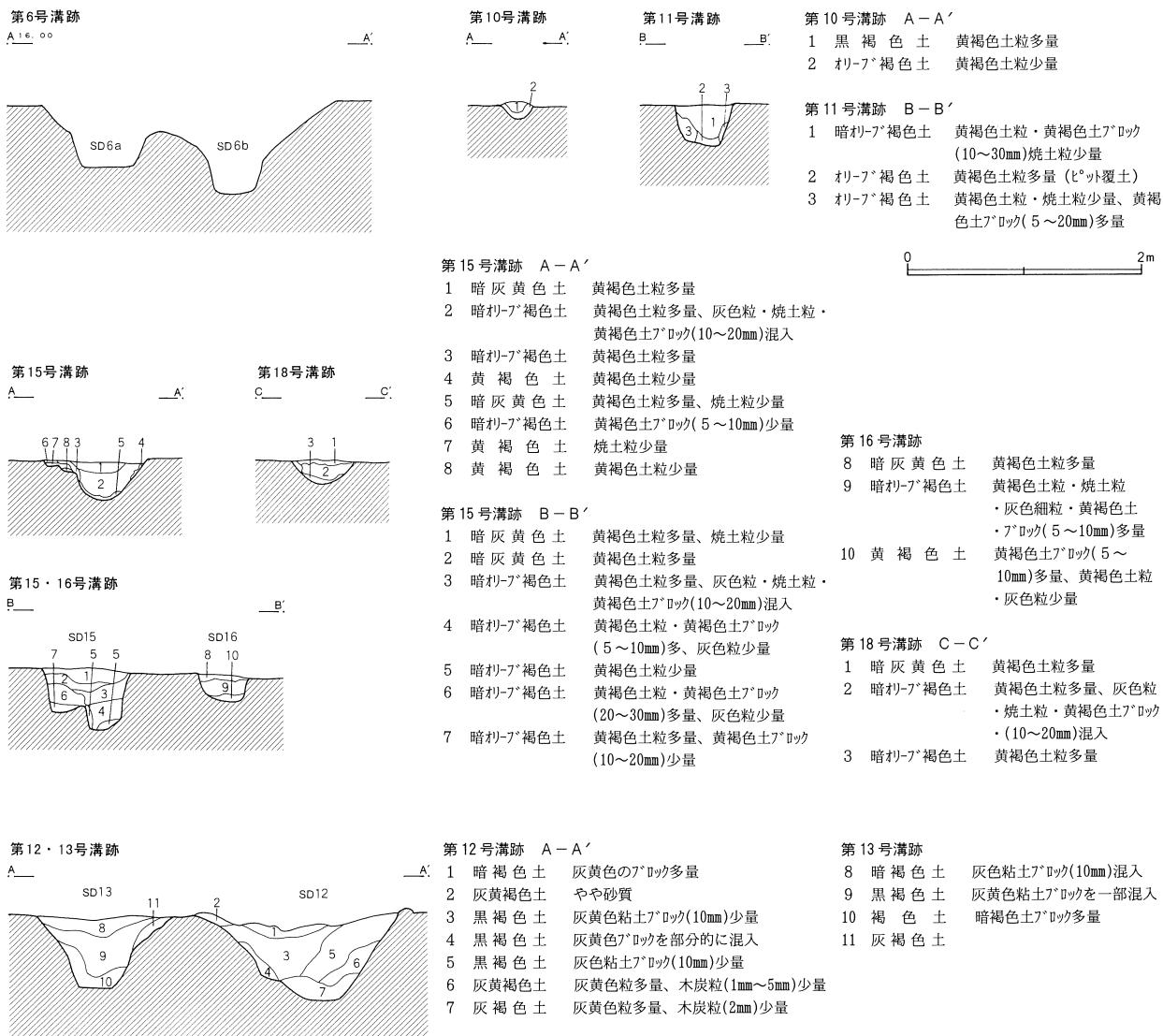
第10号溝跡（第11図、第77図）

C-9・10グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間堀水路にある。水路南側の調査区にはこれに続く溝跡は検出されていない。規模は幅0.34~0.30m、深さ0.15~0.04m、走行方位N-34°-Eを測る。溝底は北から南へ約2.5%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第11号溝跡（第11図、第77図）

D-10・11グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間堀水路にある。水路南側の調査区にはこれに続く溝跡は検出されていない。規模は幅0.73~0.66m、深さ0.37~0.36m、走行方位N-45°-Eを測る。溝底レ

第77図 溝跡断面図（8・第11・12図）



ベルは基本的に均一であるが、千間堀水路際に土壌状の窪みがある。出土遺物はない。

第15号溝跡（第11図、第77図）

F-13グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間堀水路にある。水路南側G-12・H-12グリッドの第18号溝跡がこれに続く可能性がある。方向を一致させて溝底に掘り込まれた第88号土壌は、第15号溝跡に伴う遺構と捉えられる。規模は幅1.01~0.82m、深さ0.51~0.42m、走行方位N-33°-Eを測る。溝底レベルは均一であるが、千間堀水路際に土壌状の窪みがある。出土遺物はない。

第16号溝跡（第11図、第77図）

F-13グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間

堀水路にある。水路南側G-12・H-12グリッドの第18号溝跡がこれに続く可能性がある。規模は幅0.60~0.51m、深さ0.29~0.26m、走行方位N-29°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

第12号溝跡（第12図、第77図）

L-22グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間堀水路にある。水路南側N-20・21、O-20・21、P-19・20、Q-19グリッドの第46号溝跡がこれに続く可能性がある。規模は幅1.93~1.81m、深さ0.89~0.85m、走行方位N-25°-Eを測る。溝底レベルはほぼ一定である。出土遺物はない。

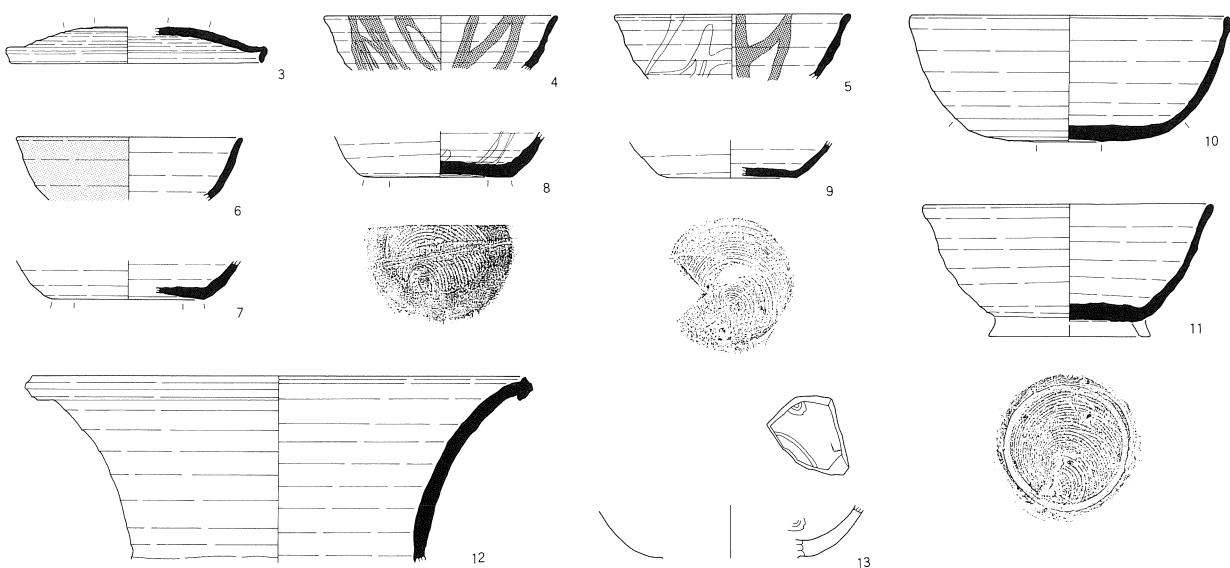
第13号溝跡（第12図、第77図）

第78図 溝跡出土遺物（Ⅰ）

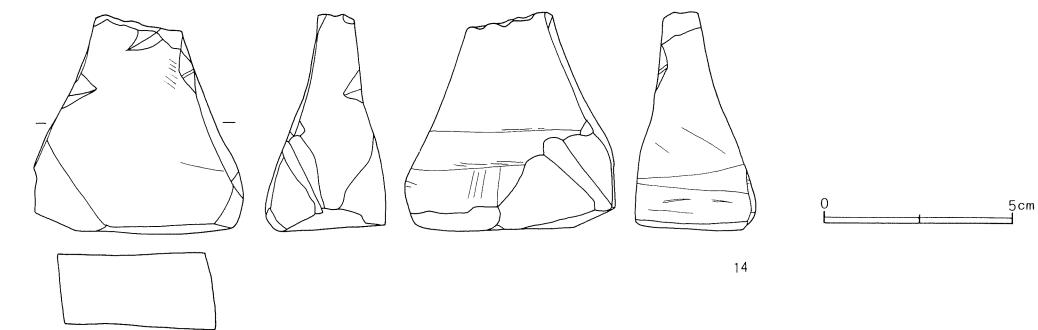
第4号溝跡



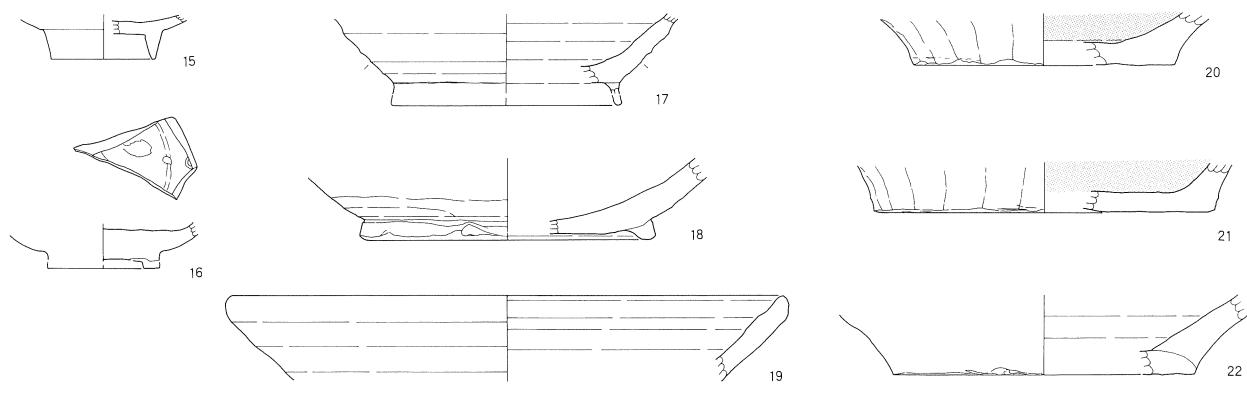
第5号溝跡



第6号溝跡



第21号溝跡

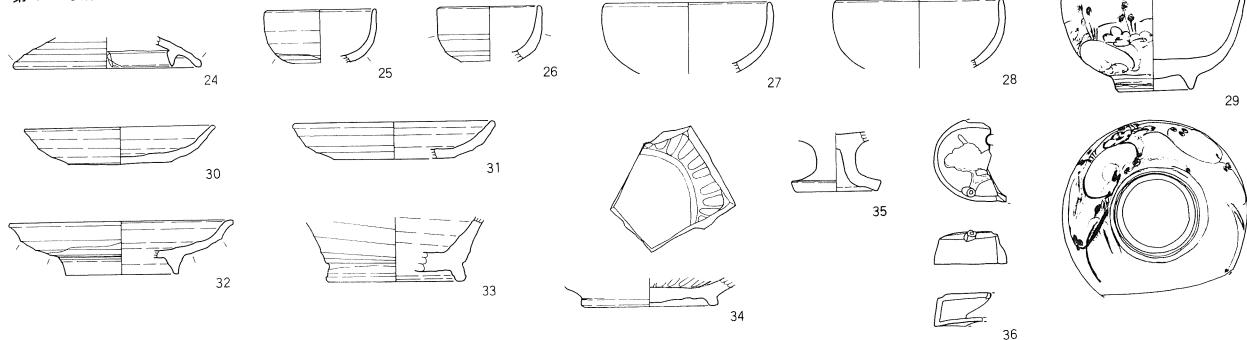


第79図 溝跡出土遺物（2）

第46号溝跡



第47号溝跡



第4・5・6・21・46・47号溝跡出土遺物観察表（第78・79図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	鉢		(3.9)	(12.6)	W	A	灰白色	5	SD 4
2	鉢		(4.6)	(14.0)	W針	A	灰色	5	SD 4 自然釉付着
3	蓋		(1.9)	(13.4)	W針	A	灰色	10	SD 5 南北企産
4	壺	(12.4)	(3.4)		W針	A	灰色	10	SD 5 火だすき 南北企産
5	壺	(12.2)	(2.9)		W針	A	灰色	20	SD 5 火だすき 南北企産
6	壺	(11.9)	(3.4)		W片	A	灰色	10	SD 5 外面自然釉付着 末野産
7	壺		(2.0)	(8.0)	BW針	A	灰色	10	SD 5 南北企産
8	壺		(2.4)	7.8	BW針	A	灰色	20	SD 5 火だすき 南北企産
9	壺		(2.0)	6.8	W針	A	灰色	20	SD 5 南北企産
10	椀	(16.8)	6.6	(6.4)	W針	B	灰白色	25	SD 5 南北企産
11	高台付椀	(15.2)	(6.2)		BW片	B	黄灰色	60	SD 5 高台欠損 末野産
12	甕	(26.0)	(9.8)		B RW	B	灰色	5	末野産
13	鉢		(2.8)		W	A	灰白色	5	SD 5 内外面とも施釉—オリーブ
14	砥石								SD 6 (5.7) × 5.6cm 95.22g
15	白磁皿		(2.3)	(5.5)	W	A	灰白色	10	SD21 施釉
16	皿		(2.0)		W	A	灰白色	5	SD21 施釉—オリーブ灰
17	鉢		(4.2)		W	A	灰白色	5	SD21
18	鉢		(4.3)	(15.6)	BW	A	灰白色	5	SD21
19	鉢	(29.2)	(4.5)		BW	B	灰色	5	SD21
20	甕			(13.8)	W	A	灰色	5	SD21 自然釉付着
21	甕		(2.6)	(18.0)	W	A	にぶい黄橙色	5	SD21 自然釉付着
22	甕		(4.2)	(16.0)	W	A	にぶい橙色	5	SD21
23	鉢	(27.5)	(8.0)		BW	A	灰白色	5	SD46 自然釉付着
24	蓋	(9.7)	(1.6)		W	A	灰白色	10	SD47 内外面とも施釉—明褐色 切れ込み入る
25	猪口	(5.8)	(2.8)		W	A	灰白色	20	SD47 内外面とも施釉
26	猪口	(5.3)	(2.9)		W	A	灰白色	25	SD47 内外面とも施釉
27	椀	(8.8)	(3.7)		W	A	灰白色	10	SD47 内外面とも施釉
28	磁器椀	(8.7)	(3.6)		W	A	灰白色	10	SD47 内外面とも施釉
29	皿	9.7	5.0	4.1	W	A	白色	90	SD47 内外面とも施釉—灰白
30	皿	10.1	1.9	5.5	W	A	灰赤色	60	SD47 底部糸切離し
31	皿	(10.6)	1.9	(6.4)	BW	A	灰白色	30	SD47 釉一にぶい褐色 内外面とも施釉
32	皿	(11.9)	2.8	(6.0)	W	A	灰白色	25	SD47 施釉
33	鉢		(3.3)	(7.3)	W	A	灰白色	10	SD47 内面施釉—にぶい橙色
34	皿		(1.5)	(7.2)	W	A	灰白色	10	SD47 内面施釉—灰オリーブ
35	仏飯器		(3.1)	4.3	W	A	灰白色	5	SD47 施釉
36	水差		1.8		W	A	灰白色	50	SD47 施釉—灰白 先端欠

L—22グリッドに位置し、北が調査区外、南が千間堀水路にある。水路南側N—20・21、O—20・21、P—19・20、Q—19グリッドの第47号溝跡がこれに続く可能性がある。規模は幅1.15～1.02m、深さ0.79～0.70m、走行方位N—71°—Eを測る。溝底は南から北へ約1.8%の勾配をもって下る。出土遺物はない。

第5号溝跡（第4～7図、第70～73図）

D—6・7、E—7・8、F—8・9、G—9・10、H—10・11・12、I—11・12・13・14、J—13・14・15・16グリッドに位置する。遺跡の立地する自然堤防に沿った溝跡で、緩やかな弧を描く。西端が調査区外、東端が千間堀水路にあり、千間堀水路北側の調査区にはこれに続く溝跡は検出されていない。F—9、G—9・10グリッドでは平行する2条の溝跡となり、数度の改削が行われているものと考えられる。第1・2・4・6号溝跡と交差し、第3・8・9・23・26号溝跡と垂直に交わる。第59号溝跡、第13号住居跡、第6・7号井戸跡、第1・11・13・14・15・16・17・18・19・27・28・30・45・47・50・113・184号土壙と重複する。新旧関係が明らかな重複遺構は第13号住居跡、第7号井戸跡、第1・27・113号土壙、第3・8号溝跡が第5号溝跡よりも新しく、第11・13・14・15・16・17・45号土壙が第5号溝跡よりも古い。規模は幅2.60～0.57m、深さ0.55～0.12m、走行方位N—50～63～75°—Wを測る。溝底は西から東へ約0.5%の勾配をもって下る。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・蓋・坏片、山茶碗系鉢片、中世土器甕片が出土している。

第20号溝跡（第4～9図、第70～73図）

F—7、G—7・8、H—8・9・10、I—10・11、J—11・12・13、K—13・14・15、L—15・16、M—16・17・18、N—18・19・20、O—20・21・22グリッドに位置する。遺跡の立地する自然堤防に沿った溝跡で、緩やかな弧を描く。西端が調査区外、東端が千間堀水路にあり、千間堀水路北側の調査区にはこれに続く溝跡は検出されていない。第25号溝跡と垂直に交わり、第39・46・47・48・49・50号溝跡と交差する。第

1号掘立柱建物跡、第27・28号住居跡、第93・101・154・183号土壙と重複する。新旧関係は第1号掘立柱建物跡、第27・28号住居跡、第183号土壙よりも先行し、第93・154号土壙よりも新しい。規模は幅0.90～0.40m、深さ0.30～0.06m、走行方位N—53～63～90°—Wを測る。溝底レベルはほぼ一定である。遺物は図示し得ないが、須恵器長頸壺片が出土している。

第21号溝跡（第5～10図、第71・73～76）

I—8、J—8・9、K—9・10・11、L—11・12・13、M—12・13・14・15、N—15・16・17、O—16・17・18、P—18・19・20、Q—19・20・21、R—21・22、S—22・23、T—23グリッドに位置する。遺跡の立地する自然堤防に沿った溝跡で、緩やかな弧を描く。西端が調査区外にあり、東端はT—23グリッドで立ち上がる。第17・25・28・30・31・50・51号溝跡と垂直に交わり、第46・47・48・58号溝跡と交差する。第19・30・34号住居跡、第108・109・178・199号土壙と重複する。新旧関係は第30号住居跡、第109号土壙よりも先行し、第19・34号住居跡、第108号土壙、第51号溝跡よりも新しい。規模は幅2.95～0.11m、深さ0.71～0.19m、走行方位N—40～60～50～47°—Wを測る。溝底レベルはほぼ均一で、勾配は認められない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片、須恵器甕・長頸壺・坏片、中世土器甕・鉢片、馬齒が出土している。

第22号溝跡（第7～9図、第73～75図）

M—12・13・14、N—14・15・16、O—16・17、P—17・18・19、Q—19・20、R—20グリッドに位置する。遺跡の立地する自然堤防に沿った溝跡で、調査区東半部で検出されている。西半部では平行する第21号溝跡南側は確認できない。直線的に緩やかな弧を描き、Q—20・R—20グリッドで北から南に屈曲する。第46・47・48号溝跡と交差し、新旧関係は第46・47号溝跡よりも先行する。規模は幅3.0～1.26m、深さ0.94～0.42m、走行方位N—55°—Wを測る。溝底は西から東へ約0.4%の勾配をもって緩やかに下る。遺物は図示し得ないが、土師器坏片、須恵器甕・坏片、埴輪片、常滑甕片、中世土器碗片が出土している。

6. その他の遺構と遺物

(1) 性格不明遺構

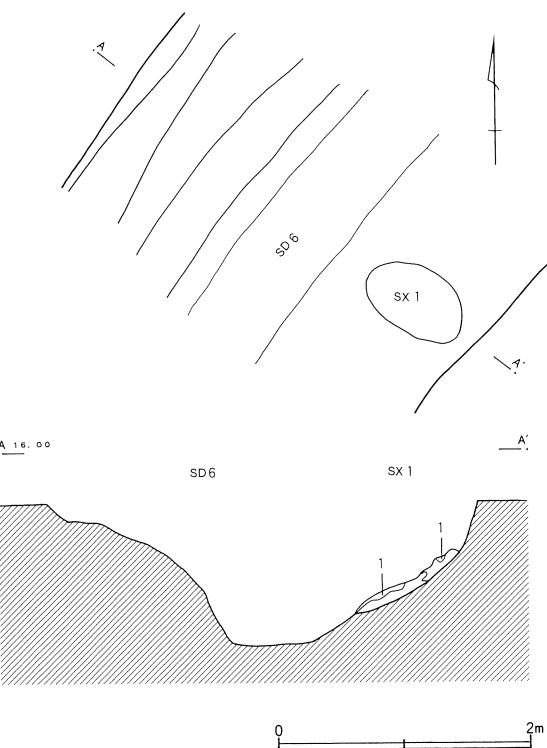
第1号性格不明遺構 (第80図)

E—7グリッドに位置し、第6号溝跡と重複する。第6号溝跡調査中に、東西0.85m、南北0.52mの範囲に焼土が集中して検出された箇所である。覆土の1層は焼土ブロック(10~25mm)を多量に含む黒褐色土、2層は焼土粒を少量含む黄褐色土である。また多量の土師器片が出土している状況から、焼成坑の可能性がある。しかしながら、第6号溝跡調査中の発見であり、形態・規模・構造については不明である。

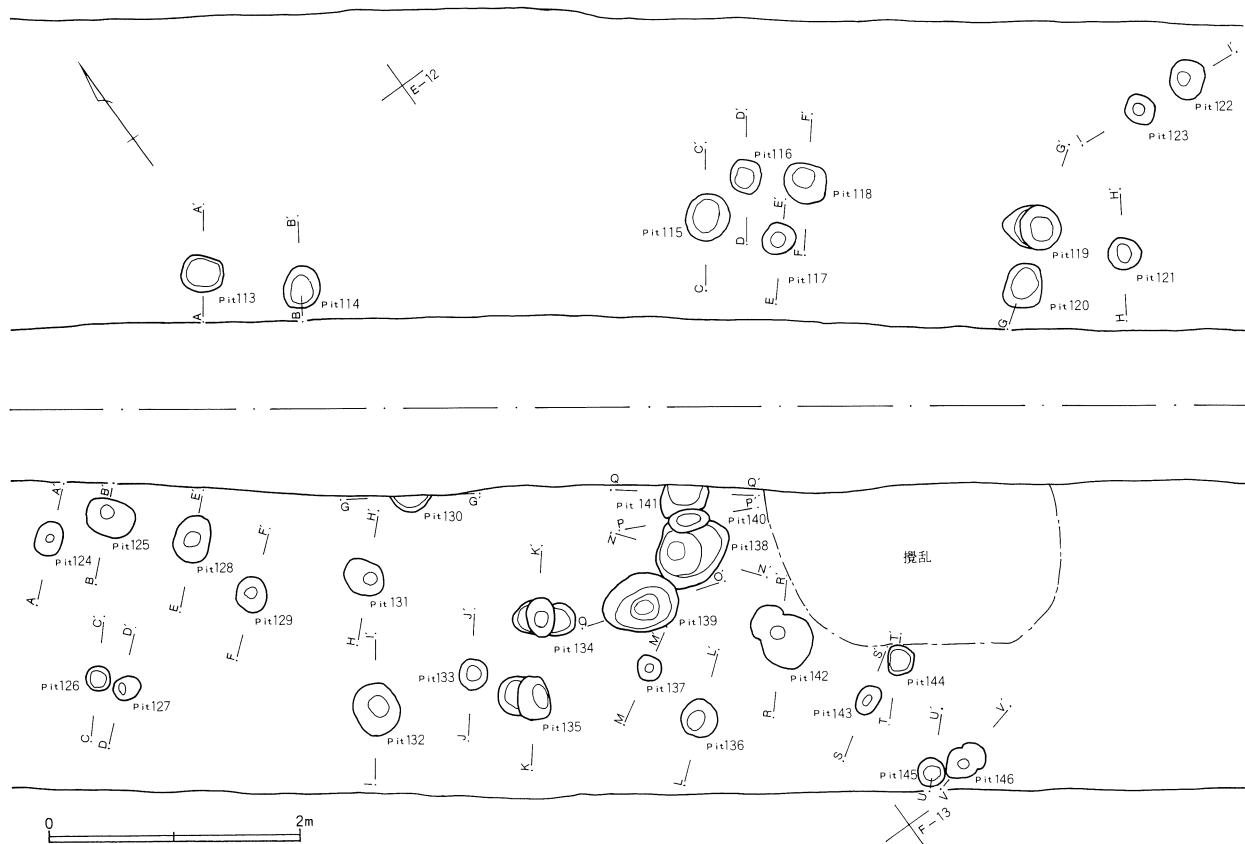
(2) ピット群

ピットは調査区全体から検出されている。この内、大多数のピットは用途・性格が不明で、時期を確定しうる遺物も出土していない。なかには柱痕や柱抜取痕を明瞭に残すものもある。

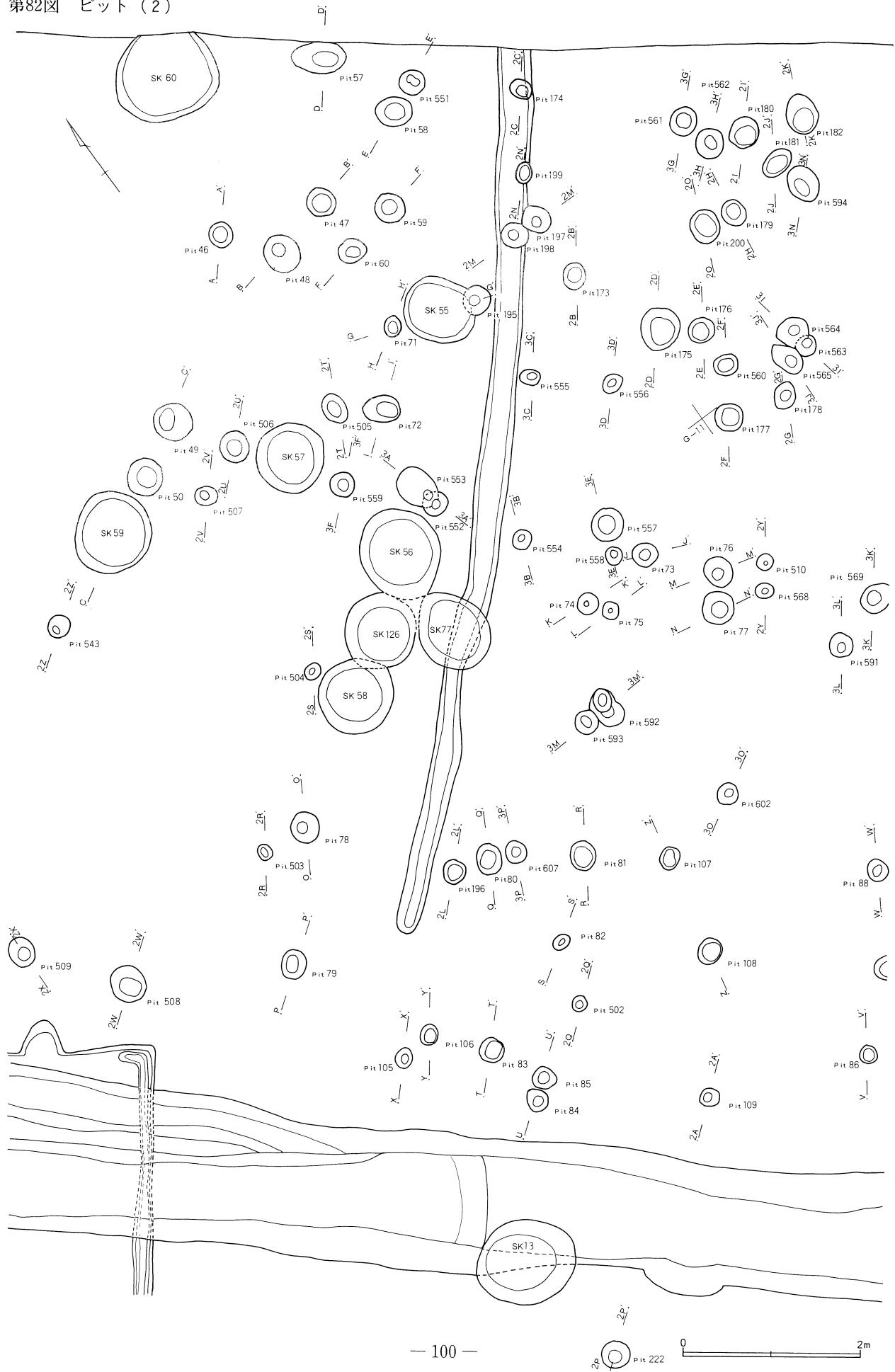
第80図 第1号性格不明遺構

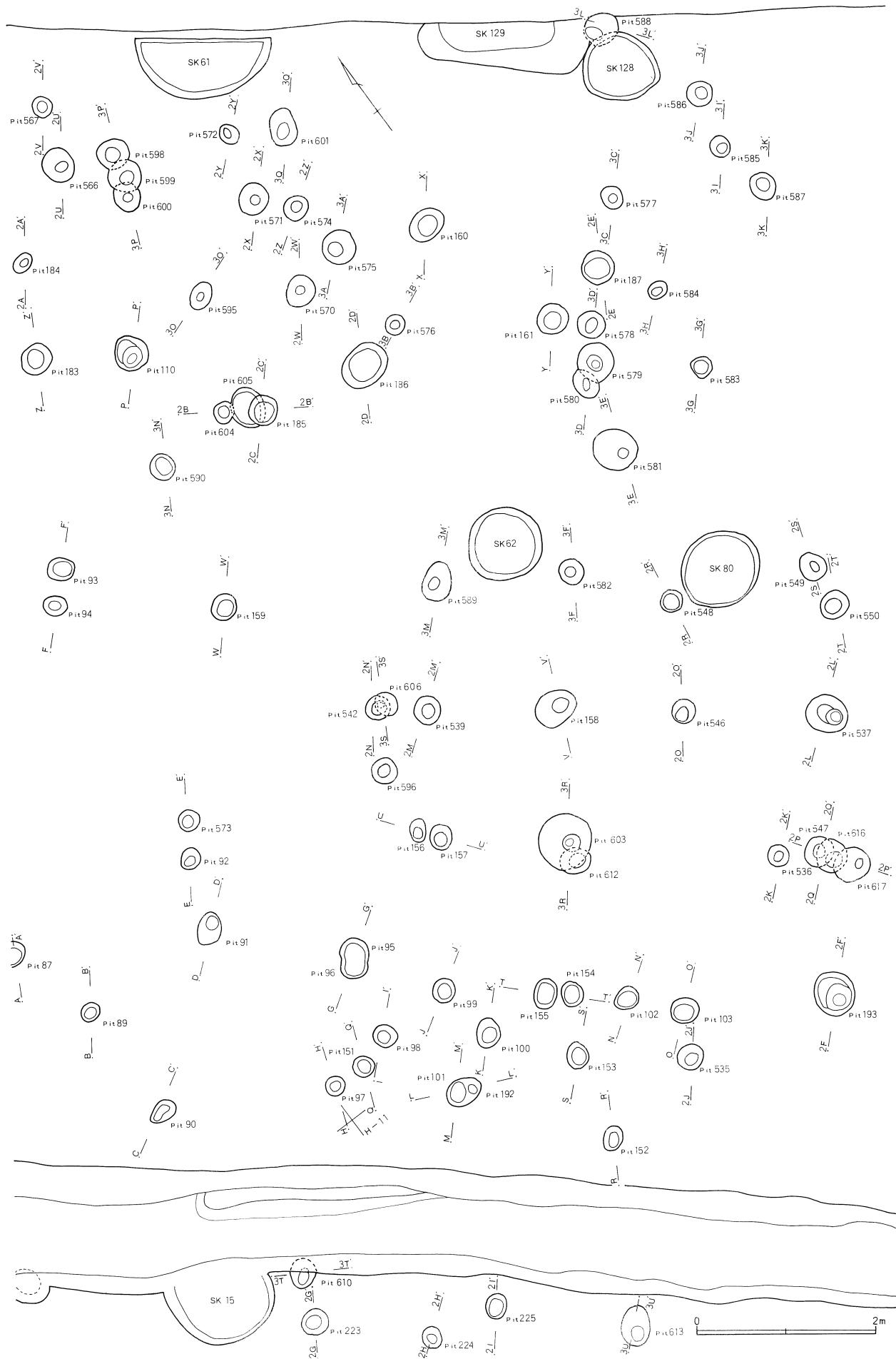


第81図 ピット(1)



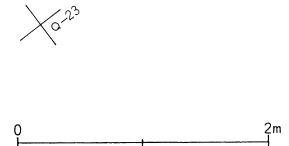
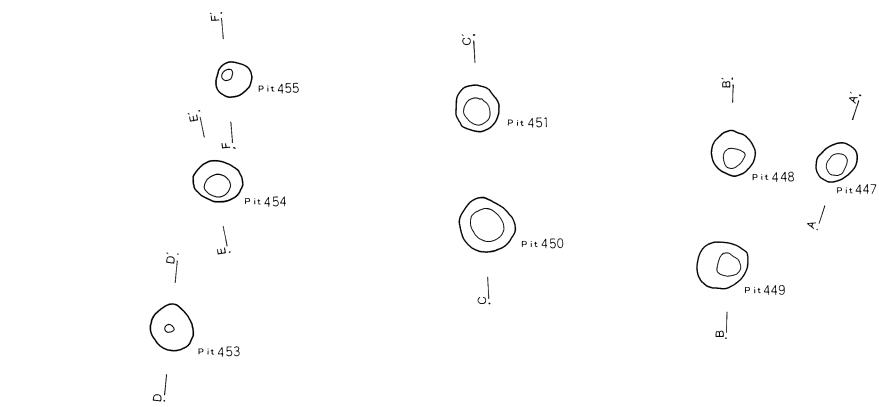
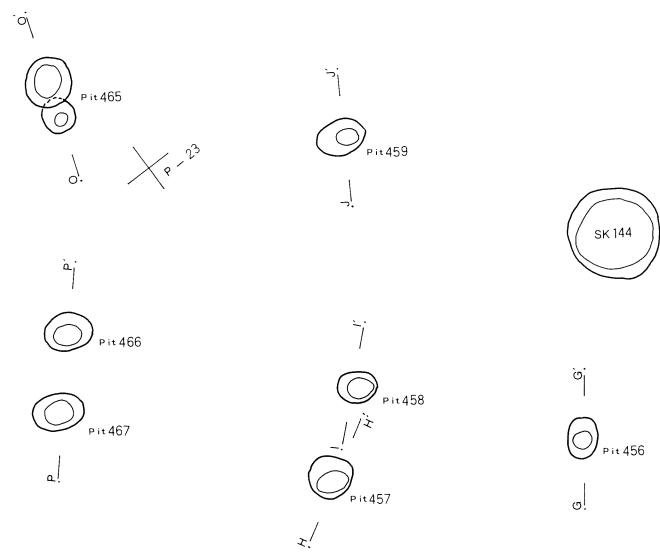
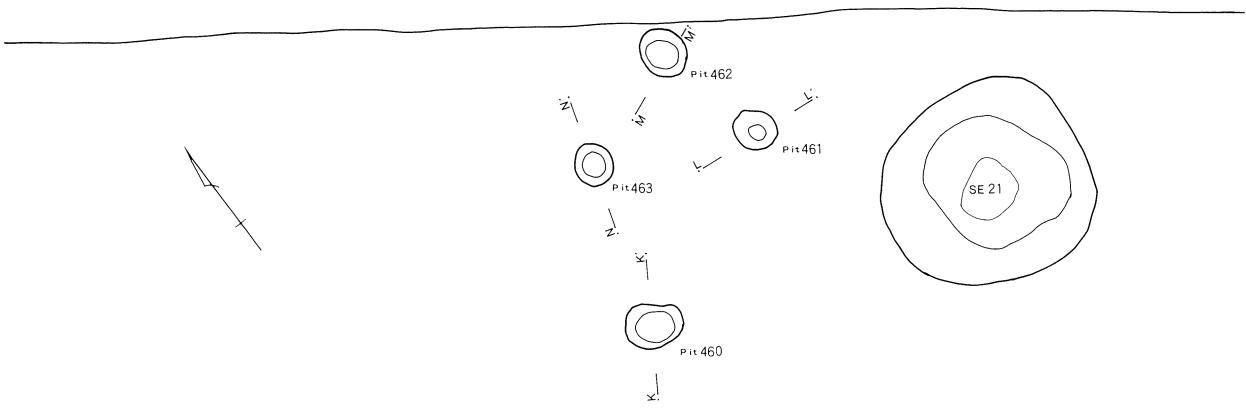
第82図 ピット(2)



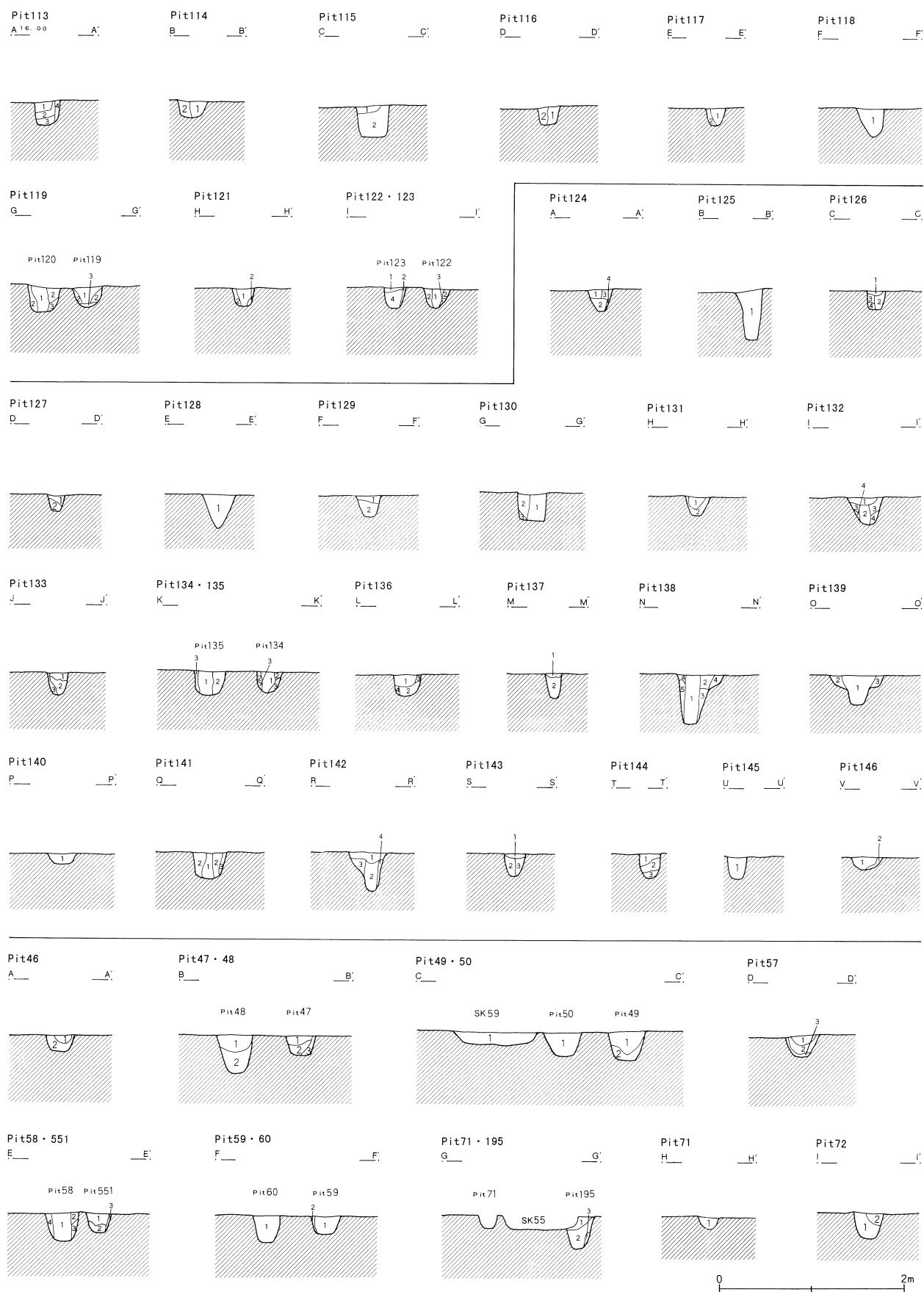


第83図 ピット (3)

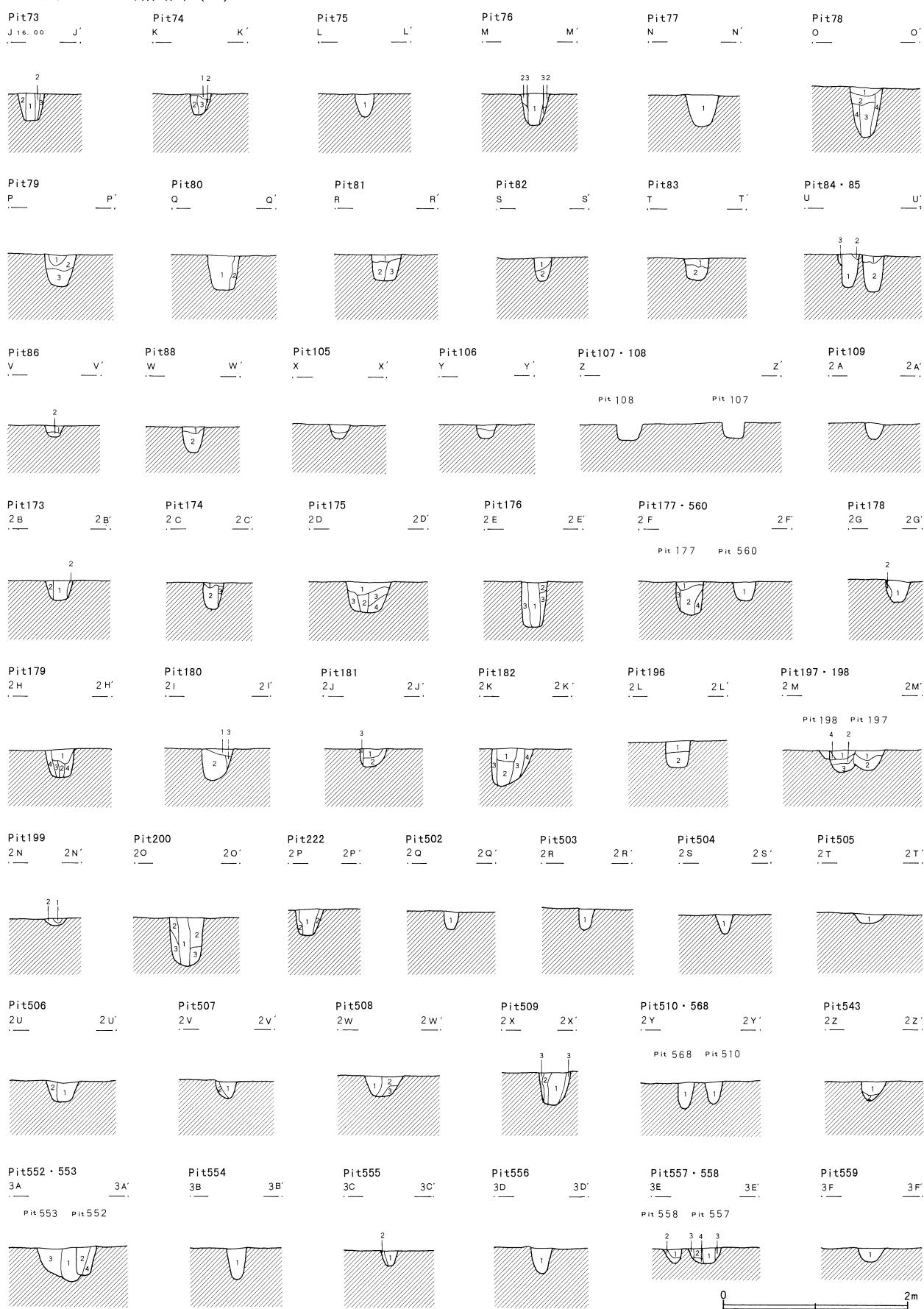




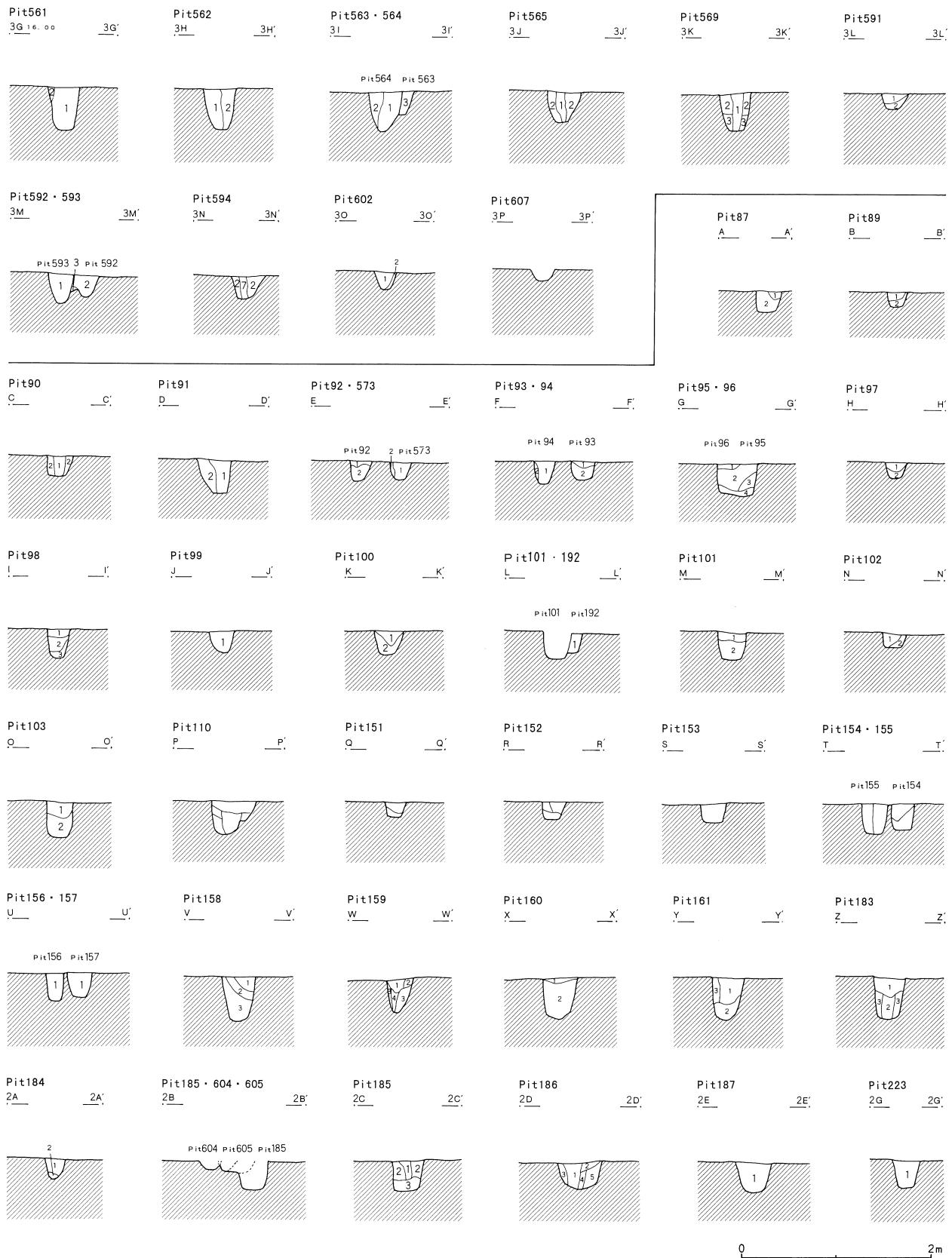
第84図 ピット断面図 (1)



第85図 ピット断面図 (2)

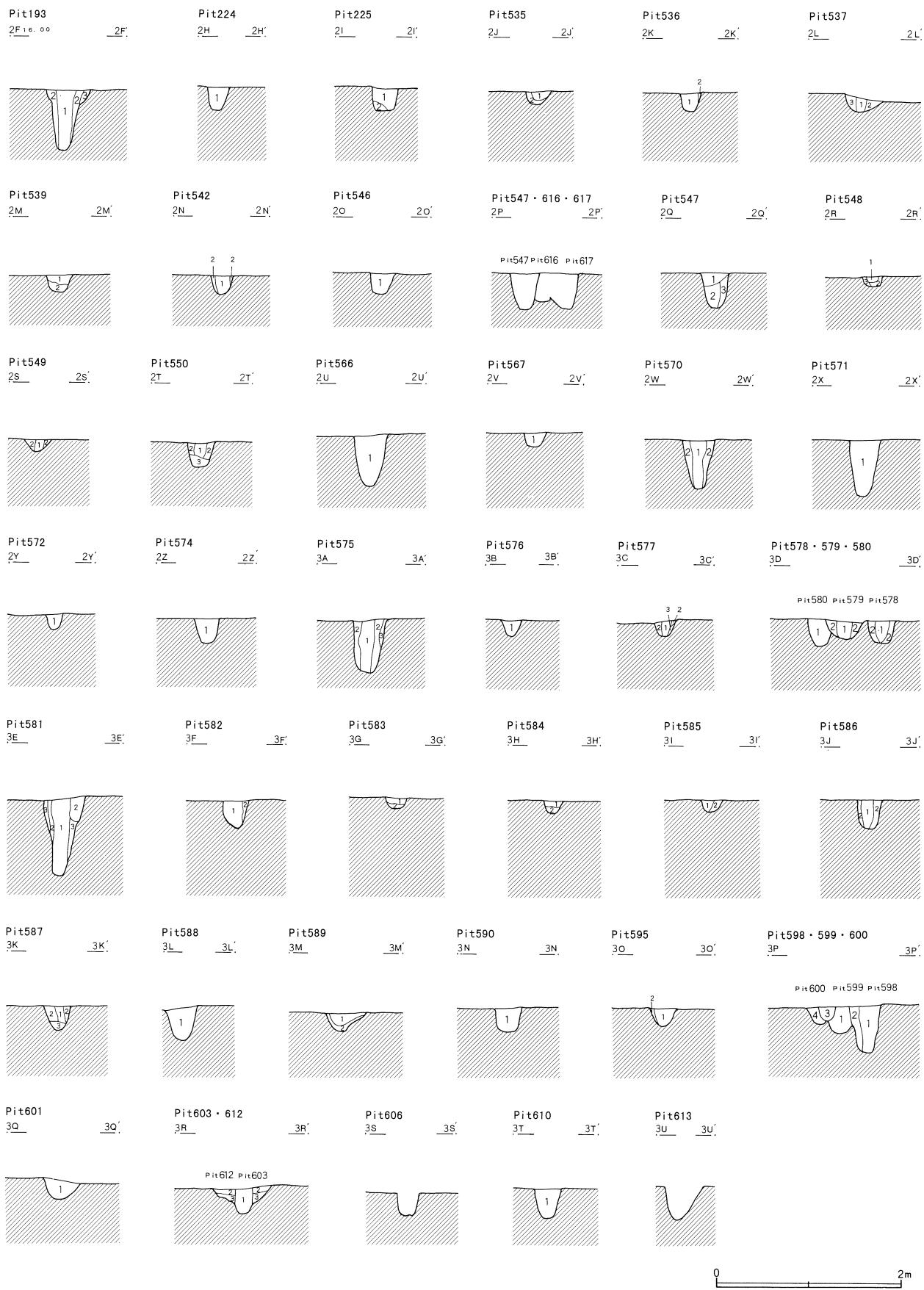


第86図 ピット断面図（3）



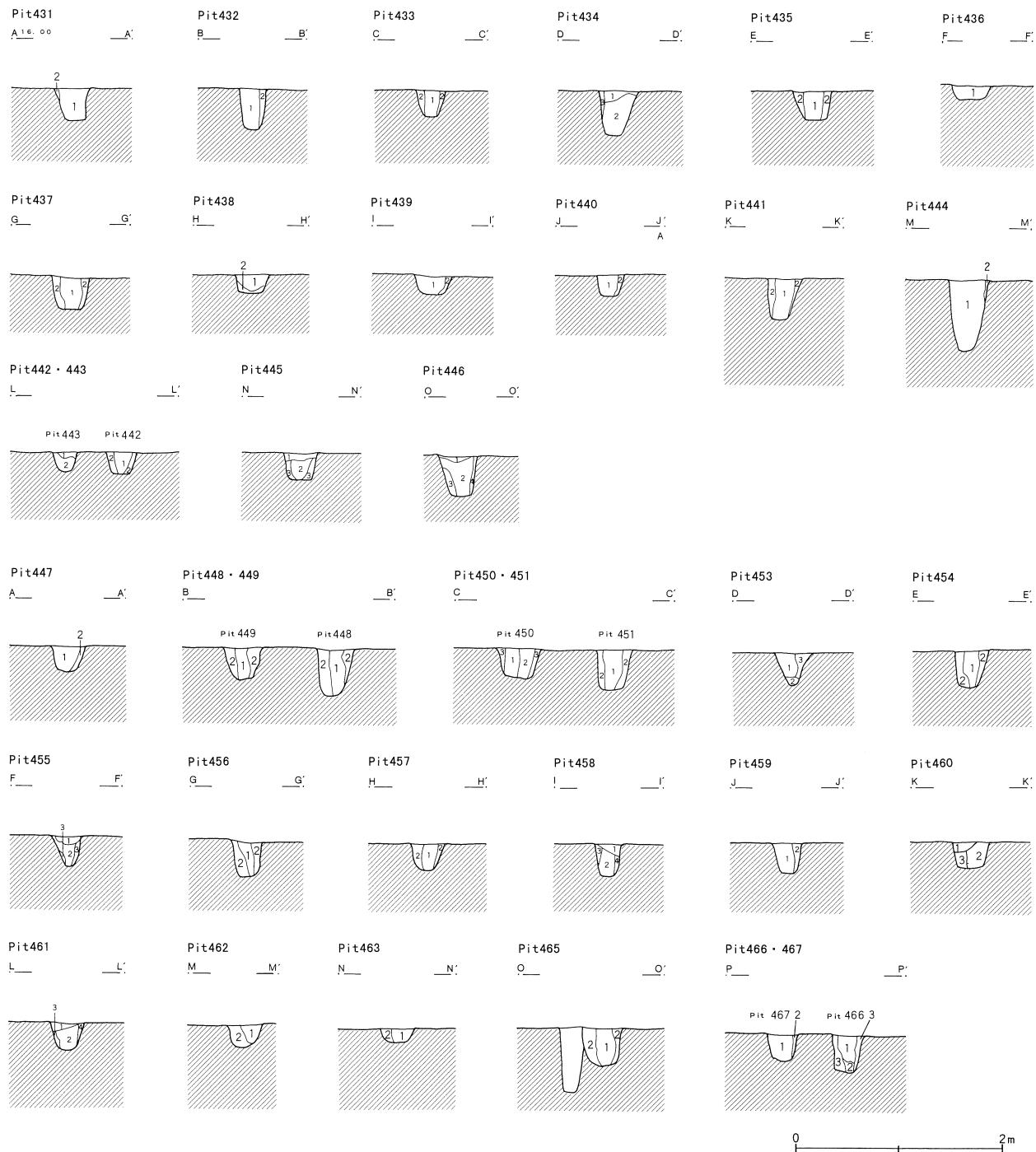
ピット 561		ピット 573		ピット 158
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック
2 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		(5~10mm)多量
ピット 562		ピット 93		2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10~20mm)多量
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		ピット 159
ピット 563・564		ピット 94		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		2 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・黄褐色土ブロック少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
3 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 95・96		4 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
ピット 565		ピット 97		ピット 160
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		2 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(10mm)少量		2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
3 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 98		ピット 161
ピット 569		1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
1 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (20~30mm)多量		2 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(10mm)少量		2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
3 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 99		ピット 162
ピット 591		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		2 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量		2 黑褐色土 黄褐色土粒少量
2 オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
ピット 592・593		ピット 100		ピット 163
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量		1 黑褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (20~30mm)少量		2 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(10mm)少量		2 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
3 黄褐色土 黄褐色土ブロック(15~30mm)多量		ピット 101		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量
ピット 594		1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 164
1 黒褐色土 黄褐色土粒少量		2 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(5~10mm)多量		1 黑褐色土 黄褐色土粒少量
2 黒褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量		ピット 192		2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量
ピット 602		1 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(5~10mm)多量		ピット 165
1 黑褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 102		1 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
2 黄褐色土 黄褐色土ブロック(15~30mm)多量		1 黑褐色土 黄褐色土粒少量		2 黑褐色土 黄褐色土ブロック(10~20mm)多量
ピット 87		2 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量
1 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		ピット 103		ピット 166
2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量、灰色粘土粒多量		1 黑褐色土 黄褐色土粒少量
ピット 89		2 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量、黄褐色土ブロック (10~20mm)多量		2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量		ピット 151	ピット 152	3 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒少量
2 オリーブ黒色土 黄褐色土ブロック(10mm)少量		土層注記無し	土層注記無し	4 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量
ピット 90				5 オリーブ黒色土 黄褐色土粒多量
1 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量、灰色粘土粒多量		ピット 153		ピット 167
2 オリーブ黒色土 黄褐色土粒少量、黄褐色土ブロック (10~20mm)多量		ピット 223		1 黑褐色土 黄褐色土粒多量
ピット 91		ピット 154	ピット 155	ピット 224
1 黑褐色土 黄褐色土粒少量		土層注記無し	土層注記無し	1 黑褐色土 黄褐色土粒・燒土粒・黄褐色土ブロック少量
2 暗オリーブ褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		ピット 156		ピット 225
ピット 92		1 黑褐色土 黄褐色土粒少量		1 黑褐色土 黄褐色土粒・燒土粒・黄褐色土ブロック少量
1 黑褐色土 黄褐色土粒少量		ピット 157		2 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量
2 黑褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)多量		1 黑褐色土 黄褐色土粒・燒土粒・黄褐色土ブロック少量		

第87図 ピット断面図 (4)



ピット 193		ピット 550		ピット 583	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・焼土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 黒褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~20mm)多量	2 黒褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
3 黒褐色土	黄褐色土ブロック(5~10mm)少量	3 暗オリ-7°色土	黄褐色土ブロック(15~20mm)少量	ピット 584	
ピット 224		ピット 566		1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
1 黒褐色土	黄褐色土粒多量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
ピット 225		ピット 567		ピット 585	
1 黑褐色土	黄褐色土粒多量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (5~10mm)少量	2 黒褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
ピット 535		ピット 570		ピット 586	
1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	2 黒褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
ピット 536		ピット 571		ピット 587	
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (20~30mm)多量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 572		2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
ピット 537		1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	3 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)多量
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 574		ピット 588	
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (20~30mm)多量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒多量	ピット 575		ピット 589	
ピット 539		1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
ピット 542		ピット 576		ピット 590	
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 577		ピット 595	
ピット 546		1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
ピット 547		3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 598・599・600	
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 578・579・580		1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (20~30mm)多量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
3 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	3 黑褐色土	黄褐色土ブロック(10mm)少量
ピット 548		ピット 581		4 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 601	
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (15~30mm)多量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量
3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量	ピット 603・612	
ピット 549		ピット 582		1 黑褐色土	黄褐色土粒少量
1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量
2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10mm)少量	3 黄褐色土	黄褐色土ブロック(15~30mm)多量
ピット 431		ピット 434		ピット 610	
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒・黄褐色土ブロック (10~15mm)多量
2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 437	
ピット 432		3 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 435		2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量
2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 438	
ピット 433		2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量
1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 436		2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量
2 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗オリ-7°褐色土	黄褐色土粒少量・砂粒多量	ピット 439	

第88図 ピット断面図（5）



調査区全体を概観すると、①E-12グリッド付近(第81・84図)、②F-11、G-10・11グリッド付近(第82・84~87図)、③P-23グリッド付近(第83・88図)、④D-7・8、E-7・8、F-7・8、G-7・8グリッド付近(第4図)の4ヶ所でピットが集中している。①の区域は調査区の幅が狭く全貌は明らかではな

い。②・③の区域には住居跡がなく、③の区域はピットの密度も薄い。④の区域は住居跡も集中している。①~④のいずれの箇所でも周辺に井戸跡が検出されており、また柱痕・柱抜取痕の存在から、建造物の存在が想起されるが、発掘調査段階では組み合わせを把握することができなかった。

ピット 440		ピット 448		ピット 458		
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
ピット 441		ピット 449		3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	4 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 459		
ピット 444		ピット 450		1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 460		
ピット 442		3 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 451		2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
ピット 443		2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 461		
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	3 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	ピット 454		2 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
ピット 445		1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	4 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 455		ピット 462		
3 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
ピット 446		2 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	3 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 463		
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量	ピット 456		1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
3 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 オリ-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒多量	
4 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	ピット 466		
ピット 447		ピット 457		1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒少量、砂粒多量	
1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	1 黒褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 黑褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	3 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量	
ピット (第81図)					ピット 467	
					1 暗沢-7°褐色土	黄褐色土ブロック(10~20mm)・炭化物・砂粒少量
					2 暗沢-7°褐色土	黄褐色土粒・砂粒少量

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土 遺 物 ・ そ の 他
113	E-11	方 形	0.34	0.29	0.25		
114	E-11	楕円形	0.34	0.28	0.18	柱痕?	
115	E-12	方 形	0.37	0.32	0.34		
116	E-12	方 形	0.26	0.25	0.19	柱痕	
117	E-12	円 形	0.27	0.25	0.19	柱痕	
118	E-12	円 形	0.34	0.32	0.31		
119	E-12	楕円形	0.47	0.35	0.21	拔取痕	
120	E-12	方 形	0.35	0.29	0.27	柱痕	
121	E-12	円 形	0.26	0.24	0.19	拔取痕	
122	E-12	方 形	0.32	0.28	0.21	柱痕	
123	E-12	円 形	0.24	0.25	0.22	拔取痕?	
124	E-12	楕円形	0.28	0.22	0.23		
125	E-12	方 形	0.39	0.29	0.54		
126	E-12	円 形	0.20	0.20	0.19	柱痕	
127	E-12	円 形	0.20	0.18	0.17		
128	E-12	楕円形	0.38	0.29	0.36		
129	E-12	円 形	0.28	0.25	0.24		
130	E-12	(円 形)	(0.32)		0.28	柱痕	
131	E-12	円 形	0.34	0.27	0.20		
132	E-12	円 形	0.40	0.38	0.29	柱痕	

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土 遺物・その他
133	E-12	円 形	0.24	0.23	0.24		
134	E-12	不 整 形	0.50	0.30	0.22	柱痕	
135	E-12	楕 円 形	0.42	0.34	0.25	柱痕	
136	E-12	円 形	0.31	0.30	0.23		
137	E-12	円 形	0.20	0.18	0.27		
138	E-13	円 形	0.60	0.52	0.53	柱痕	
139	E-12	楕 円 形	0.60	0.46	0.32	拔取痕	
140	E-12・13	楕 円 形	0.33	0.17	0.11		
141	E-12・13	(円 形)	0.37		0.28	柱痕	
142	E-13	不 整 形	0.55	0.42	0.42	柱痕	
143	E-13	楕 円 形	0.24	0.16	0.24	柱痕?	
144	E-13	方 形	0.23	0.22	0.26		
145	E-13	円 形	0.24	0.21	0.24		
146	E-13	楕 円 形	0.34	0.25	0.14		

ピット（第82図）

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土 遺物・その他
46	F-10	円 形	0.28	0.26	0.18		
47	F-10	円 形	0.33	0.30	0.20		
48	F-10	円 形	0.44	0.40	0.40		
49	F-10	円 形	0.45	0.42	0.30		
50	F-10	円 形	0.42	0.40	0.24		
57	F-10	楕 円 形	0.62	0.35	0.22		
58	F-10	円 形	0.43	0.35	0.30	柱痕	
551	F-10	円 形	0.30	0.29	0.20		
59	F-10	円 形	0.35	0.32	0.20	抜取?	
60	F-10	円 形	0.32	0.26	0.28		
71	F-10	円 形	0.24	0.20	0.14		
195	F-10	円 形	0.31		0.34	抜取?	
72	F-10	楕 円 形	0.42	0.30	0.27		
73	G-10	円 形	0.28	0.26	0.29	柱痕	
74	G-10	円 形	0.24	0.24	0.23	柱痕	
75	G-10	円 形	0.19	0.19	0.25		
76	G-10	円 形	0.36	0.31	0.34	柱痕	
77	G-10	円 形	0.36	0.36	0.34		
78	G-10	円 形	0.36	0.33	0.52	柱痕	
79	G-10	方 形	0.34	0.28	0.34		
80	G-10	方 形	0.34	0.28	0.37	柱痕?	
81	G-10	円 形	0.33	0.28	0.28	柱痕	
82	G-10	楕 円 形	0.19	0.15	0.24		
83	G-10	円 形	0.28	0.27	0.23		
84	G-10	円 形	0.26	0.25	0.40	抜取?	
85	G-10	円 形	0.28	0.24	0.36	柱痕?	
86	G-10	円 形	0.20	0.20	0.12		
88	G-10	円 形	0.23	0.22	0.28		
105	G-10	円 形	0.21	0.19	0.16		
106	G-10	円 形	0.22	0.21	0.14		
107	G-10	楕 円 形	0.26	0.21	0.16		
108	G-10	円 形	0.30	0.26	0.17		
109	G-10	楕 円 形	0.23	0.20	0.18		
173	F-10	円 形	0.30	0.26	0.21	柱痕	
174	F-11	楕 円 形	0.26	0.20	0.27	柱痕	
175	F-11	円 形	0.48	0.45	0.32	柱痕	

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土 遺物・その他の
176	F-11	円 形	0.31	0.26	0.48	柱痕	
177	F-11・G-11	円 形	0.32	0.30	0.36	柱痕	
560	F-11	方 形	0.27	0.24	0.20		
178	G-11	方 形	0.27	0.24	0.25	拔取?	
179	F-11	楕 円 形	0.31	0.25	0.30	柱痕	
180	F-11	方 形	0.33	0.33	0.34	拔取?	
181	F-11	楕 円 形	0.38	0.25	0.20	拔取痕	
182	F-11	楕 円 形	0.45	0.37	0.40	柱痕	
196	G-10	円 形	0.28	0.25	0.29		
197	F-10	方 形	0.33	0.28	0.22		
198	F-10	円 形	0.30	0.30	0.23		
199	F-10	楕 円 形	0.24	0.18	0.08		
200	F-11	楕 円 形	0.36	0.32	0.52	柱痕	
222	G-10	円 形	0.32	0.30	0.28	柱痕	
502	G-10	円 形	0.17	0.16	0.19		
503	G-10	円 形	0.18	0.16	0.22		
504	F-10	円 形	0.19	0.17	0.19		
505	F-10	楕 円 形	0.36	0.26	0.11		
506	F-10	円 形	0.34	0.33	0.22	柱痕?	
507	F-10	円 形	0.27	0.23	0.18		
508	G-10	円 形	0.41	0.38	0.22	拔取?	
509	G-10	円 形	0.33	0.29	0.35	柱痕	
510	G-10	円 形	0.19	0.19	0.24		
568	G-10	円 形	0.22	0.18	0.29		
543	F-10	円 形	0.26	0.25	0.21		
552	F-10	(円 形) (0.26)			0.30	柱痕	
553	F-10	(楕 円 形)		0.38	0.34	拔取痕	
554	F-10	円 形	0.22	0.22	0.32		
555	F-10	楕 円 形	0.24	0.18	0.16	柱痕?	
556	F-10	楕 円 形	0.24	0.19	0.27		
557	G-10	円 形	0.37	0.36	0.17	柱痕	
558	G-10	円 形	0.19	0.19	0.15		
559	F-10	円 形	0.28	0.27	0.15		
561	F-11	円 形	0.33	0.31	0.45	拔取?	
562	F-11	円 形	0.34	0.33	0.44	柱痕	
563	F-11・G-11	(円 形)	0.24		0.25		
564	F-11	(円 形)	0.37		0.42	柱痕?	
565	F-11・G-11	楕 円 形	0.40	0.26	0.32	柱痕	
569	G-11	楕 円 形		0.29	0.39	柱痕	
591	G-10	円 形	0.27	0.27	0.16		
592	G-10	不 整 形	0.44	0.30	0.22		
593	G-10	円 形	0.25	0.25	0.31		
594	F-11	楕 円 形	0.42	0.33	0.23	柱痕	
602	G-10	円 形	0.25	0.24	0.18		
607	G-10	円 形	0.26	0.24	0.11		
87	G-10	円 形	0.29	0.26	0.22		
89	G-10	円 形	0.22	0.18	0.16		
90	G-10	不 整 形	0.33	0.22	0.21	柱痕	
91	G-10・11	楕 円 形	0.36	0.28	0.34	柱痕	
92	G-11	円 形	0.22	0.22	0.21		
93	G-11	方 形	0.29	0.25	0.20		
94	G-11	楕 円 形	0.28	0.23	0.25	拔取?	
95	G-11	円 形	0.33		0.34		

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土遺物・その他
96	G-11	円 形	0.31		0.31		
97	G-11	円 形	0.22	0.22	0.18		
98	G-11	円 形	0.28	0.25	0.31		
99	G-11	円 形	0.27	0.27	0.22		
100	H-11	円 形	0.33	0.27	0.24		
101	H-11	円 形	0.30		0.29		
102	H-11	円 形	0.25	0.25	0.14	拔取?	
103	H-11	方 形	0.30	0.27	0.37		
110	G-11	円 形	0.39	0.38	0.35	柱痕	
151	G-11	円 形	0.23	0.23	0.15		
152	H-11	楕 円 形	0.27	0.21	0.19	柱痕?	
153	H-11	円 形	0.28	0.26	0.20		
154	H-11	円 形	0.27	0.25	0.28	柱痕	
155	H-11	方 形	0.32	0.26	0.31		
156	G-11	楕 円 形	0.26	0.18	0.30		
157	G-11	円 形	0.27	0.24	0.26		
158	G-11	不 整 形	0.50	0.38	0.47		
159	G-11	方 形	0.30	0.28	0.36	柱痕	
160	G-11	楕 円 形	0.42	0.33	0.43	拔取?	土師器甕片 3
161	G-11	円 形	0.35	0.35	0.45	拔取?	
183	G-11	円 形	0.34	0.34	0.44	柱痕	
184	F-11・G-11	楕 円 形	0.24	0.18	0.21		
185	G-11				0.32	柱痕	
186	G-11	楕 円 形	0.53	0.44	0.37	柱痕	
187	G-11	円 形	0.38	0.37	0.32		
193	H-11	円 形	0.50	0.53	0.65	柱痕	
223	H-10	円 形	0.31	0.29	0.30		
224	H-10	円 形	0.24	0.22	0.25		
225	H-11	方 形	0.29	0.25	0.24		
535	H-11	円 形	0.29	0.27	0.14		
536	H-11	円 形	0.24	0.24	0.21		
537	G-11	円 形	0.46	0.42	0.18	柱痕	
539	H-11	円 形	0.32	0.31	0.19		
542	G-11	円 形	0.26		0.19	柱痕	
546	G-11	円 形	0.29	0.27	0.22		
547	H-11	円 形	0.32		0.39	柱痕	
548	G-11	円 形	0.26	0.24	0.10		
549	G-11	楕 円 形	0.32	0.28	0.13	柱痕	
550	G-11	円 形	0.34	0.28	0.26	柱痕	
566	F-11	円 形	0.37	0.36	0.54		
567	F-11	円 形	0.24	0.21	0.16		
570	G-11	円 形	0.37	0.32	0.52	柱痕	
571	G-11	円 形	0.35	0.32	0.61		
572	G-11	楕 円 形	0.24	0.19	0.17		
573	G-11	円 形	0.25	0.23	0.18	拔取?	
574	G-11	円 形	0.28	0.26	0.26		
575	G-11	円 形	0.39	0.38	0.57	柱痕	
576	G-11	円 形	0.22	0.20	0.18		
577	G-11	円 形	0.26	0.24	0.16		
578	G-11	円 形	0.31	0.31	0.24		
579	G-11	(円 形)	0.44	0.39	0.18	柱痕	須恵器甕片 1
580	G-11	(楕 円 形)	0.35		0.29	柱痕	

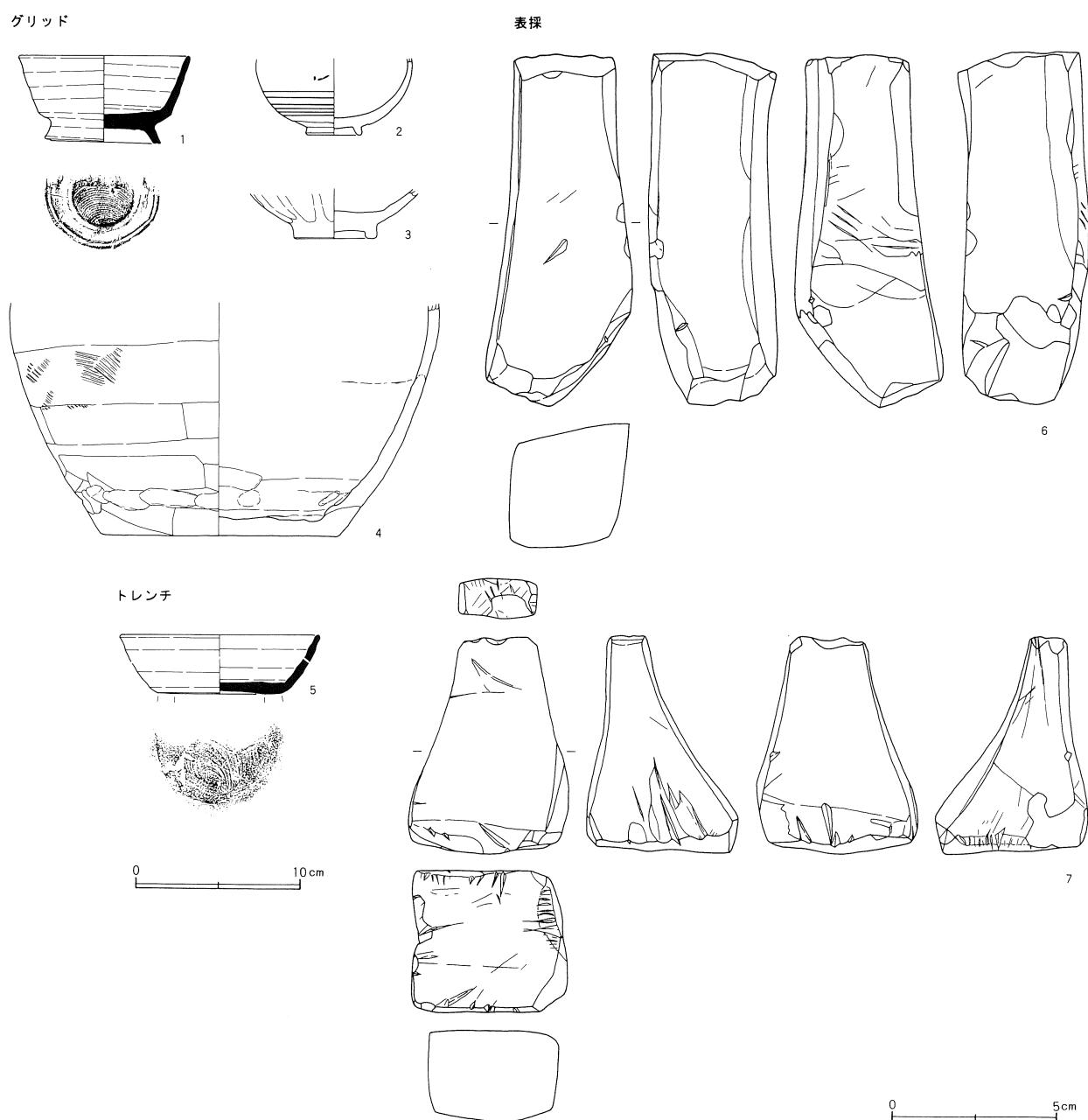
番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土遺物・その他
581	G-11	円 形	0.48	0.48	0.83	柱痕	
582	G-11	円 形	0.28	0.27	0.28	拔取?	
583	G-11	円 形	0.23	0.22	0.12		
584	G-11	楕円形	0.22	0.18	0.13		
585	G-11	円 形	0.24	0.22	0.12	拔取?	
586	G-11・12	円 形	0.29	0.26	0.31	柱痕	
587	G-11・12	円 形	0.32	0.28	0.25	柱痕	
588	G-11	(円 形)	0.36		0.36		
589	G-11	楕円形	0.42	0.32	0.20	拔取?	
590	G-11	円 形	0.30	0.29	0.26		
595	G-11	楕円形	0.31	0.23	0.18	拔取?	
598	F-11	円 形	0.35		0.52	柱痕	
599	G-11	円 形	0.36		0.28		

ピット（第83図）

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土遺物・その他
431	Q-23・24	円 形	0.39	0.34	0.32	拔取?	
432	Q-23	円 形	0.26	0.26	0.39	柱痕	
433	Q-23	円 形	0.30	0.29	0.25	柱痕	
434	Q-23	円 形	0.41	0.36	0.44	拔取痕	
435	Q-23	方 形	0.39	0.31	0.28	柱痕	
436	Q-23	円 形	0.39	0.37	0.13		
437	Q-23	円 形	0.37	0.33	0.30	柱痕	
438	Q-23	楕円形	0.33	0.27	0.18	拔取痕	
439	Q-23	楕円形	0.39	0.31	0.19	拔取?	
440	Q-23	円 形	0.27	0.23	0.21	拔取?	
441	P-23	円 形	0.34	0.32	0.39	柱痕	
444	P-23	円 形	0.40	0.39	0.69	拔取?	
442	P-23	円 形	0.33	0.30	0.21	柱痕	
443	P-23	円 形	0.24	0.24	0.18		
445	P-23	円 形	0.35	0.31	0.25	柱痕	
447	P-23	円 形	0.35	0.29	0.25	拔取痕	
448	P-23	円 形	0.36	0.34	0.43	柱痕	
449	P-23	円 形	0.42	0.38	0.30	柱痕	
450	P-23	円 形	0.44	0.42	0.28	柱痕	
451	P-23	円 形	0.37	0.35	0.37	柱痕	
453	P-22	円 形	0.36	0.33	0.31	拔取痕	
454	P-22	円 形	0.39	0.33	0.36	柱痕	
455	P-22	円 形	0.28	0.28	0.29	柱痕?	
456	P-23	楕円形	0.31	0.24	0.35	柱痕	
457	P-22	方 形	0.34	0.28	0.26	柱痕	
458	P-22	楕円形	0.32	0.24	0.31	柱痕	
459	P-23	楕円形	0.39	0.30	0.29	柱痕?	
460	O-23・P-23	不整形	0.47	0.36	0.25	拔取痕	
461	O-23・P-23	円 形	0.34	0.31	0.26	柱痕	
462	O-23・P-23	円 形	0.39	0.37	0.21	拔取痕	
463	O-23・P-23	円 形	0.33	0.31	0.13	柱痕?	
465	O-22	円 形	0.38	0.36	0.37	柱痕	
466	P-22	円 形	0.37	0.31	0.36	柱痕	
467	P-22	円 形	0.39	0.29	0.26		
600	G-11	円 形	0.29		0.18	拔取痕	
601	G-11	楕円形	0.42	0.30	0.22		

番号	グリッド	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	柱 痕	出土 遺物・その他
603	G-11	円 形	0.61	0.60	0.27	柱痕	
604	G-11	円 形			0.09		
605	G-11	円 形			0.12		
606	G-11	円 形	0.26		0.24		
610	H-10	(円 形)	0.29		0.33		
612	G-11	(円 形)	0.33				
613	H-11	楕 圓 形	0.44	0.32	0.35		
616	H-11	円 形	0.36		0.31		
617	H-11	円 形	0.39		0.38		

第89図 グリッド・トレンチ・表採遺物



グリッド・トレンチ・表採出土遺物観察表（第89図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高台付壺	10.2	5.2 (4.6)	7.0 3.4	W W	A A	灰色 灰白色	70 25	グリッド 産地不明（南比企産か？） グリッド 内外面とも施釉—明オリーブ灰
2	椀								グリッド 内外面とも施釉—オリーブ
3	鉢		(3.0)	5.1	W	A	灰白色	10	グリッド タタキ後丁寧なナデ
4	甕		(14.0)	14.3	BW針	B	灰色	20	トレンチ 南比企産
5	壺	(12.1)	(3.5)	(7.6)	BW針	B	灰黄色	20	表採 (10.5)×3.7cm 237.76g 表採 (6.5)×4.8cm 138.82g
6	砥石								
7	砥石								

V まとめ

八ッ島遺跡から発見された遺構には、掘立柱建物跡1棟、住居跡34軒、土壙187基、井戸跡23基、溝跡56条、茶毘跡1基、性格不明遺構1基、ピット多数がある。時期は奈良時代から中・近世にわたるが、総体的に遺物の出土量が少なく、個々の遺構の時期を明確にする資料に欠ける。

奈良～平安時代（古代）の遺構として、掘立柱建物跡・住居跡・溝跡3条（第5・14・20号溝跡）がある。

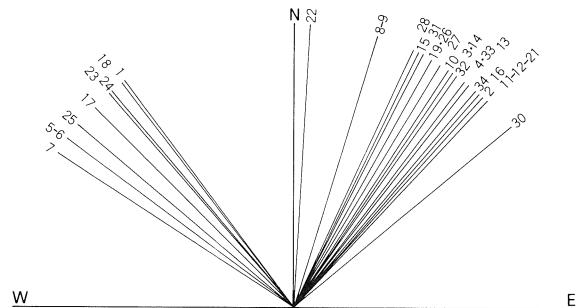
第5・14・20号溝跡は遺跡が立地する自然堤防に平行し、第5・20号溝跡には集落内を区画していた機能が想定される。第5号溝跡は第13号住居跡、第20号溝跡も第27・28号住居跡と重複している。しかし、いずれも溝跡の方が先行しているため、溝跡と住居跡の重複が集落内を区画する機能を否定する根拠にはならない。一方、第14号溝跡は第5・20号溝跡に比べて幅・深さともに小さく、用途とが異なっていた可能性がある。

土壙は第7・25・121号土壙をはじめとする住居跡と重複関係にあるものや、第29・38・48・72・95号土壙

などがこの時期のものといえよう。いずれも用途は不明であるが、住居跡周辺に位置していることから、集落経営に関わる施設として捉えられる。また10世紀前半代の東遠江産の灰釉高台付椀と土師質の羽釜が出土した第38号土壙は、この時期の竪穴住居跡が発見されていないため、古代から中世に繋がる遺構として注目される。

井戸跡は第3・4・11・13・16・23号井戸跡が古代のものである可能性があり、土壙と同様、住居跡の周辺に位置している。

第90図 住居跡主軸方位



住居跡一覧表

住居番号	主軸方位	主軸長	幅	カマドL幅	幅／主軸長	カマドL長／幅	主軸長×幅
1	N-37.0°-W	4.70	5.05	3.07	1.074	0.653	23.7
2	N-42.0°-E	3.37					
3	N-34.0°-E	2.95	4.05	2.60	1.373	0.642	11.9
4	N-37.0°-E	3.45	4.57	2.60	1.325	0.569	15.8
5-6	N-53.5°-W (3.10)						
7	N-57.0°-W	3.80	3.72	2.25	0.979	0.605	13.2
		3.40			1.094		
8-9	N-17.0°-E	3.57	6.02	3.12	1.686	0.518	21.5
10	N-33.0°-E	3.90	4.70	2.75	1.205	0.585	18.3
11-12-21	N-43.0°-E (4.30) (3.02)	(3.90) (3.15)		(2.55)	(0.907) (1.043)	(0.654)	15.8
13	N-38.0°-E	4.10	3.10	1.75	0.756	0.564	12.7
14	N-34.0°-E	3.15	4.50	2.45	1.428	0.544	14.2
15	N-26.0°-E	3.20	3.85	1.85	1.203	0.480	12.3
16	N-41.0°-E	2.70	3.40	2.10	1.259	0.618	9.2
17	N-45.0°-W	3.15					
18	N-37.5°-W	4.47	4.50	2.05	1.007	0.456	20.1
22	N-3.0°-E	2.87	4.00	2.22	1.391	0.555	11.5
23	N-41.0°-W	2.95	5.35	2.15	1.814	0.402	15.8
24	N-40.5°-W	4.20	3.35	1.90	0.798	0.567	14
25	N-50.0°-W	5.00	5.22	2.80	1.044	0.536	26.1

掘立柱建物跡は住居跡の分布が希薄となっていく南東部に、1棟のみ発見された。隅柱L字形の、3間×2間側柱建物跡である。出土した土師器・須恵器の小破片数点からは時期を特定し得ないが、柱穴の形状・規模や柱掘形への充填状況等から古代の掘立柱建物跡と捉えられよう。

住居跡の分布は、調査区の北西半に集中している。第32号住居跡が最南東に位置し、P-20・21グリッド付近が集落域の境界と捉えることができる。第19・31・32住居跡にはテラス状施設が付設されている可能性があるが、第19号住居跡は壁の方向の違いから2軒の住居跡の重複、第31・32号住居跡は住居跡が拡張された結果として判断した。覆土の堆積状況の観察がされていないために確定できないが、調査所見とは異なる見解を示しておきたい。

さて、発見された住居跡は主軸方位によって3群に分類できる(第90図)。このなかには、重複が著しい第29号住居跡と、住居跡と認定することに疑問が残る第20号住居跡は対象から除いている。また住居跡の拡張関係が明確な第5-6・8-9号住居跡と、逆に重複・拡張関係が捉えられない第11-12-21号住居跡は、1軒の住居跡として比較の対象としている。一方、2軒の住居跡が重複する第19号住居跡は、2軒の第19①号住居跡・第19②号住居跡とした。

1群は主軸を北西に向け、カマドが北西壁に設置されている。第1・5-6・7・18・23・24・25号住居跡の7軒の住居跡が該当する。2群は主軸を北東に向け、カマドが北東壁に構築されている。第3・4・8-9・10・11-12-21・13・14・15・16・19・26・27・28・30・31・32号住居跡の16軒があげられる。3群は主軸を北に向ける第22号住居跡で、カマドは北壁に造られている。またカマドが検出されていない住居跡のなかで、第17号住居跡は北西主軸に、第2・33・34号住居跡の3軒は北東主軸の一群に含まれるであろう。

このように、主軸方位によって分類することができ。しかし主軸方位と分布状況との関連には、分布域の相違や規則性を認めることができない。またカマド

の設置位置について幅とカマド左(西)側の長さの割合から比較すると、壁中央よりやや東による傾向がみられるものの、基本的には壁中央付近を意識して設置されている。主軸方位とカマドの設置位置にも相関性は窺われない。

住居跡の平面形態は方形を基本としていることから、主軸長に対する幅の割合を比較した。求められた数値が1に近い場合には正方形、1より小さな数値の場合には主軸方向に長辺をもつ長方形、1より大きな数値の場合には幅方向に長辺をもつ長方形となる。その結果、北西主軸の住居跡は、第23・24号住居跡を除いて、概ね正方形に近い平面形態をしている。これに対し、北東・北主軸の住居跡の平面形態は幅(東西)方向に長辺をもつ長方形で、カマドが北面する長辺に設置されている。ただし、第13号住居跡はカマドが北面する短辺に設けられた、主軸(南北)方向に長辺をもつ長方形である。

住居跡の平面規模は、主軸長が概ね3~4mの範囲に集中し、最長が第25号住居跡の5.00m、最短が第16号住居跡の2.70mを測る。幅も概ね3~4.5mの範囲に集中し、最長が第8-9号住居跡の6.02m、最短が第30号住居跡の2.57mである。また主軸長×幅によって導いた面積数値も概ね12~14m²前後の範囲に集中している。この範囲外の第16号住居跡は9.2m²と小さく、第1・18・25・8-9号住居跡は20m²を越える。このように主軸方位の相違と規模には相関性が認められない。

住居跡の時期は、出土遺物がきわめて少なく、また出土遺物がまったく無い第2・14・15・30・33号住居跡も存在し、時期特定には不確定な要素を多分に含んでしまう。

最も古い8世紀初頃に位置づけられる遺物を出土している北東主軸の第3・13号住居跡は、いずれも遺物がきわめて少ない。第3号住居跡では須恵器蓋の小破片を図示し得たのみであるが、重複する後出の第7号土壙から8世紀末~9世紀初め頃の須恵器壺が出土していることから、それ以前の時期であることは間違

ない。一方、第13号住居跡は土師器壺1点と後出すべき土師器コの字甕が共伴しているため、この時期の住居跡である確証はない。第13号住居跡は北東主軸の住居跡のなかで、長方形の短辺にカマドが設置されている異質なものである。北西主軸の一群には第13号住居跡と同様に長方形短辺にカマドが設置されている第24号住居跡や、北東主軸の一群と同様な長方形長辺にカマドが設置されている第23号住居跡もある。そこで、第13号住居跡には第5号溝跡と重複する北西壁にカマドが設置されていた北西主軸の住居跡であった可能性もあるが、調査では確認されていない。

第3・13号住居跡に続いて北西主軸の第1・18号住居跡と北東主軸の第8—9号住居跡があげられ、8世紀前半代と思われる。第1・18号住居跡は第14号溝跡と重複し、遺構の新旧関係からは第18号住居跡が第1号住居跡よりも先行しているものの、時間差は明確ではない。このような時間的な状況から、第14号溝の存続期間はきわめて短く、その用途についても推測したい。

次に唯一北主軸の第22号住居跡が8世紀中葉～後半、北西主軸の第17号住居跡と北東主軸の第10号住居跡が8世紀後半と捉えられるが、いずれの住居跡も出土遺物は少ない。第10号住居跡と先行する第8—9号住居跡との時間的関係は、平面的な新旧関係の解釈を傍証するものであり、覆土の堆積状況から解釈される煩雑な重複関係を否定している。

9世紀になると重複する北東主軸の第4号住居跡と北西主軸の第5—6・7号住居跡が前葉頃に位置づけられよう。第4・5—6・7号住居跡出土遺物（第20・21図）の帰属する住居跡は出土状況から分類したが、明確な時期差を認めることができない。各住居跡の時期特定には住居跡間の遺物の混入等を考慮する必要もあり、ここでは一括して扱っておく。いずれにしても、ごく短期間のうちに増改築が行われた可能性がある。

続いて北東主軸の第31号住居跡が9世紀前半、北東主軸の第11—12—21号住居跡が若干後出する前半～中葉頃に捉えられる。第11—12—21号住居跡は時

期差が存在してしかるべきであるが、重複・拡張関係が把握できないため、9世紀前半～中葉頃を中心に展開した住居群と捉えておきたい。

さらに北東主軸の第16号住居跡が9世紀中葉、北東主軸の第28号住居跡が9世紀中葉～後半頃と続いているものと思われる。第28号住居跡は第26・27・29号住居跡と重複しているために先行する遺物も含まれているが、主体がこの時期に捉えられよう。

最も後出する住居跡は9世紀後半で、集落の最南東に位置する北東主軸の第32号住居跡である。この段階をもって竪穴住居跡の構築が終焉を迎える、これ以後の集落経営については不明である。しかし10世紀前半の灰釉高台付椀と羽釜を出土した第38号土壙の存在は、集落の継続を示唆している。また時期や組み合わせは把握できないものの柱痕・柱抜取痕を残すピットの存在は、住居が竪穴式から掘立柱建物跡へと変移した10世紀以降の集落展開を推測させる。

出土遺物のうち壺類に着目すると、8世紀後半代に土師器壺から須恵器壺へと主体が変化していくことも予想されるが、出土遺物の少ない状況から断定できない。また出土した須恵器には、推定できる生産地を遺物観察表に記した。生産地として南比企・末野・東金子などの窯跡群が推定されるが、なかでも壺類は南比企産が主体的である。この状況を生産窯の盛衰と地理・交通・交流をも含めた意味での流通について考える上での一資料として付記しておく。

出土遺物からみた住居跡の変遷には不確定要素を多く含み、また時期をまったく推定し得ない住居跡も存在する。そのため、住居跡の時期と主軸方位との関連について言及したい。傾向として、9世紀前葉を境にそれ以降は北西主軸の住居跡がみられないことがあげられる。しかし8世紀代には北西主軸と北東主軸の住居跡が共存していることも事実であり、一概には時期と主軸方位の相関性を認めることはできない。また時期的な分布域の相違や規則性もみられない。

このように、発見された住居跡は主軸方位と平面形態によって分類することができるが、形態による分布

域の相違や配置の規則性は認められない。また時期的な相関性も捉えられず、規模と主軸方位との相関性もみられない。つまり、発見された住居跡には平面形態と主軸方位という規則性が存在しているが、その一方で、この規則性によって構築された住居跡には質的な相違はない。住居跡構築段階に住居形態を選択する基準についてはまったく想定することはできない。

ここで改めて遺跡全体を傍観すると、住居跡のカマドの位置を度外視した方形プランは、方向性を比較的一致させている。例外はあるが、住居跡の主軸方位がN—45±15°—W、N—45±15°—Eの範囲に収まっていることに起因している。また住居跡は遺跡の立地する自然堤防に平行する第5・20号溝跡（走行方位N—50~63°—W）とも方向を一致させているものが多い。この点は第5・20号溝跡に集落を区画する機能を想定させる一因ともなっている。このような住居跡と自然地形を意識して掘削された第5・20号溝跡との関係は、八ッ島遺跡の古代集落が自然地形を受容しながら展開していく状況を推測させる。

中世の遺構としては、出土遺物が少ないものの第21・22号溝跡があげられる。遺跡の立地する自然堤防の縁辺に沿って平行し、この時期の区画溝としての機能を考えられる。第21・22号溝跡に直交する第6・48号溝跡も同時期・同機能が想像される。第8・10・12・14・15号井戸跡もこの時期の遺構と思われる。井戸跡の周辺にはピットの集中区域が所在し、検出されたピットのなかには柱痕・柱抜取痕が確認できる柱穴が

多く含まれている。組み合わせは把握できなかったが建物跡の存在が想定される。ピットから出土した遺物はきわめて少ないので時期的な検証はできないが、周辺に井戸が掘り込まれた建物群が溝によって区画されているという集落景観を想像させられる。

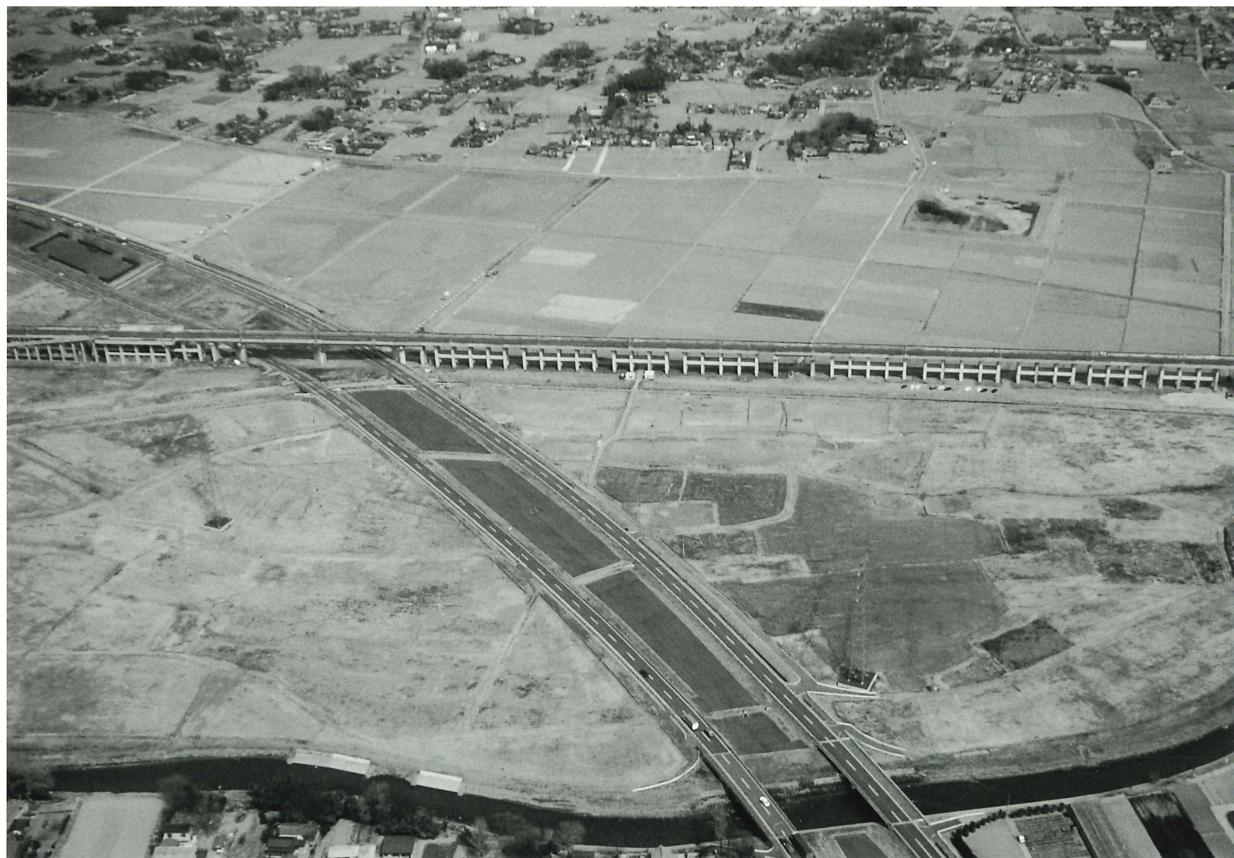
近世の遺構としては第46・47号溝跡があるが、機能・用途については明確ではない。しかし、近世まで積極的な土地開発が継続され、この頃まで現況の水田とは異なる景観が八ッ島遺跡の周囲には広がっていたことを傍証する。

以上のように、古代の集落を中心に八ッ島遺跡について概観してきた。八ッ島遺跡は元荒川左岸に延びる自然堤防上に所在しているが、築道下遺跡も同一の自然堤防上に立地している。2つの遺跡は人工建設物である一般国道17号熊谷バイパスを挟んで位置している。また築道下遺跡の南東半部のE・F区は古代の掘立柱建物跡、住居跡を主体とした集落跡で、この集落域は熊谷バイパス下へも続いている。このような状況から、広義には、八ッ島遺跡は築道下遺跡と同一の集落遺跡である。現在の八ッ島遺跡と築道下遺跡を合わせた範囲が本来の築道下遺跡の範囲で、八ッ島遺跡を築道下遺跡八ッ島区として捉えた方が遺跡の特徴を把握できる。そこで八ッ島遺跡の理解と築道下遺跡との関連については、今後予定されている築道下遺跡E・F区の詳細報告とともに改めて追求していく必要がある。

参考文献

- 赤熊浩一 1988 『将監塚・古井戸 歴史時代編II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
- 大屋道則・栗岡 潤 1998 『築道下遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第199集
- 門脇伸一他1993 『西谷遺跡／築道下遺跡（1・2次）』行田市遺跡調査会報告書第3集
- 門脇伸一他1994 『酒巻21号墳（2次）／白山愛宕山古墳（1・2次）／白山2号墳』行田市文化財調査報告書第30集
- 栗原文藏 1975 『旧盛徳寺址の発掘調査』行田市文化財調査報告書第2集
- 栗原文藏・斎藤國夫 1978 『大日種子板石塔婆および古墳の調査』行田市文化財調査報告書第4集
- 鴻巣市 1989 『鴻巣市史』資料編1 考古
- 埼玉県 1980 新編埼玉県史 資料編1 原始 旧石器・縄文
- 埼玉県 1982 新編埼玉県史 資料編2 原始・古代 弥生・古墳
- 埼玉県 1984 新編埼玉県史 資料編3 古代1 奈良・平安
- 斎藤國夫 1979 『野合遺跡／原第II遺跡』行田市文化財調査報告書第5集
- 斎藤國夫 1981 『さきたま古墳群周辺遺跡群他発掘調査報告書 行田市No.41遺跡』行田市文化財調査報告書第11集
- 斎藤國夫 1981 『小針北遺跡』行田市遺跡調査会報告書第1集
- 斎藤國夫 1982 『さきたま古墳群周辺遺跡群発掘調査報告書 陣場遺跡（第3次）／旧盛徳寺址（第3次）／内郷遺跡（第1，2，3，4次）』行田市文化財調査報告書第13集
- 斎藤國夫 1983 『旧盛徳寺址周辺遺跡（1次）／小敷田遺跡（2次）』行田市文化財調査報告書第15集
- 斎藤國夫 『小針遺跡—第3次調査報告書—』行田市遺跡調査会報告書第2集
- 塩野 博 1970 「埼玉県行田市長野神明遺跡について」『考古学雑誌』第55巻第4号
- 高橋俊男・田部井功 1982 『袋・台遺跡』吹上町埋蔵文化財調査報告書
- 高橋俊男他1983 『下忍・向遺跡』吹上町埋蔵文化財調査報告書
- 瀧瀬芳之 1985 『愛宕通遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第51集
- 塚田良道・中島洋一 1988 『瓦塚古墳／下埼玉通遺跡』行田市文化財調査報告書第19集
- 中島利治他1976 『小針遺跡の調査—A地区—』行田市文化財調査報告書第3集
- 中島洋一 1989 『酒巻15号墳／稻荷通遺跡』行田市文化財調査報告書第21集
- 中島洋一 1990 『さきたま古墳群周辺遺跡発掘調査報告書 船原・内郷通遺跡（2・3・5次）／稻荷通遺跡（2次）／旧盛徳寺址（4次）／原遺跡（4・5次）／馬場裏遺跡（4次）』行田市文化財調査報告書第23集
- 中島洋一 1991 『行田市市内遺跡発掘調査報告書 陣場遺跡（4次）／旧盛徳寺址（5次）／佐間古墳群（2次）／船原・内郷通遺跡（6・7次）／百塚通遺跡（2次）／内郷遺跡（5次）／稻荷通遺跡（4・5次）』行田市文化財調査報告書第24集
- 中島洋一 1992 『陣場遺跡（5次）発掘調査報告書』行田市文化財調査報告書第26集
- 中島洋一 1993 『行田市市内遺跡発掘調査報告書II 原遺跡（6次）／柳坪遺跡／船原・内郷通遺跡（10次）／馬場裏遺跡（17次）』行田市文化財調査報告書第28集
- 中島洋一 1996 『石田堤遺跡発掘調査報告書』行田市文化財調査報告書第32集
- 吉田 稔 1997 『築道下遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第188集
- 渡辺 一 1990 『鳩山窯跡群II』鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1990 「南北企窯跡群の須恵器の年代～鳩山窯跡の年代を中心に～」『埼玉考古』第27号 埼玉考古学会

写真図版



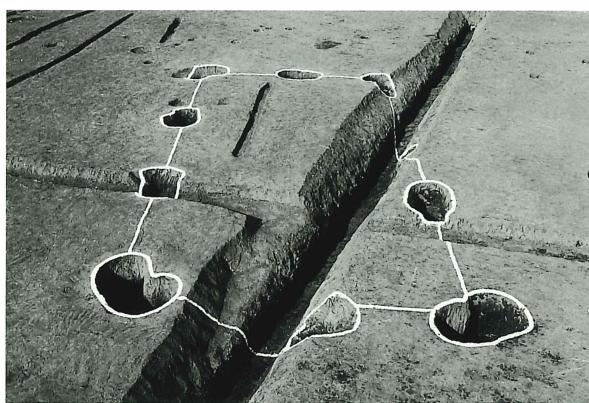
八ツ島遺跡遠景（南から）



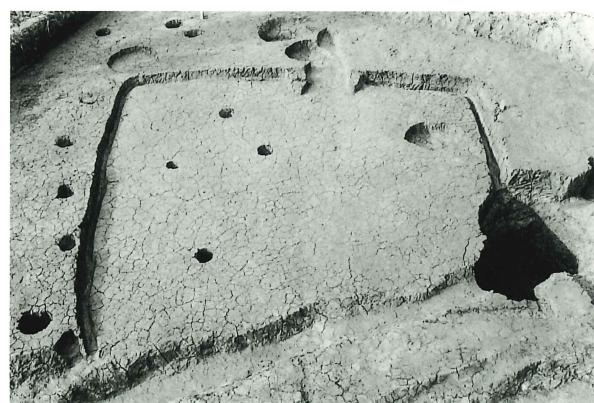
八ツ島遺跡遠景（西から）



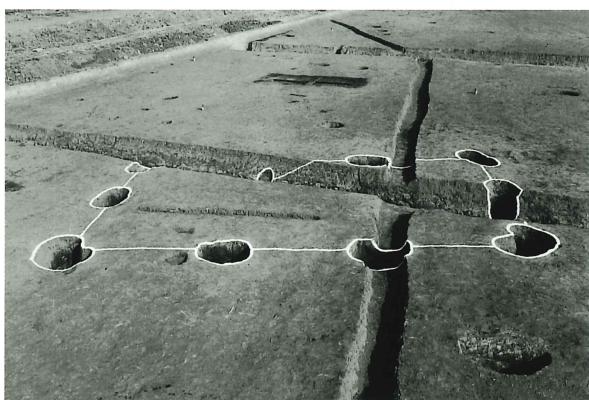
八ツ島遺跡全景



第1号掘立柱建物跡



第1号住居跡



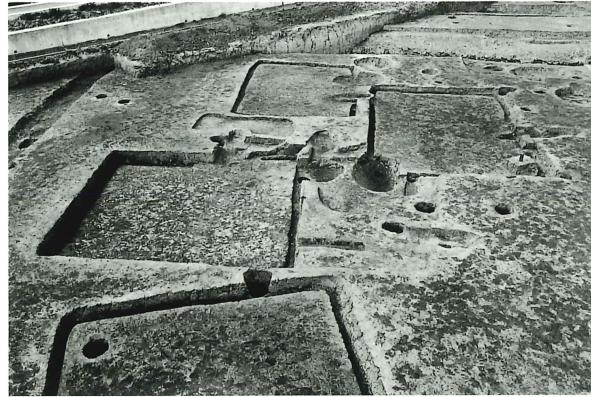
第1号掘立柱建物跡



第1号住居跡カマド遺物出土状況



第3号住居跡



第3・4・5・6・7号住居跡



第3号住居跡カマド



第5号住居跡カマド



第4号住居跡



第6号住居跡カマド



第4号住居跡カマド



第7号住居跡



第85号土壌遺物出土状況



第10号住居跡カマド A



第8・9号住居跡



第10号住居跡カマド B



第8・9・10号住居跡



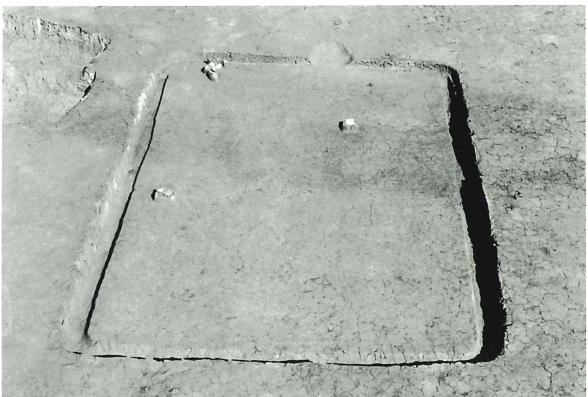
第86号土壌



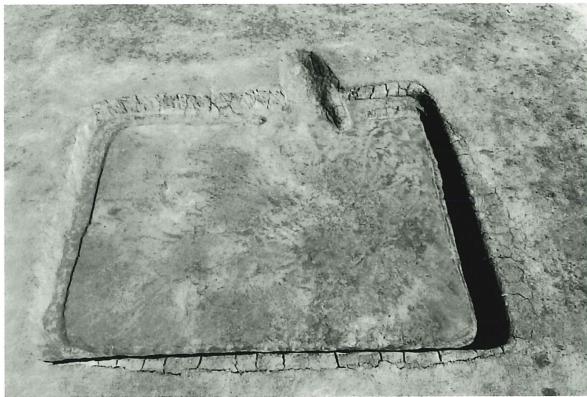
第8・9号住居跡カマド



第11・12・21号住居跡



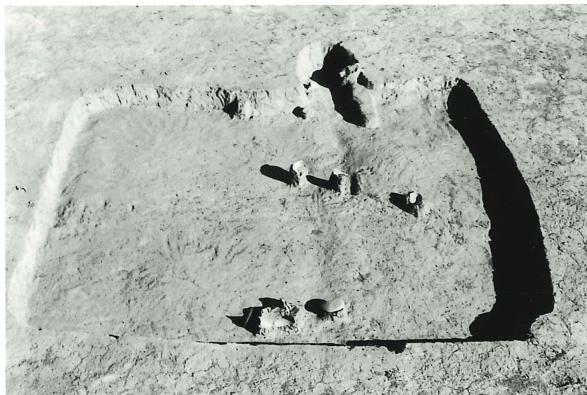
第13号住居跡



第16号住居跡



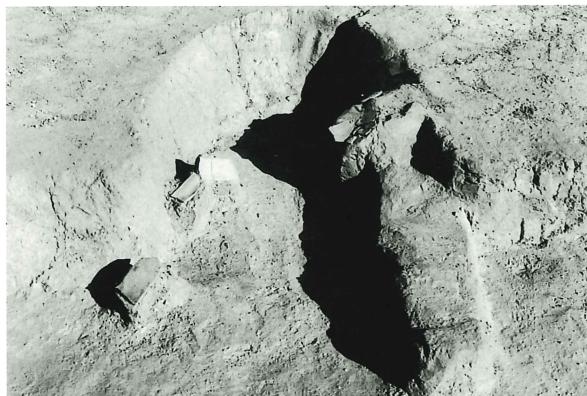
第17号住居跡



第16号住居跡遺物出土状況



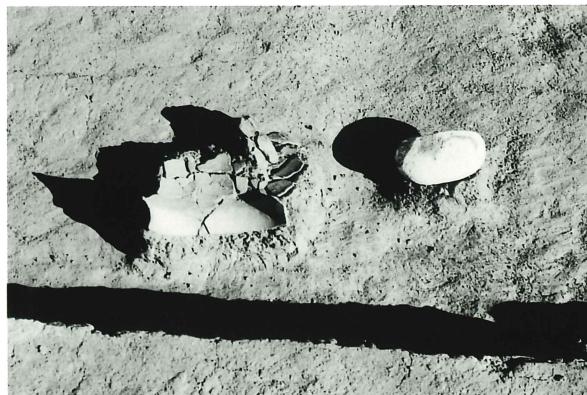
第18号住居跡



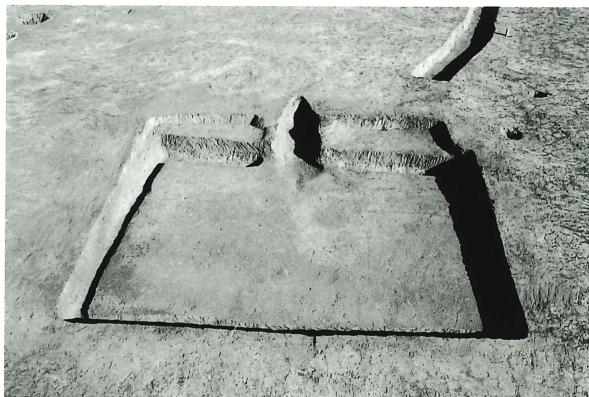
第16号住居跡カマド遺物出土状況



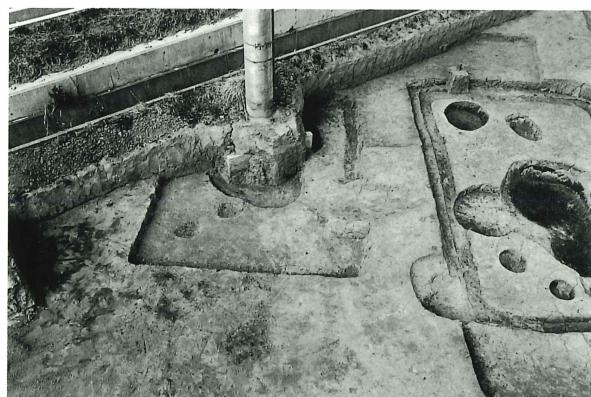
第22号住居跡



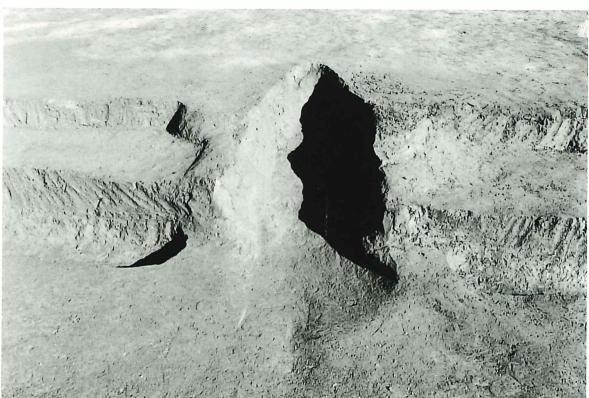
第16号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡



第26号住居跡



第19号住居跡カマド



第26号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡馬齒出土状況



第26号住居跡カマド遺物出土状況



第23・24号住居跡



第26号住居跡刀子出土状況



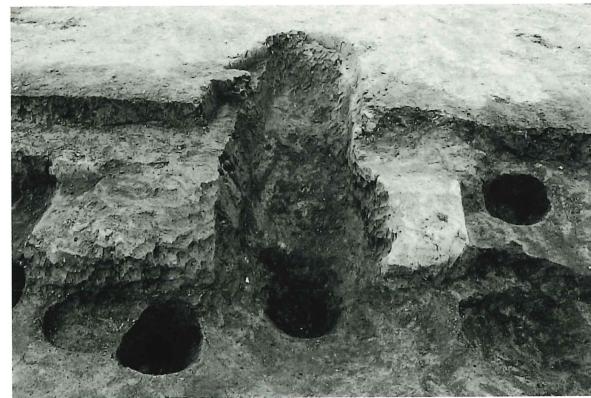
第27・28・29号住居跡



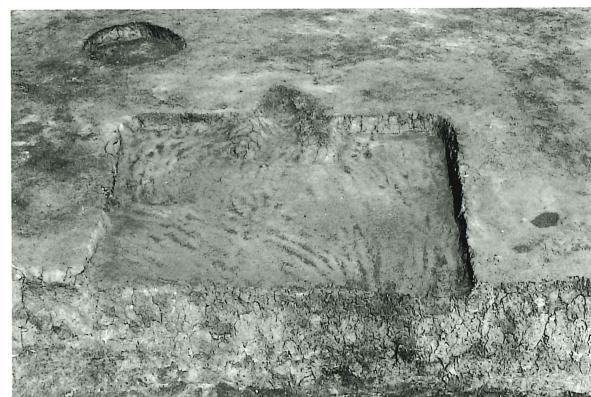
第31号住居跡



第28号住居跡遺物出土状況



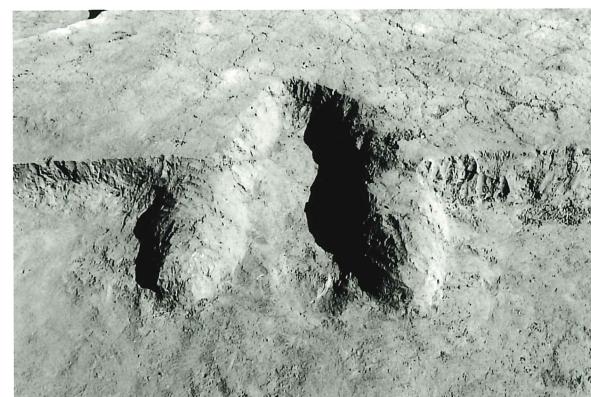
第31号住居跡カマド



第30号住居跡



第33号住居跡



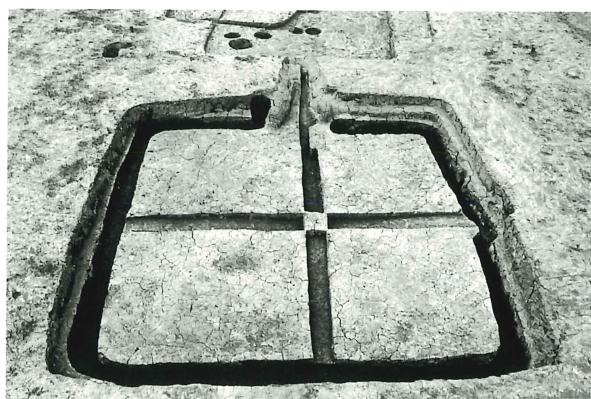
第30号住居跡カマド



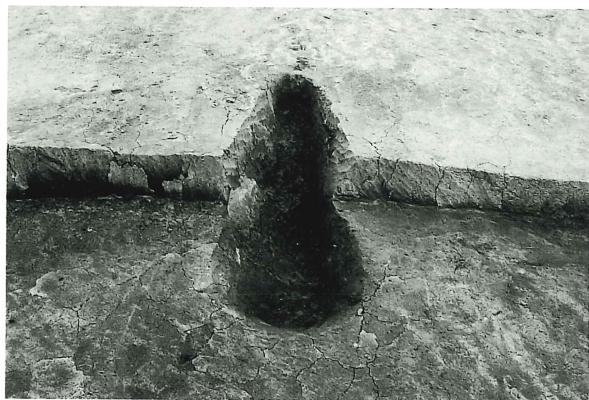
第33号住居跡



第32号住居跡



第25号住居跡



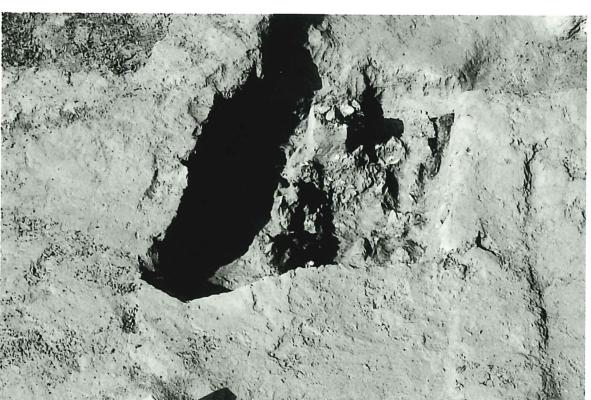
第32号住居跡カマド A



第1号茶毘跡



第32号住居跡カマド B



第1号茶毘跡



第32号住居跡遺物出土状況



第1号茶毘跡



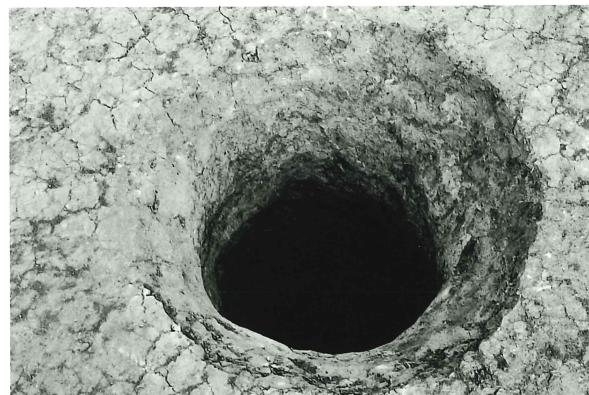
第12号井戸跡



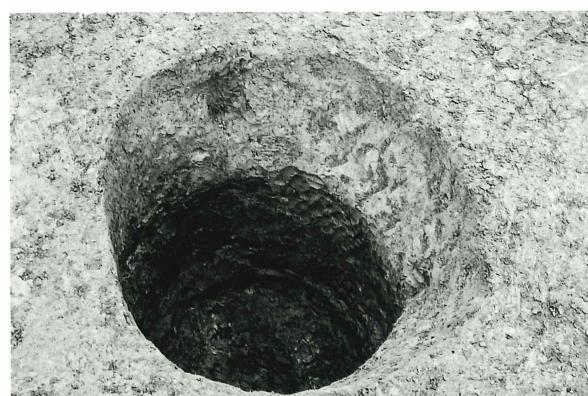
第16号井戸跡



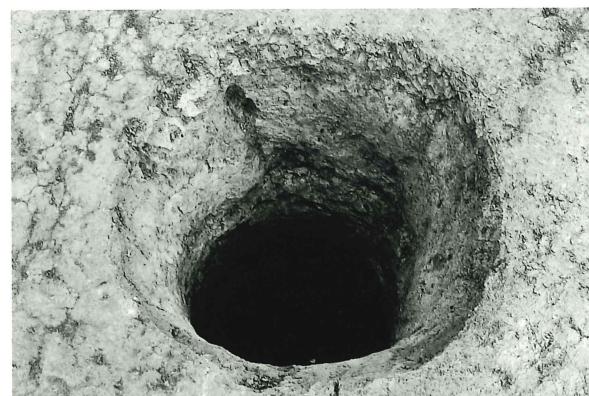
第13号井戸跡



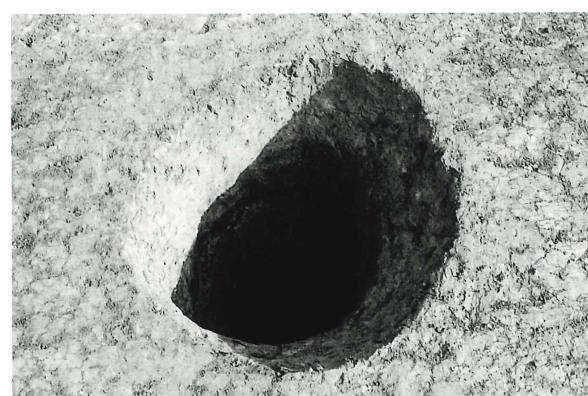
第17号井戸跡



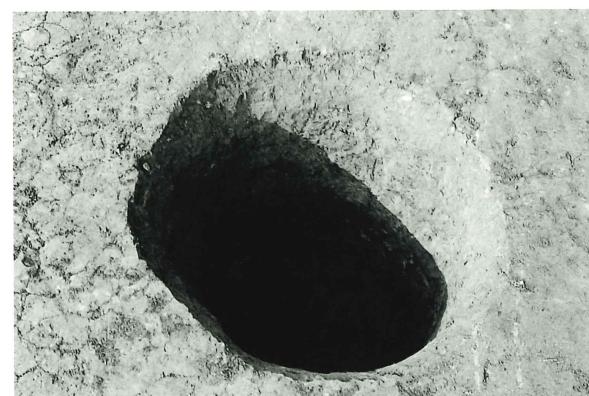
第14号井戸跡



第18号井戸跡



第15号井戸跡



第19号井戸跡



第20号井戸跡



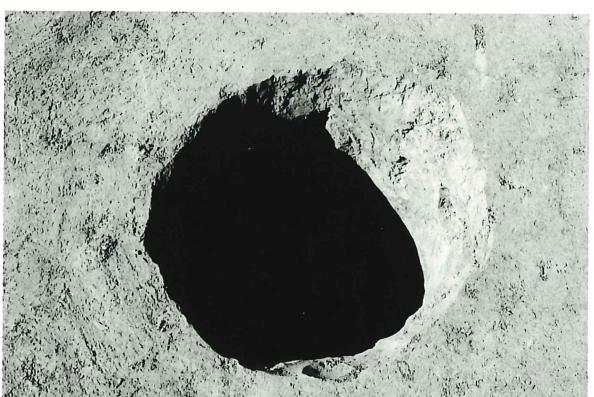
第6号溝跡



第21号井戸跡



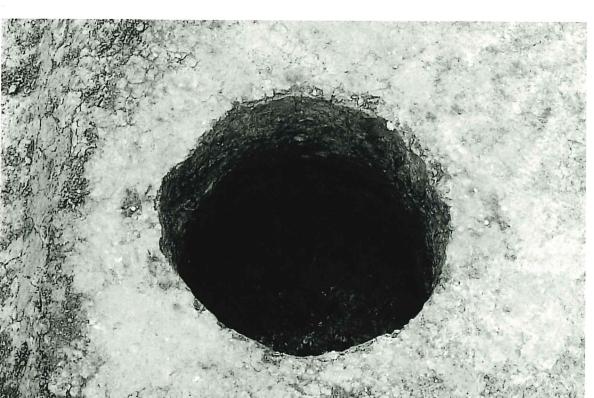
遺跡近景



第22号井戸跡



遺跡近景



第23号井戸跡



遺跡近景



第1号住居跡 第15図—1



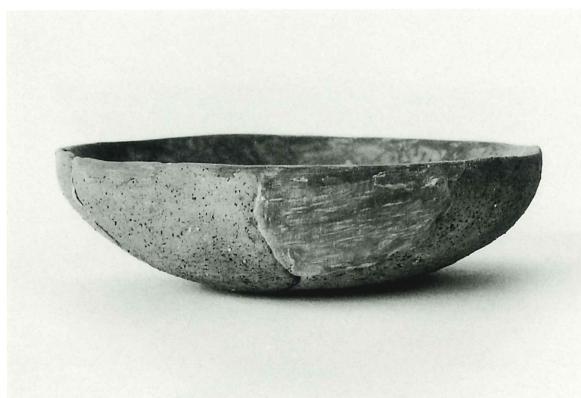
第4号住居跡 第21図—1



第1号住居跡 第15図—2



第4号住居跡 第21図—3



第1号住居跡 第15図—3



第4号住居跡 第21図—4



第4号住居跡 第21図—2



第5・6号住居跡 第21図—12



第5・6号住居跡 第21図—13



第5・6号住居跡 第21図—14



第11・12・21号住居跡 第27図—1



第7号住居跡 第21図—17



第11・12・21号住居跡 第27図—2



第11・12・21号住居跡 第27図一3



第11・12・21号住居跡 第27図一7



第11・12・21号住居跡 第27図一4



第11・12・21号住居跡 第27図一8



第11・12・21号住居跡 第27図一9



第11・12・21号住居跡 第27図一5



第13号住居跡 第30図一1



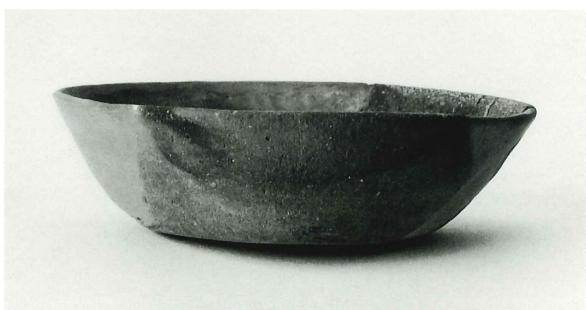
第16号住居跡 第33図—2



第16号住居跡 第33図—3



第20号住居跡 第36図—2



第22号住居跡 第37図—1



第17号住居跡 第32図—1



第27号住居跡 第43図—8



第28号住居跡 第43図—15



第28号住居跡 第43図—19



第28号住居跡 第43図—16



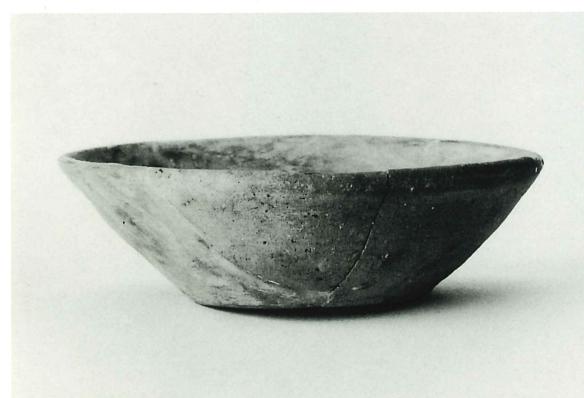
第28号住居跡 第43図—20



第28号住居跡 第43図—17



第32号住居跡 第49図—1



第28号住居跡 第43図—18



第7号土壙 第19図—2



第38号土壤 第64図一3



第5号溝跡 第78図一11



第38号土壤 第64図一2



グリッド 第89図一1



砥石



第11・12・21号住居跡 第27図—11



第32号住居跡 第49図—6



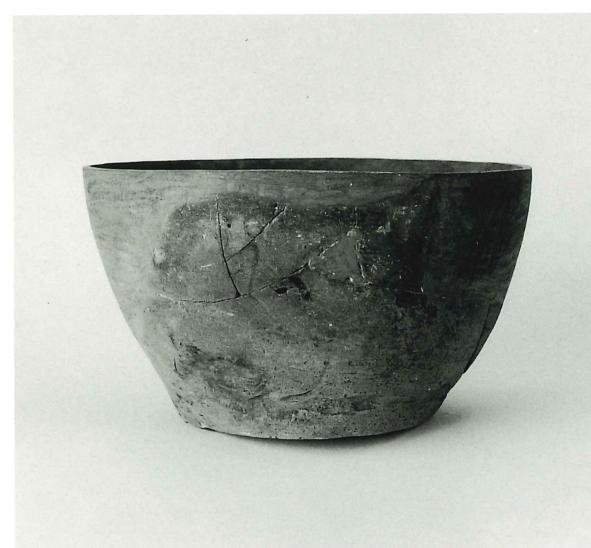
第10号住居跡 第24図—8



第32号住居跡 第49図—3



第10号住居跡 第24図—10



グリッド 第89図—4

報告書抄録

ふりがな	やつしまいせき							
書名	八ッ島遺跡							
副書名	行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
卷次	III							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第219集							
編著者名	山本 靖							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 1998(平成10)年12月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	。' "	。' "			
やつしまいせき 八ッ島遺跡	埼玉県行田市大字野字八ッ島3456番地他	11206	146	36°05'37"	139°29'35"	19951001～ 19970331	51,000	工業団地造成に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
八ッ島遺跡	集落跡	奈良・平安時代～中世	掘立柱建物跡	1	土師器 須恵器 鉄器 石製品 陶磁器	主軸方位と平面形態 によって大別される 住居跡群		
			住居跡	34				
			土壙	187				
			井戸跡	23				
			溝跡	56				
			茶毘跡	1				
			不明遺構	1				

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第219集

行田市

ハツ島遺跡

行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
— III —

平成10年12月15日 印刷

平成10年12月25日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1
電話 0493 (39) 3955

印刷／朝日印刷工業株式会社